昭和59年1月25日発行　毎月1回25日発行　昭和24年3月19日第3種郵便物認可

# 建築と社会

# ARCHITECTURE & SOCIETY

特集■21世紀への関西
—魅力あるまちづくりを問う—

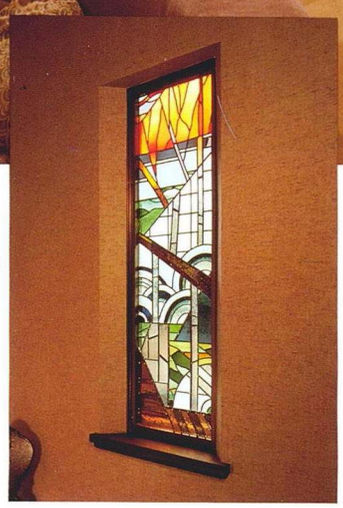
1

1984



日本建築協会



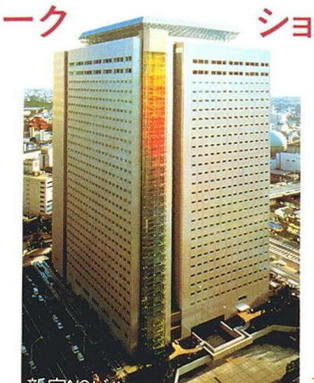


# なぜか?建築に似あう。

建築家、インテリアデザイナー、ステンドグラス作家のためのワークショップを新宿NSビル1階にオープンしました。
従来のステンドグラスは美術工芸品として多く販売されていますが、このたび西ドイツのLamberts社のステンドグラス素材を輸入、販売することになりました。この商品は、世界のステンドグラス作家の中で、第一人者といわれるルートヴィッヒ・シャフラットが、建築空間の造形に好んで使用する素材で、特に中間色が豊富で、

## 新宿NSビル1階にステンドグラスと焼物の"ワークショップ"オープン!

その品質はインテリアの素材として最高のものと言われています。
このショールームでは、ステンドグラスの特長を生かした、建築空間でのデザイン決定から、色の選択、施工方法の相談まで行なっております。また、焼物はレリーフ、建築用タイルのオリジナル作品から、クラフト、伝統工芸品の展示と販売など多くの機能を満しており、建築家、インテリアデザイナーに自由にご利用して頂ける場として皆様のご来店をお待ちしております。


新宿NSビル


株式会社 日本ステンドグラス&セラミック販売
ショールーム 〒160 東京都新宿区西新宿2丁目4番1号 新宿NSビルIF TEL03-349-8993㈹
本　　社 〒100 東京都千代田区丸の内3丁目4番1号 新国際ビル8F806号 TEL03-214-7391

〈営業品目〉ステンドグラス／素材・道具販売 製作・施工　焼物／壁画製作・施工 素材、クラフト、伝統工芸品販売

炎からの創造
ステンドグラスとセラミックの店

# 謹賀新年
# 1984

## 1984年の年頭にあたって

社団法人日本建築協会会長　福田朝生

'83年は前年に引き続き波瀾の年でありましたが、ただひとつ、米国の景気の上昇を反映して、わが国の経済も稍々明るい兆しを見せつつあることは喜ばしいことです。とはいっても建築界への波及効果はいまひとつで、暗いトンネルを抜けるにはまだまだほど遠いと言わねばなりません。しかし昨年よりは少しは良くなるのではないかという一縷の望みをもたせる年頭ではあります。

さて、われわれの協会にとって'84年は忘れることのできない歴史的な年になりました。というのも30年近く住み馴れた北浜の地から大阪の北の中心、駅前第３ビルに新しい事務所を移し、新しい活動を開始することになったからであります。60有余年の輝かしい伝統を守りつつ、21世紀に向けて新しい展開をはかるべく、その第一歩を踏み出す年だからであります。

本部を関西にもつ唯一の建築団体であり、建築の全分野にわたる会員を擁するきわめてユニークな協会として、建築界はもとより、その周辺ひいては社会に対してこれから何をしなければならないか、また何ができるかを、あらためて問い直す願ってもない良い機会が与えられたことを感謝するとともに、これを行動に移さねばならない重い責任を身に染みて感ずる次第であります。

昨年からお約束しておりました「21世紀に向かって協会はいかにあるべきか」を審議していただく企画委員会も回を重ねて熱心に討議されており、近く報告をいただくことになろうかと思いますが、いずれにしても協会を真に愛して下さる会員のみなさまの深いご理解と淪らぬご協力をいただくことなしには、今後の協会の発展はあり得ないことは明らかでありまして、何卒本年もよろしくお願いする次第です。

なお、新事務所にはフリーサロンとして会員のみなさまに気軽く利用していただくスペースを用意しております。小グループの会合や待ち合わせの場所として大いに活用していただくことを念願いたしております。

## ◀〝家具を斬る〟（再掲）
## ―デザイナー・垂見健三に聞く―

**日　　時**　昭和59年1月19日(木)　開場18:00
開会18:30→閉会21:00

**会　　場**　大阪府立文化情報センター・セミナー室
（大阪市北区中之島３丁目・住友中之島ビル５階・TEL06-444-1011）

ただし、大阪、地下鉄・四ツ橋線「肥後橋」駅下車、徒歩３分。渡辺橋南詰の朝日新聞社の西隣り。または地下鉄・御堂筋線か京阪電車の「淀屋橋」駅より徒歩10分。国鉄、大阪駅、梅田方面よりは徒歩15分です。

**講　　師**　垂見　健三氏（デザイナー。垂見健三デザイン事務所所長）（講演はスライド併用）

**定　　員**　40名

**参加会費**　会　員　1,300円
会員外　1,600円　（当日受付でいただきます）

**申込方法**　往復はがき１名に１枚限りとし、氏名・年令・勤務先名・連絡電話番号・返信用宛名・郵便番号を必ず記入し、「家具を斬る」と明記の上１月10日(火)までに建築協会事業課へ〔(〒530)大阪市北区梅田１－１－３－2100・大阪駅前第３ビル・21階、TEL. 06－348－0633〕。ただし定員超過の時は会員優先で抽せんにて決定しますので申込には会員、会員外の区別をご記入願います。

※上記催しは、会告欄にて詳細ご紹介いたしておりますのでご参照下さい。

## ◀本会新事務所の移転先

12月22日(木)に下記に移転します。

〒530 大阪市北区梅田1丁目1番3-2100号
（大阪駅前第３ビル 21階）TEL06-348-0635

〔見学会予告〕

## ◀大阪YMCA会館 ニチメン本社ビル新築工事の見学

最新設備のオフィスビルと複合ビル、YMCA会館の２ヵ所を同日に見学いたします。

**日　　時（予定）**　昭和59年２月25日（土）
集合13:00→解散17:00

**定　　員**　50名

**参加会費**　会員 500円・会員外 700円

**申込締切**　２月20日（月）

◎詳細は会誌２月号「会告欄」に掲載いたしますが、２月号の発行が２月中旬頃になりますので、早い目にお申し込み下さい。

## ■日本建築協会の展示窓ご紹介

### 第59回展示写真「文化・芸術の拠点――兵庫」
### ――神戸市立博物館・兵庫県立歴史博物館―

▶展示期間
昭和58年12月３日より２ヵ月間（予定）

▶展示場所
大阪、淀屋橋～北浜間・地下通路
（北浜寄り南側ショーケース）

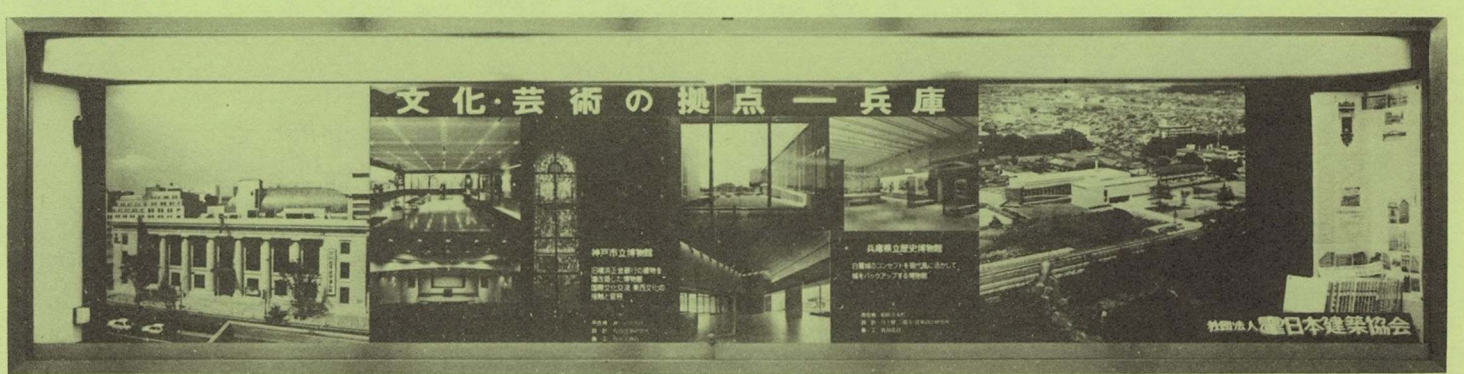
一昨年より、〝文化・芸術の拠点〟をテーマとして、奈良と大阪に建つ一連の新しい文化施設や美術館などをシリーズで展示してきましたが、今回は、神戸市と姫路市に新しく誕生した「神戸市立博物館」と「兵庫県立歴史博物館」の２点を展示しました。

「神戸市立博物館」は、「東京銀行神戸支店」（旧横浜正金銀行）の建物を増改築し、博物館として再生されたもので、石張りの美しい外壁はそのまま保存されており、いわゆる、近代建築の再利用のあり方を示すひとつの好例ともいえるものです。

一方、「兵庫県立歴史博物館」は、名城の誉れ高い姫路城の、外濠と内濠の間に建てられた気品のある建物で、白御影石を使った瀟洒な外観は、隣接する姫路城と相まって見事な景観を創り出しています。まさに、「城のコンセプトを現代風に活かして、城をバックアップする博物館」といえます。

展示期間は左記のとおりです。京阪地下通路を通りがかりの節はぜひご覧下さい。

なお、本展示の企画に際し、株式会社坂倉建築研究所・株式会社丹下健三都市建築設計研究所・鹿島建設株式会社・株式会社竹中工務店の各社にご協賛をいただきました。誌上より厚くお礼申しあげます。



# 日本建築協会常設委員会・本年の抱負

## 編集委員会本年の抱負

編集委員長　横山　誠一

現代社会における建築のもつ重要性を考え、生活と建築のかかわりを思うとき、建築に携わるものの使命の重さを痛感します。建築をつくるということは、いろんな分野の人達の協力によってできるものであります。日本建築協会が先人の努力によって、建築に関係する各界の熱意を集めて育てられ、その果たしてきた役割は大きいものです。なかでも会誌「建築と社会」は技術情報誌として、また会員のコミュニケーションのために大きな功績をもつものと信じます。編集委員一同、本年も心を新たにして、より充実した内容の会誌を皆様にお届けしたいと思います。計画、構造、設備、施工、材料、法規など建築をとりまくあらゆる分野について、時々の要請を先どりする特集記事を中心に、最新の情報を盛り込んで豊かな誌面づくりに取り組んでおります。「建築と社会」を皆様の会誌として、会員の輪を広げるために一層の支援をお願いします。

## 出版委員会の抱負

出版委員長　小林　　清

新年を迎え、わが委員会の抱負を述べるのであるが、どうしたことか筆が進まない。というのも、昨年はあまりにも寡作であったからである。すなわち4月に入って、㉞身障者・高齢者のための建築設計をはじめに、㉟高層都市住宅の維持管理、㊱日本壁、㊲身近な耐震設計法、とわずか4冊を刊行したに過ぎない。

本企画の刊行をはじめてからこの新年で7年目になる。その間計37冊、部数にしてやく17万部になろうとしているが、それぞれ読者に向き不向きがあって、よく売れる版を重ねたものもあれば、題名のつけ方が不向きであったため芳しくないものもある。出版とは水商売であると、まことによく言ったものである。

年改まり、事務所もまた旧ろう大阪駅前第3高層ビル21階に移ったから、新装なった編集室の高い窓からはるか下界を眺め、心機一転、構想を練り、よき企画のもとに、刊行をつづけたい決意である。

## 建材委員会本年の抱負

建材委員長　牧田　顯治

昨年1年間に10回の建材委員会を開催し、10件のメインテーマについて審議し、11件の新建材を本誌「新建材紹介コーナー」にとりあげました。当委員会では、新建材に関する情報を正確・迅速に皆様に提供するための運営を行っていますが、51年以来、紹介コーナーへの掲載数は、累計107件に達しました。本年も新しい建築材料はもちろんのこと、施工方法で新しい方法や、維持保全に都合のよい材料も、広く取り上げ、建築界のために役立ちたいと思っております。

本年からは、駅前第3ビル21階の新しい事務所で、事務が行われることになり、より深いコミュニケーションをもって、われわれ26名のメンバーで努力していきたいと思いますので、よい材料がありましたら、当委員会にお知らせ下さいますようお願い申し上げます。

## 事業委員会本年の抱負

事業委員長　三品　哲夫

永年にわたり会員に愛された北浜の建築会館を後にして、本年から梅田の便利で明るい事務所で協会活動が進められることになりました。これを機会に、新時代にふさわしい協会の基本的な運営方針の確立が要請されていますが、事業活動もこれに基づくあり方が求められます。

当事業委員会は、従来見学・広報および若い会員の集いの三活動を軸として相当の成果を挙げてきたものと考えますが、今の協会の会勢状態・運営状況の中で、新たな観点に立ったいくつかの見直しが必要と考えます。

具体的には、会の魅力の呼び戻しと、会員増強に資するような斬新な事業計画とその効率的な実施を図るとともに、他の委員会活動と緊密有機的な連けいがなされるような体制を整備することと、そして毎年触れることではありますが、若い会員層の活力と発想が協会発展の拠り所となるような場づくりを検討していきたいと思います。

## 教育委員会本年の抱負

教育委員長　多胡　　進

当委員会には講習会小委員会、工高生教育小委員会があり、いずれも委員の方がたと会員の皆様のご努力により、徐々に成果をあげています。

講習会関係では、3年前から広島でも開催されております「建築工事実務講習会」は、一昨年度より今後の技術に適合するようにテキストを全面的に改訂し、昨年度も同じく成果をあげてまいりました。また「建築技術選書講座」は、著者の永年の研鑽と文化的香りの高い技術選書を教材として建築づくりの勘所ないしは急所を講義いただき、蓄積をもつようになりました。

一方、「工高生デザインコンクール」は諸先輩と参加生徒諸君の熱意によりまして、本年は第30回目を迎えることになります。この催しも参加者が実社会で活躍され、そろそろ審査員になっていただける時期に成長しました。

これらは、諸先輩をはじめ、会員の皆様からお寄せいただいたご厚意とご協力の賜と感謝しております。建築と社会とのつながりにより、次代への発展となるものがつくられつつあり、新しい企画のご提供を願って期待いたします。

委員会は微力ながら努力を致しますので、新しい展望や新機軸を含めて種々ご教示いただきたく、合わせて変わらぬご指導とご援助を下さるようお願い申し上げます。

（昭和58年度の住宅委員会と法規委員会は、委員長未定のため、この欄に委員長の抱負は掲載しておりません。ご了承ねがいます。）

日本建築協会企画・建築技術選書37

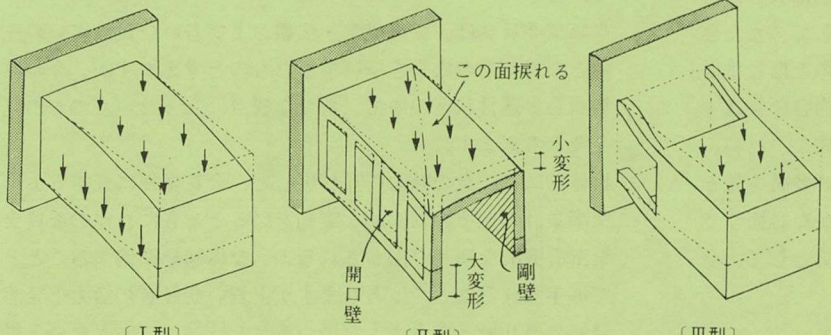
# 身近な耐震設計法

## ――専門家以外の人にもわかりやすい耐震思考法の手引き――

村野、森建築事務所
前川陽一 著

新耐震設計法が施行されて2年を経過し，近年震害予防に対する社会的関心は非常に高まっている．しかし，その耐震設計技術は専門家以外の人たちには理解しにくい内容と頭から思われてしまい，本来の目的を達し得ていないようである．

本書は，地震と建築のかかわり合いの過程から，耐震設計の考え方を一般の建築家向きにわかりやすく説明した．耐震技術とは，ハード面の問題のみならず，ソフト面の物の考え方と運用の仕方に最も大きな意義があることを説く．




〔Ⅰ型〕並進変形型　〔Ⅱ型〕捩れ変形型　〔Ⅲ型〕剛性急変型

■内容概略

- 耐震設計法はどのように発展してきたのか
- その過程でモーメントになったものとは何か
- 耐震設計原理とは，また，その意味とは何か
- 耐震設計法に残されている課題を探る

■目次

第1章　狼がついに姿を現した
第2章　地震に問題のある建築物のパターン
第3章　応答という物の考え方
第4章　震度とせん断力係数という概念
第5章　先人の大きな遺産
第6章　貴重な地震災害の教訓を生かす
第7章　新耐震設計法の関所と通行手形
第8章　構造家に要望される能力

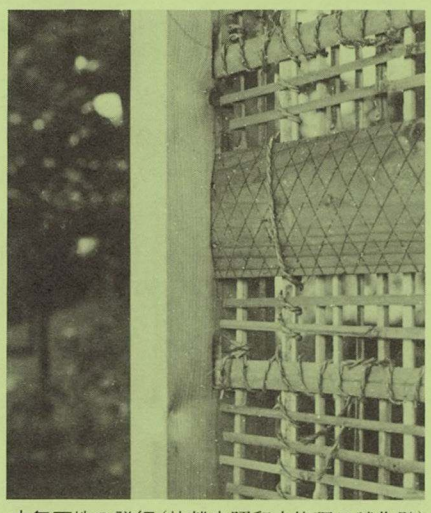
A5・176頁・1400円

〈目録進呈〉　☎075-343-0811　学芸出版社　京都市下京区木津屋橋通西洞院東入

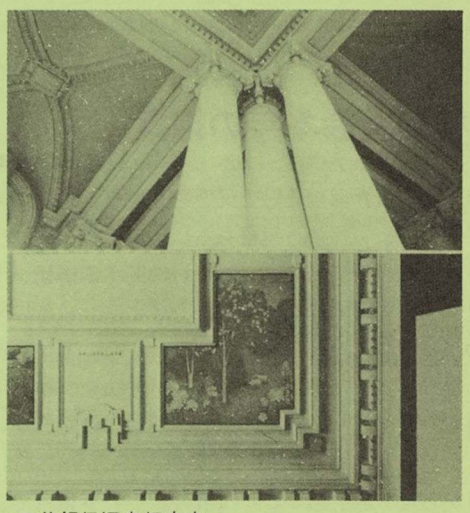
# 日本壁

## 技術と意匠・山田幸一著

日本建築協会企画
建築技術選書36
A5判・160頁・定価1300円


木舞下地の詳細（桂離宮昭和大修理の試作壁）

序論　壁とは何か　壁の構成　日本の左官工事
左官工事概説　左官工事の長所　左官工事の問題点
左官材料について　塗壁材の構成　固結材　骨材　補助材料（砌，糊，モルタル混和材）
下地　軀体下地と組立下地　木舞下地と木摺下地　下地一般の注意
施工　施工面での問題点　施工上の一般的注意　養生と工期
日本壁　日本壁の概要　荒壁土と中塗土　ちり回りと貫伏せ　中塗までの施工　上塗　木舞以外の下地を用いたときの日本壁
古代の壁　法隆寺の土壁　高松塚の漆喰
日本壁の成立　城郭の壁　茶室の壁　桂離宮の壁　壁の技術革新　大阪土と聚楽土
職人芸の壁　角屋の壁　入江長八の漆喰彫刻
明日の左官工事　セメントモルタルと木舞下地土壁の比較　左官工事の未来像


三井銀行旧京都支店

〈目録進呈〉　学芸出版社　京都市下京区木津屋橋通西洞院東入　☎075-343-0811

建築と社会
©1917年創刊
第65集・1984

通巻742号 1

年頭のことば
会告
本年の抱負
作品作風・新建築

表紙デザイン：
演野節朗（京都工芸繊維大学）

特集予告
■2月号／関西の超高層ビル
■3月号／ビルのリフレッシュ（仮称）
■4月号／建設工事のロボット化
■5月号／住環境と法

会　長　福田朝生
副会長　足立　孝・市川　宏
　　佐野正一・松村雄二
編集委員会（昭和58年度）
編集委員長
横山　誠一
編集理事
今井潤之介
金多　潔
北澤　登
小林　清
竹中　練一
武田　恭一
長谷部朝郎
松村　慶三
横山　誠一
渡辺　忠
編集委員
（特集小委員会）
○福田　晴虔
●計画分科会
江口　崇
岡田　信幸
柏木　浩一
＊田中　直人
竹本　俊平
手嶋　純一
轟　泰輔
富川　薫
藤本憲太郎
舟橋　國男
船越　暉由
宮口　恒樹
山口　繁雄
●構造分科会
足立　直行
田渕　基嗣
＊高橋　尚
中西　尚晃
原　克巳
八尾真太郎
●設備分科会
磯田　憲生
川戸　敏雄
河津　隆之
中曽　暁尚
＊橋本　邦彦
秦　学
●施工材料分科会
阿川　清二
荒木　弘之
＊西牧　恵吉
三浦　康夫
横井　征夫
吉村　桂造
●法令分科会
＊坂　雅勝
西山　寛
南出　和延
三木　俊介
（作品作風小委員会）
浦山　哲
○小野　為一
湯地　龍一
加藤　俊明
北村　恭一
黒木　省二
志方　敬育
苫名　正
能丸　弘毅
浜崎　彰
（投稿欄小委員会）
池口　和雄
磯部　正
嘉積　俊一
中馬　博良
○羽生　克彦
早田　平
（広告企画小委員会）
池渕　俊男
倉橋　岩夫
駒田　哲男
清水　修平
田上　章
△田中　功
棚橋　和夫
原田　常介
平等　一之
福井　喜朗
本間　利雄
松村　孝治
○渡辺　忠
○副委員長　＊幹事　△副委員長代行

デザインコンクール
法令コーナー190
読者の頁
建築と社会ニュース
東海だより
ニュース
設計者のプロフィール
見学記
日本建築総合試験所だより
都市気球13
建築の眼

特集
座談会

アンケート

編集人　松井昭光
印刷　昭和59年1月20日
発行　昭和59年1月25日
発行人　吉田悦二
発行所　（社）日本建築協会
大阪市北区梅田1-1-3-2100
電　06－348－0635
振替口座　大阪1-39975
印刷所　日本写植印刷株式会社
電　06－606－1111㈹
大信印刷　株式会社
電　06－451－7631
定価　950円（送料共）

資料

構造の頁113
設備の頁112
施工材料の頁111
月報

JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

# CONTENTS

ARCHITECTURE AND SOCIETY

## 特集●21世紀への関西 —魅力あるまちづくりを問う—

*SPECIAL FEATURES ON URBAN CREATION OF ATRACTIVE KANSAI REGION FOR 21st. CENTURY*

1984年の年頭にあたって／日本建築協会会長福田朝生…… 1
日本建築協会の展示窓ご紹介，予告 …… 2
常設委員会本年の抱負／日本建築協会常設委員会委員長 …… 3
斑鳩町立斑鳩中央公民館 …… 設計監理：福本設計　施工：清水組建設 …… 6
八幡市文化センター …… 設計監理：山下設計　施工：フジタ工業 …… 10
滋賀県立近代美術館 …… 設計監理：日建設計／大阪　施工：竹中工務店・笹川組共同企業体 …… 12
京都ドイツ文化センター …… 基本設計・全体監督：ドイツ連邦共和国建設監督庁・設計事務所ゲンプラン　施工：大林組 …… 14
愛媛県身体障害者更生センター …… 設計：愛媛県土木部建築住宅課・教育施設研究所広島事務所　監理：愛媛県土木部建築住宅課　施工：門屋組 …… 16
愛媛県身体障害者更生指導所 …… 設計：同上・同上　監理：同上　施工：愛媛土建 …… 18
日本臓器製薬生物活性科学研究所（IBAS） …… 設計監理：安井建築設計事務所　施工：竹中工務店 …… 20
桜井市芝運動公園総合体育館　設計：中川建築設計事務所　監理：住宅都市整備公団・中川建築設計事務所　施工：淺沼組・中尾組共同企業体 …… 22
ホテルフジタ奈良 …… 設計監理：日建設計／大阪　施工：間組・淺沼組共同企業体 …… 24
大阪司法書士会館 …… 設計監理：泉沢建築設計事務所　施工：佐藤工業大阪支店 …… 26
ジャスコ田原本店 …… 設計監理：東畑建築事務所　施工：村本建設 …… 28
倉敷駅ビル …… 設計：日本国有鉄道大阪工事局・安井建築設計事務所　監理：安井建築設計事務所　施工：鉄建建設・大本組建築共同企業体 …… 30
学校法人聖公学院聖公幼稚園 …… 設計監理：光安建築設計事務所　施工：神崎組 …… 32
帝塚山学院泉ヶ丘中学校・高等学校 …… 設計監理：A.R.I建築事務所　施工：鴻池組 …… 34
協立温泉病院 …… 設計施工：松村組大阪本店 …… 38
第29回工高生デザインコンクール入選作品（テーマ：四季を通じて利用できる「ビーチハウス」） 40
建築士法の改正（その1）／井上正義 …… 43
マレーシアの建築確認申請業務とローカル・コンサルタント／加藤恂一 …… 45
帆船のイメージで60年完成をめざす—神戸海洋博物館，創宇社60周年記念の集い …… 46
名古屋市芸術創造センター竣工，コミュニティ道路第2号「グリーンモール堀田」が完成，名古屋市都市美観賞募集要領発表 …… 46
第15回中部建築賞 …… 47
指宿真智雄（建築デザイン一級建築士事務所）氏を訪ねる／インタビュア・松村孝治 …… 49
夕刻に興じる—指宿真智雄・設計、ホテル嵐亭を見て／加藤力 …… 50
室内圧についての一考察と風洞実験／西村宏昭 …… 53
自動車学の提唱／高田公理 …… 54
可能性をもった環境と実効性のある環境／鳴海邦碩，街—その領域感／坂本勉 …… 56
無題—1／田畑弘，街の引越し／大墨正

## 21世紀への関西—魅力あるまちづくりを問う—

21世紀への関西—魅力あるまちづくりを問う— …… 66
出席者　赤羽徳雄／仙石泰輔／端信行／吉田あこ　司会　鳴海邦碩
関西の21世紀へ向けてのプロジェクトとまちづくりを考える …… 77
鴨居羊子／西山夘三／細川彰彦／田中恒子／青木定雄／磯村隆文／北条カツ昭／山本康雄／春井秀雄／長谷川弘直／岩井珠恵／岩橋英行／大高猛／嶋田勝次／小林公平／宇津木秀甫／高田公理／永福より子／塚本幸一／久保貞／富安秀雄／藤田敬一郎／上本仁志／佐々木廣年／細川速見／王柏群／高寄昇三／石浦英郎／近藤公夫／土肥絵理子／堀田昭二／大西国太郎／薬袋公明
21世紀をめざす関西のプロジェクト紹介・24例 …… 86
国際文化ゾーン構想／東大阪新都心整備構想／関西国際空港と地域整備／フェニックス計画／北摂三田ニュータウン／兵庫アジア・ポート構想／西播磨テクノポリス／緑の回廊／関西文化学術研究都市構想／丹後レクリエーション都市構想／環びわ湖保全修景公園化構想／国営飛鳥歴史公園整備事業／和泉かつらぎ研究学園都市・御坊田園テクノタウン／大阪ビジネスパーク（O.B.P）／大阪北港の開発構想／大阪南港国際文化ゾーン／大阪駅周辺地区整備計画／阿倍野地区第2種市街地再開発事業／六甲アイランド／都市林“こうべの森”／メリケンパーク／神戸研究学園都市構想／しあわせの村

「ALC構造設計基準」の改訂（その2）／関西エー・エル・シー卸協同組合技術委員会 …… 101
大便器の種類と洗浄器具（その2）／近藤峰治 …… 103
アクリルゴム系化粧防水材による外壁改修システム／野々市迪夫 …… 104
日本建築協会月間の動き（昭和58年11月分） …… 107

# 斑鳩町立斑鳩中央公民館

設計監理　福本設計
施　　工　清水組建設



東面入口廻り

撮影：河野　豊

全景





大ホール

# 斑鳩町立斑鳩中央公民館

所 在 地　奈良県生駒郡斑鳩町龍田南２丁目254－１
敷地面積　5,449.51㎡
建築面積　2,173.84㎡
延床面積　3,868.19㎡
構造規模　ＲＣ、Ｂ１、２Ｆ
工　　期　昭和57年９月～昭和58年10月
最 寄 駅　国鉄関西本線法隆寺駅下車徒歩20分

斑鳩町は、大和平野の北西部に位置し、現存する最古の木造建築と言われる法隆寺など、文化、芸術、歴史的遺産に恵まれた、風光明美な土地柄である。
その環境の中心的地域に建築された中央公民館は、町民の社会教育や、生活活動の場として、利用しやすく、安らぎを与え、また親しみのある建物を計画することが、最大の目的とされた。
敷地は、北側を巾員８ｍの国道25号線に接し、東側は将来都市計画道路が予定され、東西で3.5ｍ程度の段差が有るという、敷地状況をいかに有効利用するかと言うことが、計画の要因となった。
建物は、段差のある敷地の利用、日影規制の問題、周囲への威圧感、風致地区への調和等を考慮して、地下１階、地上２階建の低層建築とした。
外観の計画については、全体を和風感覚でまとめることにより、周辺地域への融和を求め、また玄関は、法隆寺東門の感じを持たせ、斑鳩町のイメージを表現した。
内部設計にあたっては、各機能目的を重視し、公民館部門、ホール部門とに分離させ、中間部に共用部門を配置することにより、利用面および管理面の充実を計った。
また、建物の中央には、日本庭園を設け、四季の移り変わりによる、視覚的な楽しみや、精神的な安らぎ、落ちつきを与える空間とした。
今後、斑鳩町の伝統と歴史を継承し、発展させていくための学習の場、憩いの場として、幅広く気軽に利用していただけるような、公民館が完成したと確信している。

（福本設計）

外装仕上
外壁：ベニヤ型枠コンクリート打放しの上吹付タイル
柱型：化粧型枠コンクリート打放し
屋根：引掛桟瓦葺（いぶし）
ポーチ床：土もの100角２丁平タイル貼

外観



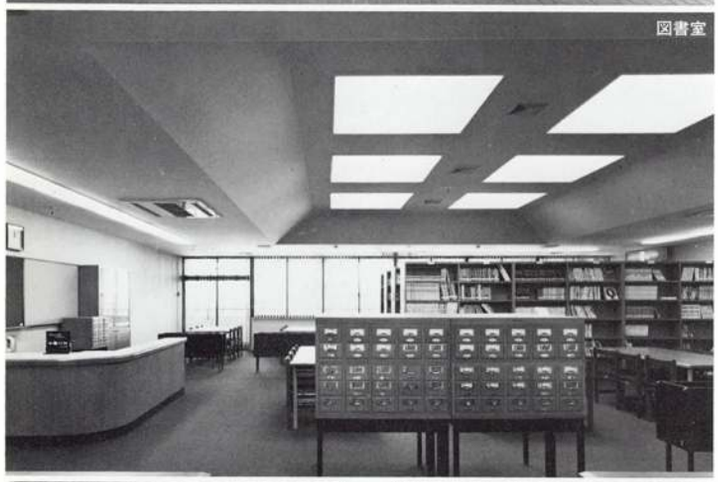


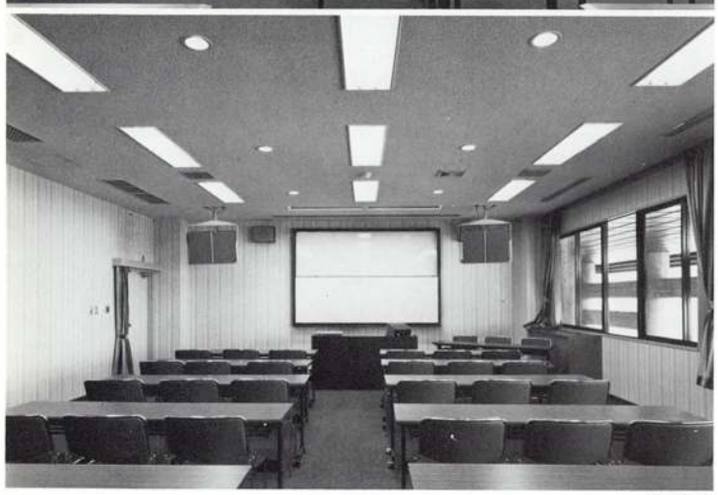
エントランスホール

ホワイエ

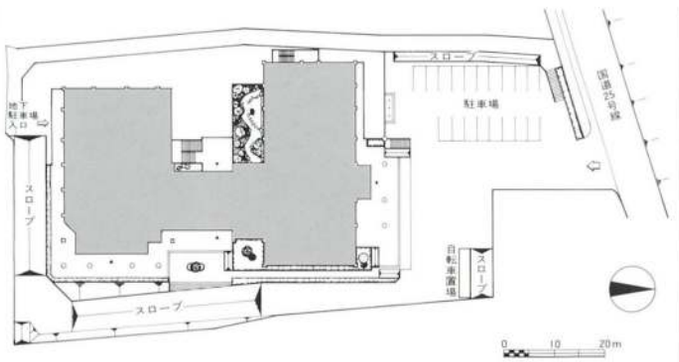


図書室





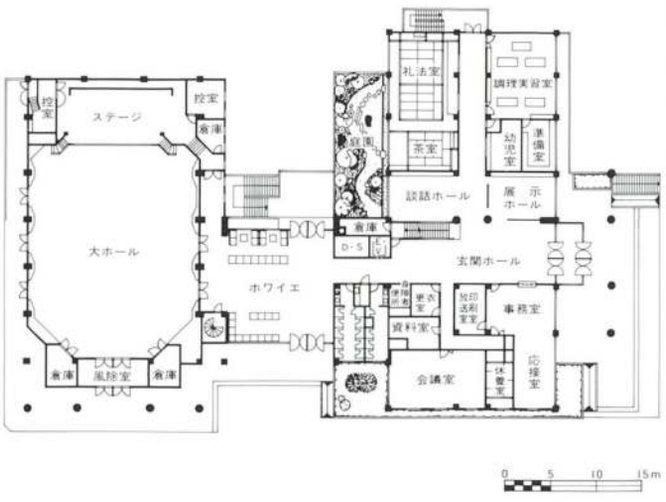
視聴覚室




配置図




2階平面図



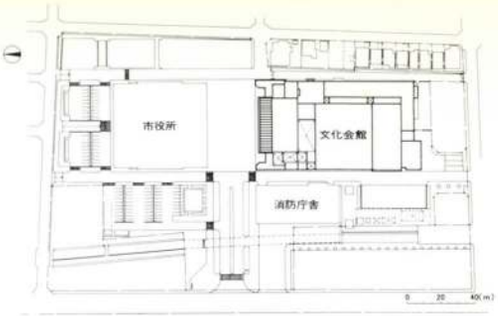

1階平面図

主な協力業者（50音順）

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 内装 | インテリア城野 | 奈良県生駒郡斑鳩町法隆寺 TEL 07457-5-2304 | タイル | 岡崎タイル店 | 天理市杉本町376 TEL 07436-3-0387 |
| 金属錺 | 片山鉄建 | 大阪市西区立売堀3丁目1番1号大阪トヨタビル6F TEL 06-532-1571 | 緞帳 | 川島織物 | 大阪市北区堂島1丁目1番5号 梅田新道ビル6階 TEL 06-347-0451 |
| 空調設備 | カンダン | 大阪市住吉区万代6丁目1番1号 TEL 06-672-1281 | 舞台設備 | 三晃工業 | 大阪市西淀川区御幣島2丁目20番10号 TEL 06-474-3161 |
| 硝子 | 田口硝子 | 奈良県生駒郡斑鳩町法隆寺 TEL 07457-5-6440 | 鋼製建具・金属軽天 | 田口商店 | 奈良県生駒郡斑鳩町法隆寺 TEL 07457-4-2600 |
| 給排水衛生設備 | トミイ工業所 | 奈良県生駒郡斑鳩町法隆寺779 TEL 07457-4-2456 | 鉄骨ALC | 不二鉄工業 | 奈良市山町645 TEL 0742-61-2277 |
| 電気設備 | 松本電気商会 | 奈良県生駒郡斑鳩町竜田 TEL 07457-5-2038 | 家具 | ヤガミ大阪支店 | 大阪市東区法円坂1丁目2番7号 TEL 06-941-8455 |

# 八幡市文化センター

設計監理　山下設計
施　　工　フジタ工業



配置図

所 在 地　京都府八幡市高畑
敷地面積　24,758.30㎡（八幡市センター全体）
建築面積　 4,814.28㎡
延床面積　10,187.65㎡
構造規模　RC（一部SRC、S）、B1、4F、P1
工　　期　昭和56年９月～昭和58年８月
最 寄 駅　京阪電鉄本線八幡市駅

昭和50年以来進められて来た八幡市センター（市公共施設群ブロック）の建設は、すでに消防庁舎、市庁舎、保健センターと完成し、最後の施設である文化センターの竣工で市センター計画も完了した。
この文化センターは、「市民会館」と「中央公民館」の複合施設として計画され、市センターの中心である市民広場に面し、市庁舎と相対する位置に配置した。このため既存各施設と調和した清潔かつ明快なデザインを基本とし、男山の緑と周辺の住宅地になじむようアイボリー色の炻器質タイルと、スタッコ状吹付仕上の外壁とした。さらに住居地域内で住宅が近接する建物なので、隣地の日照、通風、騒音にも充分配慮している。
内部は1,210席の大ホール、展示室等の市民会館部分と、700人収容の中ホール、講習室、会議室からなる中央公民館部分に分けられるが、この二つのブロックは相補的利用を考慮し、市民ロビーで連絡している。市民ロビーは市民広場に面し、文化センター主出入口としての機能の他に、常時開放されたコミュニケーションの場ともなるよう計画している。
大ホールは多目的ホールにならざるをえないが、あらゆる演目に適応できる音響空間の設定が可能となるよう４種類、９ヶ所の残響可変装置を設置した。これにより残響時間は80％着席時、500ヘルツで1.75秒から1.16秒まで数十種類の設定が可能であり、その中から演目に最適な残響時間を選定できる。

（暦利　徹／山下設計大阪支社）


外観全景


玄関ホール（撮影：SS大阪）


玄関まわり

外装仕上　外壁：炻器質タイル貼り一部アルキャスト一部コンクリート打放しアクリル系スタッコ状吹付材
屋根：アスファルト防水コンクリート押え一部鋼板葺き　軒天：塩ビ鋼板スパンドレル

（設備施工）

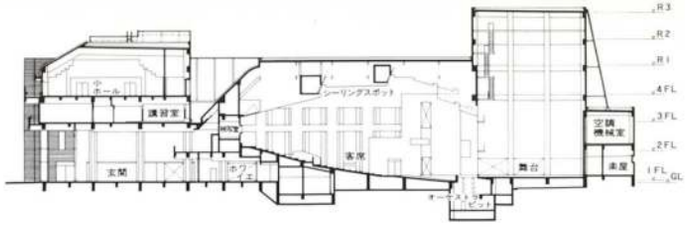
南方電気工事（電気設備）

高砂熱学工業大阪支店（給排水・衛生空調設備）

丸茂電機大阪出張所（舞台照明設備）

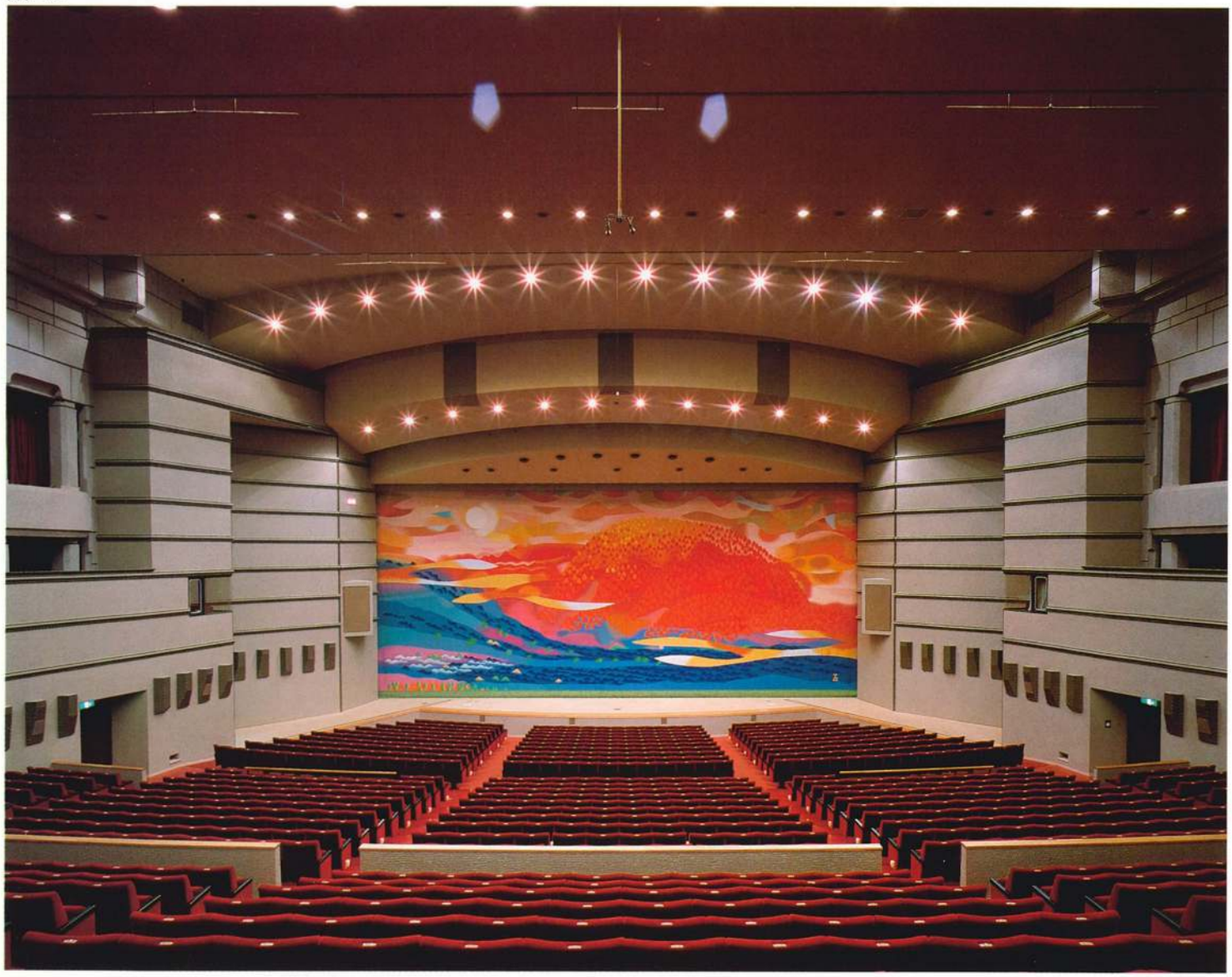
不二音響（音響設備）

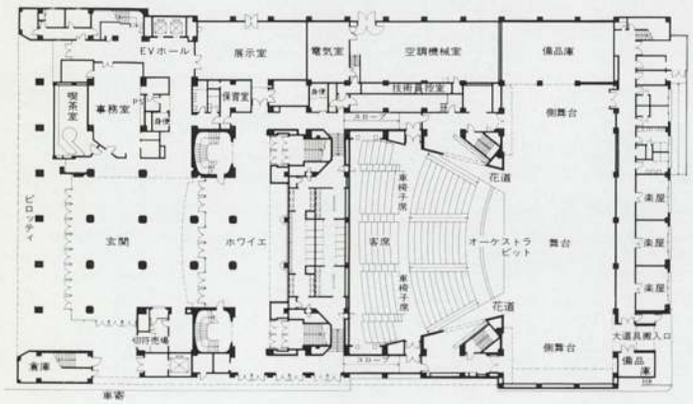
三菱電機関西支社（昇降機設備）



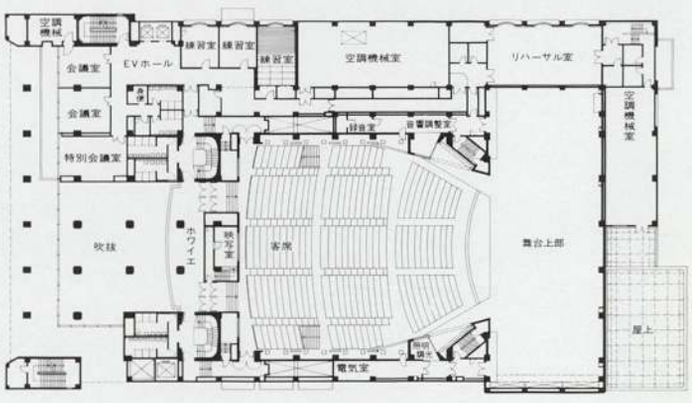

断面図

大ホール






1階平面図




2階平面図

撮影：河野　豊

# 滋賀県立近代美術館

設計監理　日建設計／大阪



全景



エントランスホール



中庭廻り

| | |
|---|---|
| 施　　工 | 竹中工務店・笹川組共同企業体 |
| 所 在 地 | 滋賀県大津市瀬田南大萱町地先 |
| 建築面積 | 6,782㎡ |
| 延床面積 | 8,552㎡ |
| 構造規模 | ＲＣ、Ｂ1、2Ｆ |
| 工　　期 | 昭和57年３月<br>～昭和58年10月 |
| 最 寄 駅 | 国鉄瀬田駅 |
| 外装仕上 | 外壁：拓器質タイル仕上<br>屋根：銅板緑青仕上 |

撮影：黒田青巌



滋賀県は、びわ湖や比叡・比良、湖南アルプスを望む恵まれた環境である湖南丘陵一帯を「びわ湖文化公園都市」として指定され、当県立近代美術館も、近い将来、県の長期ビジョンである「国民休養県」構想の主要な役割をになうものと考えられる。

さて、当館は、広く自然に恵まれた立地条件を生かして、鳥が翼を拡げたように、大地に伸び伸びと拡がりながら、随所にびわ湖や比叡山など素晴らしい眺望をとり入れた廻遊式の展示室配置を試みている。各所に設けられた休憩室や、中庭をめぐる渡り廊下は、美術鑑賞による軽い疲れを癒すに充分な役割をはたすであろう。また、石貼りの中庭や、共用部分に大きなガラス面をとって、大いに外光を採り入れたり、大きな屋根で深い庇を持ちながらも、特殊一文字葺き緑青銅板の納まりや、軒先の繊細なディテール、内外の白い大理石やタイルの壁面などに工夫を凝らしたのは、当館が近代美術館という名にふさわしく、美術品をより身近に親しめるように、明るく、軽快で、しかも知的な雰囲気をかもし出されるようにとの配慮によるものである。

平面計画の第一の特徴は、廻遊式展示配置であるが、第二は、これにより展示室に囲まれた不等辺四変形の中庭を作ったことである。ここには、A・カルダーの彫刻「フラミンゴ」が置かれる予定で、気軽な散策は勿論、ギャラリーの延長としての野外展示場や、小さなコンサート広場と利用方法は様々ある。

第三の特徴は、表と裏方の部分、即ち展示室部門と、管理運営部門とを中庭を隔てて、明確に区分することにより、それぞれに適した空間を生み出したことで、特に、ともすれば隅に追いやられ勝ちな管理部門に快適で明るい事務空間を用意することが出来た。

最後に、新しい試みとして非常に苦労したのは、展示室の移動照明器具である。これは、必要に応じて、望ましい位置に、いくらでも、即時に天井裏から引き出せる装置で、一言でいうと、クレーンに照明器具が取付けてあり、これをリモートコントロールすることで、照明を移動させるわけで、利用方法によっては面白い展示計画が出来そうである。

当館は、一年足らずの準備期間を経て、昭和59年８月開館の予定である。その頃には現在工事中の公園計画も立派に完成され、開館行事である彫刻展が、この起伏に富んだ内外の空間を使って見事に展開されることを心から期待している。

（日建設計）

# 京都ドイツ文化センター

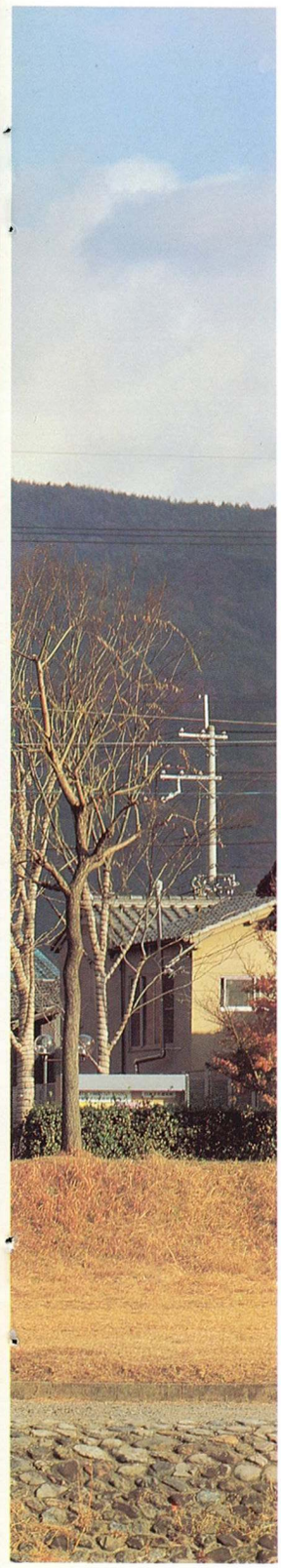
基本設計・全体監督　ドイツ連邦共和国建設監督庁
設 計 監 理　設計事務所ゲンプラン
施　　工　大林組



鴨川河岸より望む(西面)

撮影：東出清彦

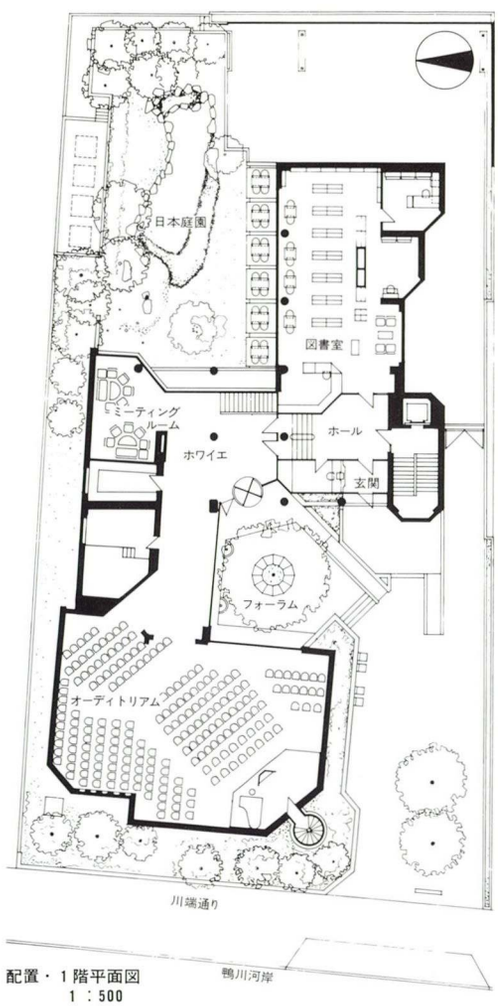
所 在 地　京都市左京区吉田河原町19－3
敷地面積　1,723㎡
建築面積　751㎡
延床面積　2,093㎡
構造規模　ＲＣ、Ｂ１、４Ｆ
工　　期　昭和57年８月～昭和58年７月
最 寄 駅　国鉄京都駅、京阪三条駅、阪急四条河原町よりバス



京都鴨川河岸に完成した「京都ドイツ文化センター」は、ミュンヘンに本部を置く「ゲーテ・インスティトゥート」の海外支部のひとつで、ドイツ連邦共和国における文化、社会に関する情報の提供、ドイツ語の普及、およびさまざまな文化的学術的な催しを行なうための施設である。基本設計はドイツ連邦共和国建設監督庁によって作成された。建物全体は大きく高層棟と低層棟から構成されていて、高層棟には、１階に図書室、２階に語学教室、３、４階に事務管理部門、館長住居といった日常的機能がまとめられている。これに対し、音楽会、講演会、展示等の催し物に使用されるオーディトリウムは、ヒューマンなスケールの屋外空間フォーラムをはさんで低層棟として、本館に微妙な角度をもって連結している。

本館１階図書室前ホールから５段の階段を下るとホワイエがある。ホワイエの一角は日本庭園に面したミーティングルームとなっている。催しの夕べには、人々はこのホワイエへ、フォーラムを通って直接専用の出入口から入ることができる。そしてホワイエの空間はゆったりとオーディトリウムへ流入して行く。

（上林英晴／設計事務所ゲンプラン）

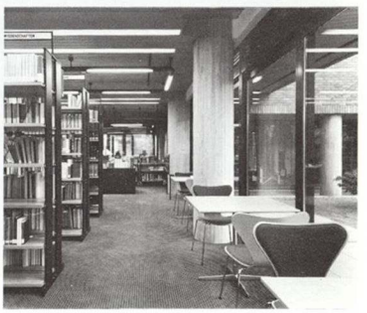



配置・１階平面図
１：500









上：彫刻のあるエントランスアプローチ
　　トルソ1983：エマニュエル　シャーフェンベルク作
中：子供玩具展のオーディトリアム
下左：教室階（２階）
下右：図書室（１階）

# 愛媛県身体障害者更生センター

設 計　愛媛県土木部建築住宅課(基本)
　　教育施設研究所広島事務所(実施)
監 理　愛媛県土木部建築住宅課

施 工　門屋組(建築)
　　協和電工(電気設備)
　　千代田設備工業(給排水衛生設備)
　　四国ダイキン設備(空調換気設備)

所 在 地　松山市道後２丁目
敷地面積　11,333㎡
建築面積　1,553㎡
延床面積　2,268㎡
構造規模　ＲＣ、２Ｆ
工　　期　昭和57年10月～昭和58年８月
最 寄 駅　国鉄予讃線松山駅

総合福祉センター全景





南東面外観



中庭

外装仕上　屋根：屋根用石綿セメント板葺
（アスファルトルーフィング22kg、
特殊パーライトモルタル⑦40）
外壁：コンクリート打放し、弾性吹付タイル

撮影：みつぎ写真事務所

この施設は心身障害者とその家族が日本最古の道後温泉のもとで気軽に宿泊、休養しながら、相互の親睦を深めるとともに、各種の相談、研修、機能回復訓練、レクリエーション等を通じて、障害者の社会参加を促進することを目的とした。設計に当たっては、この施設が住宅地の一画に位置していることから、周辺の住宅に威圧感を与えず、親しみ易い雰囲気を持つこと、また、集会、研修、宿泊等の総合的な機能を有する建築であるため、利用者の動線を明快に確保することに留意した。そのため、アプローチ部分に大きなエントランスホールを配し、機能別にゾーニングを行った。

周辺との調和については、和風様式の寄棟形態のデザインを採用し、建物周辺に植樹を配するとともに、屋根はグレー系の石綿セメント板葺とし、外壁は白壁風の白系の吹付タイルとし、周辺の環境と調和させた。

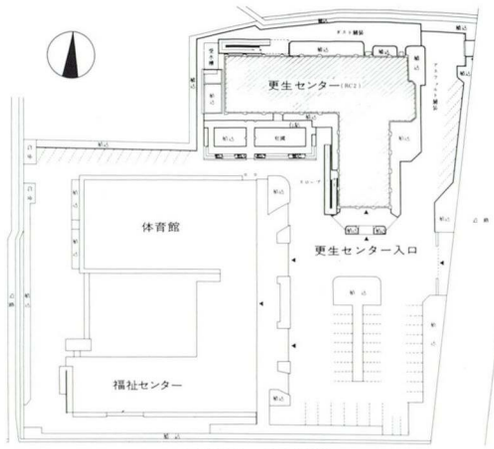
内部については障害者専用の特殊施設であるため、床の高低差、出入口の開閉方法、エレベーター設置等のディテールに十分配慮し、また、憩い、語らい、集いの場となるように要所にプラントボックスを配置し、エントランスホールには親しみのもてる壁画を設ける等、明るい室内環境作りに努めた。

(滝野泰行／愛媛県土木部建築住宅課
吉竹　寛／教育施設研究所広島事務所長)

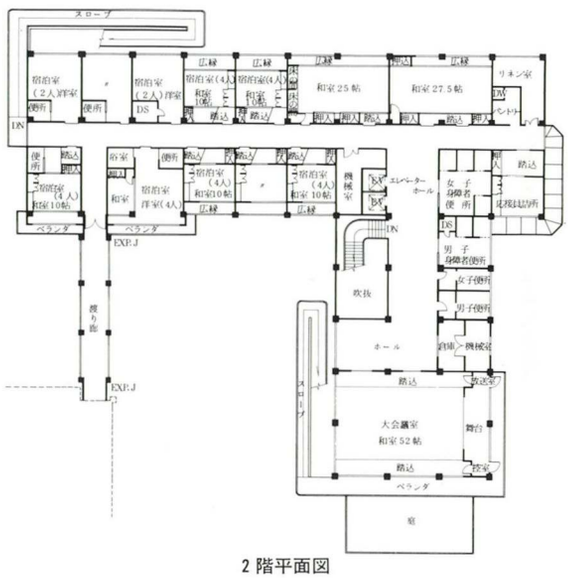

階段室


玄関ロビー

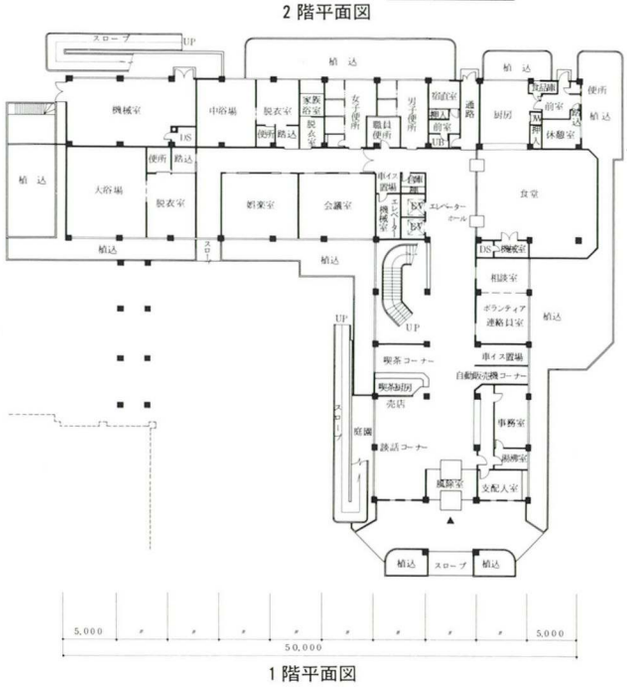

階段室をみる



配置図　1：2000



2階平面図



1階平面図

# 愛媛県身体障害者更生指導所

所 在 地　松山市道後２丁目
敷地面積　2,340㎡
建築面積　1,012㎡
延床面積　1,506㎡
構造規模　ＲＣ、２Ｆ
工　　期　昭和57年10月～昭和58年７月
最 寄 駅　国鉄予讃線松山駅

設 計　愛媛県土木部建築住宅課（基本）
　　教育施設研究所広島事務所（実施）
監 理　愛媛県土木部建築住宅課

施 工　愛媛土建
　　共立電気（電気設備）
　　勝山水道工業所（衛生設備）
　　愛媛冷暖房（空調設備）

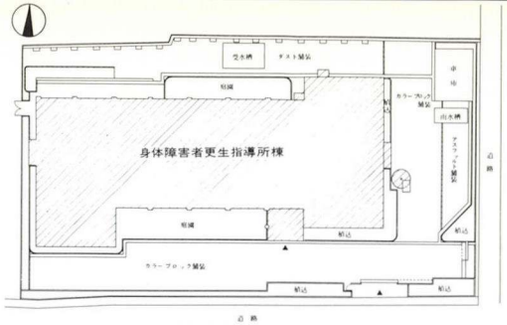


南東面外観

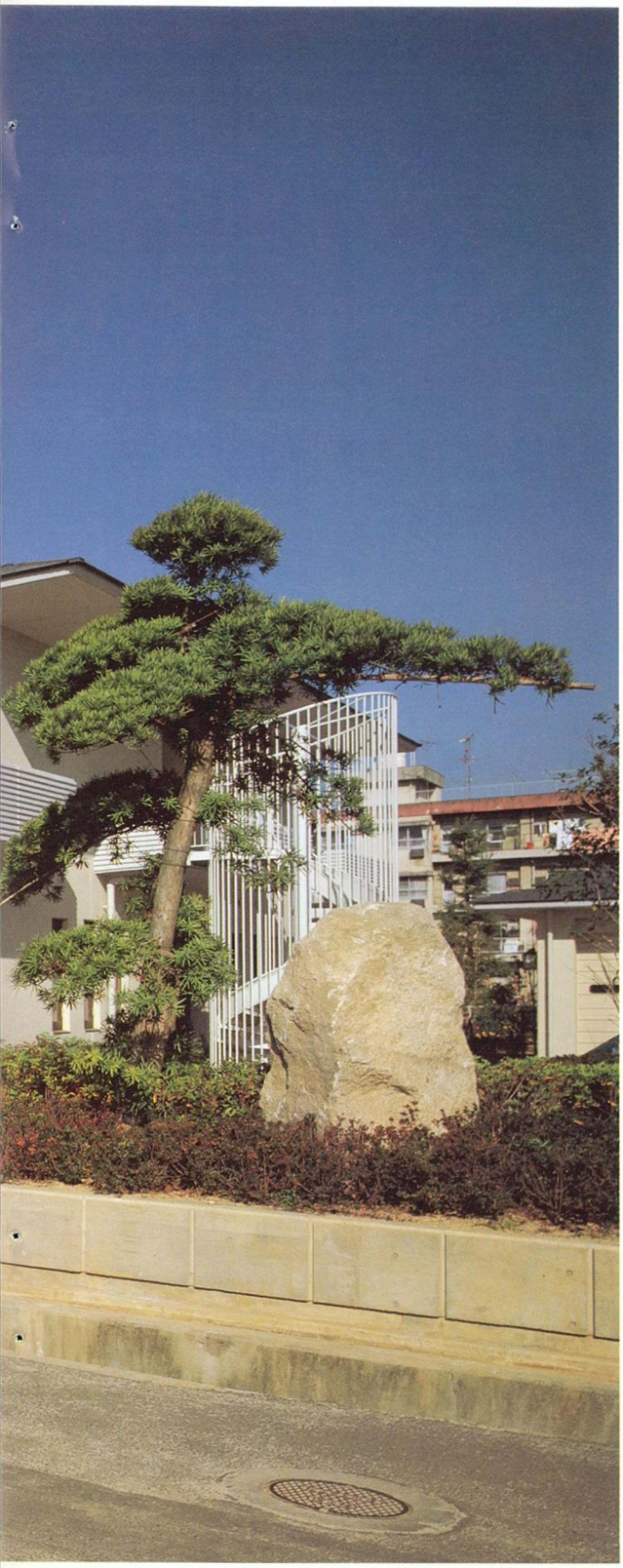
外装仕上　屋根：屋根用石綿セメント板葺
　　（アスファルトルーフィング22kg　特殊パーライトモルタル㋐40）
　　外壁：コンクリート打放し　弾性吹付タイル

障害者の重度化傾向に対応して　重度の障害者を長期にわたり収容し、医学的管理のもとでその更生に必要な治療、職業訓練および機能回復訓練等を行い、社会復帰を図ることを目的として建設されたものである。
この施設は障害者が日常生活を行う場となるため、内部空間を明るい色彩で仕上げるとともに、バルコニーを設け、陽だまりの空間とし、また、下階からの延焼防止や一次避難場所として、さらに室内の気温の調整等にも利用できるようにした。
外観および周辺環境に対しては、更生センターと隣接しているので同じ手法で統一することで調和を図った。

（井川一郎／愛媛県土木部建築住宅課
吉竹　寛／教育施設研究所広島事務所長）



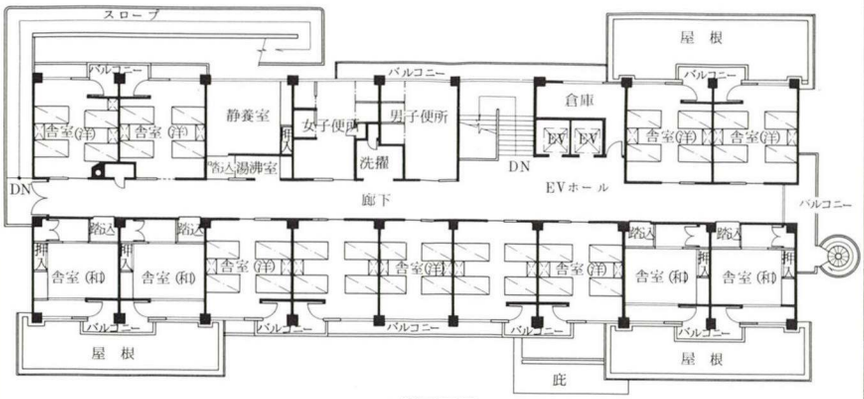

配置図　1：1000



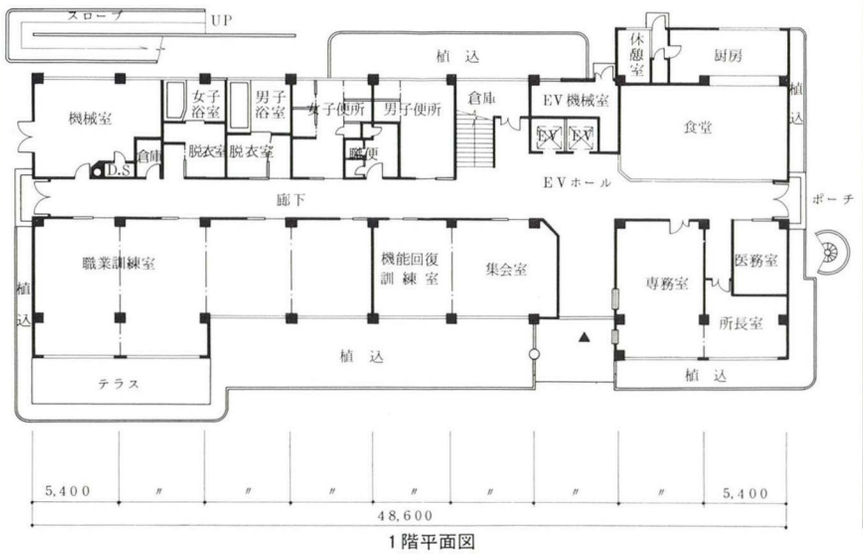
撮影：みつぎ写真事務所



食堂




2階平面図




1階平面図

# 日本臓器製薬生物活性科学研究所(IBAS)

設計監理　安井建築設計事務所
施　　工　竹中工務店(建築)
　　須賀工業(給排水衛生設備)
　　大気社(空調設備)
　　近畿電気工事(電気設備)



南側からの全景


第 2 研究棟、食堂


第 2 研究棟、ラウンジ

撮影：ナトリ光房

所 在 地　兵庫県加東郡社町木梨字川北山442－1
敷地面積　36,000㎡
建築面積　3,700㎡（うち第2研究棟620㎡）
延床面積　8,000㎡（うち第2研究棟800㎡）
構造規模　ＲＣ、Ｂ1、５Ｆ
工　　期　昭和57年5月～昭和58年11月
最 寄 駅　中国縦貫自動車道、滝野社ICバス停

播州社町の田園風景が展望できる小高い丘に立つこの研究所は、医薬品の研究・開発および安全性試験を目的としたハイレベルの民間研究施設である。

配置計画のポイントは、与えられた自然の勾配と修景をできるだけ生かしながら、将来の施設増設にも十分対応できることにあった。建物は、研究所の特殊性からエントランスホール、管理棟、研究棟を各々独立に構成し、各機能の明確な分離を図っている。研究所は、ＧＬＰ規準の主旨に沿った最高の施設をめざして、海外の最新の研究施設の調査を改めて行ない、今回の計画に役立てている。特に、動物実験室については動物への外的影響因子をできるだけ排除することに重点をおき、綿密な環境コントロールを計画し、モデル実験を行なった上実施した。この思想は他の建築設備計画にも表現されており、ロダンの彫刻（イヴ　1881年作）が一点のみ配置されたエントランスホールあるいは各棟をつなぐギャラリーは研究者の気持をやわらげると共に、自由な思索の場としての空間を意図している。一方、管理棟は研究開発のバックアップ機能のみにとどまらず、建築主の「研究所こそ本社である」という理念のもとに、社長室・会議室をはじめ最新鋭の視聴覚設備を備えた国際会議場（54席）、ファイリングシステムを採用した図書室など充実した施設をもち、先端分野の内外の科学者との交流をめざした情報交換の場を提供している。

また、敷地内一画の自然林の中には、本館と機能を異にする第2研究棟（ゲストハウス）が建っている。この建物は長期実験をおこなう研究者や、客員研究者の研究室あるいは宿泊施設としても利用されている。外装には銅板葺きと割肌タイルを用い、研究管理本館とは違ったイメージと雰囲気を意図しており、内部はくつろぎの空間をテーマに、古くから慣れ親しんだ自然材料を仕上材につかって、あきのこない落ちついたインテリアを表現した。

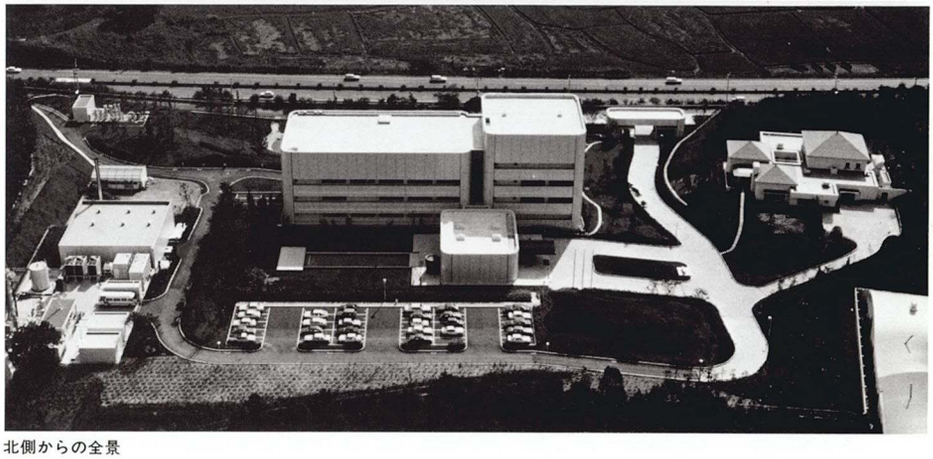
建築主側の高い理念と専門家の協力からつくり出されたこのユニークな生物活性科学研究所は、今後の研究施設のあり方に対する一つの提案であり、ここから研究開発の豊かな成果が生まれることを念願している。

（安井建築設計事務所）

**外装仕上**　外壁：プレキャストコンクリート版アクリルウレタン塗装
屋根：ＲＣスラブ断熱アスファルト防水


エントランスホール


ギャラリー


北側からの全景

# 桜井市芝運動公園総合体育館

設 計　中川建築設計事務所
監 理　住宅都市整備公団・中川建築設計事務所
施 工　淺沼組・中尾組共同企業体(建築)
　　松田電気工業(電気設備)、白鳥工業(機械設備)

正面玄関





アリーナ

撮影：フォトはなおか

**外装仕上**　外壁：２丁掛レンガタイル及び吹付タイル
軒裏：塩ビ鋼板スパンドレル
屋根：大屋根～カラーステンレス板横葺
陸屋根～アスファルト露出防水

所 在 地　桜井市大字三輪元馬場方
敷地面積　14,007.90㎡
建築面積　4,568.87㎡
延床面積　5,735.31㎡
構造規模　ＲＣ（一部Ｓ）、２Ｆ
工　　期　昭和57年２月～昭和58年５月
最 寄 駅　近鉄大阪線桜井駅
国鉄桜井線桜井駅

桜井市芝運動公園総合体育館は、わが国土をお開きになられた大神さまが鎮ります大神神社三輪明神のふもとにあって、多目的グランド、テニスコート、プール、ミニ体育館等を備えたスポーツゾーンとして広く市民に活用され親しまれている東南の一角に、その拠点として位置づけられ企画された。また、今年度、ここは「わかくさ国体」においてバレーボール競技のメイン会場ともなる。

緑あふれるこのすばらしい環境の中にかなり大きなボリュームを有する建物をいかにとけこませるかが課題となったが、深い軒の出（４ｍ）をもつ大屋根は勾配２寸５分の寄棟とすることにより軒高をおさえ、自然換気のための越屋根を設けるとともに屋根材はカラーステンレス板で働き巾 600㎜の横葺とし、先端に同市多武峰は談山神社の十三重の塔と同数のカラーアルミ製の輪を重ね避雷針とした。形および使用材料、色彩等全体にオーソドックス、かつシンプルにまとめたことにより、落ちついた重量感ある建物となり当初の目的を達し得たと思う。

平面計画に当たっても、利用と管理の容易なプランに重点を置き、管理および共用部分を中心に１階にアリーナ、２階は 514の固定席を有する観覧場そして周囲はランニングコースとなり、柔剣道場も併設、将来をみきわめ無駄の無いプランと設備内容とした。

現在、周辺の環境整備も着々と進められており、緑豊かなすばらしい環境のもと、〝スポーツの場〟〝ふれあいの場〟として大いに活用されるであろう。

（泉谷良宏／中川建築設計事務所）

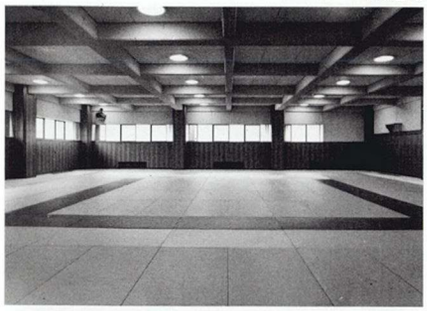
全景

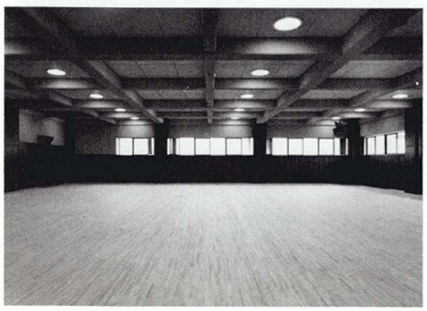




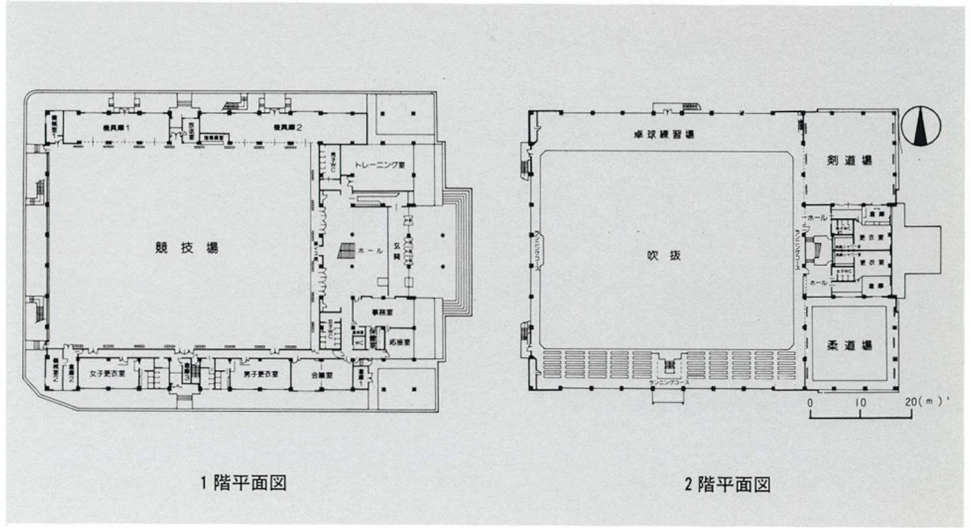
玄関ホール

柔道場





剣道場



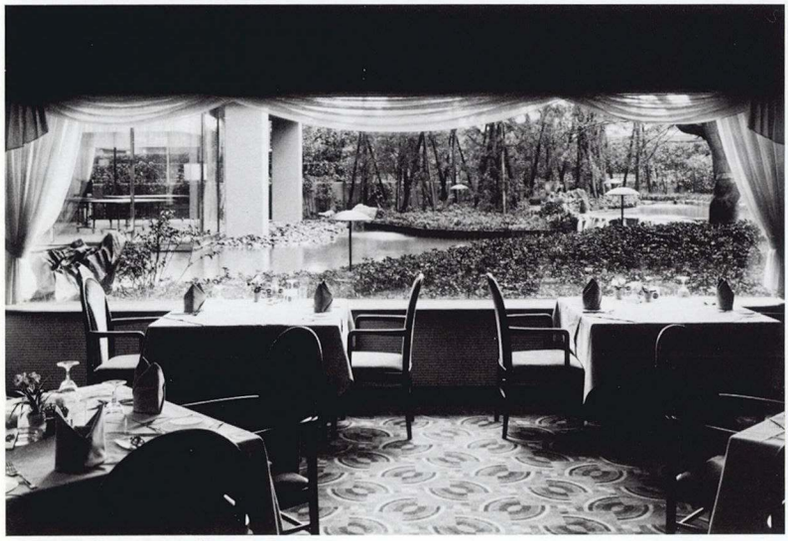

1階平面図　2階平面図

# ホテルフジタ奈良

設計監理　日建設計／大阪
施　　工　間組・淺沼組共同企業体

**正面全景**（外装仕上：磁器質無釉モザイクタイル）



レストラン「セエール・ダルジャン」



客室

撮影：高橋裕嗣

所 在 地　奈良市下三条町47－1
敷地面積　2,509㎡
建築面積　1,777㎡
延床面積　7,761㎡
構造規模　RC、SRC、B1、7F、P1
工　　期　昭和57年4月～昭和58年9月
最 寄 駅　国鉄奈良駅、近鉄奈良駅



附近見取図

住友生命奈良三条通ビル(ホテルフジタ奈良)は、住友生命保険相互会社が建設し、藤田観光株式会社が全館をホテルとして使用するビルである。客室数 118室の小型ホテルであるが、ツインルームを主体としてビジネスのみでなく観光客にも十分対応できる施設内容となっている。

敷地は、奈良公園のやや西よりで、国鉄奈良駅より東へのびる三条通に南面し、北側は開化天皇陵、西側はその参道に接する位置にあり、東側は巾2mの道路をはさんで寺の境内となっている。前面道路となっている三条通は、平城京の三条大路にあたり、今では奈良市のメインストリートとして買物客や観光客で賑う処である。

建物は、間口に比べ奥行の深い敷地形状に合わせ南北に長く配置して、高層部は、東側の客室および最上階の和食堂より若草山、興福寺、東大寺などの景色を見、西側の客室より生駒連山を遠望できるようにした。低層部は、建物の南端より北端に至る三層の吹抜空間を中心としてフロント、ロビー、レストラン、店舗、小宴会場、客室などの施設をおく構成とした。吹抜部分の両端には2層の高さの透明ガラスを使用し、三条通より天皇陵の緑を見通すことができるようにすることで開放的な雰囲気をつくりだした。

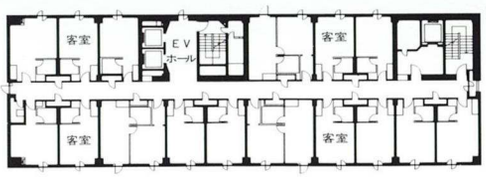
建物の前面には、広場を設け巾員の狭い三条通に対し憩の場を与えた。また、敷地の北側には、滝と水面を配しバックの緑が映えるように演出した。

外装は、奈良らしさを表現するために土壁色の無釉タイルを使用した。

（山口祥悟／日建設計）

1階ホール



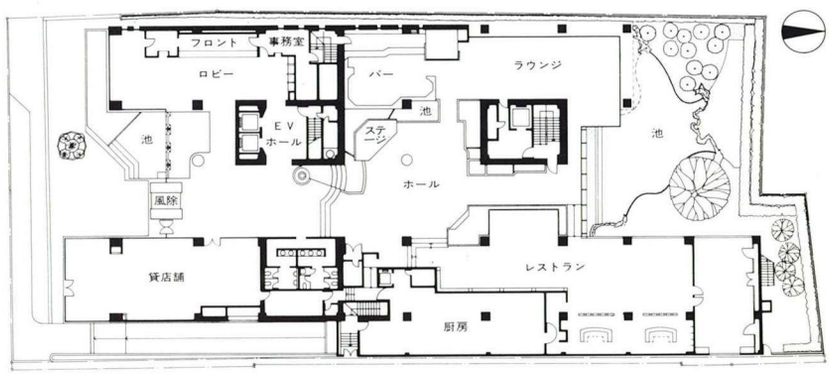


6階平面図



断面図（1：700）

1階平面図（1：700）



# 大阪司法書士会館

設計監理　泉沢建築設計事務所
施　　工　佐藤工業大阪支店




今回は設計コンペによるもので、最初に示された立地は、錦郷公園に北と東側が隣接した、まことにめぐまれた環境で会館立地としては申し分のない土地であった。また設計条件もかなり整理された状態での提案であった。

弊社の提案は〝大阪らしさ〟〝大阪を象徴しうるもの〟、そして社会の秩序と平和が守られる司法書士制度の会館は〝権威あるもの〟と位置づけ提案した。

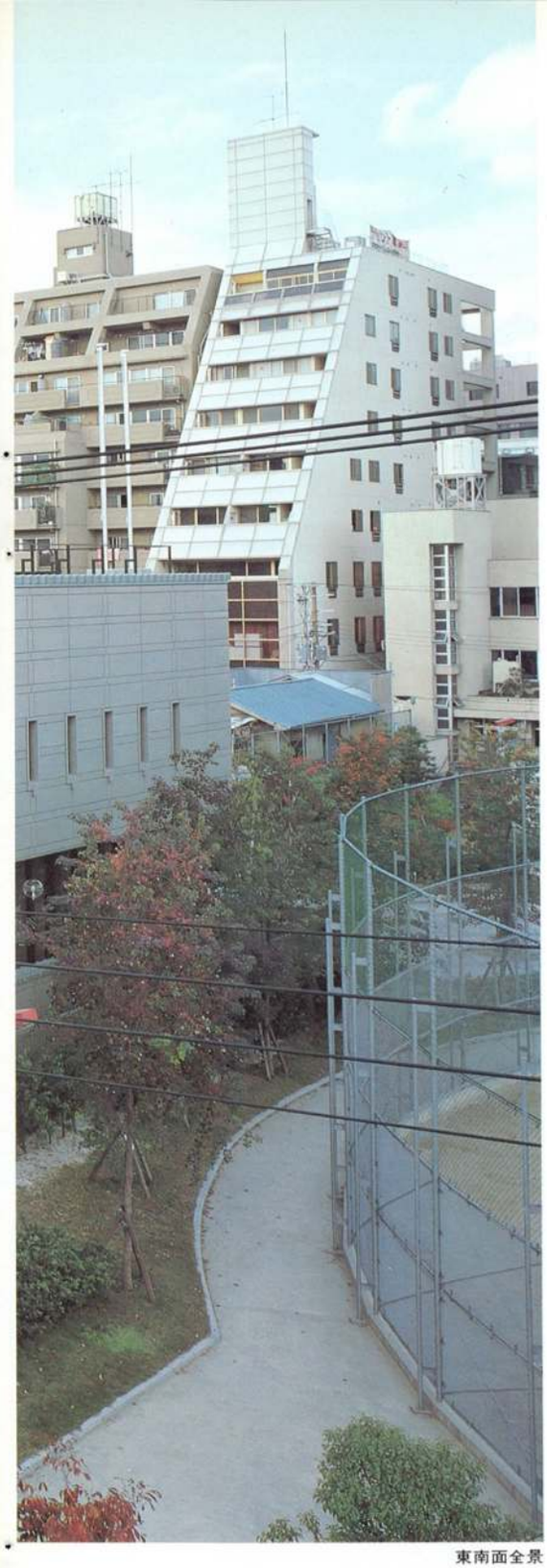
大阪をテーマとし、大阪を代表する大阪城・御堂筋・堂島川等からアイデアを抽出し、外観、とくに外壁にあっては、大阪城の石垣からくる歴史ある豊かな造型の美しさをイメージし、石垣の表現をアルミジュラクロンでまとめ、静かな権威あるもの、また、そのなかにも近代的要素の配慮のため、正面および角面を曲面で表現してみた。

外壁に続くパラペット上部のスカイラインには、瓦を連想できるデザインとして、これもアルミジュラクロンの曲加工で制作し格調と落ち着きを求め、2階バルコニーには提燈風の外灯を設け、大阪城のイメージと調和させるべく雰囲気を演出してみた。

また内部にあっては、2階にロビーをもうけ会員相互の密接な交流の場とした。この部屋の床は別織りのじゅうたん敷で、御堂筋のイチョウを図案化し、南側壁面には堂島川における天神祭の風景を表現したタペストリー（壁掛け）をもうけ、北側壁面は外壁の表現をそのまま内部に持ち込み、ロビー全体に大阪を感じとれるよう配慮した。

会館の管理を行う事務室は会員ロビーに面し、東南の角に配し、日当り風通しのよい場所を選び、和室・役員室は北側にもうけ、府民相談室はロビーに面して配置し、すべての部屋がロビーを中心に歩行線の整理を行った。3階は集会室として一室にも、また区画すれば、会議室として3室に分けられるよう考慮した。防災・避難上にも考慮をはらい、北側と南側に2方向避難可能な階段を直通させ安全上にも配慮した。

（泉沢哲史／泉沢建築設計事務所長）



東南面全景

所 在 地　大阪市東区和泉町１－45
敷地面積　　536.29㎡
建築面積　　451.44㎡
延床面積　1,369.64㎡
構造規模　ＲＣ、４Ｆ
工　　期　昭和58年４月～昭和58年10月
最 寄 駅　地下鉄谷町線谷町４丁目駅

撮影：黒田青巌













4階



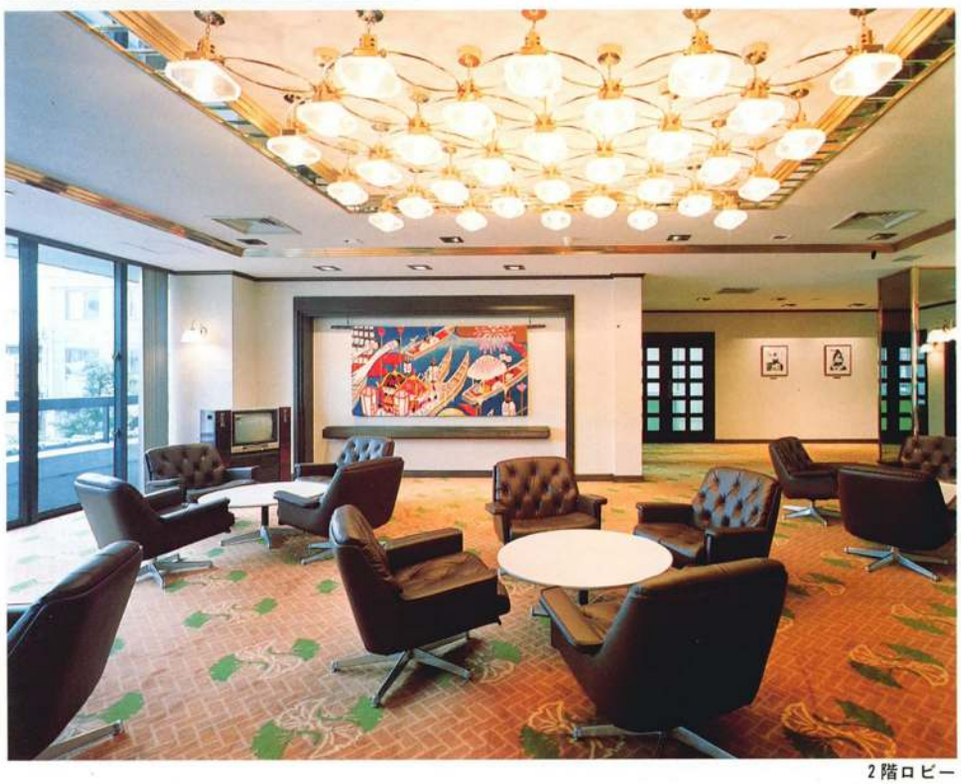

3階




2階




1階　1：500



2階ロビー

主な協力業者(順不同)

| | | |
|---|---|---|
| 木 | 斎藤組 | 西宮市五月ヶ丘12-9<br>Tel 0798－72－8000 |
| 木製建具 | 中原製作所 | 和歌山市秋葉町2-19<br>Tel 0734－44－0871 |
| 外装パネル<br>金属製建具 | セントラル建装 | 大阪市西区北堀江1-5-2<br>Tel 06－538－0005 |
| 内装 | 大阪装飾 | 大阪市西区京町堀1-13-24<br>Tel 06－441－0931 |
| 電気 | 富士電業 | 大阪市西区北堀江1-10-2<br>Tel 06－538－1171 |
| 給排水衛生 | 大成温調工業 | 大阪市北区与力町1-5<br>Tel 06－356－1281 |
| 内装 | 東邦商会 | 大阪市東住吉区桑津1-14-27<br>Tel 06－719－1292 |
| 金属 | 林富商店 | 大阪市福島区海老江7-11-19<br>Tel 06－451－2926 |
| 雑 | 西武百貨店関西 | 大阪市淀川区西中島5-10-15<br>Tel 06－305－0111 |

# ジャスコ田原本店

設計監理　東畑建築事務所
施　　工　村本建設

外観正面（北面角）






航空写真



セントラルコート

撮影：ＳＳ大阪

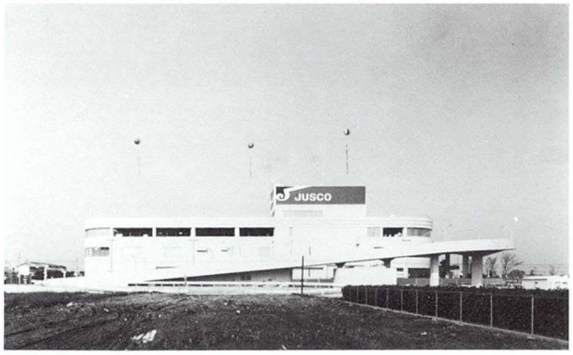
所 在 地　奈良県磯城郡田原本町大字阪手745番地
敷地面積　25,274.14㎡
建築面積　 6,268.89㎡
延床面積　21,493.91㎡
構造規模　ＲＣ、Ｂ１、３Ｆ、Ｐ２
工　　期　昭和57年11月～昭和58年９月
最 寄 駅　近鉄橿原線田原本駅

奈良盆地のほぼ中央部に位置する磯城郡田原本町の田園地帯に建設した郊外型ショッピングセンターである。
駐車台数 700台（屋内、屋上 330台）を要し、国道24号線および県道より開発道路等にて敷地に接している。またこの接道道路設置および幹線道路の拡巾で当施設建設により生ずる交通渋帯を緩和させている。
建設前の敷地は、幹線道路よりもかなり低く、一昨年には大和川（初瀬川）の氾濫により浸水の被害を受けた地域であるが、本建物は、以下の点を考慮し、また浸水の防止等十分検討した結果、地階に売場を設けている。

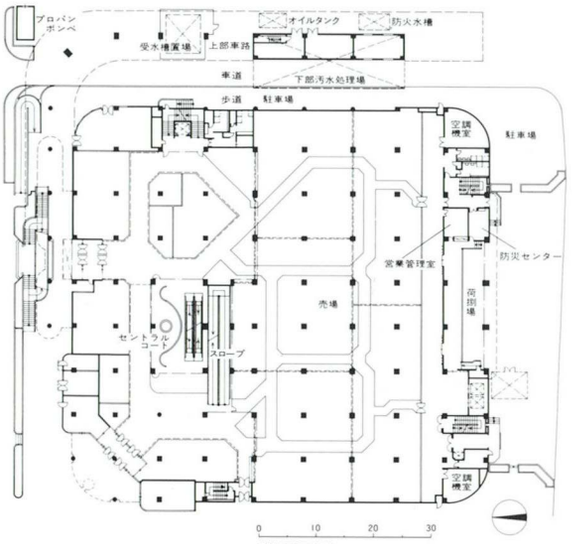
- 第２種高度地区の中での駐車台数確保のための建物の立体化の必要性
- 地盤差を利用することにより、地階建設の建設費のコストダウンがはかれること
- 屋外から直接地階売場へという来店客のスムーズな動線が確保できること

等である。
建物は、古都奈良のイメージの中に都会的なシンプルで落ち着いた外観、曲線を多く取り入れたやさしい表情、白とグレーを基調とした色彩でまとめた。屋内は、明るくコンパクトな吹抜空間の中にエスカレーター、屋内スロープを設け、身障者対策も十分に施し来店客の利便性を考慮した。

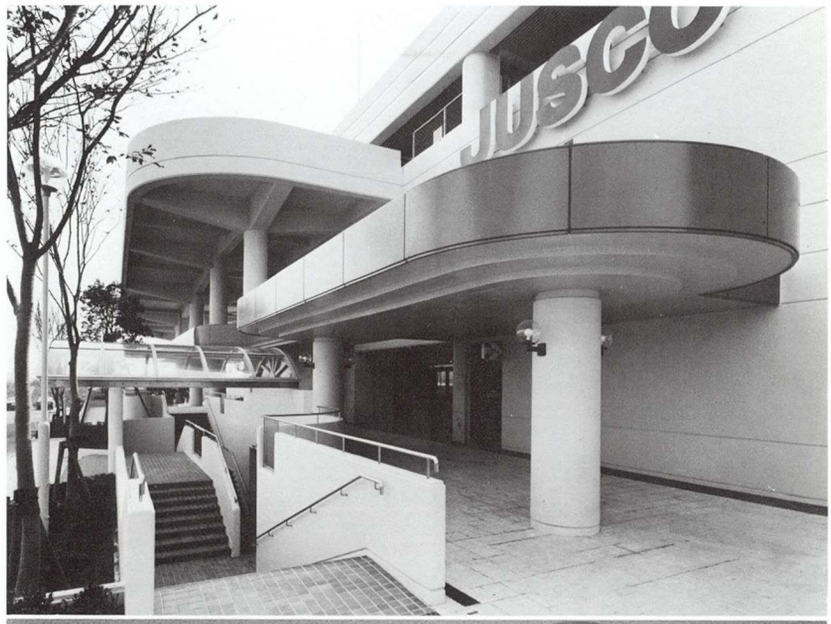
（今村清二／東畑建築事務所）



東面外観



1階平面図

エントランスディテール




1階ホール


2階売場

# 倉敷駅ビル

設 計　日本国有鉄道大阪工事局
　　安井建築設計事務所
監 理　安井建築設計事務所
施 工　鉄建建設・大本組建築共同企業体

外観正面







1 階ホテル玄関



4 階店舗

撮影：国際写真

外装仕上：外壁、二丁掛タイル貼、ＰＣ版吹付タイル
パラペット、アルミパネル（二次電解着色）
アルミカーテンウォール（二次電解着色）

所 在 地　倉敷市阿知町５－１－７
敷地面積　23,336.20㎡
建築面積　6,664.97㎡
延床面積　18,234.57㎡
構造規模　ＳＲＣ、Ｂ１、８Ｆ、Ｐ２
工　　期　昭和56年12月～昭和58年８月
最 寄 駅　山陽本線倉敷駅

倉敷駅ビルは、国鉄および倉敷ステーション開発㈱が建設する駅舎、ホテル、商業施設からなる複合ビルである。
駅ビルのデザインについては倉敷の伝統的な持味を現代的な手法で表現することが具体的な要件である。
駅ビルの両側には倉敷市の駅前再開発事業の東ビル〈三越百貨店〉、西ビル〈倉敷ターミナルホテル、貸事務室、食堂街〉と広場の周囲はペデストリアンデッキが設けられている。これらの既存のビルと調和させ、駅前広場の景観をまとまりあるものとするため、駅ビルについては複合的な機能を整理してシンプルな立面構成とし、スカイラインには黒い小屋根を設け、白と黒の色彩対比により簡潔な表現をすることにした。
正面中央部の三連のアーチは、倉敷駅と街の玄関口の正面性の表現を強調したものである。
駅ビルの１～４階は「ルブラン」（仏語で白色の意）の愛称のショッピング部門、５～８階は宴会場、レストラン、客室（139室）等「ホテル倉敷」のホテル部門、６階の半分はサウナ浴場を持つトレーニング室「ヘルススパ・くらしき」のヘルス部門、２階に駅舎と接続の自由通路等で構成されている。
内部のデザインも外観と同様に倉敷のイメージの共通性を求めて基調をシンプルなものとした。

（安井建築設計事務所）

航空写真正面





5階宴会場



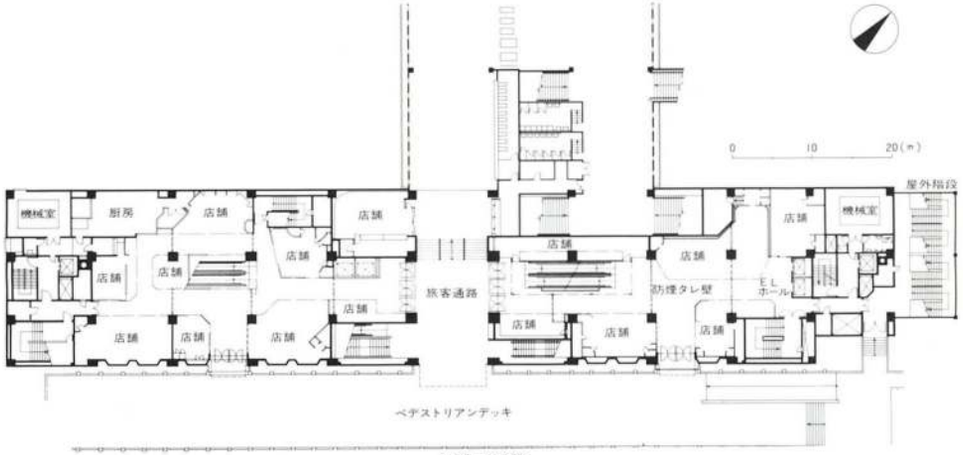
6～8階客室

5階レストラン





5階通路




2階平面図

# 学校法人聖公学院 聖公幼稚園

設計監理　光安建築設計事務所
施　　工　神崎組

全景（南東面）





北西面（写真：設計者提供）

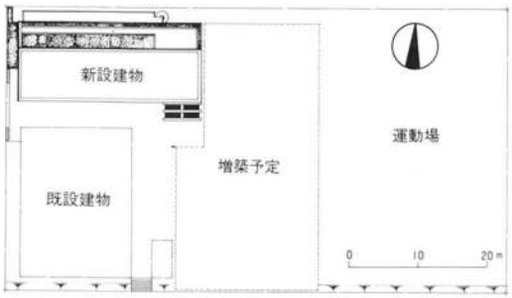


鐘を吊したモニュメント（写真：設計者提供）

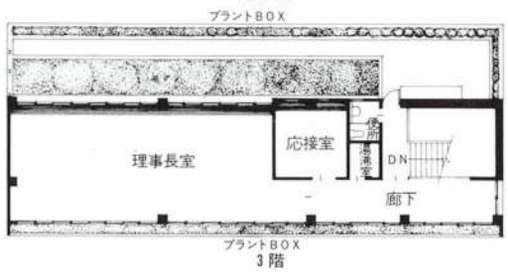
所 在 地　神戸市西区糀台３丁目32の２
敷地面積　3,000㎡
建築面積　312.65㎡
延床面積　723.27㎡
構造規模　ＲＣ、３Ｆ
工　　期　昭和57年12月～昭和58年６月
最 寄 駅　国鉄明石駅下車神姫バス西神ニュータウン内、狩場台五丁目

撮影：河野　豊

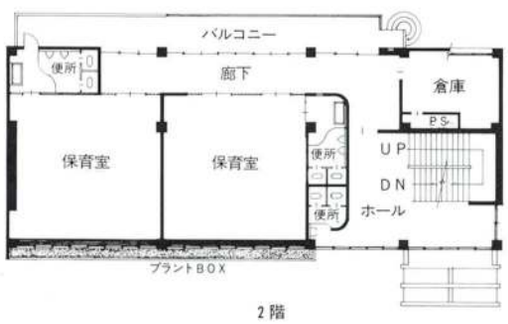
神戸市の新しい町、西神ニュータウンの中心部に建てられた幼稚園である。
多くの子供が最初に出会う教育空間である幼稚園は、幼い子供の心の片隅に、いつまでも残るものであってほしいと願いながら、本設計を進めた。建物の屋上に、鐘を吊したモニュメントを作り、鐘の鳴る幼稚園とした。そして色彩は、白を基調にオレンジとレッドをポイントとして用い、建物を明るく印象付け、また、陰気になりがちなトイレには、便器とタイルの色を種々に組み合わせ、リズム感を持たせた。
壁の出隅に曲面を用い、外部の床仕上を一部分内部にまで入り込ませ、エントランスをガラスのトンネルとし、空間の拡がりと連続性を求め子供に開放感を与えるように配慮した。　（光安義博）



配置図



3階

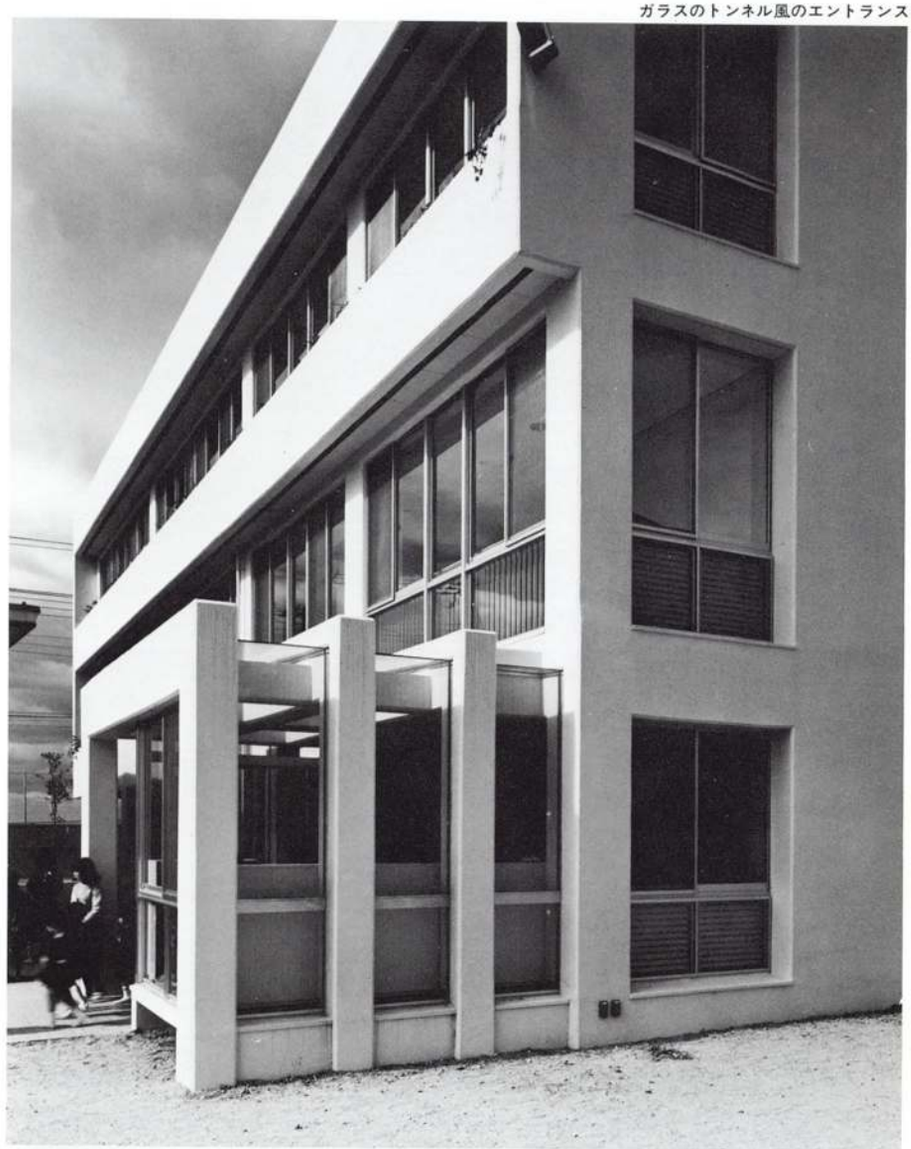


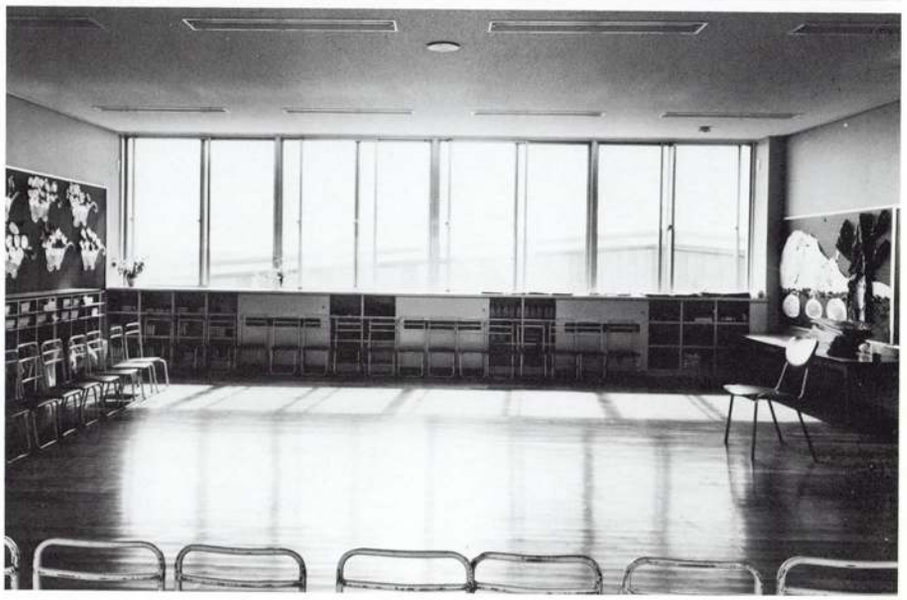
2階



1階　1：400

ガラスのトンネル風のエントランス




保育室




正面入口

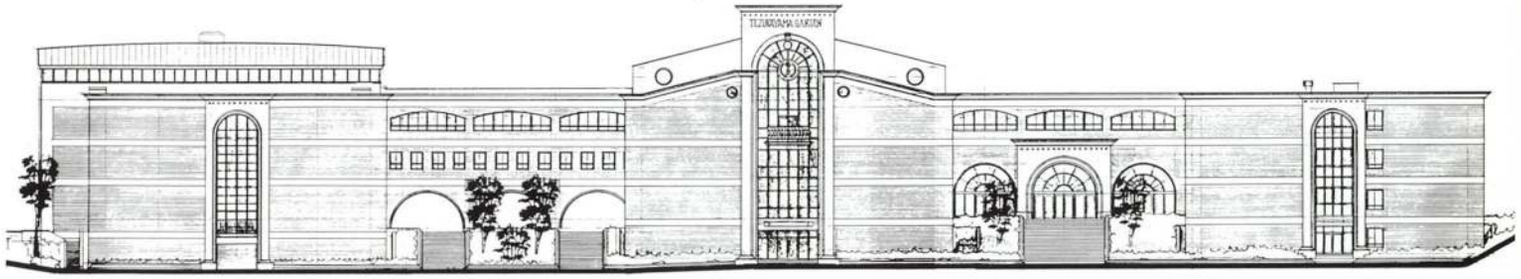
撮影：河野　豊（カラー）

# 帝塚山学院泉ヶ丘中学校・高等学校

設計監理　A.R.I建築事務所
施　　工　鴻池組



アプローチ




正面立面図　1：700

外装仕上：レンガタイル２丁掛フランス貼
RC打放し化粧、ウルトラブッツ(吹付タイル・ローラー)仕上
シリカ系吹付タイル



生徒昇降ホール



生徒ホール（オープンスペース）

撮影：内田写真

大阪の伝統ある私学として著名な学校法人帝塚山学院が、65周年記念事業の一環として、泉北ニュータウンの泉ヶ丘教育施設地域の一画に、帝塚山学院泉ヶ丘中学校・高等学校を創設された。この泉ヶ丘校の設立に当り、われわれに示されたことは、「力の教育」を建学の精神として掲げられ、調和のとれた全人格的教育を目標として、「知育」「徳育」「体育」の３つの基本理念を柱とした65年におよぶ伝統を尊重した新設校を設計してほしいということであった。

基本設計は、まず敷地と道路のレベル調整に２万m²の土を削り、前面に緑地帯、語らいの広場等を設け、周辺と親しみを生む環境づくりを図る配置計画からスタートした。中央棟に「徳育の棟」（管理諸室、図書館、多目的ホール）、右に「知育の棟」（国際科、普通科教室棟）、左に「体育の棟」（体育館、食堂）を配して、伝統ある校風を生かした重厚で調和ある伸展が希望できる校舎建築を表現するよう、シンメトリックなデザイン構成とした。

学校空間として、創造性・人間性豊かな生徒の育成に資する文化的なスペース、ゆとりのある充実した学校生活が送れるように、生徒と教師との理解と共感を生む対話とふれ合いのスペース、コンピューター等の情報機器を積極的に導入した教育システム、および学習形態に対応したスペースづくりが大切である。さらに、建物の庇の造形や壁の色彩、装飾壁、吹抜けなど、これらのディテール構成から成る学校空間の設計に、学院独自の学風と教育的環境の形成姿勢を積極的に取り入れたものである。

外観は、ヒューマンな伝統を継承している古典的な建築様式手法を意図することによって、校舎が自然にその地域の街並みにとけこみ、願わくば、21世紀にも通用し、これを育ててくれるような外部環境の創造を意図した。しかし単に古典的な様式手法に頼るのは、時代錯誤がある。私は新しい感覚、素材によるネオクラシシズムなデザイン設計によることにしたが、このネオクラシシズムなレンガ積みシリンダーアーチ、時計塔（学校のランドマーク）、門扉等の姿の印象が、当校を巣立ち行く生徒の心の故郷として、永く心の中に生き続いていくのではないかと思うのである。

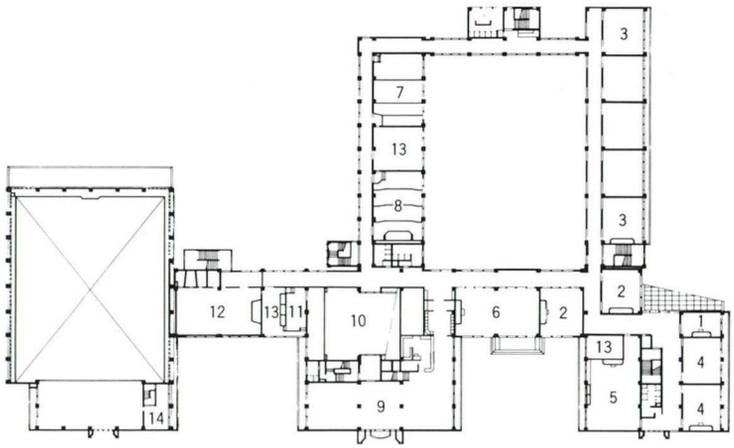
（亀井晃治／A.R.I建築事務所）



# 帝塚山学院泉ヶ丘中学校・高等学校

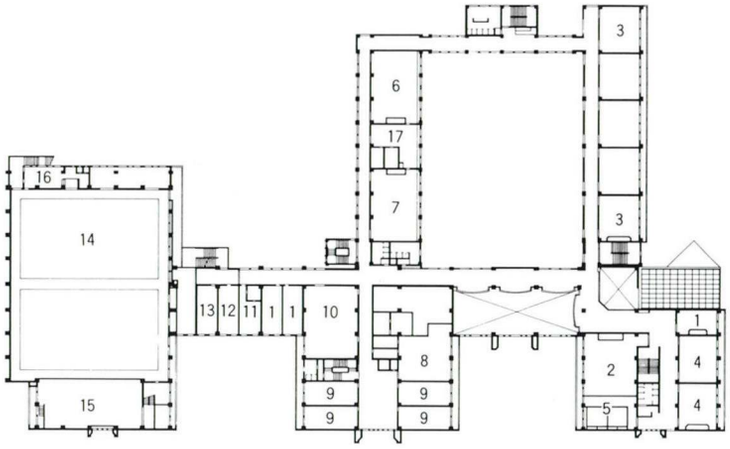
所 在 地　大阪府堺市晴見台４丁目２番１
敷地面積　33,000.00㎡
建築面積　5,282.71㎡
延床面積　13,493.01㎡
構造規模　RC、体育館小屋組S、3F（一部5F）
工　　期　昭和56年11月～昭和58年１月
最 寄 駅　南海泉北高速鉄道泉ヶ丘駅よりバス

1　グループ学習室
2　コース教室
3　普通科教室
4　国際科教室
5　美術・技術教室
6　100名教室
7　L・L教室
8　視聴覚教室
9　図書室
10　多目的ホール
11　控室
12　音楽教室
13　準備室
14　クラブ室



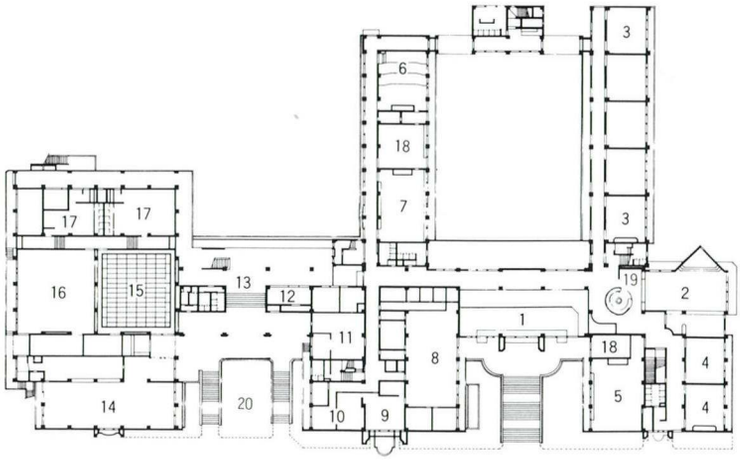
3階

1　グループ学習室
2　被服教室
3　普通科教室
4　国際科教室
5　作法室
6　化学実験室
7　生物実験室
8　教育情報センター
9　教科室
10　会議室
11　放送室
12　生徒会室
13　クラブ室
14　アリーナ
15　ステージ兼卓球場
16　体育準備室
17　準備室



2階

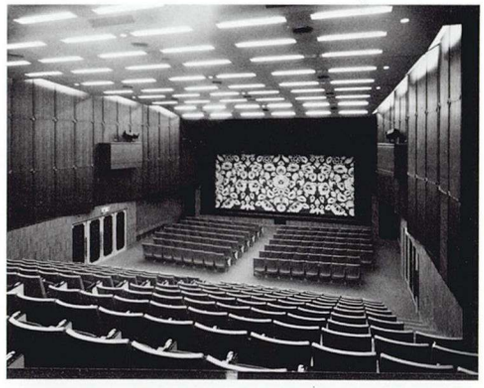
1　昇降ホール
2　オープンスペース
3　普通科教室
4　国際科教室
5　調理教室
6　理科講義室
7　物理実験室
8　職員室
9　校長室
10　応接室
11　保健室
12　購売部
13　ピロティ
14　食堂
15　柔道場
16　剣道場
17　更衣室
18　準備室
19　談話コーナー
20　植込



1階　1：1400



上：マントルピースと円型ベンチ
中：多目的ホール
下：体育館兼講堂





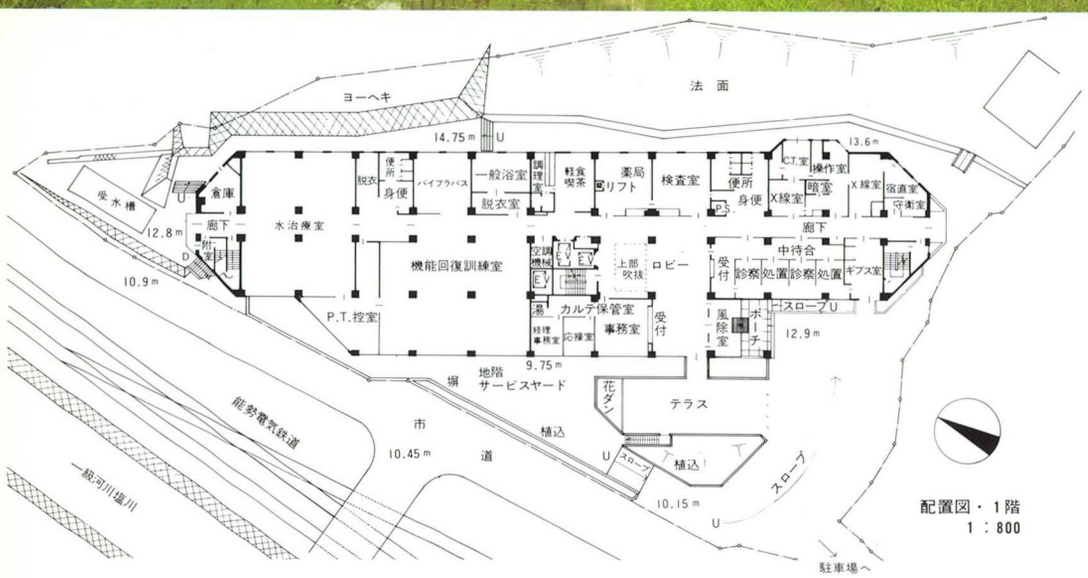
# 協立温泉病院

設計施工　松村組大阪本店




外観

外装仕上：コンクリート打放しの上、吹付タイル
一部小口タイル貼




配置図・1階
1：800

撮影：プラザ企画　水野好数

所 在 地　兵庫県川西市平野字塩山281番地他
敷地面積　4,768.95㎡
建築面積　1,660.83㎡
延床面積　9,039.94㎡
構造規模　ＲＣ、Ｂ１、６Ｆ、Ｐ２
工　　期　昭和57年７月～昭和58年７月
最 寄 駅　能勢電気鉄道平野駅

老齢化社会をむかえ、老人および障害者用の施設が必要であるということから、この病院は計画され、温泉の出る場所として当地が選定された。
アプローチは敷地の高低差を利用し、スロープを上って１階に正面玄関をもうけ、サービス関係は進入路とほぼ同じレベルの地階にと分離した。
１階は玄関ホール、診察部分、事務関係、リハビリ関係で、ホールの一部に吹抜をもうけ、インテリアについては、従来の病院のイメージをやわらげるように務めた。２階はリハビリ関係、手術部門、管理関係室、３階から６階までが病室となっている。５階北半分は老人専用の病棟で、管理上間仕切壁はできるかぎりガラススクリーンとした。６階は個室病棟および看護婦宿舎となっている。
各階中央部分にデイルームをもうけ、患者の憩いの場とした。屋上にソーラーを設置、給湯に利用して省エネをはかり、事務関係、設備関係には小型電算システムの導入をはかった。車イス使用者のため、床の段差を極力なくすことに務めたが、水まわり等のディテールについては、今後さらに工夫すべきであると感じた。また、横引サイレントドアについても、車イス使用者にとっては、ドアを開く時に力が入りにくい等、問題を残したことは残念であった。
これからの病院建築については、医療機器の進歩に対応していくと同時に、患者の立場に立って心理的な面での対応が、バランス良く進められなければならないことを痛感した。

（久保田進也／松村組大阪本店）

主な協力業者（50音順）

| | | |
|---|---|---|
| 電気設備 | 浅海電気 | 大阪市北区西天満3-7-4<br>ＴＥＬ　06－362－8701 |
| サッシュ | アルケン工業 | 尼崎市潮江5-8-1<br>ＴＥＬ　06－429－7961 |
| 給排水衛生<br>空調設備 | 三晃空調 | 大阪市北区西天満3-13-20<br>ＴＥＬ　06－363－1371 |
| エレベーター | 三精輸送機 | 吹田市江坂町1-13-18<br>ＴＥＬ　06－385－5625 |
| 医療機器 | 西本産業<br>病院設備営業部 | 摂津市庄屋1-14-12<br>ＴＥＬ　06－382－5561 |



植込まわり

1階フロント





1階ホール吹抜

# 第29回工高生デザインコンクール入選作品

## 設計課題：四季を通じて利用できる「ビーチハウス」

主　　催：日本建築協会

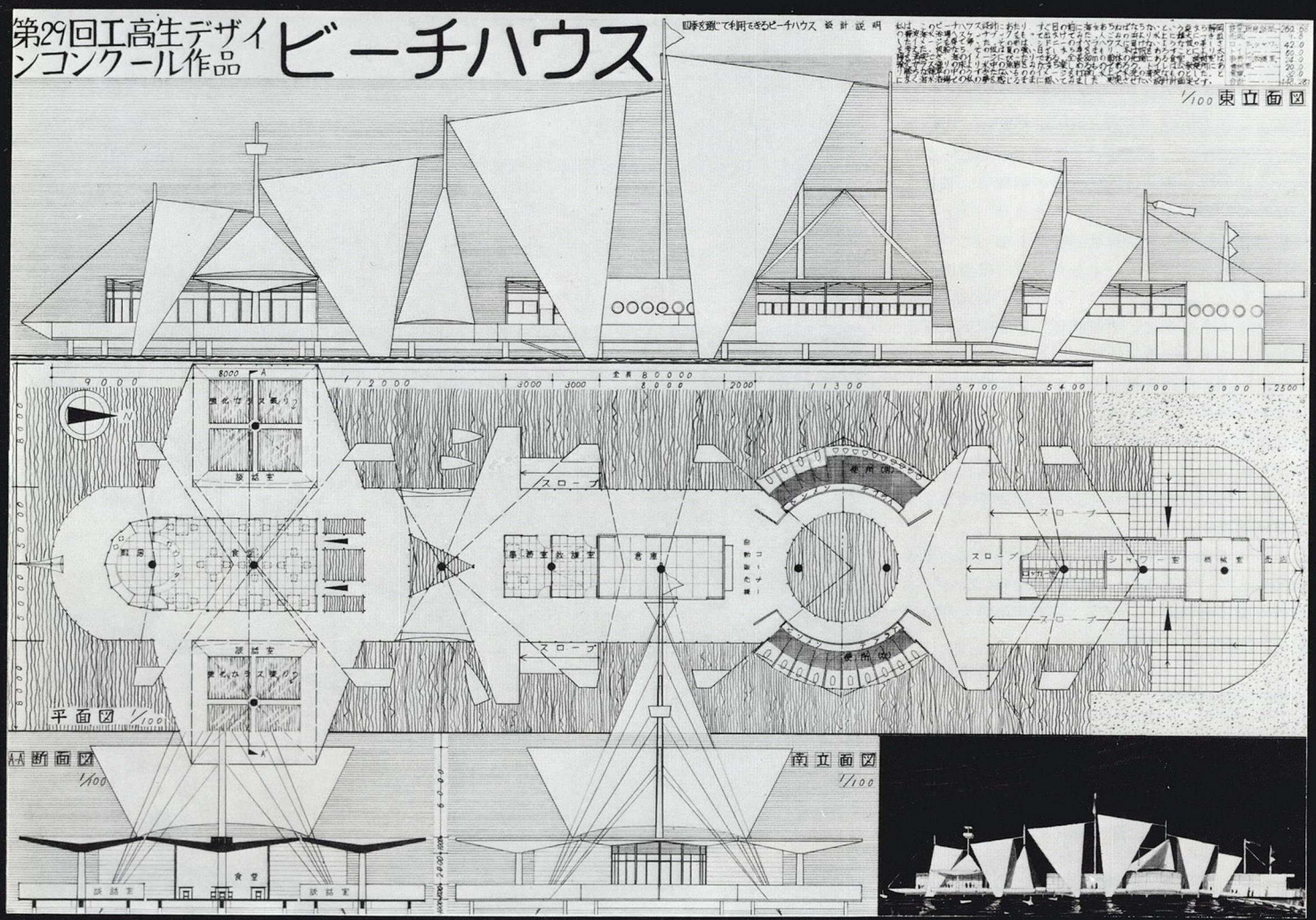
応募作品114点のうち、予備審査、第1次から第6次までの本審査を経て、入選作品10点を決定し、うち最優秀作品1点を選定した。

応募校数　17校　　応募作品数　114点
締 切 日　昭和58年 9 月20日
審 査 会　昭和58年10月15日
表 彰 式　昭和58年11月26日

審査委員長／柳　眞也
審査委員／大久保久能／岡島　毅／岡田泰次／加藤　力／小角　亨／高口恭行／玉川　晃／浜崎　彰／濱田学昭／原田　勲／藤原　博／舟橋國男／峰岸　隆／村上元康／八木俊樹／安田丑作

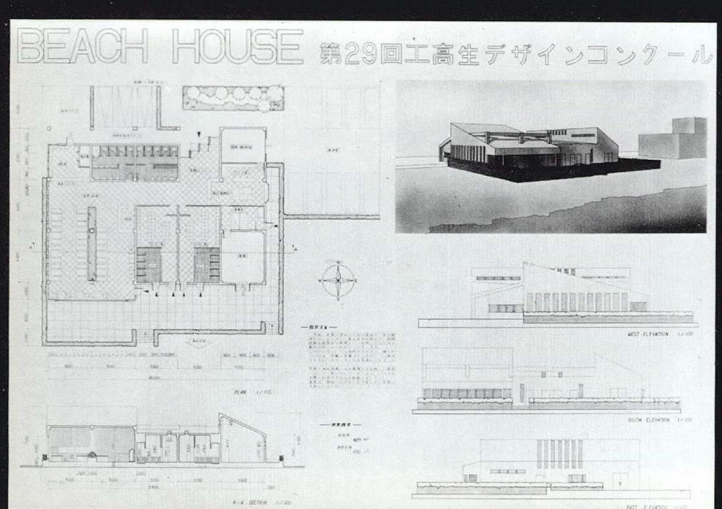
（50音順・敬称略）

〔掲載順不同〕




### △入選・最優秀賞　石井光典（静岡県立静岡工業高等学校定時制・3年）

設計にあたって、近くの海に出かけたが、その時の印象から、海上に大きく突き出して、帆船のもつ優雅な形で表現するのが最も適していると考えた。また、帆は夏の強い日差しから身を守り、冬は帆をおろすことにより太陽を満喫でき、海のイメージにぴったりとしていると思えた。全長80ｍの船体の上に談話室・食堂・事務室・便所などの諸室を配置したが、とくに談話室の床は強化ガラス張りとし、水中の魚影を見ながら、楽しく会話ができるようにした。



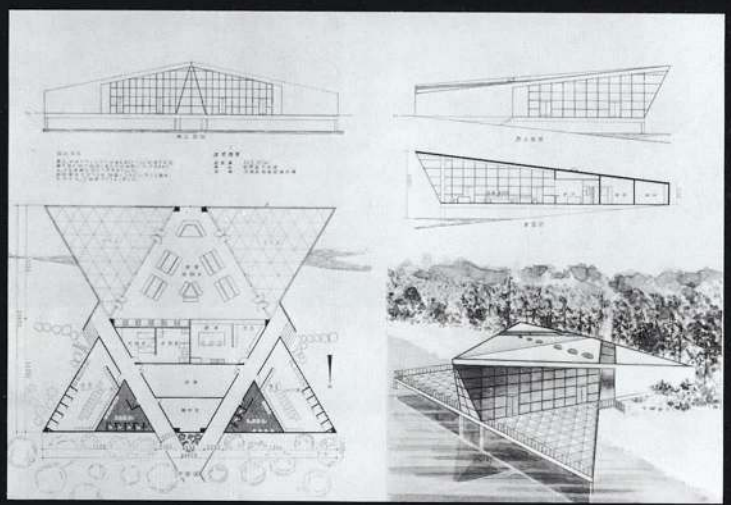

### ◁入選　駒井智弘（大阪府立今宮工業高等学校・3年）

余暇活動の一環として、季節をとわず、誰もがいつでも、手軽に各種のマリンスポーツを楽しみ、利用することができるようなビーチハウスを考えた。平面的には、外部との関連に気をくばり、食堂・ロッカー室・シャワー室は、気軽に、いつでも利用できるようにした。また、軽食・談話を重視するうえから、食堂・対話スペースからの視線をさまたげるような凹凸はできるだけ避け、開放感を与えるようにした。外観は、片流れ屋根の組合せとし、正面性をもたせるようにした。

**審査後感**

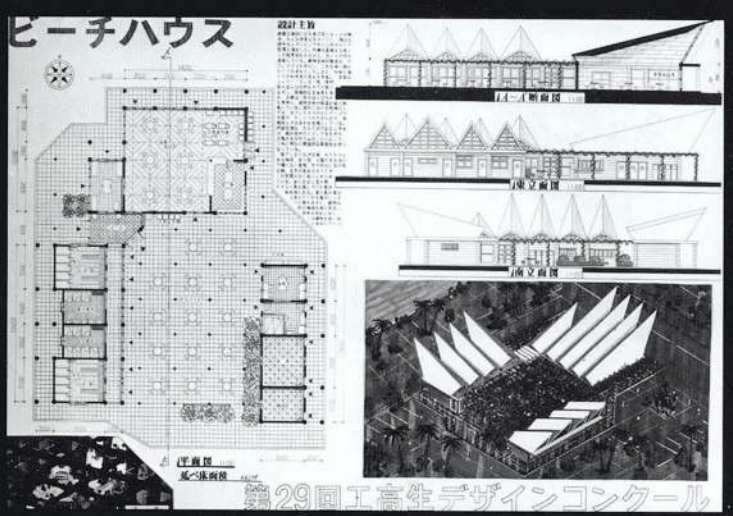
応募作品は、課題の主旨の解釈によってユニークな夢を描こうとしたものと、地味で堅実なものとに分かれ、いずれの傾向のものに拘らず慎重に審査の結果、独創性、表現力、計画力、努力などの成果を評価された10点が入選作品としてえらばれた。最初から終始リードして満票に近い石井君の作品が最優秀賞をえたが、同君は他にもう1点も入選を果たし、定時制に通学しながらの努力には拍手を送りたい。水上に長くせり出したデッキの上に施設を配し、帆による大きい表現は建築的手法にこだわらないのびやかなところが評価されたものであるが、欲をいえばもっと風を受けた布のふくらみの描写がほしかった。宮沢君の作品と石井君のもう1点もほとんど伯仲の評価をえた。駒井君の作品はよくまとまった平面と堅実な立面で好感がもたれた。また、滝沢君の作品は単純でシンボリックな外観は好評をえておりながら内部の平面計画の研究がいまひとつで残念だった。

応募した諸君は皆この一枚の図面の中に精いっぱいの一夏の青春を注ぎ込み、結果の如何を問わず、これからの人生につながる貴重な経験になったことと思う。社会に出られてからも、日々の学習とたゆまざる努力を忘れずに、大きく成長し、ご活躍されることを期待いたします。（審査委員長・柳　眞也）



## △入選　畑　正広（大阪府立西野田工業高等学校・3年）

夏は水泳・キャンプに、四季を通じては釣りに利用される観光地の湖を想定して、この課題を考えた。設計にあたっては、自然とマッチさせるためには三角形の平面が最も単純で美しいと思ったので、大胆に用い、その中に食事・談話室・厨房などを配置するとともに、ロッカー・シャワー室、便所については、外部からも容易に利用できるようにした。外観については、食事・談話室およびテラスを湖面に突き出し、ガラス面を大きくとって、眺望がすぐれるようにした。

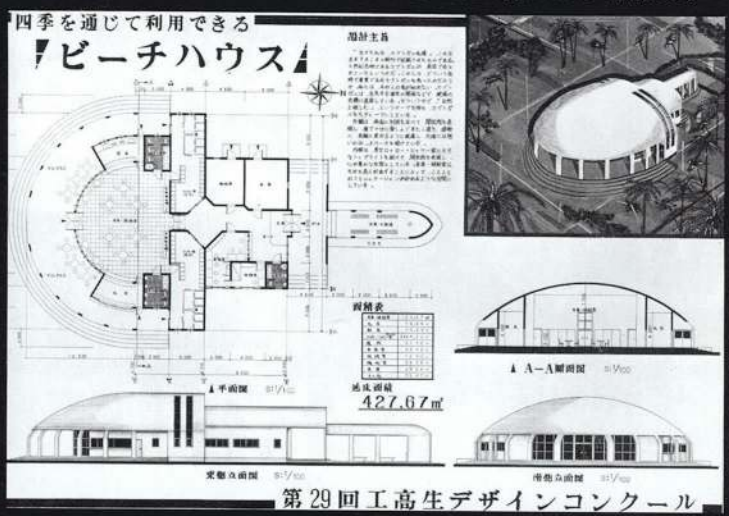



## △入選　宮沢一夫（群馬県立高崎工業高等学校・3年）

紺碧の海辺に立ちならぶ白いヨットの群れ、そんな情景をモチーフに、海辺を訪れる人々にとってシンボルとなる空間を演出した。建物を開放的なものにするために、すべての室は直接出入りできるようにし、動線の自由度を高めるようにした。また、冬期は一定の出入口のみを使用し、建物全体の保温を計るようにした。屋外には人々の交流の場となるようにパーゴラ形式のカフェテラスを設けた。外観は、ヨットの帆を表わすために鋭角的な直線を用いて表現した。

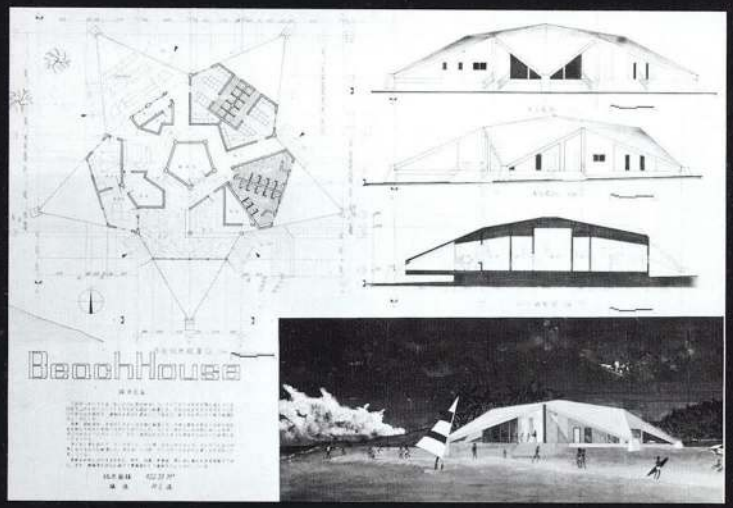
## ▽入選　高橋秀如（群馬県立高崎工業高等学校・3年）

生きた化石といわれる甲ガニをモチーフにして考えるとともに、平面的には食堂・談話室を中央に配し、"コミュニケーションづくり"が計られるような空間にした。ロッカー・シャワー室は男女を左右に分け、屋内からだけでなく、屋外からも直接出入りできるようにした。また、屋外空間として南面にカフェテラス、北面に休憩所を設け、憩いの場として利用できるようにした。外観は、南面に列柱を並べて開放感を表現し、海で楽しんできた人達が気軽に戻れるように配慮した。




## ▽入選　滝沢博久（群馬県立前橋工業高等学校・2年）

広い浜辺に星の砂が1つ、そしてヤシの木の影がぼんやりと浮び出るという、そんなイメージをもって考えた。平面は、五角形を基本にして、どの方向からも出入りできるように5つの出入口を設け、廊下幅もゆったりととり、動線がスムーズとなるようにした。食事・談話室は、見晴しのよい浜辺側に配置し、便所は屋内・屋外からも使用できるようにした。また、貸出し室を設けて、サーフボード、つり具などを貸出せるようにした。構造は、RC造の壁構造とした。



**課題の主旨**

近年、レジャーやスポーツの内容が豊富になり、かつ多様化してきた。たとえば、日本ではまれにしか見ることのできなかったサーフィンやウインドサーフィン、水上スキーなどの水辺のスポーツもこれにともなって盛んになり、季節を越えて楽しまれるようになってきた。

このような傾向に応じて、各種のレジャーやレクリエーションのための施設も追々、整備充実されてきつつある。

本課題の「ビーチハウス」は、このような時代のニーズに応じた今日的な内容を期待するもので、四季を通じて利用される施設としてユニークな計画であることが望まれる。

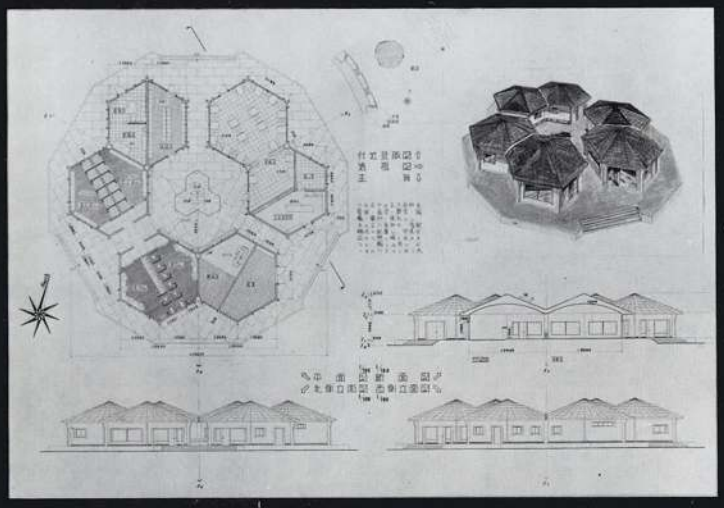
**設計条件**

1．敷　地：海水浴場に近い海岸または湖岸に自由に想定する。
2．建　物：延べ面積400～450㎡。平家建、構造は自由とする。
3．所要室：

| （室名） | （面積など） |
|---|---|
| 食事・談話室 | ハンバーガー・サンドイッチ等の軽食を基本として、簡単な厨房と受渡しカウンターを設ける。近辺にジュースなどの自動販売機のコーナーを設ける。 |
| 売　　店 | 適　宜 |
| ロッカー・シャワー室 | 男女各50ケ程度のコインロッカーと各5ケ以上のシャワーブースを設ける。 |
| 便　　所 | 男女各20㎡程度 |
| 事　務　室 | 15㎡程度 |
| 機　械　室 | 20㎡ |
| 倉　　庫 | 30㎡ |

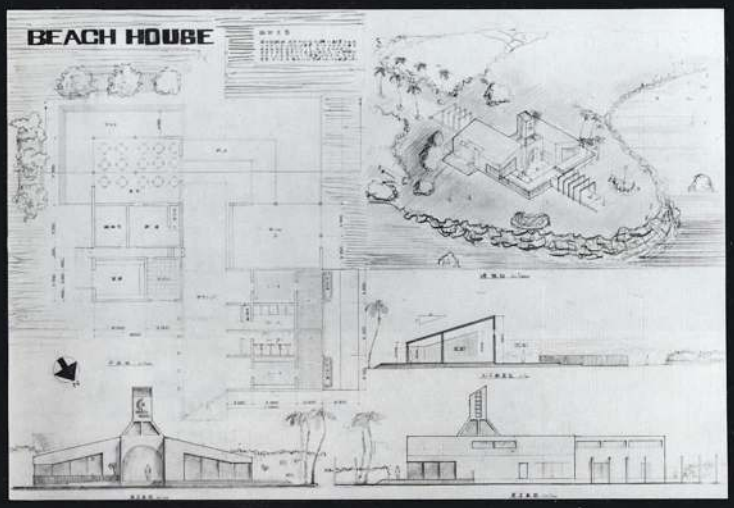
救護室その他必要と考えられる室

4．その他　屋外施設：テラス等を設けるのは自由。
駐車場は他の場所に設けられているものとし、とくに考慮する必要はない。



## △入選　西村武久　（滋賀県立八幡工業高等学校・3年）

雑誌をなにげなく見ていたら、正六角形を組合せた建物が目につき、今回の課題にマッチするように思え、最初は、1つの大きな正六角形の中に所要室をすべて配置するつもりであったが、少しでも人目につくように、また、変化のある外観にするために、小さな正六角形を6つ組合せて構成することにした。なお、それぞれの正六角形は、管理・食堂・厨房・便所・設備棟に分け、動線が短かくなるように放射線状に配置し、中央に中庭を設けて、憩いの場となるようにした。

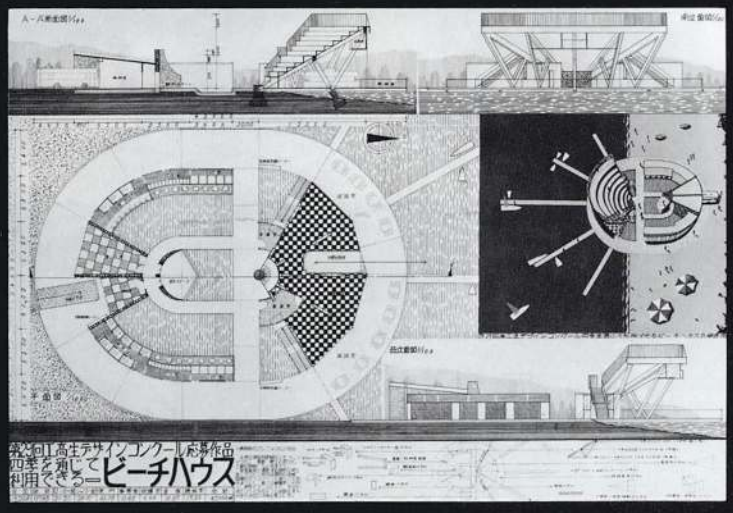



## △入選　阿部哲也　（横浜市立鶴見工業高等学校・3年）

日頃、騒々しい都会の人波にもまれている人達が、毎日の生活に疲れた時、その疲れをいやし、心を安められるような場所となるように、また、マリンスポーツ（レジャー）の核となるように構成を考えた。波の比較的おだやかな小磯に、ラウンジを中心にして左右に大きく分けて、左側にテラス・デッキ・食堂・管理室を、右側にホール・便所・シャワー室・ロッカー室を配置した。食堂・ホールからは海が見わたせるようにし、人々の心に安らぎと落着きを与えるようにした。

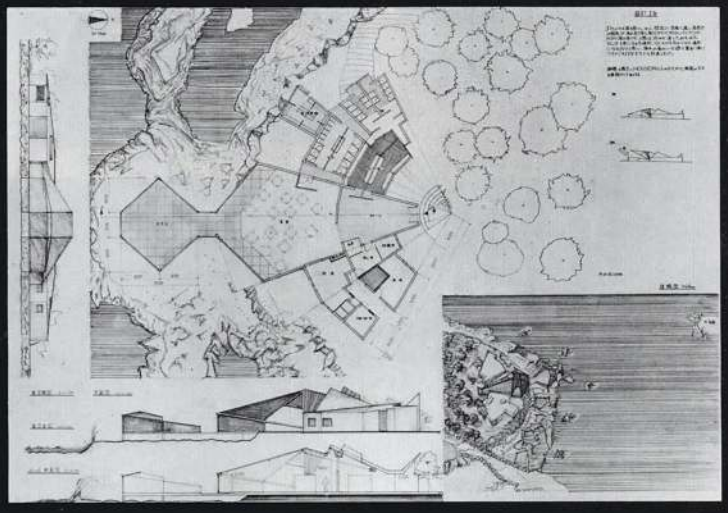
## ▽入選　石井光典　（静岡県立静岡工業高等学校定時制・3年）

ビーチハウスというテーマであるので、海水浴場へ行き、目の前に広がる「海」を具体的な形に表現しようと思い、数多くスケッチし、その中からゴムボートの形がよいと思いモチーフに用いた。構造体はプレファブ化し、量産、施工の省力化、工期の短縮化などを考えた。食堂の屋根の骨組はＲＣ造トラスとし、接点は溶接とした。また、被ふくは現場打ちコンクリートで行ない、屋ロは観覧席に利用できるようにし、野外ステージとともに、浜辺のポイントとなるようにした。




## ▽入選　永久保　武　（横浜市立鶴見工業高等学校・3年）

情報・交通・人という荒波により、小さい頃の自分や本当の自分を忘れてしまっている都会人に、都会での生活の疲れをとり、一人にしてくれるようなビーチハウスを考えた。このため、平面を磯で羽根を広げて休んでいる鳥の形にし、建物内に入ると強い太陽の日差しからときはなされ、やさしい太陽のシャワーと潮風が待っているようにした。また、海の方を見るとテラスごしに視界がひらけ、テラスへ歩いて行くと潮風・水しぶき・潮のかおりが迎えてくれるようにした。



※上記入選者の感想文は、誌面の関係上委員会にて要約の上掲載しました。（文責・中野吉晟／教育委員会幹事）

日本建築協会法規委員会
（担当：編集委員会法令分科会）

# 法令コーナー

質疑などの投稿をお待ちしております。

## 190 建築士法の改正（その1）

### 1．改正の概要

**(1) 建築士資格の整備**（法第3条の3等関係）

① 一定の木造の建築物に係る設計または工事監理を行うことができる者として、都道府県知事の免許に係る木造建築士資格を設けるものとする。

② 木造建築士事務所に関する規定を整備するものとする。

**(2) 建築士試験の実施体制の合理化**（法第15条の2から第15条の17まで、第16条、第29条第2項等関係）

① 建設大臣または都道府県知事は、その指定する者に、一級建築士試験または二級建築士試験および木造建築士試験の実施に関する事務を行わせることができるものとする。

② 指定試験機関に関する規定を整備するものとする。

**(3) その他**

① 建築士の適正な業務執行の確保

ア．建築士の適正な業務執行の確保を図るため、懲戒事由を拡充するものとする。（法第10条第1項関係）

イ．建築士は、大規模の建築物等の建築設備に係る設計または工事監理を行う場合において、建設大臣が定める資格を有する者の意見を聴いたときは、設計図書等において、その旨を明らかにするものとする。（法第20条第3項関係）

ウ．建築士は、設計および工事監理に必要な知識および技能の維持向上に努めなければならないものとし、建設大臣および都道府県知事は、必要に応じ、講習の実施その他の措置を講ずるものとする。（法第22条関係）

② 建築士事務所に係る制度の改善整備

ア．建築士事務所の登録の有効期間を3年間から5年間に延長するものとする。（法第23条第2項関係）

イ．建築士事務所を管理する建築士は、その建築士事務所の業務に係る技術的事項を総括し、建築士事務所の開設者に対し、必要な意見を述べるものとする。（法第24条第2項関係）

ウ．建築士事務所の開設者は、新たに、その業務に関する帳簿を備え付け、これを保存しなければならないものとする。（法第24条の2関係）

エ．建築士事務所に係る監督処分として、新たに、建築士事務所の開設者に対して戒告を与えることができるものとする。（法第26条第2項関係）

③ 施行期日

この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行するものとする。 ㊟公布の日 昭和58年5月20日

（大阪府建築指導課調整係 **井上正義**）

### 2．新旧対照表（主要項目のみ抜すい）

| 改正法 | 現行法 |
|---|---|
| （定義）<br>第二条 この法律で「建築士」とは、一級建築士、二級建築士及び木造建築士をいう。<br>2 略<br>3 略<br>4 この法律で「木造建築士」とは、都道府県知事の免許を受け、木造建築士の名称を用いて、木造の建築物に関し、設計、工事監理等の業務を行う者をいう。 | （定義）<br>第二条 この法律で「建築士」とは、一級建築士及び二級建築士をいう。<br>2 略<br>3 略<br>4 略 |
| （一級建築士又は二級建築士でなければできない設計又は工事監理）<br>第三条の二 略<br>一 略<br>二 延べ面積が百平方メートル（木造の建築にあっては、三百平方メートル）を超え、又は階数が三以上の建築物。 | （一級建築士又は二級建築士でなければできない設計又は工事監理）<br>第三条の二 略<br>一 略<br>二 延べ面積が百平方メートルをこえ、又は階数が三以上の建築物 |
| （相対的欠格事由）<br>第八条 次の各号の一に該当する者には、一級建築士、二級建築士又は木造建築士の免許を与えないことがある。<br>一 禁錮以上の刑に処せられた者<br>二 この法律の規定に違反して、又は建築物の建築に関し罪を犯して罰金の刑に処せられた者<br>三 前条第三号に該当する者を除き、第十条第一項の規定により免許を取り消され、その取消しの日から起算して五年を経過しない者 | （相対的欠格事由）<br>第八条 左の各号の一に該当する者には、一級建築士又は二級建築士の免許を与えないことがある。<br>一 禁こ以上の刑に処せられた者。<br>二 この法律の規定に違反して、又は建築物の建築に関し罪を犯して罰金の刑に処せられた者 |
| （懲戒）<br>第十条 一級建築士、二級建築士又は木造建築士が次の各号の一に該当する場合においては免許を与えた建設大臣又は都道府県知事は、戒告を与え、一年以内の期間を定めて業務の停止を命じ、又は免許を取り消すことができる。<br>一 禁錮以上の刑に処せられたとき。<br>二 この法律若しくは建築物の建築に関する他の法律又はこれに基づく命令若しくは条例の規定に違反したとき。<br>三 業務に関して不誠実な行為をしたとき。 | （懲戒）<br>第十条 一級建築士又は二級建築士がその業務に関して不誠実な行為をしたとき、又は第八条の各号の一に該当するに至ったときは、それぞれ建設大臣又は免許を与えた都道府県知事は、戒告を与え、一年以内の期間を定めて業務の停止を命じ、又は免許を取消すことができる。 |
| （試験の内容）<br>第十二条 略<br>2 木造建築士試験は、小規模の木造の建築物に関する設計及び工事監理に必要な知識及び技能について行う。 | （試験の内容）<br>第十二条 略 |
| （二級建築士試験及び木造建築士試験の受験資格）<br>第十五条 二級建築士試験及び木造建築士試験は、次の各号の一に該当する者でなければ、これを受けることができない。<br>一～四 略 | （二級建築士試験の受験資格）<br>第十五条 二級建築士試験は、左の各号の一に該当する者でなければ、これを受けることができない。<br>一～四 略 |
| （中央指定試験機関の指定）<br>第十五条の二 建設大臣は、その指定する者（以下「中央指定試験機関」という。）に、一級建築士試験の実施に関する事務（以下「一級建築士試験事務」という。）を行わせることができる。 | |
| （都道府県指定試験機関）<br>第十五条の十七 都道府県知事は、その指定する者（以下「都道府県指定試験機関」という。）に、二級建築士試験及び木造建築士試験の実施に関する事務（以下「二級建築士等試験事務」という。）を行わせることができる。 | |

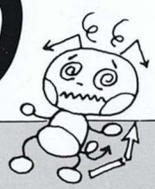
NAKA



病院内での
カビ、細菌の発生源を
シャットアウト!!



# 防カビ・抗菌剤入り



## 患者さんの歩行を優しくガードする

## セフティーライン® W型/WR型

特許・実用新案登録済及び出願中

### 細菌汚染の防止

多くの人が手を触れる手摺は、それだけ多種の悪性菌が表面を汚染し、病気の感染源となりうると心配されております。

NAKAの手摺には、これらの細菌汚染から細菌の発育を阻止する、抗菌剤「バイナジン」を配合。菌の発育防止、カビの発生防止に効果を発揮します。

笠木：硬質樹脂製(耐衝撃材)
●カラーは6色。(エンボスタイプ)



笠木受：硬質樹脂製
中空クッション部/軟質樹脂製

### 木目タイプも新発売



●シオジ柾●チェリー●チークの3種があります。

★詳しくはカタログをご請求ください。

創意と良心を大切にする **ナカ工業**

本社　〒100 東京都千代田区内幸町1-1-1(インペリアルタワー10階)☎03(501)8211代
札幌011(662)7611・仙台0222(27)2391・北関東0486(52)1461・横浜045(241)6411
名古屋052(471)3191・大阪06(308)5541・広島082(246)9200・福岡092(451)1577
千葉・小山・多摩・静岡・金沢・岡山・高松・松山・鹿児島・熊本

建築は金物で生きる良い金物を使いましょう(全現連宣言)　　建物の価値を高めるナカの建築金物

# 読者の頁

## 〝私のらくがき〟募集

○タイトルを適当におつけください。またスケッチ場所などを含めて200字程度のコメントをつけて下さい。
○サイズは150×200ミリ程度の白紙に、できるだけ黒インキで書いたものとします。（ハガキ大でも差しつかえありません。）
○掲載分には規定の稿料をさしあげます。原則としてスケッチの原稿は返却はいたしませんが、返却希望の場合はその旨特記下さい。
○氏名、住所、職業、年齢を明記して㈱日本建築協会編集部宛お送り下さい。

### 海外工事のワンポイント　その6（最終回）

## 〝マレーシアの建築確認申請業務とローカル・コンサルタント〟

**加藤恂一**／清水建設　設計部





R2ブロックの宅地造成工事（清水建設受注分）

シミズ・ペレンバ社（清水建設とマレーシアのディベロッパー、ペレンバ社との現地法人・合弁会社）は昭和58年にペレンバ社の国際入札に応札し、約4,300戸（141棟）の低層集合住宅工事を入手した。清水建設は、このシミズ・ペレンバ社に対し、技術支援を行うと同時に、ペレンバ社のプランニング・コンサルタントとして、57年4月からホーソンデン地区（クアラルンプール市の中心地区より東北東の約10km、開発面積約455ha）のマスター・プラン作りを開始し、事業主体のクアラルンプール市、当局およびディベロッパーのペレンバ社と協議を重ね、住居地区10ブロック、中心商業地区、工業団地地区の2ブロック、計12ブロックから成る全体マスタープランを58年1月に完成した。

シミズ・ペレンバ社が入手した工事はこのうちの住居地区2地区、約55haである。

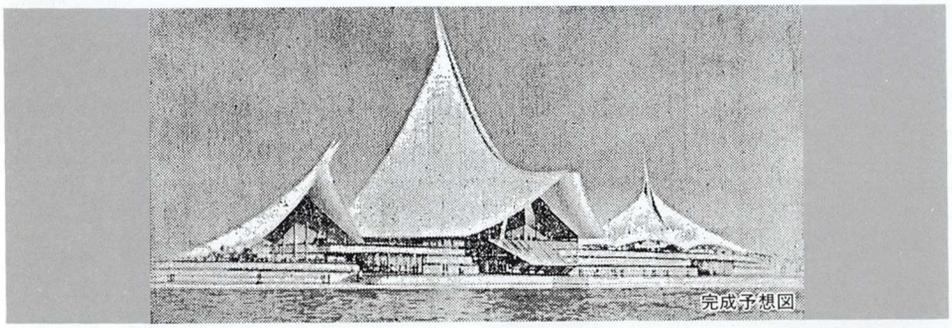
この全体マスタープラン作りから、住棟の実施設計に至る一連の設計作業を進める中で、我々外国人設計者にとって、特に問題になるのは、関係官庁との事前協議および、各種許可のとりつけである。マレーシアにおける申請業務は、開発申請（PLANNING APPROVAL）と建築申請（BUILDING APPROVAL）の二段階に分れており、通常、開発許可――DEVELOPMENT ORDER（略してD.O.と呼ばれる）のとりつけに約2ヶ月、建築許可――BUILDING APPROVALに約4ヶ月、合計約6ヶ月が必要とされている。したがって、BUILDING APPROVALがおりるのを待って着工することは稀で、D.O.がおり、BUILDING APPROVALに関与する市建築局、下水道局、水道局、消防局、交通局等との事前協議が終了し、杭・基礎に関する申請図書を構造のローカル・コンサルタントを通じ、市当局に提出した段階で杭工事に着手し、基礎および上部構造の施工へと許可がおりるタイミングとは無関係に進めていくのが一般的なやり口である。つまり、BUILDING APPROVALに先行して工事が進行するため、関係官庁の指示による変更工事のリスクを施主あるいは請負者が負わなければならない。このやり直しによるリスクをいかに最少限にとどめるかが、ローカル・コンサルタントの最も重要な職務であると言っても良い。関係官庁との折衝をいかに緻密に行えるか、事前折衝による確認事項の反故を如何に少なく抑えられるかは、（サインをかわし合った公式のMINUTES OF MEETINGに明記された確認事項も、その後、同一官庁からの指示により、ひっくり返ることもたびたびある）一重にローカル・コンサルタントの折衝能力、関係官庁への発言力にかかっている。

最近、頓に当地での案件が増え、日本を含めた外国企業同志が、力のあるローカル・コンサルタントを競って雇い入れるため、彼等に支払うフィーは年々上昇し、彼等の仕事の質も、仕事量の増大に伴って低下していく傾向にある。この実情をふまえ、外国人設計者は自ら、現地でのライセンスを取得し（現地で業績を認められた建築家、カナダ・オーストラリア等の英国圏の大学を卒業した者、およびアメリカのいくつかの限られた大学の卒業者はライセンス取得の有資格者）法的にも責任をとれる立場で、関係官庁と直接、折衝しうる能力、資格を取得することが、今後さらに外国企業が、現地で発注者の信用を得、仕事の質、量供に向上させるための手段として、最も重要なことであると思われる。

# 建築と社会 ニュース

ニュース原稿をお送りください。

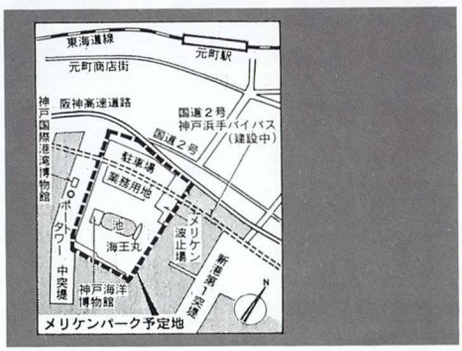
## 帆船のイメージで60年夏完成めざす ―神戸海洋博物館―



完成予想図

神戸市が建設中のメリケンパークの目玉施設「神戸海洋博物館」（仮称）の外観は、白い帆をいっぱいに広げた帆船のイメージで形づくられることになった。パーク中央の池をはさんで、反対側には運輸省航海訓練所の帆船海王丸（2,250㌧）を引退後に誘致、保存する。60年８月のユニバーシアード神戸大会前の開館を目指し、59年７月着工する。〔朝日新聞(58・11・11)より〕

なおメリケンパークの計画については、後掲のプロジェクト事例頁を参照。



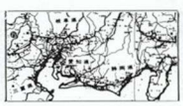

## 創宇社60周年記念の集い

去る11月26日東京の青山メトロ会館において、標記記念の集い（主催：新建築家技術者集団、協賛：全国建築系学生連絡会議）がもたれた。周知のように、分離派につづいて、わが国建築運動の先がけとなった創宇社が1923年に結成されて、ちょうど60年になる。創宇社は、その詩的宣言の一節にあるように「頽廃と陳腐とにただれたる現建築界の覚醒を期す」べく、立ちあがった山口文象らの若き下積みの建築技術者たちの会で、８回にわたる建築制作展を開催し、社会的な制作テーマ、（たとえば女工寄宿舎、協同組合アパートメント、診療所等）を追求していったものである。

集いには、記念講演として西山夘三氏による「日本の建築運動と創宇社」、創宇社同人の海老原一郎、竹村新太郎、今泉善一の三氏によるシンポジウムや懇談会がもたれた。また当時の展覧会のポスターや出品作品の写真が多数展示された。（M）




# 東海だより



日本建築協会東海支部

### 名古屋市芸術創造センター竣工

「カッコ良く途中で切腹という場面だけは演じたくなかった」と設計者安藤洋氏は、雑誌社のインタビューに答えている。

市民参加で公共空間をつくる会（代表水野宏、中島一氏）をはじめ、建築団体等の強い要望により、この芸創センターは２段階方式によるコンペにより設計作品を募集し、129 点におよぶ参加者を集めた。このことは、名古屋市では初めてのことで、市民の広く注目を集めたものである。

さまざまな困難もあったようだが、設計者や関係者のねばり強い努力によって、去る11月３日、ついに竣工の日をむかえた。

いっぽう、「市民参加で公共空間をつくる会」等が主催で、市民竣工式が11月７日もたれた。この日は休館日ではあったが、センターは、この日のために館長はじめ全職員がこれに配慮し、参加者150 名にも達した。なおこの式場において、名古屋市長に感謝状、設計者に花束を贈呈され、引き続き、センターの見学会がもたれた。

### コミュニティ道路第２号「グリーンモール堀田」が完成

昨年から「交通安全対策と環境整備を」と名古屋市が実施しているコミュニティ道路の第２号が58年10月８日、同市瑞穂区に完成した。

「グリーンモール堀田」と名付けられたこの道路は、瑞穂区堀田通りと惣作町の間、全長 430 ｍのものである。

第１号の東区代官町の住宅地につくられた「にれのこみち」とは異なり、商店街にショッピングモールにやや近い形でつくられたところが特色といえよう。

11.8ｍの幅員を利用して、車のスピード抑制のため、車道をジグザグに設定されているが、これについては、消防車の非常進入、出動に問題があるのではないかという意見も出て、消防車出動への配慮をも考慮された設計となっている。

交差点はわかりやすいように、カラー舗装され、照明灯、車止めなども「楽しい歩道」をめざして、デザインが工夫されている。さらに、商店街の商品積みおろしの利便をはかり、30分以内駐車可能な駐車帯を７ヵ所設け、今まで両側通行であった車線を西から東への一方通行に規制した。

自治会の90%以上の賛成を得て、市にコミュニティ道路を申請したのが、昭和56年、やっと完成したものである。

グリーンモール堀田の工費は、約 9,800 万円。名古屋市では、コミュニティ道路第３号として、千種区若水町にあるハンディーキャップゾーンの内の 430 ｍの工事に、58年末から着手する予定である。

### 名古屋市都市美観建築賞募集要領発表

都市景観づくり、文化的環境づくりに貢献している建築物を表彰する「名古屋市都市美観建築賞」の募集要領がこのたび発表された。募集２回目の58年度からは、新たに公共建築物も選考対象に加えられている。

- 対象建築物：昭和53年４月１日以降に完成した民間および公共の建築物。ただし、一戸建て住宅、昨年度の入賞建築物は除く。
- 募集方法：市民の推薦、または建築主、設計者、施工者の自薦。建築物の名称、所在地、推薦理由などをはがきに書いて、58年11月30日までに市建築局指導課へ提出のこと。
- 審査：飯田喜四郎名大教授ほか６人による選考委員会で、最優秀賞１点、優秀賞２点を選ぶ。発表は59年３月。

詳しくは、名古屋市建築局建築指導課（中区三の丸三丁目１番１号）まで。

# 第15回中部建築賞

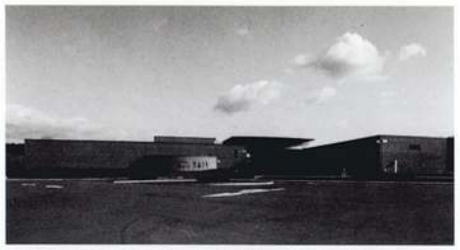
昭和58年度（第15回）中部建築賞の入賞作品（一般部門10点・住宅部門１点）および入選作品（一般部門10点・住宅部門１点）が決まった。中部建築賞は、昭和58年３月31日までに中部圏で竣工した作品を対象とし、応募数は一般部門が71作品、住宅部門が16作品であった。
表彰式は、昨年12月９日に名鉄グランドホテルで行われた。

## 入賞作品（一般部門）10点

①設計：日建設計　施工：矢作建設工業・戸田建設
②設計：富士工務店・清水建設
　施工：富士工務店・清水建設
③設計：日建設計　施工：鹿島建設・竹中工務店
④設計：瀧光夫建築・都市設計事務所
　施工：城東建設・白山建設
⑤設計：大谷幸夫　施工：池田建設
⑥設計：芦原建築設計研究所・谷口吉郎建築設計研究所
　施工：戸田建設・豊蔵組
⑦設計：日建設計　施工：大日本土木・土屋組
⑧設計：国鉄岐阜工事局・鉄道会館設計事務所
　施工：鉄建建設・清水建設
⑨設計：松田平田坂本設計事務所　施工：東急建設
⑩設計：梓設計　施工：大豊建設

## 入賞作品（住宅部門）１点

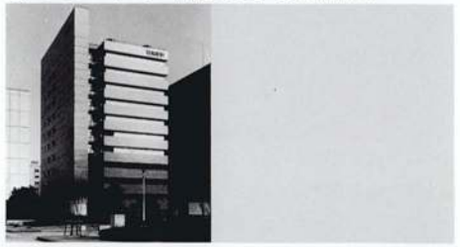
⑪設計：高木滋生建築設計事務所　施工：宮崎建設

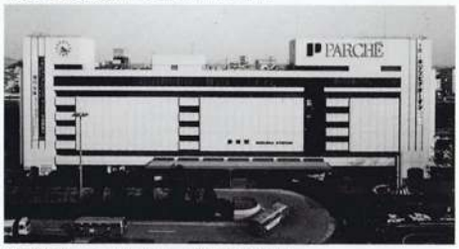

①人間博物館リトルワールド本館　犬山市大字今井


⑥金沢市文化ホール　金沢市高岡町


②アイシン・ワーナー「希望の丘」　安城市藤井町

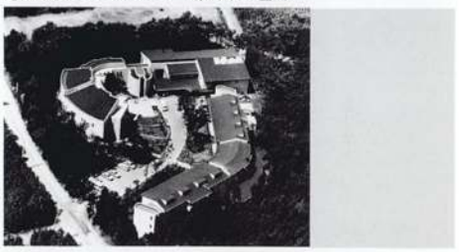

⑦岐阜県美術館　岐阜市宇佐４丁目


③日建・住生ビル　名古屋市中区栄４丁目



⑧静岡ターミナルビル　静岡市黒金町


④石川県林業試験場展示館　石川県石川郡鶴来町


⑨セコムＨＤセンター　静岡県駿東郡小山町


⑪大和葺きの家　静岡市東新田１丁目


⑤金沢工業大学ライブラリーセンター　石川県石川郡野々市町


⑩草津市立図書館　草津市草津町

## 入選作品（一般部門）10点


⑫犬山市立犬山西小学校　愛知県犬山市


⑮養老町総合体育館　岐阜県養老町


⑱高岡御車山収蔵庫　富山県高岡市


㉑大林組賢島保養所　三重県志摩郡


⑬持田製薬㈱名古屋支店　名古屋市


⑯大垣市立星和中学校　岐阜県大垣市


⑲昭和伊南総合病院　長野県駒ヶ根市

入選作品
（住宅部門）１点


⑭瀬戸市文化センター（瀬戸地域文化広場）瀬戸市

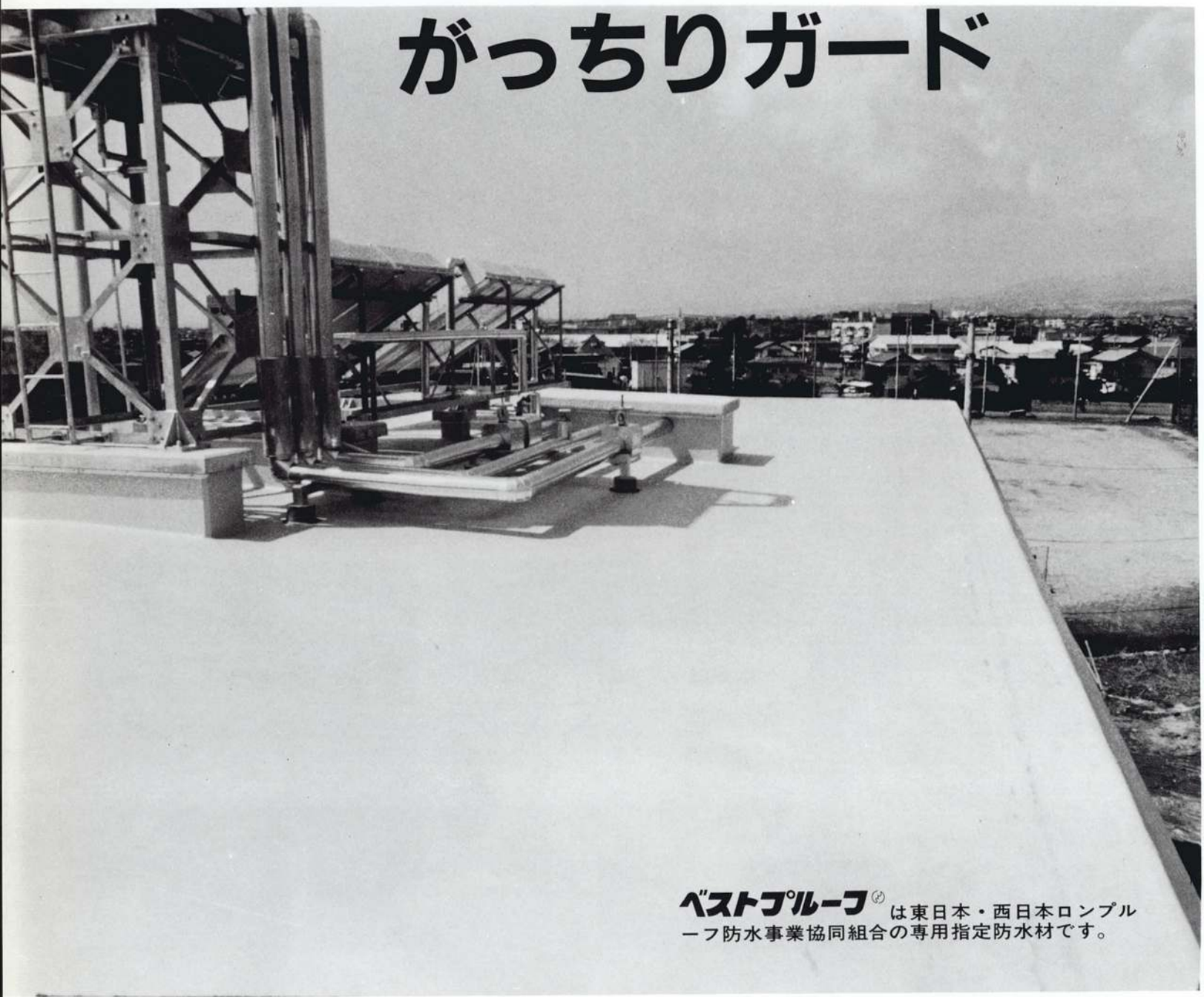

⑰全日空伊豆山研修所　静岡県熱海市


⑳春江町役場庁舎　福井県春江町


㉒濃尾平野の家　愛知県一宮市

新製品

# 降っても
# 晴れても
# がっちりガード



**ベストプルーフ**®は東日本・西日本ロンプルーフ防水事業協同組合の専用指定防水材です。

防水材に要求されているのは，耐久性。ただ雨を防ぐだけでなく，オゾン・紫外線・熱に強い防水材こそが求められています。いま，ロンシール工業の，信頼と実績で培われた防水技術が，塩ビ系初の 1.3㎜露出シート防水材〝ベストプルーフ〟に凝縮されました。耐候(光)性に優れた塩ビが主材ですから，耐久性は抜群。軽量で，しかもジョイントは液溶着でシートを一体化・安全性が一段と高まりました。

**ベストプルーフの特長**

■耐候(光)性／寒暖の差やオゾン劣化に強い塩ビ樹脂が主材。輻射熱や紫外線による材質変化が起きません。

■安全性／ジョイントの一体化で安全性が一段と向上。ウレタン系接着剤採用で二重の防水効果。

■寸法安定性／特殊処理した低モデュラスのガラス不織布を中間層に積層。物理的強度も高い構造です。

■耐亀裂性／ガラス不織布積層構造と軟質ウレタン系接着剤による接着皮膜が下地の亀裂挙動を緩衝。

■改修性／他工法の改修にも適しており，広範囲の下地に適用できます。シート自体の補修も容易。

■経済性／1.76kg/㎡で軽量。作業性，設計コストの面からも非常に経済性の高い露出シート防水材です。

■厚さ1.3㎜　幅1,230㎜　長さ20ｍ　重量44㎏/本　色3色

1.3㎜露出シート防水材

**ベストプルーフ**®


ロンシール工業株式会社

西日本ロンプルーフ防水事業協同組合

東京営業所／東京都千代田区神田松永町13　☎03(253)4941

大阪支店／大阪市淀川区西中島3-9-13大北ビル7F　☎06(304)2700代

西日本ロンプルーフ防水事業協同組合／大阪市淀川区西中島3-9-13大北ビル7F　☎06(304)5155

札幌☎011(531)2602　青森☎0177(77)1155　仙台☎0222(88)8501

新潟☎0252(43)3791　大宮☎0486(45)1511　横浜☎045(662)7370

静岡☎0542(51)3712　金沢☎0762(44)5871　名古屋☎052(935)7063

岡山☎(086926)4321　高松☎0878(31)4177　広島☎082(249)3600

福岡☎092(472)5857


＊詳しい資料は上記宛ご連絡下さい。

**設計者のプロフィール　18**　　**関西の昭和生まれの建築家**

# 指宿真智雄（いぶすきまちお）

建築デザイン
1級建築士事務所

聞き手・編集委員　松村孝治（東畑建築事務所）
プロフィール撮影　島　修一（STUDIO　A.T）

**略　歴**

| | |
|---|---|
| 生年月日 | 昭和7年2月11日（51歳） |
| 出身地 | 京都市 |
| 最終学歴 | 京都大学工学部建築工学科 昭和32年卒業 |
| 職場 | 建築デザイン1級建築士事務所代表 |
| 事務所所在地 | 〒564　吹田市江坂町1-23-101 |
| 公職 | 日本建築家協会委員<br>建築美術工芸協会評議員<br>日本WHO協会常務理事 |
| おもな受賞 | 日本建築学会特別賞（万国博ホール・1970） |
| 代表作品 | 万国博ホール（大阪府吹田市）　朝日新聞社京都支局ビル（京都市）　ホテル嵐亭（京都市）　徳島市立内町小学校（徳島市）　ホテル伽羅園（静岡県田方郡） |
| 趣味 | 音楽　旅行 |
| 好きな地域 | 祇園新橋特別保全修景地区 |





万国博ホール



徳島市立内町小学校

## フリーアーキテクトへの道

「これからは設計から計画の時代だ」と明言する。ややもすれば〈計画〉と〈設計〉とが明確に分離できるか？　という論のある中で、しごく明快簡潔に「建築設計の中味は計画と設計との2つに分けることが可能」と語る。「ひとつは計画としてのゼネラルプランニング。もうひとつはエンジニアリングサービスとしての設計。フリーの建築家のなすべきことはオーナーの代理人として、コンサルタント、およびマネージメントに徹し、ゼネラルプランニングを行なう。設計としてのエンジニアリングサービスは経済力に裏付けされた技術をもつ組織にまかせればよい」。そして「これが自由業としてフリーの建築家が将来までも生き残れる道だ」と述べる。「今日、オーナーがほんとうに求めているのは、土地を含めた資産の将来予測であり、これができるのは税理士でも、経理士でも、弁護士でもない。建築家だけ」と語る。すなわち、多種多様な問題をかかえる今日の建築を取り巻く状況の中で、総合的に将来の計画を練り上げ、問題を指摘、解決、調整し、実行に移す、これが建築家の仕事だと説く。計画の段階にこそ創造性とノウハウが存在すると主張する。したがって、予備調査、分析、構想、立案といった基本計画の段階で、じっくりと時間を取るという。このあたりの手法は京都大学の西山卯三研究室時代の影響を受けており、みずから「オーソドックス」と語る。

「私には他の人がよくいうように、パーッと閃めくという恰好のよいことはない」と笑う。基本計画の段階で、暖めていたものが、発酵・孵化（ふか）するごとくじょじょに形を成してくるという。「一つひとつの積み重ねが大切で、その中にオーナーをはじめとして多くの人々を巻き込み、のめり込ませる」。そのためには「単に問題を指摘するだけに止まらず、つねに相手の立場にそった解決案を用意して、それをプレゼンテーションする。そして調整、統合する」。

昭和42年、万国博基幹施設の設計において、万国博ホールを担当し、日本建築学会特別賞を受賞している。この時の体験が後の建築に対する取り組み方や考え方に大きく影響する。とくにプロデューサー丹下健三氏との出会いは、計画という観点から「眼から鱗（うろこ）が落ちる思いであった」と述懐する。

代表作には京都・ホテル嵐亭や徳島市立内町小学校があるが、いずれも複雑な条件をかかえたケースで、その真髄が最大限、発揮されている。とくに文化財の保存、再生、利用などの問題のある場合に独自の手法が展開される。ホテル嵐亭は遺跡保存、風致地区、あるいは市街化調整地区などの法的規制のがんじがらめの中で、敷地の特性をうまく利用して増改築をおし進めた。徳島市立内町小学校でも、文化財である旧徳島城壁を新しい建築の中に巧妙に生き返らせている。それも市長をはじめ議会、市民、マスコミなどを味方に巻き込んでの話である。

古い建物の保存については「アルコール漬け保存論」という言葉で、現地保存の考え方を批判する。残す場合には、その中に新しい機能と使命とを与えて生き返らす、という「再生保存論」を展開する。保存の問題には、もう少し頭を働かさせることが必要であるという。その具体例として、博多の商業ビルを挙げる。ここでは有名建築リストにも載っている旧建物の保存のために調査団を編成する。解体、移転、そして別の機能として再生することで合意を取り付け、そこではじめて敷地に新しい建物の建設が可能となった。まさに総合的な計画の勝利である。このようにひとつの建物が計画、設計されるまでの過程を調整し、統合させる能力こそが、これからの建築家像として求められると語る。設計に至るまでの前段階にくい入って、自力で解決する。そこではじめて建築家の自立、精神の自由が得られるともいう。

大学には8年間在学した。その後のエピソードにもこと欠かないが、しかしそれらが逆に交友関係の拡がりや人間味の厚さとなって、プラスに転嫁して、今日の幅広い活動につながっている。

複雑な様相を呈する現代の社会にあって、今まさに成熟の時を迎えたという氏の自負が、言葉のはしばしから感じられた。

〔次号の登場者は寺本敏則氏（日建設計）〕

# 夕刻に興じる

## ——指宿真智雄・設計　ホテル嵐亭を見て——

加藤　力

撮影　島　修一

ホテル嵐亭は、ホテルと呼ぶには小じんまりとまとまりすぎて、宿と呼ぶには荘重すぎる。料亭、旅館とは情緒を異にして、清涼、風雅なたたずまいをもつ。峻然として、嵐山に対置し、目前に保津川の清流を聴く。後方を天竜寺の境内に接し、一部、亀山公園の繁みに身を潜める。幾重もの歴史の重なりの中で、格別、抵抗もみせずに、さりとて媚たる風情もない。ただ淡々として時の流れの厚さを受け入れている。

＊　　＊　　＊

見学は4時からと指定された。

嵯峨野周辺に車が近づくにつれ、街なかの勝手とはいささか違った、間のびやかな家並が通りすぎてゆく。特別に目に着くものも少なくなく、巧妙にセーブされたゆるやかなまとまりに変っていった。やがて、観光地特有の賑わいが始まり、眼の前に嵐山があらわれると、もう幾度となく見慣れた渡月橋の構図が飛び込んでくる。

橋のあたりは店舗や車の雑踏であふれているが、橋を見やってそこから一歩奥へと踏み込むと、川べりの道は静粛な、なにか特別な空気が漂い始めているところもあった。川の流れは一旦、ここで堰止められて、ゆるやかな拡がりとなり、河岸には舟着き場などが用意されている。水面には何艘もの舟やボートが浮遊して、その間に嵐山の姿を映し出している。山はその身を朱く染めて、これから盛りを見せようとする寸前で、その動きをおし止どめている。川べりの道は古いたたずまいをそのままにして料亭が立ち並び、その、いちばんつき当りの奥まった位置にホテル嵐亭はある。朽ちたふうでもないが、すっかりと木の匂いを失なった山門が黒々と影を落して、この奥に建物があるという。ホテルらしき姿は見えず、わずか立木の間に見え隠れして、瓦屋根が覗かれる。

この場所は古く嵯峨上皇の亀山殿跡と推定されて、明治には、ある男爵家の別荘が建つ、名勝、史跡。歴史の自然との繋がりのきわめて深いところである。

今の姿をみせるのは昭和47年、日本中がうなされるような熱気の最中の頃であった。この時期、建物を造り出す手法としては、土地の名残りや自然の営みなどをいっさい、御破算、反古として一掃駆除したあげく、大きさと目新しさと、そして見掛けだおしの立派さとだけを誇るかのようなものが造られるという図式がまかり通っていた時代でもあった。自転車操業よろしく、あわただしさと、先行きのない期待感が先行して、押しとどまるところもなく、気楽で、浮わついた、疎かしさが蔓延している季節でもあった。充実、手ごたえ、内的感触などとは縁遠く、今となってみれば、誰しもがつかの間の悪夢を見たかのような、後味の悪い時代でもあった。

＊　　＊　　＊

約束の時間は未だ早く、渡月橋をわたって対岸に出る。嵐山のふところを散策すれば落日



は早く、陽はすでに上空にはない。水面は澄み渡って、そうそうに舟は店じまいを始めたものの、帰りを惜しむボートが数隻、水上に小さく浮んでいる。水面を界して向こう岸を見やれば、松林の並びに、しっかりと根をおろした木造家屋が、悠然とそのかまえを張って、瓦屋根が立木の中に散在している。かりに、わずかでも異質なものが混ざろうものならば、すぐにでも平衡を崩しそうな安定した風景があった。長いことかかって築きあげられた自然と人の営みとの張りつめた、しかし慣れ親しんだ関係があった。

ホテル嵐亭のあたりは、街のホテルのように開口だけが無雑作に並ぶような建物の影もなく、石垣と刈込みに囲まれた草庵風のかやぶき屋根と、その奥に瓦屋根の形を一部見せるだけで、あとは繁みの中である。屋根をうずめた繁みはそのまま秋の山へと繋がって続く。ちょうど山の呼吸と人の営みの作業とが、息をあわせたような、しごく自然な様相を示していた。

上空はまだ幾分明かるく、しかし影の対比が次第に少なくなって、ホテルに戻る。門のあたりは一面、水が打たれ、玉石が黒く濡れそぼり、光ってみえる。昼の明かるさの中に晒らされた表情とは異なって、凛とした静寂な空気があった。

門をくぐれば、深い樹木に取り囲まれて、長いアプローチが続く。ゆるやかではあるが、人の視線は巧みに先導されて、身体と意識とが追いすがるようにとそれに続く。狭ばまり、そして拡がる空間の日暮れの木立ちの翳りのもとで、燈籠の光がはいつくばろうかのように点在しているがの解かる。仄かなあかるさよりもさらに低く、菊の花の芳香が足元に拡がっている。草庵風の八賞亭や、古びた木戸などを促えながら、アプローチを進むと、視線は急に右折して、そこで始めて建物の概要を知ることができる。

配置は、荘厳、華麗な延命閣と呼ばれる建物と、茶室の数寄屋の2つをそのまま残し、一方を嵐山、そして一方を亀山公園の山へと開いて、鍵の字型に取り囲んでいる。どの位置からも外部の空間が意識され、視線を自然の中になげかけている。屋根と屋根とを界在させて、新しい建物へ、さらに後方の繁みから上空へと、図と地を交互に逆転させながら視線をつなげている。

設計者は「天の声を聞く」ごとくに建物を配し、造ったと語る。そこには人為などは界在する余地もなかったと述べる。一部、山にかかる敷地の微妙な傾斜を巧みに建物の断面に受け入れて、あるいは保存建物の様式に学び、それを素直に踏襲する。樹木1本までも念入りに知り、それを残す。地に埋もれた歴史の深さを計り、それを避けて通る。外からは、ほとんどその変化を気づかせぬ配慮を興じている。繊細、鋭敏なこの環境の表層に対し、全神経を集中して造りあげた気配がみえる。綾を織るように重なった屋根の傾斜が建物のスケールをおし殺し、表情をやわらげている。

この状況は図面の内ではとても獲えることができずに、全て模型によって考査され、それを図面に落し込んだという。建物の間合いが、人にそれとは気づかさせぬ緊張感を形づくって、機敏に通じているところが解かる。

内部に入り客室の一つから外を望めば、夕闇の迫りくる刻となっていた。窓の下には、わずかにムクリを付けた瓦屋根が複雑、玄妙に交錯して、光を変え、表情を変え、位置を変えて拡がっている。さらに一枚一枚の瓦が妙



中庭越しに嵐山を望む

麗なうねりを集合させて、抽象の趣向を深めて見せる。目の働きは、やがて棟から棟を結んで、松林に翔き、そのまま嵐山を捉えると、そこで留まる。

近、中、遠と視線が次第に移ろいゆくにつれて、その働きに身を任すかのように意識が身体のあいだから抜け逝って、自然の中に入り込んでゆく。夕暮れのはずれめいた雰囲気の中で身体だけが、その場に取り残されたような、一種、忽然とした感覚に包まれる。視線が夕暮れを深めた山の中で留まり、それに意識をも集る。巧妙に仕組まれたこの空間の装置の中で、どこかしら身を洗い清めるようなやすらぎがあった。意識を宙に浮かせ、身体から解脱せしむ。身体を無に帰して、染み付いた世俗の垢をぬぐい落すような静まりがあった。やがて嵐山はいささか暗さを増して、その色を変えつつあった。

＊　　＊　　＊

夕暮れの深さが増して、延命閣を後方にひかえた庭園に出る。すでに建物の輪郭は薄暗さの中に沈んでいて、内に灯されたあかりが外に滲み出ている。夕刻の残り陽の薄明かるさと、内から出るやわらかなあかりが、幻妙に混ざり合って庭の表面を照らし出している。白砂がひろがり、秋の薄芒が白い穂先をつけて、その廻りを松の緑が包む。建物の内の圧力が、外から向うかとちょうど均り合いを保ち、その関係が逆転する直前の時間のをすごしている。やがて個別の色を失なって、山は一色、紫色にかすむ。輪郭を浮びあがらしたかと思うと、全体を繊細な幻色に染めて、暗さの淵に沈んでいく。闇に身を預ける瞬間、ためらうかのように幽幻の表情をみせてはねる。暗さに包まれ、音の感覚が身にせまって空間の支配を強める。保津川の音が聴え、遠くに鐘の音がふるえる。建物の内部のあかりが次第に強まり、内の活力が艶やかさをもって外に流れはじめた。やがてまったく視界を失なうと、宙にさまよっていた意識もスーッと身体に戻る。半分は充実が、残り半分は寂寥が混在するような奇妙な実在感が身体に宿った。日没のこの間わずか十数分。日本の空間の特質は、この短かい夕刻の時にその本質をあらわにする。すでに建物の内からは夜の華やかな賑わいの気配が伝わり始めていた。

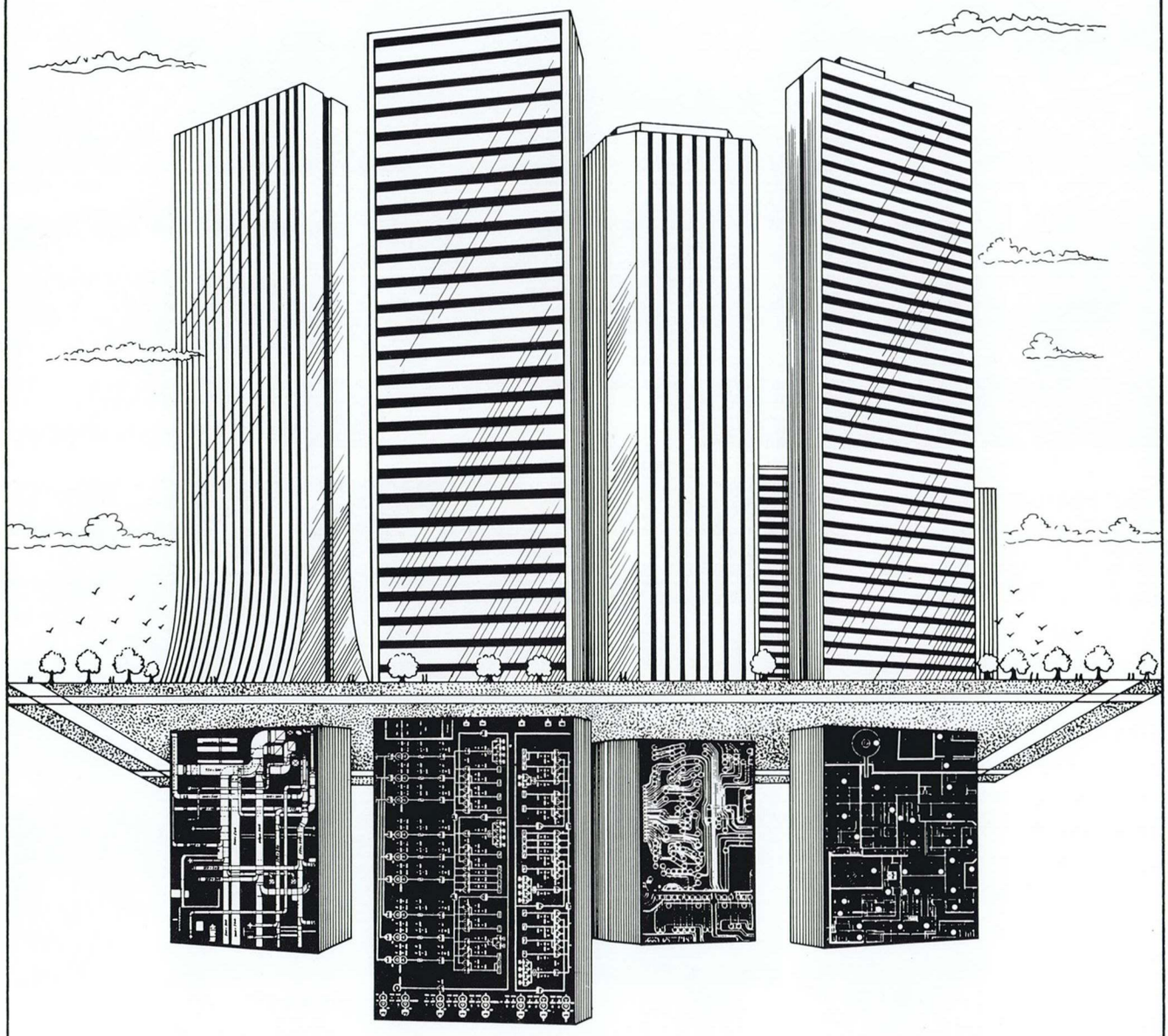


アプローチから本館をみる

（かとう　つとむ　京都工芸繊維大学住環境学科講師）

# 信頼の大きさ…近電工の技術です。

あすをめざす都市、あすをつくる技術…。
活動し、制御する全機能を、きびしく構成する
近電工の総合技術と総合施工体制―。



電気・計装・空調・管・防災・土木

システムの信頼を高める

近電工

近畿電氣工事株式會社

大阪市大淀区本庄東2丁目3番41号　〒531　☎06(375)6000

北海道・東北・東京・名古屋・滋賀・京都・奈良・和歌山・大阪・神戸・姫路・広島・四国・九州・沖縄

# 室内圧についての一考察と風洞実験

## 1．基本的考察

風が当たる建物外部表面はその風によって風圧を受け、外壁や窓等の外装材には風圧に相当する力が作用する。今、これと同時に外装材に作用する建物内部表面の圧力を考えてみる。仮りに、建物外部表面の圧力の大きさが50kgf/m²で建物外側から内側に向かって作用しているとする。建物内部表面の圧力の大きさがやはり50kgf/m²で内側から外側に向かって作用しているとすると、外装材に作用する力の合計はゼロになり、外装材には何の力も加わらない状態と同じになる。また、圧力の作用する向きが逆、つまり圧力が外装材を建物内部に引き寄せる方向に働くならば外装材に作用する力の合計は100kgf/m²になるであろう。これと同じように、実際の建物に作用する風圧力は外部表面の圧力だけでなく建物内部の圧力、すなわち室内圧をベクトル的に足し合わせたものになる。

室内圧は、外部表面の圧力と同様に、速度圧で除し室内圧係数Crで表わすのが便利である。建築物の設計においては、Cr＝±0.2のうちいずれか建物にとって不利な荷重になる方を選ぶのが通常の方法である。±0.2という値は多くの建物において一般的な値なのであろうと思われるが、外部表面の圧力分布が風洞実験や実測等でかなり詳しく調べられるのに対してあまりにも粗い値である。そこで、室内圧をもう少し扱いやすいものとして考えてみたい。

建物に何のすきまもない場合を考えてみると、建物外部にいかなる圧力が作用していても室内圧は一定であろうが、実際にはそのような建物はなく、室内圧は外部圧力の影響を受けると思われる。小さい孔が1個ある箱を風に当て、孔を風上に向けると箱内部の圧力は上昇するであろう。風を強くすると箱内部の圧力はさらに増すと思われる。また、風下面に孔をもうひとつ開けると箱内部の圧力は少し低下するに違いない。これと同じように、室内圧は建物のすきまから流通する空気量のバランスで決まると考えられる。

建物に入って来る空気の量が、建物から出ていく空気の量に勝れば室内圧は正圧になり、逆の場合は負圧になるであろう。そうであれば、すきまが空気の流入する部分に多くあり流出する部分に少なければ室内圧は正圧になりやすく、逆の場合には負圧になりやすい。また、空気の流入する部分のすきまに加わる外部表面の圧力の大きさによっても室内圧は左右されるであろう。そのように考えるならば、すきまのある場所と空気の通りやすさの度合いによって、室内圧の値は外部表面圧力の最大値から最小値まで採りうると考えられる。

## 2．風洞実験

以上の考えを簡単な風洞実験で確かめてみた。当所所有のエッフェル型風洞（測定断面1.2m×1.2m）内に一辺20cmのアクリル板製の立方体を置き、風上側と風下側のそれぞれの側面に5種類の径d＝1.1、2、3、4、5mmの孔を開けて、それぞれの孔の組み合わせによる内圧を測定し、計算値と比較した。孔を開けた箇所における外部表面の風圧係数は、風上側、風下側それぞれにおいて1.0、−0.34であった。計算では、(1)式に示すように孔を通る流量が孔の面積と孔を通る空気速度の積に比例し、空気速度は(2)式に示すように孔の両端の圧力差の平方根に比例すると仮定した。内圧値は、立方体内に流入する空気量と立方体から流出する空気量が等しいという条件から求めた。

$$Q = \alpha \cdot V \cdot A \quad \cdots\cdots(1)$$

$$V = \pm\sqrt{\frac{2g}{\rho}} \cdot \sqrt{|P_0 - P_i|} \quad \cdots\cdots(2)$$

ここで、Qは流量、$\alpha$は流量係数、Vは孔を通る空気速度、Aは孔の面積、gは重力の加速度、$\rho$は空気密度、$|P_0-P_i|$は外部圧力$P_0$と内部圧力Piとの差をそれぞれ表わす。(2)式の符号は$P_0 > P_i$のとき＋、$P_0 < P_i$のとき−を採る。

Fig−1の実線は計算値、プロットした点が実験値である。内圧係数は、風上側と風下側の孔の組み合わせによって、孔の位置する外部風圧係数1.0と−0.34の間の値になっていることが確められた。また、計算値と実験値の差は最大でも0.05程度で比較的よく合っているといえる。

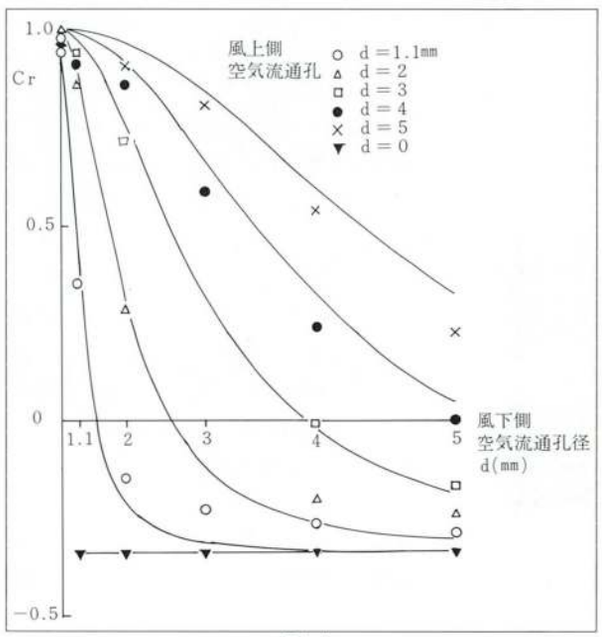



Fig-1

## 3．まとめ

以上をまとめると次のことがいえる。

1）室内圧は建物のすきまから流通する空気量のバランスによって決まる。したがって、室内圧は外部風圧の最大値から最小値までの間の値を採りうるので、室内圧係数に一定値を与えることは建物によっては危険な設計となる恐れがある。

2）室内圧係数を決定する要因は、外圧係数とその分布、すきまの大きさとその位置、およびすきまの流量係数（空気流量のしやすさの程度）である。ただし、流量係数が風速によって変化する場合は、風速も室内係数に影響を及ぼすひとつの要因になる。

なお、詳しくは当試験所の機関誌〝GBRC〟第33号を御覧いただきたい。

研究員　西村宏昭

本試験所●所　在　地……〒565 吹田市藤白台5−125（阪急北千里駅より北西約1km、国立循環器病センター西隣）
●電　　話……(06) 872−0391(代)
●営業時間……平日：午前9時〜午後5時、土曜日：午前9時〜正午

# 都市気球13

山間の村などを訪れていつも思うことは、自動車のない時代にそこの人々がどうやって町々と結びついていただろうか、ということである。徒歩で半日や1日も歩かなければ町に出れないといった村々が多いのである。自動車は町を村に近づけ、そして実際に多くの物を運び込む役割を果たした。こうして考えると自動車は村々に近代化の波を伝える役割を果たしたのである。
自動車はそうした媒体であると同時に、移動する生活空間でもある。現在、核家族世帯の平均的な規模がほぼ4人だが、これは小型乗用車にゆったり乗れる人員と関係があるという説もある。自動車が普及したおかげで、家族4人でドライブするなどといった機会がずいぶんふえてきた。家庭の崩壊といったことが喧伝されるが、家族だけで閉鎖的になってしまっている現象も一方にはみられるのである。
自動車は人間の生活にとって不可欠なものになりつつあり、また予想もしなかった大きな影響をもたらしている。自動車学の展開を期待したいものである。（鳴海邦碩）

## 自動車学の提唱

高田公理

わたしたちは「自動車と都市の係わり」をとらえなおすために、チームを組んでいくつかの都市を訪問し、それぞれの都市の〝自動車史〟を発掘する調査を始めることにした。[1] この小稿は、そうした調査の参加メンバーのひとりによる中間的な総括である。

### 1　確定できない〝日本最初の自動車〟

そこで、まず〝日本最初の自動車〟が登場した頃のことを振り返ってみよう。

「横浜に初めて自動車が現れたのは、明治33年4月のことである。山手に住むJ．W．トンプソンというアメリカ人が……(略)……〝ロコモビル〟という名の車を買った。蒸気自動車である。……(略)……横浜は安政6年の開港以来、外国貿易の表玄関として発展してきたまちである。従って、日本の近代技術の〝ものの初め〟が多いところだが、この地での自動車の登場が『日本で初めて』かどうか、よくわかっていない。……(略)……（ただ）トンプソンの買ったこの蒸気自動車が、日本でも数少い初期の車のうちの1台であったことは疑いない。」

この吉川のレポートから、次の2点が明らかになる。ひとつは、日本に自動車が初登場したのは20世紀が幕開く明治33年（1900年）前後であったこと、もうひとつは、しかし、わずか80余年昔のできごとでありながら、その時期さえ正確には確定できないこと、である。そして、このふたつめの点が、わたしをして自動車学を提唱させる条件のひとつとなっている。

### 2　自動車は〝機能的〟か？

ところで、今日では自動車こそは、近代文明がもたらした最も機能的な道具だというのが一般的な見方となっている。だが、横浜を始め9つの都市の自動車史を眺めると、少くとも草創期に関する限り、それは当ってないように思われる。

じっさい、例えば横浜には明治33年に自動車が初登場しているが、明治39年になっても、総延長558kmの道路のうち自動車が通行可能であったと思われる道路はわずか3％の17km——自動車はあっても自由に街を走りまわることなどできないというのが実情であった。だから、交通機関としては、乗合馬車や電気鉄道のほうが自動車よりも先に普及している。

では、初期の自動車は、いったい何のために用いられたのか。それを考えるために、九州の山深い人吉盆地に登場した最初の自動車に関する池宮のレポートを引用してみよう。

「人吉に自動車を導入した人物は、いずれも旅館経営者で、大正末期のことであった。この事実は興味深い。旅館にとってハイカラな自動車で宿泊客を送迎し、名所めぐりをすること自体が、宣伝の効果をもっていたのである」

よく似たことは、紀伊半島の南端近くに位置する新宮にも見られる。同地に最初の自動車がやってきたのは大正8年4月頃だというが、面白いのは、それが〝紀州航路の船〟に乗ってやってこなければならなかった点であろう。というのも、当時は自動車が走れる陸続きの道路がなかったからである。だから、せっかく持ち込んだ自動車も遠くには行けず、せいぜい「花柳界に出入りする放蕩者が、芸者を同乗させて無闇矢鱈に走り廻った」といったところが実情であったようだ。

このように見てくると、草創期の自動車は実用的な機能よりも、むしろ〝新しい時代の象徴〟として取り入れられたらしいことがわかる。このことは、大正～昭和初期の大阪市における自動車保有台数の推移を示した図1において、〝ぜいたく品の乗用車〟の普及が、〝実用的な貨物車〟の普及に先行していることからも伺えるであろう。あるいは、今なお運送業を営む新宮の故老の次のような回想によって、より確かなイメージを結ぶであろう。

「ちょうど60年ぐらい昔やなあ……はじめてビュイツクの乗用車を見たんは……。そら、スマートでかっこ良かった。それで儂も〝自動車乗り〟になりとうなったんや。颯爽とハンドルを握って、走り回って、月給が30円。高給取りや。〝昭和の雲助〟いうて、若いもんが憧れたもんや」

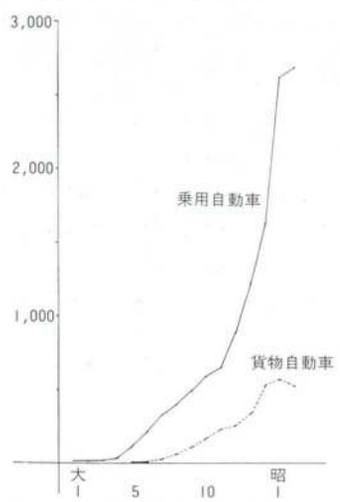



図1　大正～昭和初期の大阪市における自動車保有台数の推移
日本自動車工業会,1967、『日本自動車工業史稿(2)』 9ページ

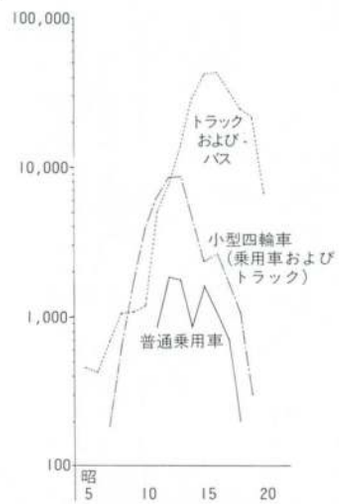



図2　戦時下の各年度別自動車生産台数の推移
日本自動車工業会、1969
『日本自動車工業史稿(3)』406ページ

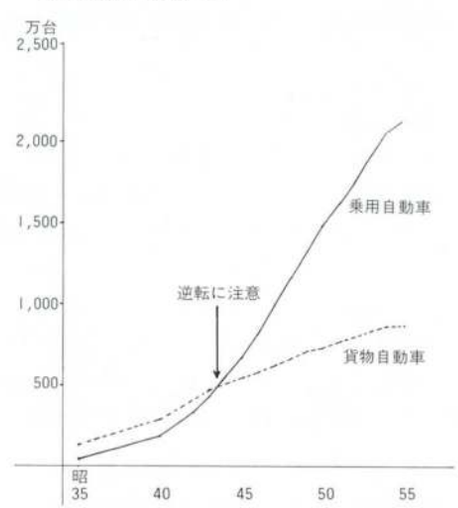
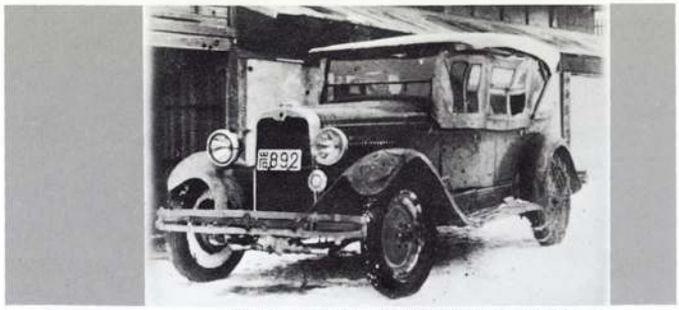
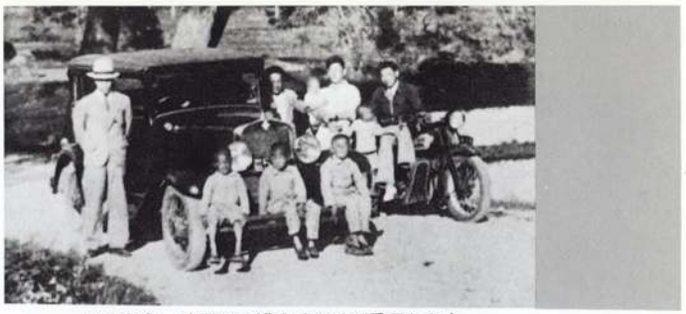



図3　昭和35年以来の車種別自動車保有台数の推移
総理府『日本統計年鑑』



昭和7～8年頃、遠野の萬喜八氏が100円で購入したシボレー1929年型（同氏蔵）



昭和初年、遠野の三浦半兵衛氏が愛用した自動車（同市立図書館蔵）。

いってみれば、ひとえに〝スマートなかっこ良さ〟に憧れた、いわば〝おっちょこちょい〟が先導役となって草創期の自動車は普及の緒についたのであった。そして、調べてみると、そうした〝イノベーター〟が、既に明治末から大正初期に、全国の多くの都市に出現して、自動車の普及を先導していたことが改めて明らかになるのである。

### 3　〝機能性〟重視の時代を越えて

いずれにしろ、こうして自動車は大正～昭和初期にかけて急速に普及した。だが、昭和も5年頃を過ぎると戦時色が濃くなってくる。その結果、自動車は〝遊びの道具〟から〝戦争の道具〟へと転換する。つまり、〝新しい時代の象徴〟としての自動車に、ひたすら〝実用的な機能性〟が求められるようになってくるのである。このことは、戦時下の車種別生産台数の推移を示した図2を見れば明らかとなろう。トラックやバスといった実用的な自動車に生産の力点がおかれていることが一目瞭然だからである。

そして、こうした傾向は、終戦後の断絶をはさんで、昭和30年代の高度成長という名の「経済戦争」の時期に引きつがれていく。つまり、図3に示すように、昭和44年に至るまで「貨物自動車が乗用自動車を凌駕する」時期が続くのである。

だが、じつは、昭和44年における、この貨物車と乗用車の比重の逆転こそが、その後のモータリゼーションの本格化の契機なのであった。そして、この頃から、乗用車のモデル・チェンジの周期は加速化し、そのファッション性デザイン性が一段と重視されるようになる。いいかえれば、それは、自動車の実用的機能性がある水準をクリアしたのちに、その草創期と同様、再び〝象徴性〟を色濃く帯びるようになったことの現われであるということができよう。

### 4　都市は自動車普及にどう対応したか？

ところで、こうした急速なモータリゼーションの過程は都市にさまざまな影響を及ぼした。しかも、それは、都市ごとに明暗いずれかの結果をもたらしているように思われる。つまり，モータリゼーションに上手に適応した都市と必ずしもそうではなかった都市とが区別されるのではないかという訳である。そこで、4つの都市をとりあげて、その適応過程の跡をたどってみることにしよう。

長岡（新潟）の場合……近世以来、信濃川の舟運の中心として商業が盛んであった城下町。近代以降は、東京と直結する三国街道が冬期通行不能となるため、モータリゼーションに乗り遅れるかにみえた。だが、戦災で市街の80%を焼失したことによってかえって市街地整備が進んだほか、三国街道がオールシズンの国道17号として完成した昭和42年以来、改めて商業都市としての活性を取り戻すことに成功した。

人吉（熊本）の場合……山々に囲まれて隔絶された山間盆地。木材生産で栄えた街。道路状態が悪かったため、草創期の自動車はふるわなかったし、戦後も典型的な過疎地のひとつであった。だが、昭和42年に八代との間に国道が、同47年には宮崎県えびの市との間にトンネルが、それぞれ完成。その結果、木材資源と観光資源が賦活化され、過疎化が人口増に転じると共に、所得水準も全国平均、県平均を上まわるようになった。

新宮（和歌山）の場合……近世以来、大阪と東京とを結ぶ航路の中継港として、また、熊野山地で伐採され、流送された木材の集積・積出港として栄えた。だが昭和30年代の電源開発に伴う道路整備が進んだ結果、木材輸送がトラックによる陸送に転換したため、集積地としての地位が急速に低下。その間、南紀観光の拠点として再活性化されるかにみえたが、大都市圏との隔絶が著しいため、結局、モータリゼーションの波に乗り遅れた。

遠野（岩手）の場合……岩手県の中枢部と海岸部を結ぶ北上山中の陸路の中継地として、かつまた、その輸送に用いる馬産の中心として栄えた。だが、昭和30年代の自動車普及に反比例して馬産が衰退。周辺の道路整備は進行したが、馬産という地場産業の低迷はいかんともしがたく、モータリゼーションは、人吉のように賦活化の要因となるよりは、若年層の都市部への流出の回路として機能するようになった。

### 5　自動車と都市、自動車と人間生活

このように都市ごとの自動車史を眺めてみると、それが都市と人びとの生活に、いかに大きな影響を及ぼしてきたかが見えてこよう。だから、ここらで、自動車と都市、自動車と人びとの生活といった視点から、それが帯びる社会文化的な意味を問いなおしてみることは不毛ではあるまい。

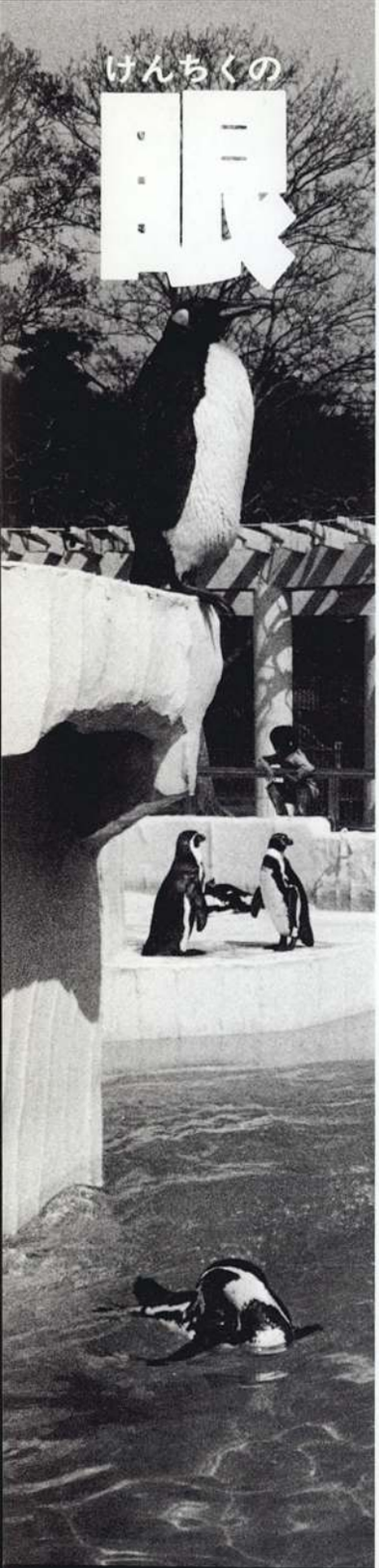
しかも今日、自動車は普及率で2人に1台、保有率で1世帯に1台の水準に近づきつつ、その都市と生活への影響力をいっそう強めつつある。

じっさい、身近な現象をとらえても、自動車の普及で人びとが歩かなくなった。同窓会など、さまざまな会合に自動車でやってくる人が増え、酒を飲むことができないので、雰囲気が盛りあがらなくなった。自動車交通に適さない古い市街地の商業が衰退するようになった。人命尊重の傾向とそれを金銭に換算して考える考え方がふたつながらに増大した。人間の空間認識の形態が変容した。若年層を中心にして、セックス・ライフのありようを変化させた……などなど、自動車の普及が及ぼしたと思われる都市と生活への影響には、枚挙にいとまがない。

たしかに、これまでも〝工業製品〟としての自動車を対象とする「自動車工学」は、多くの業績を分泌してきた。だが、自動車とその普及を社会文化的現象として捉えて、それが都市や人間の生活に及ぼしてきた、あるいは現に及ぼしつつある影響をつぶさにとらえなおす知的営為は必ずしも充分であるとはいい難いのが現状ではあるまいか――ここにわたしたちが「自動車学を提唱する」所以が存在している。

注(1)この調査のチーム・メンバーは今のところ次の6人である。
吉川泰生（現代文化研究所）、池宮正才、駒木根千尋、高橋一男（以上、学習院大学大学院）、高田公理（本文筆者）
なお、その調査結果の詳細は「クルマがまちにあらわれた日」と題する連載記事として、雑誌『自動車とその世界』（トヨタ自動車（株）広報部）の196号以降に掲載中である。
また本小論の内容は、その多くを他のチーム・メンバーの調査結果に負っているが、本文の内容上の責任は筆者にある。

（たかだ　まさとし　愛知学泉大学講師）



けんちくの一年


鳴海邦碩（なるみくにひろ）
大阪大学工学部助教授

坂本勉（さかもとつとむ）
近畿地方建設局営繕部長

田畑弘（たばたひろし）
日建設計大阪本社取締役副代表

大墨正（おおすみただし）
東洋リノリューム株式会社
西日本営業開発部長

1月号から6月号まで上記の4氏が担当


## 可能性をもった環境と実効性のある環境

もうだいぶ前のことになるが、イギリスのある社会学者が、「機能主義の建築」にいちゃもんをつけたことがある。機能主義の建築というわりには、その設計手法がずさんに過ぎるというのである。彼の主張は、心理学や社会学などの分野で空間と生活行動に関わりのある研究の成果を集大成し、その情報を建築設計の基礎的なデータにする必要がある、というものであった。

「機能主義の建築」と「機能的な建築」の違いに彼は気付いていないのだが、この社会学者に限らず、建築に関する社会学の分野からの発言は最近ふえてきている。アメリカの社会学者のガンスもその一人で、彼は、建築家は「可能性をもった環境」を提供するが、それが「実効性のある環境」であるかどうかは、利用されてみないとわからない、というのである。彼は、建築家は本当に実効性を目指して「可能性をもった建築」をつくっているのだろうか、ということをいいたいわけだ。建設活動が低迷している昨今とはいえ、毎年おびただしい数の建物が生まれている。そうした建物はどのような理念で設計され建設されているのだろうか、とふと思うことがある。

（K・N）

## 街―その領域感―

神戸が好きである。好きな理由のひとつに街のかたちがある。なかでも瀬戸内海と六甲の山なみで限られる南北の「街はば」がとてもいい。人口130万を超す大都市が地形の制約からこのような街はばしかとりえない。それが都市計画上いろんなマイナスの面をもっていることはよくわかっているのだが、それでもなお、じつにいい。視覚的にも心理的にもほどよい領域感がある。人間がそこに住んでふにおちる街の大きさがある。そしてこの領域感ということばは「いい街」であるための相当、大事な条件であるし、ある領域感をもってはじめて街は息づき、個性的になると日ごろ思っている。

ただし、街の領域感をきめる要素はなにも神戸のように瀬戸内海と六甲山系といったドラスティックな存在でなくてもいい、ひとつの川が、公園が十分その役割りをにないうるはずである。ひとつの街にひとつの公園をつくるとき、それがたんに公園であるだけでなく、その街自身にこころよい領域感という「けじめ」をあたえられるような公園であってほしいと思う。都市計画の発想は公園というものにそこまで要求するしたたかさがあっていい。とりとめのない街が、すぐとめどなくひろがってゆこうとする。領域感――これからの街づくりにあっては、いつも意識しておきたい言葉である。

（T・S）

## 無題－1

昨年11月私たちが手がけた田崎眞珠本社ビルが、ポートアイランドのファッション街区に完成した。先にできた《キムラタン》のビル、この春には《ジャヴァ》《ワールド》の両ビルが完成し、新しい道路パターンをもつ街路とともにいよいよ今年はファッション街区幕あけの年となった。

いま市民広場に立って見ると、これらのビルが東側に新しく顔をだした。56年広場完成時は北側に国際交流会館、西側にポートピアホテルだけであったが、今度東側にも広場を囲むシルエットができ、広場により厚みがでたことはたいへん喜こばしいことである。将来の建築の姿をイメージし都市のコアを先取りして、実現させる難かしさがこの広場計画にはあった。しかしその仕組みの提案者である阪大の上田篤教授と具現化にリーダーシップを取られた前神戸市開発局長毛利治氏、両氏の強靱な個性があってこそこの難問を解くことができたといえるし、また都市景観形成の具体的な好事例としてあげることができると思う。「建築屋さんはいろんなことをつぎつぎ考えるから、将来広場が負けないようしっかり造っておかねば……」と広場の設計当時私たちとの打合せの席でなにとはなしに語られた前局長の言葉は強い印象として残っている。ファッション街区の歩行者道も都市景観に対する氏の思想のあらわれと考えて良いと思う。

（H・T）

## 街の引越し

大阪を活性化しようと21世紀計画を打ち出し、大阪築城400年祭りをかわ切りに種々の催しが華々しく開かれている。新空港建設がこの核となって、これに関連する事業が建設業界に活力として波及するのが期待される。各地区の再開発も21世紀に向け、はずみをつけて欲しいところだが街の整備や再開発は利害や得失、感情が入るため、目白押しの計画があってもその進行は遅々としている。きたる2000年を迎えた時に、どこまで変っているのかちょっと見当もつかない。

この再開発に属するものに国鉄の貨物用地の活用がある。この活用をめぐっていろいろの案がでているが、これに国鉄はどこまで関与しているのだろうか。交通に便利な、まとまった土地を利用し、他の再開発を希望している街を総ぐるみ引越しさせ、その跡をまたつぎの街づくりに活用していく。これを広げていけば、やがては新しい大阪の街づくりの環となって広がっていく。駅前立地を生かした多角経営に乗り出している国鉄のこと、人や荷物の輸送だけでなく、大きく街の引越しまで手を伸ばされてはどうか。昔、京阪奈間で壮大な遷都が行われたことを考えると、街の引越しくらい夢でない気がする。

（T・O）

# 謹賀新年

昭和59年元旦　(50音順)

## 青山幸夫

株式会社 青山建築積算事務所 代表取締役
〒550 大阪市西区京町堀1-10-19江南ビル 電話06(443)0430
〒610-11 自宅・京都市西京区大原野上里勝山町14-6 電話075(331)8682

## 浅井泰

株式会社 笠谷工務店 専務取締役
〒659 芦屋市業平町4－1 電話0797(22)0703
〒659 自宅・芦屋市翠ケ丘町13－5 電話0797(22)5291

## 浅野真澄

株式会社 浅野建築設計事務所 代表取締役
〒543 大阪市天王寺区城南寺町5－35 電話06(768)0201代
〒572 自宅・寝屋川市成田西町4－21 電話0720(31)1750

## 淺沼茂夫

株式会社 淺沼組 取締役社長
〒543 大阪市天王寺区東高津町12番6号 電話06(768)5222

## 淺沼誠夫

株式会社 淺沼組 取締役副社長
〒543 大阪市天王寺区東高津町12番6号 電話06(768)5222

## 代表取締役会長 浅海正雄
## 代表取締役社長 森川禮次郎

浅海電気株式会社
〒530 大阪市北区西天満3丁目7番4号 電話06(362)8701
〒665 自宅・宝塚市御殿山2丁目31番50—109号 電話0797(85)0745
〒565 自宅・豊中市新千里北町2丁目32番3号 電話06(831)2732

## 姉川正男

東光電気工事株式会社大阪支社 監査役(大阪駐在)
〒541 大阪市東区高麗橋5丁目28番地 電話06(202)0325
〒565 自宅・吹田市藤白台4の30の12 電話06(872)3214

## 安部恒夫

安部建設株式会社 取締役社長
〒559 大阪市住之江区西住之江2丁目7番5号 電話06(678)3212～4
〒559 自宅・大阪市住之江区西住之江2丁目7番5号 電話06(671)7774

## 井川栄一

社団法人 日本建築協会京都支部 支部長
株式会社 熊倉工務店 常務取締役
〒604 京都市中京区押小路通柳馬場東入建設会館分室 電話075(211)2857・2877
〒605 京都市東山区五条通東大路西入 株式会社熊倉工務店 電話075(551)1141代
〒606 自宅・京都市左京区吉田二本松57 電話075(771)3572

## 井上秋次

井上窯業株式会社 代表取締役
〒543 大阪市天王寺区生玉町11番28号 電話06(771)2825代
〒659 自宅・芦屋市川西町4番23号 電話0798(22)5930



ヘンリー・ムアの素描と版画7点
素描 Reclining Nude 1980

## 飯田精次郎

共同設計株式会社 代表取締役社長
〒530 大阪市北区西天満5丁目10番14号 電話06(364)5836代
〒105 東京事務所・東京都渋谷区渋谷1-10-1 八千代ビル6F 電話03(407)0912代
〒520 大津事務所・大津市浜大津4-4-4 電話0775(23)0388
〒620 福知山事務所・京都府福知山市末広町6丁目4番地 福電ビル 電話0773(23)5208

## 生島道春

日積工務株式会社 代表取締役
〒542 大阪市南区島之内1丁目14番27号 宇野ビル 電話06(251)3195
〒460 名古屋支所・名古屋市中区錦2丁目9-25 豊島第2ビル 電話052(221)7561代
〒602 京都事務所・京都市上京区今出川通室町東入今出川町333番地 第二高橋ビル 電話075(441)5690

## 諫早信夫

フドウ建研株式会社 相談役
〒110 東京都台東区台東1－2－1 日本地所第二ビル 電話03(835)2661
〒541 大阪市東区平野町5－30 不動ビル 電話06(201)3737
〒157 東京都世田谷区南烏山2－18－4 電話03(300)3705

## 泉沢哲史

株式会社 泉沢建築設計事務所 代表取締役
〒530 大阪市北区西天満4丁目12番2号 オオシマビル 電話06(364)9071代

## 礒岩武

大機建材工業株式会社 代表取締役
〒666 兵庫県川西市久代6丁目1番16号 電話0727(70)8563
〒665 自宅・宝塚市中山台2丁目18番9号 電話0797(88)3698

## 市川繁雄

日本管工業株式会社 取締役社長
〒601 京都市南区西九条豊田町20 電話075(681)5101～6
〒606 自宅・京都市左京区下鴨芝本町37 電話075(781)0289

## 市川宏

株式会社 東畑建築事務所 取締役社長
〒541 大阪市東区伏見町5－19 電話06(202)0391
〒658 自宅・神戸市東灘区住吉山手4丁目4－32 電話078(811)0216

## 指宿真智雄

株式会社 建築デザイン1級建築士事務所 代表
〒564 吹田市江坂町1丁目23番101号 電話06(386)1311
〒606 京都市左京区下鴨北野々神町8－5 電話075(781)6573

## 今井忠臣

イマヰ建設工業株式会社 代表取締役
〒547 大阪市平野区加美北5丁目11番12号 電話06(792)4425
〒547 大阪市平野区平野北2－9－15 電話06(792)4404

# 謹賀新年

昭和59年元旦　(50音順)

## 今西茂雄

株式会社 今西建築デザインルーム 代表取締役

〒550 大阪市西区南堀江1丁目22番17号 電話06(541)3051～3

## 取締役会長 今村騰
## 取締役社長 平木寛

中央電気工業株式会社

〒530 大阪市北区太融寺町3番24号

電話06(312)8881代表

## 今村祐三郎

社団法人 大阪建設業協会 専務理事
事務局長

〒540 大阪市東区京橋3丁目70　電話06(941)3651

## 専務取締役 岩崎弘
## 常務取締役所長 寺西禮一

株式会社 教育施設研究所 大阪事務所

〒550 大阪市西区立売堀1丁目13番1号　電話 06(531)0913
大信ビル　電話 06(541)7301
〒630 自宅・奈良市法蓮立花町1046　電話0742(22)2217
〒661 自宅・尼崎市常吉字赤田9の5　電話 06(431)2101

## 上田宇三

株式会社 日匠設計 代表取締役

〒580 本社・大阪事務所・大阪府松原市西大塚1—5—6
電話0723(31)3857代
〒520-32 滋賀事務所・滋賀県甲賀郡甲西町中央2丁目15
電話07487(2)1114代
〒580 自宅・大阪府松原市西大塚1—5—6　電話0723(31)1554

## 上西圭治

株式会社 大気社 取締役社長

〒530 大阪市北区中之島3—2—18 住友中之島ビル7階
電話06(448)5871
〒659 自宅・兵庫県芦屋市浜町12—14　電話0797(22)5949

## 植野寿雄

株式会社 寿建築積算事務所 所長

〒542 大阪市南区東清水町48つるのすビル 電話06(244)1561
〒588 自宅・堺市大美野5—9 電話0722(37)1162

## 小川正

株式会社 竹中工務店

〒541 大阪市東区本町4—27　電話06(252)1201
〒560 自宅・豊中市上野西2—12—47　電話06(852)3478

## 尾亀清四郎

株式会社 三晃空調 取締役会長

〒530 大阪市北区西天満3丁目13番20号 電話 06(363)1371
〒573 自宅・枚方市岡山手町15—4 電話0720(41)3427

## 大井弘治郎

株式会社 大井建築設計事務所 代表取締役

〒550 大阪市西区京町堀1丁目10—8　福岡ビル
電話06(444)4521～2
〒562 自宅・箕面市百楽荘4丁目4—11 電話0727(21)4113



素描 Stone Reclining Figure 1980

## 大槻國秋

日本電設工業株式会社 大阪支店 常務取締役支店長

〒531 大阪市大淀区豊崎3丁目17—15　電話06(372)3531
〒658 神戸市東灘区西岡本6—5—23　電話078(411)1673

## 大西孝夫

株式会社 日建設計 常務取締役
大阪本社代表

〒541 大阪市東区横堀2丁目38番地　電話06(203)2361

## 岡橋作太郎

〒659 自宅・芦屋市打出春日町156—1　電話0797(22)4500

## 岡本行善

株式会社 昭和設計 代表取締役社長

〒550 大阪市西区新町1丁目5番7号　四ツ橋ビル
電話06(532)3421代
〒659 自宅・芦屋市岩園町35—7　電話0797(31)3201

## 岡山竹雄

株式会社 岡山設計 代表取締役

〒604 京都市中京区烏丸通錦角　京都フクトクビル7F
電話075(255)0537～8
〒612 自宅・京都市伏見区深草平田町18　電話075(641)0536

## 奥村紘行

奥村重兵衛株式会社 取締役社長

〒530 大阪市北区西天満5丁目3番7号　電話06(312)4131代
〒620 自宅・西宮市南郷町14番34号　電話0798(71) 0011

## 加藤忠三郎

株式会社 平田タイル 代表取締役会長

〒550 大阪市西区阿波座1丁目1番10号
電話06(532)1231代
〒601 自宅・京都市南区東九条北烏丸町24電話075(691)1334

## 数井利美

株式会社 西村建築事務所 取締役社長

〒652 神戸市兵庫区荒田町2丁目1-8 楠六パレスビル
電話078(521)0205～0207
〒654 自宅・神戸市須磨区白川台2丁目39—13
電話078(792)5862

## 兼高勇

有限会社 兼高設計事務所 代表取締役

〒590 堺市北花田口町3丁1番15号 東洋ビル
電話0722(22)1643
1648
〒590-01 自宅・堺市御池台3丁14—1　電話0722(99)2677

# 謹賀新年

昭和59年元旦　(50音順)

## 亀井晃治

一級建築士事務所 株式会社 A.R.I.(あり)建築事務所　代表取締役
〒542 本社事務所・大阪市南区谷町7丁目3番4-203 新谷町第3ビル2F 電話06(768)1771代
〒631 自宅・奈良市中町1番地の479　電話0742(43)1226

## 亀田六夫

株式会社 増島製作所 大阪営業所　所長
〒530 大阪市北区西天満3丁目13番18号 島根ビル 電話06(364)1951
〒560 自宅・豊中市刀根山元町8－12　電話06(855)5356

## 鎌谷秀男

修成建設専門学校　理事長
〒555 大阪市西淀川区大和田5丁目19-30 電話06(474)1644
〒665 自宅・宝塚市千種3丁目8番23号 電話0797(72)1380

## 柄谷順一郎

株式会社 柄谷工務店　取締役社長
〒660 尼崎市玄番南之町4　電話06(411)1451
〒663 自宅・西宮市甲子園浦風町9－14　電話0798(41)0700

## 川岸繁夫

株式会社 川岸窯業商店　代表取締役社長
〒550 大阪市西区西本町1丁目13－33　電話06(532)0461代
〒563 自宅・池田市天神1丁目10－10　電話 0727(61)8598

## 川﨑敬三

株式会社 近畿建設　代表取締役
〒550 大阪市西区江之子島1丁目2番2号 電話06(448)5601
〒556 自宅・大阪市浪速区難波中3丁目9番3-407 電話06(632)7369

## 川瀬甲子雄

扶桑管工業株式会社　代表取締役
〒616 京都市右京区太秦和泉式部町12番地　電話075(861)1157 大阪支店 電話06(353)0222　東京支店 電話03(263)0501
〒565 自宅・吹田市津雲台6－7－2　電話06(834)1734

## 河井覚弘

株式会社 河井建築事務所　取締役所長
〒631 奈良市登美ケ丘4丁目8－10 電話0742(45)4378・(43)7507
〒631 奈良市登美ケ丘4丁目8－11　電話0742(44)8100

## 河裾和夫

蛍光産業株式会社　代表取締役
〒531 大阪市大淀区本庄東1丁目9番9号　電話06(371)5146代

## 北澤登

高砂熱学工業株式会社大阪支店　常務取締役 大阪支店長
〒530 大阪市北区芝田1丁目4番8号北阪急ビル 電話06(372)2511
〒561 自宅・豊中市城山町1-8-1 曽根ロイヤルハイツ202号 電話06(864)0162




## 木下國男

内外パーキング施設株式会社　取締役社長
〒550 大阪市西区京町堀1丁目8番5号 明星ビル 電話06(441)0477代
〒665 自宅・宝塚市逆瀬台6丁目15番11号　電話0797(73)3228

## 汲川圭司

社団法人 全国鐵構工業連合会顧問 大阪鉄構建設業協同組合理事長
大阪鉄構建設業協同組合
〒543 大阪市天王寺区生玉前町1番21号 小山ビル　電話06(772)0182
連合会事務所
〒103 東京都中央区京橋2丁目10番2号 第2ぬり彦ビル9F 電話03(564)3711代

## 小北博一

株式会社 ジャス　代表取締役
〒565 大阪府吹田市古江台6丁目3番1号 健康の森 電話06(833)6611代
〒565 自宅・豊中市新千里北町1－1　C5－209 電話06(872)6461

## 小阪永一

大信印刷株式会社　代表取締役
〒531 大阪市大淀区大淀中4丁目13－11　電話06(451)7631
〒553 大阪市福島区福島6丁目20－10　電話06(451)5346

## 小島勝巳

有限会社 小島勝巳建築事務所　代表取締役
〒541 大阪事務所・大阪市東区南本町4丁目41番地 イヨビル8階　電話06(252)8088代
〒103 東京事務所・東京都中央区日本橋本町4丁目14番地 山本ビル7階　電話03(661)0768代
〒166 自宅・東京都杉並区成田西1丁目16－17 電話03(315)5435

## 取締役会長 小西岬
## 取締役社長 橋本正章

株式会社 小西設計
〒550 大阪市西区立売堀1丁目12－16　電話06(532)4051

## 小林清

株式会社 新住宅社　代表取締役
〒530 大阪市北区中之島4丁目3番25号　電話06(443)6641代
〒545 自宅・大阪市阿倍野区北畠3丁目1番7号　電話06(654)0584

## 取締役会長 小林四郎
## 取締役社長 代谷正元

太陽工藤工事株式会社
〒553 大阪市福島区福島7丁目22番8号 電話06(452)1151大代
〒662 自宅・西宮市西平町19－11　電話0798(74)6621
〒665 自宅・宝塚市仁川北3－13－20　電話0798(52)5971

## 小林得志

株式会社 小林得志建築事務所 代表取締役所長
〒530 大阪市北区堂島2-4-17 藤田ビル 電話06(341)5658代
〒662 自宅・西宮市丸橋町6－16 電話0798(66)2394

# 謹賀新年

昭和59年元旦　(50音順)

## 河内義就

有限会社 河内義就設計事務所 代表取締役
〒730 広島市中区上幟町2番43号 栗原広島ビル
電話082(228)2271代
〒739-17 自宅・広島市安佐北区高陽町大字翠光台1-237
電話082(842)5330(呼)

## 斉藤國義

株式会社 斉藤工業所 代表取締役
〒557 大阪市西成区岸里2丁目6番5号電話06(661)3325代
〒557 自宅・大阪市西成区岸里東1丁目21番3号
電話06(652)0208

## 渋谷幸雄

渋谷金属産業株式会社 取締役社長
〒542 大阪市南区島之内2－12－21 電話06(211)7333代
〒581 自宅・八尾市二俣2 5 2 － 7 電話0729(22)8644

## 鴻池藤一

株式会社 鴻池組 代表取締役社長
〒541 大阪市東区北久宝寺町4丁目27番地
ダイヤルイン電話06(244)3500(受付台)
〒603 自宅・京都市北区平野鳥居前町86 電話075(461)1526

## 雑賀幸夫

株式会社 大阪雑賀建築事務所 代表取締役
〒543 大阪市天王寺区上本町8丁目3番23号
電話06(772)4426・4436
〒573 自宅・枚方市香里ヶ丘7丁目11-16 電話0720(54)0004

名誉正会員

## 白石登喜男

株式会社 藤木工務店 常務理事
〒540 大阪市東区両替町1丁目13番地 電話06(944)1468
〒558 自宅・大阪市住吉区墨江1－7－39 電話06(671)3792

## 近藤徹

不二熱学工業株式会社 代表取締役
〒542 大阪市南区南船場2丁目1番1号 電話06(261)4321
〒658 自宅・神戸市東灘区森北町4丁目11番10号
電話078(451)3367

## 堺徳吾

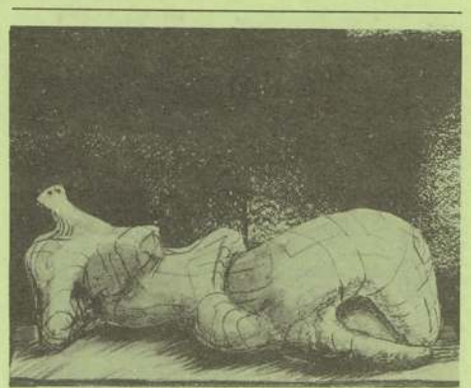
西日本建設業保証株式会社 取締役社長
〒550 大阪市西区立売堀2丁目1番2号 電話06(543)2553

## 城口庸平

株式会社 大阪城口研究所 取締役社長
〒530 大阪市北区角田町2番15号 電話06(372)7151代

## 佐々木森一

株式会社 佐々木建築事務所 代表取締役
〒550 大阪市西区京町堀1－3－22 電話06(443)0675
〒617 京都府向日市上植野浄徳11－19 電話075(921)0728



版画 Reclining Figure with Architectural Background Ⅱ 1977

## 須賀新

須賀工業株式会社 取締役社長
〒550 本店・大阪市西区土佐堀1丁目2番30号
電話06(441)5171
〒105 本社・東京都港区新橋6丁目17番19号
電話03(434)7111

## 佐藤康

大鐵工業株式会社 取締役社長
〒532 大阪市淀川区宮原4丁目4番44号
電話06(394)1281大代表
〒562 箕面市箕面6丁目9番36号 電話0727(22)3608

## 須賀好富

近畿大学理工学部建築学科 助教授
〒577 東大阪市小若江3－4－1 電話06(721)2332
内線271
〒577 自宅・東大阪市小阪3－4－B911
電話06(789)8114

## 佐野正一

株式会社 安井建築設計事務所 代表取締役社長
〒540 大阪市東区島町2丁目7番地 電話06(943)1371代
〒662 自宅・西宮市雲井町4の9 電話0798(72)1569

## 志賀修一

フジタ工業株式会社 大阪支店 専務取締役 支店長
〒530 大阪市北区西天満2丁目9番8号 電話06(361)1133
〒567 自宅・大阪府茨木市下穂積4-11-39電話0726(26)5640

## 菅谷健児

大阪電気暖房株式会社 代表取締役社長
〒550 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号 電話06(441)8231
〒158 自宅・東京都世田谷区等々力6丁目24番6号
電話03(701)3535

## 佐野春吉

森井電業株式会社 代表取締役 副社長
〒530 大阪市北区中之島4丁目3番28号 三井ビル別館
電話06(443)8381代
電話06(441)0502直通
〒661 自宅・尼崎市東園田町3丁目85番地 電話06(491)9402

## 四方靖郎

四方設計工務株式会社
一級建築士事務所 代表取締役社長
〒612 京都市伏見区深草関屋敷町32－2 電話075(642)9516
〒612 自宅・京都市伏見区深草関屋敷町32－2

## 杉浦敏郎

三機工業株式会社大阪支店 取締役 支店長
〒541 大阪市東区北浜2－22 電話06(202)3051代3071代
〒560 豊中市岡町南1－7－7 電話06(855)5995

# 謹賀新年

昭和59年元旦

(50音順)

## 鈴木仙吉郎

東海興業株式会社 大阪支店 常務取締役 支店長

〒530 大阪市北区堂島浜2－2－8 東洋紡ビル
電話06(348)5611代

## 玉置豊次郎

名誉正会員

㈱大阪住宅センター 理事長
大阪工業大学 名誉教授

〒530 大阪市北区中之島3—2—18住友中之島ビル
電話06(447)0615～6
〒557 自宅・大阪市西成区天神森1-19-15 電話06(661)7680

## 傳馬正明

ムツミ産業株式会社 代表取締役

〒550 大阪市西区靭本町1丁目17番15号
電話06(441)0378大代
〒558 自宅・大阪市住吉区長居東3丁目14番22—515
電話06(699)5326

## 田中優

株式会社 ユソニアン一級建築設計事務所 代表取締役

〒530 大阪市北区東天満2丁目1番26号 福山ビル
電話06(354)2781～4
〒536 大阪市城東区成育4丁目20番2号 電話06(931)8857

## 知見義夫

春日設備工業株式会社 取締役会長

〒601 京都市南区西九条春日町48番地 電話075(671)5377代
〒601 自宅・京都市南区西九条春日町48 電話075(691)3860

## 東畑謙三

名誉会長・名誉正会員

株式会社 東畑建築事務所 取締役会長

〒541 大阪市東区伏見町5－19 電話06(202)0391
〒658 自宅・神戸市東灘区住吉山手4-4-35 電話078(851)5043

## 田村真二

株式会社 竹中工務店 常務取締役

〒541 大阪市東区本町4－27 電話06(252)1201
〒663 西宮市浜甲子園2丁目5－19 電話0798(41)4300

## 塚本猛次

名誉会長

株式会社 日建設計 最高顧問

〒541 大阪市東区横堀2丁目38番地 電話06(203)2361
〒665 自宅・宝塚市清荒神2－6－27 電話0797(87)1940

## 得田益男

得田電気株式会社 取締役社長

〒601 京都市南区東九条河辺町21番地 電話075(661)2727
〒606 自宅・京都市左京区北白川東伊織町10番地の3
電話075(722)3231

## 取締役社長 高橋慶夫
## 専務取締役 上田宏二

株式会社 高橋上田設計事務所

〒550 本社・大阪市西区新町1－4－21 大幸ビル
電話06(533)0971～3
〒110 東京支所・東京都台東区上野5－3－7 宮代ビル3F 電話03(831)6108



版画 Reclining Woman Ⅱ 1980/81

## 富家宏泰

株式会社 富家建築事務所 代表取締役

〒604 京都市中京区押小路通東洞院西入ル
電話075(231)6357代
〒603 自宅・京都市北区平野八丁柳町68—1—704号
電話075(463)0050

## 橘泰治

東邦パーライト株式会社 取締役社長

〒540 大阪市東区森ノ宮中央2丁目7番15号 電話06(941)9445～9
〒590-01 自宅・堺市若松台3丁26番3号 電話0722(91)2267

## 冨岡久男

株式会社 吉田建築事務所 代表取締役

〒550 大阪市西区北堀江2丁目3番3号 電話06(538)2991
〒577 自宅・東大阪市荒本北30 電話06(744)2976

## 立田清

有限会社 柳々堂 (建築専門書店)

〒550 大阪市西区京町堀1—12—3 電話06(443)0167—8
営業所：鴻池ビル 電話06(251)8233

## 辻本豊

株式会社 ツジモトユタカ設計事務所 代表取締役

〒640 和歌山市東長町中の丁12—3 電話0734(26)2030代
〒640 自宅・和歌山市東長町中の丁12-3電話0734(26)2030代

## 内藤正克

株式会社 内藤建築設計事務所 代表取締役所長

〒675-13 兵庫県小野市上本町240 小野ビル 電話07946(2)4757代
〒675-13 自宅・兵庫県小野市久保木町1063 電話07946(2)4668

## 立野一郎

株式会社 ユニオン 代表取締役社長

〒550 大阪市西区南堀江2丁目13番22号
電話06(532)3731～8

## 津村芳仁

オリエンタルメタル製造株式会社 代表取締役社長

〒660 尼崎市昭和南通3丁目26番地 電話06(412)5131代
〒330 自宅・埼玉県大宮市高鼻町3丁目58番地
電話0486(41)0204

## 内藤薫男

社団法人 日本建築積算協会関西支部 支部長

〒542 大阪市南区鰻谷中之町62番地 市川ビル2F
電話06(245) 6645
〒618 自宅・大阪府三島郡島本町広瀬4丁目11番3号
電話075(961)5092

# 謹賀新年

昭和59年元旦

(50音順)

## 中原英雄

株式会社 創美設計 代表取締役

〒530 大阪市北区末広町3番21号 星和地所扇町ビル6階
電話06(312)3587代

〒659 自宅・芦屋市打出小槌町1番地405

## 林唯夫

株式会社 昭和設計 代表取締役副社長

〒550 大阪市西区新町1丁目5番7号 四ツ橋ビル
電話06(532)3421

〒565 自宅・吹田市青山台3丁目41—11 電話06(872)3608

## 平城勧

株式会社 朝日工業社 大阪支社 常務取締役 大阪支社長

〒532 大阪市淀川区加島1丁目58番59号 電話06(302)2271～9

〒665 自宅・宝塚市中山桜台4—15—4 電話0797(89)3884

## 永井賢城

株式会社 久米建築事務所 取締役社長

〒106 東京都港区西麻布1丁目13番11号 電話03(403)0251大代

〒251 自宅・藤沢市鵠沼海岸2丁目8の26 電話0466(36)7706

## 林昭八郎

菱和調温工業株式会社大阪支店 取締役 支店長

〒530 大阪市北区天満2丁目7番3号 電話06(352) 4881

〒663 自宅・西宮市高木東町19番14号 電話0798(64)0324

会長

## 福田朝生

株式会社 双星設計 代表取締役社長

〒530 大阪市北区茶屋町18—21 豊崎ビル 電話06(373)2281

〒663 自宅・西宮市甲子園砂田町2番8号 電話0798(48)0989

## 長澤孝行

日本住宅パネル工業協同組合大阪支所 支所長

〒530 大阪市北区西天満5丁目6番10号 富田町パークビル
電話06(313)3321

〒598 自宅・大阪府泉佐野市佐野台20-52 電話0724(63)1260

## 原精一

甲南建設工業株式会社 代表取締役

〒532 大阪市淀川区十三本町2丁目4番28号電話06(308)1551

〒662 自宅・西宮市名次町12番9号 電話0798(72)1504

## 福永薫

株式会社 建設技術センター 取締役社長

〒532 大阪市淀川区西中島5丁目7番17—602号
ヴィップ第2新大阪 電話06(304)1148代

〒542 自宅・大阪市南区南船場4丁目7—3
電話06(251)3102

## 野村文英

野村建設工業株式会社 取締役社長

〒541 大阪市東区高麗橋2丁目9番地 電話06(202)4791代



版画 Reclining Woman On Seashore
1980/81(部分)

## 藤井稔

阪神不動産株式会社 専務取締役

〒530 大阪市北区梅田2丁目2番25号 電話06(346)1173

## 橋本晃芳

株式会社 鴻池組 専務取締役

〒541 大阪市東区北久宝寺町4丁目27番地 電話06(244)3545

〒659 自宅・芦屋市精道町4—1 電話0797(31)6766

## 藤木鐵三

株式会社 藤木工務店 取締役社長

〒540 大阪市東区両替町1丁目13番地 電話06(944)1468代

## 長谷部利夫

株式会社 長谷部建築設計事務所 代表取締役 社長

〒460 名古屋市中区錦3丁目2番4号 電話052(951)8391

〒460 自宅・名古屋市中区新栄3丁目1番1号
新栄町ハイツ1201号 電話052(261)3646

代表取締役 会長 **原田重信**

代表取締役 社長 **原田孝太郎**

原田セメント化工株式会社
大統商事KK・泉州生コン工業KK

〒554 大阪市此花区西九条4丁目3—34 電話06(465)1212代

〒661 自宅・尼崎市塚口町3丁目41—8 電話06(421)4518

## 淵上保夫

三井プレコン株式会社大阪支店 常務取締役 支店長

〒530 大阪市北区中之島3丁目4番18号三井ビル2号館
電話06(444)4231代

〒595 自宅・大阪府泉大津市虫取51-1 楠木団地2-311

名誉正会員

## 浜口幹三郎

株式会社 淺沼組 監査役

〒543 大阪市天王寺区東高津町12番6号 電話06(768)5222

〒631 自宅・奈良市二名町南登美ケ丘3336—7
電話0742(43)1091

## 伴一郎

株式会社 西原衛生工業所大阪店 代表取締役社長

〒531 大阪市大淀区中津六丁目8番4号電話06(458)3531代

〒563 自宅・池田市石橋3—11—14 電話0727(61)8652

## 細野松雄

三友工業株式会社 大阪支店 常務取締役 支配人

〒550 大阪市西区南堀江1丁目19番8号 電話06(541)1922

〒631 奈良市二名町南登美ケ丘3336-27 電話0742(45)6233

# 謹賀新年

昭和59年元旦

(50音順)

## 堀　元也

神戸材料株式会社　代表取締役

〒651 神戸市中央区熊内町2丁目1番37号
電話078(222)2251
〒657 自宅・神戸市灘区篠原北町2丁目1番9号
電話078(882)0755

## 堀内史郎

第一工業株式会社大阪支店　取締役支店長

〒530 大阪市北区西天満3丁目6番14号　電話06(364)6661代
〒573 自宅・大阪府枚方市朝日丘町12-18電話0720(41)5396

## 前田敏男

財団法人　日本建築総合試験所　理事長

〒565 本所・大阪府吹田市藤白台5丁目125番地
電話06(872)0391
〒531 大淀分室・大阪市大淀区長柄西2丁目1番18号
電話06(351)7217
〒592 堺分室・大阪府堺市浜寺石津町西2丁1番34号
電話0722(44)3912
〒612 京都分室・京都市伏見区中島前山町24番地の2
電話075(622)0713
〒675-01 加古川分室・加古川市別府町新野辺字畑下1311-3
電話0794(35)5811

## 前田平一郎

ゼネラル事務機株式会社　社長

〒550 大阪市西区靱本町3丁目2番7号 第1横井ビル
電話06(441)1462代
〒560 自宅・豊中市上野東1丁目16—21　電話06(849)5764

## 松田恒彦

株式会社 ART建築設計事務所　代表取締役所長

〒530 大阪市北区東天満2丁目3—10 田中ビル
電話06(357)5351代
〒546 大阪市東住吉区西今川2丁8—7　電話06(702)6738

## 松村雄二

株式会社　松　村　組　取締役会長

〒530 大阪市北区天満2丁目1番3号　電話06(353)1131

名誉正会員

## 松本与作

第一生命保険相互会社　顧問技師

〒100 東京都千代田区有楽町1—13—1　電話03(216)1211
〒145 自宅・東京都大田区田園調布3-17-3 電話03(721)4723

## 松本重太郎

松本金物株式会社　取締役社長
大阪建築金物卸商協同組合　理事長

〒543 大阪市天王寺区四天王寺1丁目5番47号
電話06(774)2200
受付案内台
〒542 組合事務所・大阪市南区島之内1丁目22番20号
大和ビル本館5階602号室　電話06(245)3187

## 三谷忠義

株式会社　三　谷　設　計　代表取締役

〒694 島根県大田市久手町波根西777の1
電話08548(2)8121代
〒694 自宅・島根県大田市久手町波根西225の2
電話08548(5)8320

## 三輪泰司

株式会社　地域計画・建築研究所　代表取締役所長

〒600 京都市下京区四条通高倉西入ル立売西町82番地
大和銀行京都ビル　電話075(221)5132代
〒540 大阪市東区石町1丁目1番地 天満橋千代田ビル2号館
電話06(942)5732
〒460 名古屋市中区丸の内3丁目18番30号 ツボウチビル
電話052(962)1224
〒612 自宅・京都市伏見区桃山南大島町95—45
電話075(601)3962




## 薬袋公明

株式会社　日　建　設　計　取締役社長

〒541 大阪市東区横堀2丁目38番地　電話06(203)2361

## 水間義雄

株式会社　水　間　組　代表取締役社長

〒534 大阪市都島区東野田町1丁目1番4号
電話06(352)3121代
〒538 自宅・大阪市鶴見区今津南4-10-15　電話06(961)0785

名誉正会員
取締役会長 **道田泰治郎**
取締役社長 **道田泰平**

株式会社　道　田　工　務　店

〒660-01 川西市向陽台3丁目6番地の216
電話0727(93)3456代
〒660-01 自宅・川西市向陽台3丁目6番地の216
電話0727(93)3456代

## 村石全

浪速合板株式会社　代表取締役社長

〒556 大阪市浪速区幸町2丁目5番3号　電話06(568)3671
〒659 自宅・芦屋市岩園町25番15号　電話0797(34)0835

## 村上二郎

サンエス石膏株式会社　代表取締役社長

〒530 大阪市北区堂島2丁目4番17号 藤田ビル本館
電話06(344)6526～9
〒565 自宅・吹田市千里山西3丁目7番5号　電話06(384)1002

## 村上秀夫

新日本製鐵株式会社 大阪営業所　部　長

〒530 大阪市北区中之島3丁目2番4号 朝日新聞ビル12F
電話06(202)2201
〒666-01 自宅・兵庫県川西市清和台西1丁目6—23
電話0727(99)0438

名誉正会員

## 村野藤吾

村野，森建築事務所

〒545 大阪市阿倍野区阿倍野筋2—3—8　電話 06(624)0926
〒665 自宅・宝塚市清荒神2丁目18—27　電話0797(86)2559

## 室谷山水

室谷商事株式会社　取締役社長

〒650 神戸市中央区北長狭通4丁目2—4 英和ビル
電話078(331)0881
〒650 自宅・神戸市中央区山本通4丁目17—17
電話078(221)5050

## 両角保

浦安工業株式会社　専務取締役 大阪支店長

〒130 本社・東京都墨田区錦糸2丁目8—7 電話03(624)2441
〒530 大阪支店・大阪市北区天満2丁目3—5
電話06(351)7502代

# 謹賀新年

昭和59年元旦　(50音順)

## 森　淳

三和電気土木工事株式会社　取締役社長

〒530 大阪市北区南森町1丁目4番19号　電話06(361)6451代
〒596 自宅・大阪府岸和田市別所町2丁目3番5号
電話0724(22)7710

## 森　忠一

村野，森建築事務所

〒545 大阪市阿倍野区阿倍野筋2—3—8　電話 06(624)0926
〒665 自宅・宝塚市武庫山1丁目10—8　電話0797(72)4461

## 八木喜美蔵

八木惣株式会社　代表取締役社長

〒593 堺市津久野町3丁2071番地　電話0722(62)1175
〒593 自宅・堺市津久野町3丁2071番地　電話0722(62)0722

## 八十島健二

株式会社　竹中工務店　取締役副社長

〒541 大阪市東区本町4—27　電話06(252)1201
〒663 自宅・西宮市甲子園二番町5—30　電話0798(41)0598

## 安井忠生

株式会社　安井建築設計室　代表取締役

〒550 大阪市西区鞍本町1丁目9—18　電話06(448)2765～6
〒662 自宅・西宮市城山町6—17—305
電話0798(72)0865

## 簀本弦三

株式会社　笹川組　取締役社長

〒520 大津市打出浜13—15　電話0775(23)2314
〒520-21 自宅・大津市一里山5—9—11　電話0775(45)3966

## 山内恒男

株式会社 石本建築事務所　大阪支所長

〒541 大阪支所・大阪市東区南久太郎町4-34 池銀ビル
電話06(251)7507
〒102 本社・東京都千代田区九段南4-6-12 電話03(262)7161

## 山田保

株式会社 山田保建築設計事務所 代表取締役

〒733 広島市中区本川町2丁目6番11号第7ウエノヤビル2階
電話082(292)8211代
〒733 自宅・広島市西区己斐東2丁目12番27号
電話082(271)0690

## 山田恒治

株式会社　山田工務店　取締役社長

〒651 神戸市中央区雲井通4丁目1番3号
電話078(232)1800代
〒651-11 自宅・神戸市北区泉台4丁目9番12号
電話078(592)5902

名誉正会員

## 山田文次

山田工業株式会社　取締役会長

〒550 大阪市西区京町堀1丁目6番8号　電話06(443)8161大代
〒665 自宅・宝塚市南口1丁目2番2号　電話0797(72)2511

## 山田義行

株式会社　竹中工務店

〒541 大阪市東区本町4—27　電話06(252)1201
〒665 自宅・宝塚市寿楽荘14—11　電話0797(72)5858

## 山本永造

ヤマト電気エンジニアリング株式会社　取締役社長

〒530 大阪市北区西天満5丁目1番3号　電話06(364)3056代
〒562 自宅・箕面市桜ケ丘3丁目13—6　電話 0727(23)5176

## 山本一彦

株式会社 和光建築設計事務所 代表取締役

〒550 大阪市西区北堀江2丁目9番15号　電話06(531)4488
〒536 大阪市城東区森之宮1丁目4番204号
電話06(969)0788

## 山本貴士

朝陽電気株式会社　代表取締役

〒530 大阪市北区中之島3丁目2番4号　電話06(385)1361代
朝日ビルディング内
〒565 自宅・豊中市新千里東町2丁目5番 A1-404
電話06(871)0851

## 米倉豊夫

日本住宅パネル工業協同組合　理事長

〒113 東京都文京区本駒込6丁目15番7号
電話03(945)2311大代

## 和田眞一

株式会社　東和組　代表取締役

〒530 大阪市北区西天満4丁目5番14号　電話06(363)4051
〒659 自宅・芦屋市公光町3番8号　電話0797(22)3282

## 和中勝

株式会社　和中商店　取締役会長

〒531 大阪市大淀区豊崎5丁目8番11号　電話06(371)0731
〒150 東京都渋谷区桜丘町11—5　電話03(464)9723
〒453 名古屋市中村区黄金通3丁目34番地
電話052(481)7338
〒662 自宅・西宮市大畑町10—22　電話0798(67)7544

名誉正会員

## 若林季雄

鹿島建設株式会社大阪支店

〒550 大阪市西区鞍本町1—11—7　電話06(448)3311代
〒636 奈良県生駒郡二郷町信貴ケ丘211　電話0745(72)4121

## 渡辺光一

株式会社　曽根組　代表取締役

〒676 本社・兵庫県高砂市曽根町2257の1
電話07944(7)1551代
〒541 大阪支店・大阪市東区伏見町2丁目15 ホンダビル
電話06(203)4415代
〒650 神戸支店・神戸市中央区北長狭通4丁目 高橋ビル
電話078(321)3471代

## 渡辺忠

東洋シヤッター株式会社　取締役会長

〒540 大阪市東区両替町1—12日生ビル 電話06(943)6571代
〒560 自宅・豊中市緑丘3丁目21番8号　電話 06(856)0983

## 渡部慶一

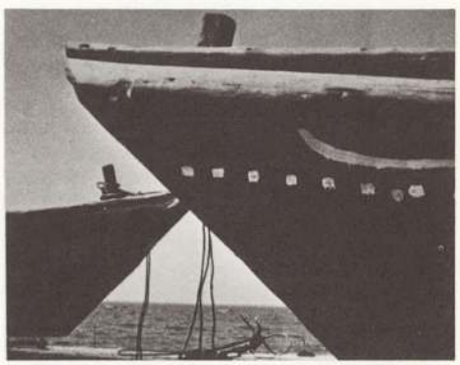
株式会社 松田平田坂本設計事務所　大阪事務所所長

〒530 大阪市北区堂島2—2—25　電話06(344)7821
〒530 自宅・大阪市北区中之島5—3—92
ルイシャトレ中之島622号　電話06(448)5645

特集●

# 21世紀への関西
## ―魅力あるまちづくりを問う

□座談会・21世紀への関西―魅力あるまちづくりを問う―
□アンケート・関西の21世紀へ向けてのプロジェクトとまちづくりを考える
□資料・21世紀をめざす関西のプロジェクト24例紹介



西暦2000年（昭和75年）まで、あと16年。
遠い未来であった21世紀が近い未来になってきた。
これまでの都市と社会をめぐる変化や、
21世紀へ向けての計画が、盛んに議論されるようになった。
戦後、日本経済発展の原動力だった大都市圏はいずれも、
技術革新の波、人口の伸び率の低下、過密、公害といった都市衰退化現象の中で、
再生の道を模索している。
「アーバン・ルネサンス」（都市復興）ということがさけばれるのもこうした背景を物語っている。
都市再生のために各方面から多くの提言がなされているが、
来たるべき超工業社会、高齢化社会、国際・情報化社会へ向けて、今や社会的なコンセンサスを新しくつくり出すべく、自然や歴史環境等の風土、文化への価値観、意味の再確認をはじめ、新しい都市のアメニティの創出や、新しい都市の魅力づくりの原点を探るべき時期が来ているようである。
そして部分的ではあるが、確実に都市の表情は変わり始めているのではないだろうか。
より人間的で緑とゆとりある生活空間を保持、創出していこうとする実践例等が各所で現れ始めている。
本特集は、メガロポリスと呼ばれる一つの巨大な都市にまで膨張し、多くの都市問題に悩むようになった三大都市圏の中で、
とりわけ長い歴史的伝統と多様な文化的背景をもち、それぞれに特色をもつ、
京都、大阪、神戸という三都市を核とする関西圏について、
来たるべき21世紀に向けて、
どのようなビジョンのもとで、都市の再生と活力の浮揚を図ろうとしているのか、
射程距離に入った西暦2000年に向けての、
各地域のまちづくりのプロジェクトを紹介しながら、21世紀への関西に向けて、魅力あるまちづくりをいかに具現化していくかを探り、その展望を試みようとするものである。
いわば孫子の代につなぐロマンへの序曲でもある。（編集幹事／田中直人）

本号特集編集幹事：岡田信幸・柏木浩一・田中直人・手嶋純一・
舟橋國男・宮口恒樹・竹本俊平・藤本憲太郎

座談会

# 21世紀への関西—魅力あるまちづくりを問う

出席者
赤羽徳雄(朝日新聞記者)
仙石泰輔(大阪市総合計画局企画課長)
端信行(国立民族学博物館助教授)
吉田あこ(内藤建築事務所社長室主任研究員)
司会
鳴海邦碩(大阪大学助教授)

**鳴海(司会)**　まず私の方から簡単に今日の出席者のご紹介をしたいと思います。吉田さんと私と、建築の側からの人間が二人おります。「建築と社会」ですから、あとの三人は〝社会〟というわけでもございませんが(笑)。端さんは民博でアフリカのご研究をやってらっしゃいます。民族学には広い視野が必要といわれますが、そうした経験をふまえて現代の日本の社会を考えるうえにおいてもずいぶん活躍されておられます。広い視野からのコメント、ご意見がいただけるんじゃないかと思います。
仙石さんは大阪市のほうで、たしか土木のご出身だと伺ってますが、大阪にこだわらず、広い視野でお話しを願えそうだということで、お願いしたわけでございます。
赤羽さんは朝日新聞の記者です。社会の代表というとやっぱりジャーナリストというのがあげられるわけで、赤羽さんはとくに近畿の三つの都市とかそういうものに非常にご関心があるということで、社の方からご紹介していただいたわけです。
それではまず吉田さんのほうから、今度のこういった企画に対して、最初の印象、コメントを簡単に……。

## 加齢住宅の概念導入

**吉田**　京都大学の西山卯三先生のもとで婦人問題のほうで一生懸命やっておりましたが、その折、婦人建築家の小さな集まりをつくりました。
国際婦人建築家協会の創立20周年がフランスであり、日本の代表団長として私が参りましたが、驚いたことに、パリの市長さんの横に座らされましてフラッシュを浴びたわけです。その原因が、耳元で割れるばかりのフランス語でやっとわかったのですけれども、その婦人建築家の組織というのは国際組織では20周年になるけれども、その20周年をつくろうといったときに駆けつけてくれた日本ではすでに婦人建築家の組織をもっていたのだ、というふうにおっしゃってくださって、思わぬところで昔学生時代にまいた種が地球の裏側でこのように評価されてたのかと思って、首を縮めてまいったわけなんです。そういうようなことで、女性建築家が非常に少なかった時代から皆様とご一緒に何とか過ごしつつ少しずつふくらましてきたというふうなことで、女性問題もしゃべろうと思います。
大学院では、保育所とか幼稚園とか子供のほうの施設の研究をやっておりました。女性が社会に出るためにはやはり子供をいかにちゃんと育てるかということが非常に大事なことであって、子供は社会の子供であるから、それをどのように受けとめればいいか、というふうなことを考えたわけでございます。
学校を出ましてからいろいろ一般的な設計と研究をしてたんですけれども、このところは障害者のことをやっております。国立のリハビリテーションなどを設計したりいたしておりますけれど、ごく最近は大阪府の身障住宅を〝マイ(MAI)ハウス〟というキャッチフレーズでもってある理念をお出しいたしましたり、去年は老人用に住宅をどうしたらいいかというお話を伺いまして、その折、加齢住宅という概念を導入して指針をつくったわけでございます。ただいまは、大阪府の既存住宅に障害者の手帳を持った方が3,000人も住んでいらっしゃることがわかったわけで、この既存の住宅をも障害者の人が住みやすくするには最低何をして差し上げたらよいかという指針をつくるのが目下の課題というわけでございます。

## 生活者にとっての集積効果

**鳴海**　端さん、お願いします。
**端**　文化施設はもちろんそうなんですけれど、私どもの横に美術館があって、いま児童文学館をつくっておりますけれども、ああして一つひとつ出来上がっていくことによるあの部分だけの集積効果というのは、目に見えて大きくなってくるように私自身は思っております。何事につけいろんな要素をもったものが集積されるということの意味合いという問題は、いろんなプロジェクトが出てくるときに、相当重要になってくるんじゃないか……、というのが私、民博をやっておりまして一番大きい印象ですね。都市というものは、おそらくそういういろんなやつが集積効果を持ってるというふうに思うのですけれども、現実に生活者として見ると、大阪ぐらいのサイズになってくると、なかなか集積効果という部分を生活者として実

感できるのはきわめて限られた場所でしかない。だからある施設に何十億投入されたという話があっても、生活者にとって一般的な意味で、それがどれぐらい効果があるものかということを考えたときに、その横に何があるかという組み合わせ、あるいは集積効果というものが、きわめて深い意味合いをもって迫ってくるんだろうと思います。

それともう一つそれにかかわる問題として、私ヨーロッパの都市なんかを見にいっていろいろ思うんですけれども、少なくとも都市的な空間における公と私というんですか、あるいは建築で考えれば公建築と私建築という、その公と私というものの組み合わせが、日本ではやっぱりきわめて日本的特色の中に取り巻かれている。おそらくそしてそれが地面の所有という問題ともからんで、公と私というものについての将来像をうまく設計しないと、この将来の都市づくりという問題もいろんなネックになるんじゃないかなということを常々考える機会が多いんです。

## ほんとの都市の時代へ

**鳴海**　それでは仙石さんお願いします。

**仙石**　私が大阪市へ入った昭和30年代後半から日本は高度成長期へ入り、都市部へ人口がどんどん集中し工業力が上がってきたという時代でございまして、仕事は主として道路、交通、再開発など、都市のインフラストラクチュア整備に四苦八苦してきたということです。当時はそれの締めくくりのようなかたちとして1970年の万博があったわけですが、こうした流れに対しまして70年代には、環境面からのフィードバック系が強烈に働いてきて、大阪市においても大気をはじめとする環境対策や交通事故などの安全対策がその後の重点的な課題になりました。そして住宅あるいは住環境整備、それから交通につきましても総合交通体系の確立という仕事が進められている状況です。

こうした都市の骨格となるインフラに肉づけをする事業、すなわちサービス水準全体を上げてくる事業というのは、これは都市が工業化社会として成長期から成熟期に至る手当てということができます。一方、現在日進月歩の状態にある情報通信技術の発達を考えると、21世紀には都市はおそらく新たな情報化社会あるいは情報社会といいますか、そういった時代に入ってくるだろう。しかし、現時点で世界を見まわしてみても、情報化の進展に対して都市構造を変革するような大きな試みというのは見られないようにみえる。同じスタートラインに立って模索している状況で、情報化に対しては、まさにお手本のない時代に入ってきた。

これに対してわれわれまちづくり側というのは何を基盤としてつくるべきか。何と申しましても行政のまちづくりというのは、市民あるいは企業の活動そのものを規定するものではないんで、自由に活動していただくような場やシステムをつくることといえます。

**鳴海**　赤羽さんお願いします。

**赤羽**　ぼくらはいろんな計画に対してそれが持っている光の部分、あるいは影の部分、まあみなさんから見れば意地悪くと見えるかもしれませんが、いろんな角度から見てそれを論じてる立場なものですから、そういう観点からきょういくつかの提言ができたらと思っております。

**鳴海**　簡単にコメントをいただいたところで、まず私の方から、一般的な話になるかもしれませんが、いまの状況をどういうふうにとらえたらいいだろうかということを一つの問題提起ということで話させていただきます。

私も行政にしばらくおりまして、そのときに決定されることが非常に重要なことであっても、必ずしも自信をもって未来を見通して決定されてるわけじゃないという、そういうことを行政にいた当時から実感しているわけですが、それにせよ、われわれが生きている限りまちをつくっていくといいますか、少しずつでもいいからレベルアップさせていきたいという、そういうことが常に要求されているんじゃないかと思うわけです。

戦後を振り返ってみると、まず第一にいえるのはとくに昭和35年ぐらいからなんですが、日本の都市化が非常に急激に進んだということです。これは世界的な視野で見ても非常に特異な現象であったわけです。これと併行してたとえば新幹線であるとか名神高速道路であるとか、あるいは香里団地や千里ニュータウンといった大規模な住宅開発であるとか、あるいは万博、そういった先導的な大規模なプロジェクトがこの時代に目白押しに並んでいるわけであります。そういうプロジェクトがこの都市化の背景にあったわけなんですけれども、一方で、歴史の中でかつてない人口が密集した地域を非常に広大な規模でつくり出したという事実があるわけです。

つぎは経済のことです。最近、発展途上国の追い上げなどがあって経済の成長がだんだん安定といいますか、下火になってきたとか、そういったことがよく言われます。そういった状況で、これからの経済なり産業なりがどう変わっていくだろうかということがあります。もちろんこれは都市のあり方に大きくかかわってくるわけですけれども、一方で新しい三次産業といいますか、サービス産業といいますか、そういったものがたくさん生まれることが期待されています。塾の産業化も一つのヒントかもわかりません。これからの都市ではサービス的な産業であるとかそういうものがどんどん広いネットワークを張っていくのではないだろうかと考えられているわけです。

それからこれもよく言われることですけれども、子供の少ない時代と高齢化の社会とに同時にさしかかっているわけです。そういった問題が先ほどの加齢住宅であるとか、あるいは福祉の問題だとか、そういったことにつながるのですが、かつてなかった局面を迎える可能性が非常に強いわけです。

もう一つ、情報化ということがあります。新しい情報機器の開発が進んで、それが都市的なネットワークを持つようになりつつあるわ



**仙石泰輔**氏

――私は土木工学の出身でございます。学生時代に都市計画に興味をもったわけですが、実のところは工学部というところは専門分野が非常に狭くしぼられてまして（笑）、どうも私にはなじまない。いろいろ模索しているうちに一番非科学的な要素をもっている都市計画という分野にたどりついたというわけです。幸い、多くの友達に恵まれたこともあって、建築や造園の友人とグループをつくり研究会を開いたり、文科の連中をつかまえてくるといった形で、若いころに総合性ということに問題意識をもったように思います。いずれにしてもまちづくりという問題がテーマだったものですから、その実践ということで大阪市へ入り、いまに至っている次第です。

けですけれども、道具のほうはたくさん開発されたけれども使い道がまだわからないという状態があります。マイコンを買って活用してるというのがあったんだけれど、それが漬物石のかわりに活用してるという、そういう漫画がありまして(笑)、機器は非常に発達したんだけれどもまだそれが生活の中に組み込まれていない、ですけれどもそれが近い将来組み込まれれば新しい生活をつくり出す可能性があるだろうということです。

こういったことを考えてきますと、戦後のこれまでの時期というのは都市化の時代であったというふうに言い換えることができると思うのです。しかし、これからはあまり拡大しないんですね。拡大しないという非常にスタティックな状態で、中で使い方が変わったりあるいは配置がえがあったり、スクラップ・アンド・ビルドになったり、そういうことでこれからほんとに都市のあり方が問われる時代じゃないかと思うわけです。いままではつくられていく発展途上都市みたいなものでありますから、それがやっといまからほんとの都市の時代になるんじゃないかと思います。

最近こういった都市化の時代で新しく育ってきた人たち、とくに若い人たちで、遊びとかぜいたくな環境、遊びに出られるような街への願望とかがふえているような気がするんです。

それでは都市の魅力は一体どこにあるのだろうか……といったことについて、まず最初に端先生から……。

## 人工的な自然への回帰

**端**　いま現に大阪でも神戸でも……京都はあんまりないかもしれないけれども、都市に緑を、緑の中に快適な都会を、という信州のああいう感じね、つまり山の上へ行ってもおいしいコーヒーが飲めるという(笑)、そういうものの組み合わせがものすごく進行してるんですね。信州で二、三日ペンションにという、そういうものも一方であるかと思えば、アクティ大阪なんていうのにワッと人が集まるという、あれはあれで都会人としてはやっぱりここやというような……。私、学生時代よく山登りへ行きましたんですけど、おりてきて地下鉄のある都会まで帰ってくると、それはそれでまたなんかホッとするという部分もあって、大都会の哀愁というのかな(笑)、そういうものも一方ではあるんで……。

しかし、いままで経済優先に走り過ぎたために、都心部ではきれいな水であるとかあるいは緑だとか、そういう都心部における人工的な自然への回帰が非常に強くなった。そういう意味では確かに自然……都市のあり方というのは、同時にわれわれが自然というものをどう考えるかという問題と密接にかかわってくる。

## ハレとケのリズム

**端**　それともう一つ、都市の魅力という問題で、ちょっと自然から離れますが、われわれが農村型の生活から都市型の人間になったときに生活のリズムが狂ってしまったというかね。農村型の生活のリズムだと、よく言われますように〝ハレ〟と〝ケ〟というのでリズムが生きてたんですよ。つまり毎日の生産活動と、そしてみんなで村の人が寄ってとにかく収穫の祭りだとか、やれ結婚式だ葬式だと、とにかく村の人が寄って何か晴れの行事に参加するというそういうパターンですが、われわれの生活の中で都市的な部分が大きくなってきたために、〝ハレ〟と〝ケ〟のリズムではもう生活できない…あるいはわれわれの暮らしを考えることができなくなってきた。われわれは家を一歩出るときにもうネクタイをしめて背広を着て、それこそ明治の時代に見たら、一体あの人はどこへお出かけになるんだろうというような格好でまちへ向かって来るわけですけれども、ファッションとかいろんな生活の側面の中で〝ケ〟の部分がきわめてあいまいといったらいいんですか、あるいは〝ケ〟の部分が家の中に押し込められてしまい、そして〝ハレ〟は従来の冠婚葬祭を中心にしたハレというものが残っていて、その間に、都会で暮らす、都心で暮らす、都市の中で暮らす部分が、ハレでもない、ケでもない、非常に中途半端なそういうふうなものになってきている。その部分を、われわれ生活者は都会の中に求めているわけでね、その部分の充足を。だから主婦が街へショッピングに来るのもわれわれが街の中でいろんな人と出会って仕事を進めるのもそういう一面のあらわれでしょう。

いろんな人々のハレでもなくて、ケでもないと呼びうるようなそういう部分は、おそらくこれからの都市が請け負わなくちゃいけない重要な部分、空間になるだろう、と。そこへおそらくイベントとかいろんな問題がからんでくるんですね、あるいはいろんな施設というものが。それが日本人にとっては遊びということになるのか、余暇ということになるのか、何になるのか知りませんけれども、おそらくわれわれの生活のリズムの中でもはやハレでもなく、ケでもなくまちの中で暮らす部分を十分に受けとめてくれるまちというのが、おそらくこれからのまちということになるんじゃないか、というふうに私は思うんですけれども。



——私も大阪育ちで、大学は京都で、いまは京都に住んでますが、勤務は大阪で、ということで、これは完全な関西在住の典型的な人間なんです。
私自身は民博におりまして、しかも民博をつくり始めるときからおりましたものですから、民博という日本最大の文化施設をつくっていくプロセスをずいぶん勉強いたしまして、とくに単なる建物でなくて文化施設として位置づけられる施設の出来上がっていくプロセスというものの中で、正直いって私自身も大分勉強させられたというか成長したというか、そういう面が非常に多かったと思っております。

**端　信行**氏

## 多様なチャンネルを用意する

**仙石**　自然に帰るということですが、私の周りのたとえば陶器屋さんとか絵かきさんというのが丹後半島の過疎地域などへ移り住むという例があります。こうしたケースをみると、完全に都市から隔離されてはないんですね、週に2日か3日はあちらで、残りはこちらでと、そのアクセシビリティがない限り生活が成り立っていないという感じです。やはりそこには住み、働き、楽しむという生活機能

に対して、いろんな経験を得る機会と場をできるだけ多くしたい、多様なチャンネルをいっぱい用意しておくという志向がすでに働いている。

したがって従来のように都市と自然というふうに分け対立的にとらえるんじゃなくて、都市の中にも自然の要素をもってくる、同様に、そこからまた逃れていくのかあるいは一つの創造活動の糧を得るような場を自然の中にまたつくっていかないかんと。結局自然に帰っているようでも、一つの生活圏の中での動きであって、その生活圏がどんどん広がってるんですね。それにいまの所得とか生活水準がかなり上がってきたこと、また交通通信手段が発達したことによってそれが可能になってきた、というふうに考えているわけです。

それを先ほどのお手本のない時代という視点から考えますと、工業化、機械の時代から情報化、通信技術の時代に入ると、ますます人間は夢のような技術を使ってとんでもないことをやると考えられますけれど、一面では、人間が社会的存在として、より本来的に生きることができる、という歴史上未曽有な時代がいまきているわけですね。

これまで人間はパンを得るために生活時間の大部分を費やしてきたわけですが、機械の導入によって余暇時間が増大してきた。さらに今後、情報通信技術の導入によって人間の大脳や神経系機能が代替されると、一層余暇時間が増大してくる。機械が生産性をもっている時代は、工業力で食べていくことができましたが、これからは情報とか、サービスとか、かたちのないものを中心に食べていかなくてはならない。一人ひとりの人間の個性が生産性そのものになる。情報化時代はヒトの時代なり、というわけで、こうした時代の到来を市民が無意識のうちに感じとり、そのための場づくりが求められているんじゃないか。まちの魅力、美しい景観、あるいは文化志向ということがまちづくりの重要な要素になってきた。私は文化というものはむしろ情報化社会への飛躍のためにいま必要な都市基盤だと、こういう考え方をしている。それによって自己開発をする機会をつくっていく。そこで、だれのだれべえでないと飯が食えない、と、こういう社会を一面から見ると非常に厳しい社会になるんじゃないかという気がしてるのですけれどね。

**鳴海**　確かに生活の水準というのはひと昔前の王様みたいなものじゃないですか、すごい水準で。

## 激しく都市に近づく人は……

**吉田**　2,000年になってしまうと、もう欧米諸国を追い越して日本がもしかしたら20%近くまで高齢者でおおわれてしまうのじゃないかというふうな推計値が出ていて、それでみんな大あわてをしているわけですけれども、でも大あわてをしているけれども 2,000年になってから考えたらいいんじゃないかというふうに、もしかしたら自分は生きていないから、というふうな形で(笑)、わりとのんびりしているわけなんでございます。

老人が都市から去っていかないというよりも、もともと都心にあった魅力を十分吸収して、一向に去らず、都市は高齢者にとっていろいろな情報とか機械とかを駆使することによってまことに住みよくなっている。とくに医療を適確に補給していくことによって寝たきり老人には絶対になくてはならないものとなっている。死ぬ寸前まであらゆる機能を開発すれば、人間の頭脳は 100歳までもつのです。それから女性なんですけれども、現在は郊外団地の中で子育てをやって、役割分担をしている女性が非常に多いわけですけれども、ひとりの女性が一生に産むのが2.1ないと人口はもたないんですけれども、それをもうすでに5年ほど前から1.98とかに割ってしまってるわけですね。この挽回は非常に長期化してしまうと言われています。まあそういうふうになりますと、子育て期間は長くて15年、短くて5年ぐらいの期間だけの問題で、現時点では80歳まで女性が生きるということになりますと、郊外の団地でもってたとえ子育てをしていたとしても、人生の子育て期間よりももっと長い期間を女性が何とか生きがいを見つけないといけないことになります。ですから女性は子育てがすんだあと、帰ってきて働かないといけないという心構えを持つことになりますが、それには情報から遅れないことが必要です、つぎに職を得ることにしても。やはり都市の情報が魅力です。先ほどの絵かきさんじゃないけれども、ともかく都市に絶えず近づきたいという激しい意欲、やがてほうり出され、未亡人になり、やがて子供から捨てられたときに、という気持ちでもって、激しく都市に近づいてくるんじゃないかということになるわけでございます。

ですから都市の魅力というのが意外に、生産性のある個性的な青年過半の男性によるというふうなイメージから、かなりなパーセントで、社会復帰を求める女性と、それから現在築いた地位を失いたくないという高齢者とでもって変容していくんじゃないかなという気がするわけでございます。

**鳴海**　いまの御三方のお話があったわけですが、赤羽さんのほうから、こうした現象の影の部分でも結構ですから。

## 都市の魅力—三つの柱

**赤羽**　ぼくらは去年大阪、京都、神戸をテーマに〝三都物語〟という連載企画をやりまして都市比較論をやったわけですが、だんだんやっていくうちに、100万を超すような巨大都市というのは将来どうなるんだろうと、そういうこともいろいろ考えてみたくなったわけです。

大阪の現状は仙石さんがよくご存じですけれども、もうかなり衰退しつつある部分があるわけですね。都心の空洞化だとか、水道施設などの社会資本の老朽化だとか。それでこれらの一歩先をいって、

——朝日新聞の社会部の記者をやっております。57年1年間、ぼくらの仲間で〝三都物語〟という企画をやったわけですが、その企画で、呼ばれたと思うのです。社会部といいましても事件担当から行政担当からいろんなものがおりまして、専門家的な存在はないわけですが、たまたまぼくが都市問題について比較的多く記事を書いているということで、じゃお前行ってこい、ということで来たわけですが、ちょっと場違いなところへ来たような感じもして仕方がないのです(笑)。



赤羽徳雄氏

もういま死にかけていると言われているニューヨークを見てみようじゃないか、そこに都市の将来への教訓があるんじゃないか、ということで、〝三都物語〟と並行してニューヨーク研究もやってきたわけなんです。

当初ぼくらが考えたのは、メガロポリスの行く先はネクロポリス、21世紀は都市にとってはヤミの時代ではないかと。そんな問題意識で調べていったわけです。ところが実際ルポしてみると結構再生というか、再活性化している部分があるわけですね。ニューヨークの再生に日本の都市もいろいろ学ぶべきことがあるんじゃないか、ということで「よみがえる破産都市」と題して番外編の連載もやったわけです。

そこでぼくらが一番感じたのは、都市には魅力がなければいけないんだと。ぼくらの先輩たちは日本の工業化時代に農村部で食えずに、駆り出されるように都市に集まってきたわけですね、安い労働力として悪環境のもとであくせく働かされた。理想に燃えてとか魅力を求めて都市にやってきたわけじゃ決してなかったわけですね。ところがニューヨークでぼくらが見たものは、何とも言えぬ都市の魅力なんです。先ほどおっしゃった文化的集積の魅力とでも言いますかね。都市にとっては文化的な芸術的な吸引力が一つの大きな柱ではないのかと。

これまで都市づくりというのはハードなものをつくって、あとは使う人たちにまかして、それなりに機能させていった。こういったものがこれからの街にとっては必要だろうということで、文化会館など、いろんな施設をつくっていった。都市の発達段階ではそれでいいんだろうが、都市が成熟してくると、ソフト面が必要になってくるわけですね。

それでは何が必要かというと、都市の魅力をつくること。まず経済的な基盤は欠かせない。都市に行けば能力さえあればいまよりもいい水準の生活ができるんだという仕事の供給面ですね。そしてもう一つは、そこにいけばより魅力的で自己啓発的な生活を送れるんだという文化的な魅力ですか、さらにもう一つは、都市というのは人間が過密な状態で住んでいる非常に不自然な空間である、だから過密の中でも快適さのある、アメニティの高い環境が必要だと。この三つの柱が都市にとって魅力じゃないのかと。これを点検していくと、現状の大阪では非常に欠けているところがあるんです。

## 変わってしまった人間の関係

**田中(編集委員)**　先ほど吉田先生がおっしゃった、女性とか老人とかいわゆるほっておけば田舎ではとうてい……老人でも生きていけるとかそういう話はありますけれども、そういう方がかえって都市の魅力、都市の機能の恩恵をこうむるというお話がありますね。先ほどの経済的基盤で、とにかく都会へ出てくれば生活できるという面をもっと深く見ていきますと、とくに女性ですけれども、女性自身がいわゆる昔の男と女の関係の女性じゃなくて、何か一つの人間として独立した存在になりつつあるのじゃないか。たとえば、全然話は違いますが、夜のちまたへ行きますと、昔でしたら遅くまで若い女性が濶歩して歩くという姿は見られなかったんですけれども、そういうところでも堂々と濶歩できるような生活を実際行っている、これは大きな変化じゃないかと思うのです。

それから結婚のパターンといいますか、そういう中でも非常に変化があるんじゃないかという気がするのです。とにかく男性よりはるかにいい金もうけをしている女性がたくさんいますから、その辺で都市に対する位置づけ方が昔と全く違ってるんじゃないかという気がするわけです。

そういった意味において、従来通りの男と女の関係、人間の構造をもって考えるよりも、全く別個の女性とか老人というものについても概念を変える必要があるんじゃないかという気がするわけです。

**吉田**　おそろしい話になりましたね。(笑)

## 母子家庭ばっかり……

**端**　ぼくはそういう意味で、前からちょっと……鳴海さんには話したことがあるんだけれども……気になってるのは、関西では非常に私鉄が発達して、とにかく郊外にどんどん家がふえていって、結局皆そっちへ向かって居住というものが広がっていく、その結果実は三宮、まあ大阪でもそうですが、いま9時、10時までと言ったけれども、9時、10時というのは早過ぎるのでね。

**田中**　まだ宵の口だとね。

**端**　うん。そういうことからいうと、私は21世紀ぐらいになったら、いまの水準で、低成長とはいえ、生活水準がもう少し上がれば、いまのままの郊外の枚方のマイホームはそのままおいといて家族で都心に住めるという、そういう二重居住の構造というものが出てくることがより望ましいんではないかと……。

つまり都心に週5日ぐらい家族一緒に住んで、子供は学校へ行って、奥さんは都心の中をウロウロして、旦那は仕事をして、それで週末はやや緑の多い枚方へ帰るというような、そういう居住構造へ少し変わらないと、いまここで新しい都市の魅力というものを論じようとするときに、なかなかうまくフィックスしないと思うのです。

家庭を単位に見たときは、母子家庭ばっかりが周辺部にウジャウジャと出てくる(笑)。だから女性像も変わりつつある、当然男性像も変わる、あるいは老人像も変わってくる。いまわれわれが言う老人でなくて、そのころの高齢者というのは、いまの高齢者とひょっとしたら違うかもしれん、アクティビティとかそういういろんな意味で。そういうことを考えたときにぼくは、確かに吉田さんのおっしゃるように都心に向かうというか、都心に居住するという要素がいまよりもっと高まることをむしろ少し考えないと、魅力ある都市づくりというのはほんとに生きてくるというふうには思えないんだ。

**鳴海**　住宅が二つ要るようになったら、建設業界もまだ大丈夫ですね。(笑)

**田中**　いわゆる田舎から都会へ出てきて、一旗上げるぞという話がありますね、東京で銭もうけをして、お盆とお正月に田舎へ帰るというサイクルだったわけですね、昔は。先ほど端先生がおっしゃったように最近は、1週間、まあこれは将来の夢物語も込めてですけれども、旦那はどこか都心の小さなレンタル・マンションみたいなところに居を構えて、せいぜい残業してがんばるわけですね、で土日になると女房と子供が待っている緑多いニュータウンみたいなところにゆっくり帰る。あるいはちょっと余裕のある人は信州とかそういう別荘地を持っとってそっちでレジャーを楽しむとか、昔とちょっとイメージが違いますけれども、生活サイクルを短くして同じようなことになってくるんじゃないかという気もするんです。

**鳴海**　最近の帰省というのは昔みたいに親元へというんじゃなくて、別荘地へ行くみたいな雰囲気だものね。

**田中**　レジャーですね、一つの。

**仙石**　いまの端先生のお話、もう現実にあるのです。私も都心のマンション居住なんですが、私の隣の人は豊中のおじいさんとおばあさん、で時々来て泊まってられるんです。豊中のかなり奥のほうにおられるということで、そういう形が、もうすでにあらわれているんです。

ですからこれからの都心型住宅を考えた場合、従来のように商業ベースにのせてギリギリの分譲コストのものをつくったら、これは一般の標準世帯が入居すると家庭の成長過程からみて5年もたないん

ですよ。せめて10年居住に耐えられるような住宅の提供が必要だと思う。そうすると現在の分譲コストの2倍ぐらいのところのものをねらって、良質な住宅をつくっていきませんと、それに対応できないわけです。一方、デベロッパーのほうは、こうした良質住宅を大阪市内で建設するときにはリスクがありますから、なかなかできない事情がある。そこで大阪市の公社で建設した例があるのですが、その結果は百何十倍という競争率で非常に人気があった。ですから、こういう傾向は今後積極的に考えていかなくてはいけないし、やっていかなくてはならない。

## 都市の魅力の基盤

**赤羽**　先ほど都市の魅力の基盤は経済と文化と環境ではないかと言った経済は、大阪にはかつてから商都として栄えた商業のノーハウがあるわけですね、戦前から東南アジアへ出ていってやってきた。それを何か重工業にかわる都市型産業に転換して、働く場を新しくつくり出していく。そうしないと高度なハイ・テック時代に、いまブルーカラーとして働いている人たちが将来職場を失ってスラム化しかねない要素があるわけですね、でこれを吸収するものが一方で何か必要だと。

そして文化の面、これが非常に大阪の場合は欠けてるわけですね。かつて道頓堀かいわいを中心に文楽、上方歌舞伎、お笑い文化、といった上方の芸能文化があったわけだけれども、先ほどおっしゃったように住宅の郊外化で、仕事のあと自宅に帰って夕食を食べて奥さんと一緒に着飾って見に行くという生活パターンがとれなくなったために…しかも生活の貧しさがありますよね、そんなのに家族そろっていくと何千円何万円も取られてしまう、そのため客足が遠のいてどんどん衰退していってるわけですね。今度国立文楽劇場ができますね、それまでは朝日座を借りとったわけですが、朝日座は文楽が使わなくなったらやっていけなくなって、59年の春には閉館する。角座という漫才をやっとったところも、漫才ブームが過ぎたらお客さんがガラガラで、これも59年の春に閉鎖する。肝心な、都市の吸引力たる文化というものが大阪の場合はどんどん衰退していってる、これは何とかしなくちゃいけない。



二代目の通天閣が見おろす新世界
（朝日新聞社会部編「三都物語」から）

そして環境の問題はご存じのように木はない、緑はない、川は埋め立ててしまった、で川の上を高速道路が走って、歩いても不快きわまるような環境がありますね、これも何とかしなければいけない、これを何とかしない限り21世紀の展望は開けてこないのではないか、というのがぼくの問題提起です。

**鳴海**　いまいろんなお話が出てきました。赤羽さんのお話のなかに、いまの現実の大都市が持っている環境そのものが実際未来的なのかどうかということがありました。これは非常に卑近な例ですけれども、大阪の新世界は昔はすごい盛り場だったんですが現在の機能はだいぶ変化しました。学生たちに聞きますと、行くと怖いという感じのところだと言います。神戸でもそうですね、新開地、昔の一大盛り場ですが、ここには最近の若者は寄りつかないという……だから盛り場はもう二極化しているわけですね。いまの大都市の環境が未来的なのかということもありますが、このような二極化現象が都市のいたるところで起きてるのかもわからないというそういう問題もあります。

## プロジェクトは評価できるか

**鳴海**　いま大阪および近畿の各地域をざっと見てみますと、いろんなプロジェクトがあります。たとえば梅棹先生が提唱されている千里国際文化都市構想であるとか、それから一方で京阪奈のほうで関西文化学術研究都市というか、それから一方で神戸のほうでも研究学園都市ですか、そういうものも構想されていますし、それからもう少し建設事業的な話ですと、たとえば関西国際空港の計画が進行しておりますし、それから大阪湾のフェニックス計画とか、あるいは湾岸道路の計画でありますとか、実際21世紀に向けて先導的な役割を果たすだろうと思われるプロジェクトが目白押しにあるわけです。

こういうビッグ・プロジェクトがある一方で、大阪とかあるいは京都なんかの既成市街地の環境をもっと改善していくために制度的な拡充も少しずつながら行われているわけです。非常にきめの細かいまちづくりとこういうビッグ・プロジェクトとの両方を両手にもって地域づくりを進めていく必要があるわけであります。先ほど皆さんにそれなりに都市の魅力とは何か、そういう観点からお話しをいただいたわけですが、いまわれわれの周りにあるいろんなプロジェクトがそういったまちの魅力づくりの上でどういう点から評価できるだろうかとか、こういう点を気をつけたほうがいいんじゃないだろうかとか、そういう点について皆さんのご意見をお聞きしたいと思うわけです。

それでは仙石さんからお願いいたします。

**仙石**　大阪市という守備範囲を離れてはじめに広域的なお話をしたいと思うのです。都市というものを大阪、京都、神戸という見方をするのも、これも従来からの一つの考え方で、それぞれの都市が自律性をもつことは必要ですが、すでにもうそれでは制御しきれない問題が出てきている。それは一つの都市圏域という見方に立って、圏域構造を今後どのように再編成していくかという問題。

それに対して先ほどからお話が出てますように、われわれ土木屋の仕事からいけば圏域の骨格となる交通基盤をどうやってつくるかということになるわけです、またこの都市圏と外部環境を結ぶ門戸として国際空港という問題があるでしょうし、港という問題がある。

われわれがいままで交通基盤をつくってきたというのは、急速に増加してきた交通需要量に追いかけられてつくってきたんですが、これからの交通基盤というのは、圏域構造を誘導するための戦略手段でなくてはいかんわけです。これまでお話に出ました京阪奈とか、千里とか、あるいは空港を中心として泉州地域とか、圏域の新しい核となる拠点開発計画が出ていますが、京阪奈を早くやろうと思えば、そのためには大阪や京都の都心と鉄道や道路で結び、そこにポテンシャルを実現化するベースをつくっていくことがまず必要になるということです。

一方、こうした新しい核の整備に対して既成の都心部はどうかというと、神戸市にしてもポートアイランドの開発があるし、大阪にとっても臨海部のテクノポート構想というのをいま出しているわけで、既成都市部においても将来のために都市構造の再編成を推進していくことが重要な課題です。従来の都心の集積のアクセシビリティが高い、10分ないし15分というところに新たな用地ができて、先ほどの再開発のスクラップ・アンド・ビルドに伴ういろいろなしがらみのないところがある、これを既成都市部においても十分に活かして圏域の中の一つの中心核にしていくという考え方が出てきます。

私ども〝テクノポート大阪〟という大阪市の構想を申し上げますと、大阪湾というのは貴重な海ですから、今後大規模な埋立地造成は期待できないし、それを埋めたところは貴重な土地として大切に利用しなくてはならない。それを単にいま困っているからという理由で安易に土地利用を決めるべきではない。これは最初に申し上げたんですが、明治時代の築港事業が戦前の大大阪の繁栄の礎となったように、21世紀の大阪を背負ってたつようなリーディング・インダストリーであるとか、学術・文化を中心とした情報機能などの立地を図るべきであると考えています。

第二点目としては、現在まちづくりに求められている視点、文化とか国際化に今後どのように対応していくか、と。大阪市の例で申し上げますと、大阪の都市の骨格をみたとき近代大阪というのはキタからミナミまで御堂筋を中心にした南北軸を形成しここに業務商業が張りついたということでございます。しかし近世の大阪は大阪城を起点に西への流れをもつ東西軸のまちであったわけで、近代化以降、交通手段が海運から市電、地下鉄、自動車へかわったこともあって、東西軸は工場や倉庫を中心とした土地利用に移ってきました。そこで再びこの東西軸を文化、情報、国際化の軸に復活して、水と緑や、歴史的集積を生かした再開発を進めようと考えています。いま大阪城にホールをつくったり、ＯＢＰの開発で東の拠点をつくり、その延長線上に鶴見緑地、さらに、京阪奈へと連続させていく。西側につきましては、中之島をいかにしてうまく使うか。それから川口から港までの安治川ぞいの川筋の活用、そして未来ゾーンとして南港と北港というところに西の端をもっていったらどうか、そこにそれぞれの施設をどうやって配置するか、ということが課題になっています。

大阪市の市制 100周年事業においても、国立文楽劇場とか大阪城ホールとかつくってきましたが、これからは海洋博物館でありますとか科学技術館あるいは近代美術館や国際交流センターというものを考えてます。そういったものをこれから整備をしていきたい、と。こうしたものが全部できますと大阪を訪れる人達にとっても、１週間ぐらいのトリップは十分大阪市内でもしていただけるんじゃないかと。(笑)

**端**　施設はわかるんです、いまおっしゃる施設配備はわかるんだけれども、やっぱり都市居住というもののもう一歩進んだ考え方がほしいなという気がするんですな。もしそれやったら、やっぱり５時に閉館して一家そろって枚方まで帰るという話になるんでね（笑)。そういうのでなくて、そのあと港をグルッと回って近くのどこやらで飯食って、それで歩いたら家に帰れるという、そういうパターンを相当強引に夢としてつくり上げないと、なんか市全体の魅力あるまちづくりという……だから都市居住という問題をそこへどうからめるかというのがね。それでぼく最初に申し上げた公と私という問題がどこかでからんでくるんですね。

## ジェントリフィケーション

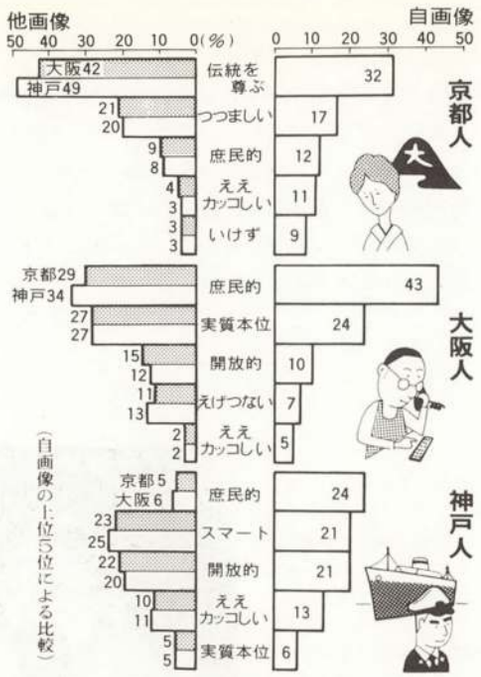
**赤羽**　いま大阪市は市内に市民を取り戻そうとリバーサイドとか、南港に住宅をつくってますね、ところが実際これを見にいくと、従来の郊外型の住宅をより近くに持ってきただけであって、都心住宅では決してないわけですね。

ニューヨークの再活性化の一つの現象としてジェントリフィケーション（Gentrification）と言われている現象があるんです。これはかなりスラム化したところにいわゆる第四次産業ですか、画家とか芸術家だとかあるいはジャーナリストもそうかな、テレビの関係者とか、比較的人種差別とか低所得者を差別しない人たちが、地価の安さにひかれて帰ってきて、家を修復して住み始める。そうするとその周辺が少しよくなるものだから、同じような人たちが集まってくる、そうすると一つの通りがきれいな通りに変わるわけですね。そうなると不動産業者も目をつけて、その辺一帯の再開発がすすむ。街をつくり直すんじゃなくて、リハビリテーションされていく。そういう形で都心に良好な住宅がどんどんできて、そこに郊外から都心で住み働きたい連中が帰ってくるわけですね。そういうふうなジェントリフィケーションを大阪市内でもおこして、でリハビリテーションされた良好な住宅を供給していく、そういうのを行政なりが一つの誘導策としてとれないかと。ニューヨークでそれが成功している一つの要因としては税金面の優遇策がありますね。都市に帰ってきた場合に何年か不動産税を免除するとか。

## 三都複眼構造

**鳴海**　先ほど仙石さんのほうから、近畿の三つの都市というのはもはや三都として考えられない。もう少し圏域的な考え方をする必要があるだろうというお話があったんですが、いまの状況ではあちこちで同じことを同時多発的にやっているわけです。どこが勝つかというそんな状況もあるわけですけれども、一つの考え方をすれば、たとえば各府県に公社とか企業局とかあるわけですから、それが全部出資して近畿企業局みたいなのをつくって、そこの経営的判断でそういう仕事をやっていくとか、そういう発想が必要かもわかりません。いまのところ、近畿圏整備本部があるといってもまとめきれないのが実情のように思うわけです。そこで〝三都物語〟を担当された赤羽さんとしてはこういう三つの都市というか三つの地域の構図ですね、そういうものについてお話しいただければと思いますが。

**赤羽**　ぼくら〝三都物語〟をやったときに、対抗意識としてはやはり東京を見たわけです。東京というのは江戸時代は江戸城、明治維新以後は宮城、戦後は霞が関、あそこを中心に同心円状に広がってて、横浜や千葉も全部それにのみ込まれてしまっている。




三都人のイメージ

（朝日新聞社会部編「三都物語」から）

一方、関西の三都市の場合はそれぞれに独立した都市であって、必ずしも仲がよかったとは言えない歴史もあるわけですが、それぞれに張り合ってまちをつくってきた。その結果、全国的な画一化が進む中でもぼくら企画で書いたような地域の特性といったものがいまだに残っている、これはこれで一つの財産なんではないか。複眼的な構造のおかげでそれぞれの都市の気質や風俗がそこなわれず、東京に比べればまだ良好な住環境も保っている。だからこの複眼構造のよさというのは残し続けなければいけないんじゃないかと。それがあの企画の結論なんですね。で、そこから先どうするかというのはみんな意見がわかれるんだけれども。

ただ、複眼的な構造だけでいった場合、新空港の問題のように大阪は泉南沖が、兵庫県は神戸沖がいいんだという格好で行政同士がにらみあってしまう。だから独立した都市としての機能を保ちながら有機的に関西都市圏全体としてものを考えていく必要があるんじゃないか。大阪市であれば大阪府下の衛星都市ともっと有機的にやれないか、さらには関西都市圏全体として何かやれないか、というのが問題として出てくるんですがね。

**吉田**　お正月号だということで、21世紀のためには20兆使って当たり前というお話がありまして……。

**仙石**　いやいや、もっと大きい……。（笑）

## アジアセンターを起爆剤に

**吉田**　私は大して大きくないと思うんですけれども……。

この間、大韓航空の撃墜事件がありました折に、ニューヨークの国連に入ろうとしたソ連を地元が拒否し、国連をアメリカに置くべきでない云々をめぐって、市長さんも別に外国移転に反対しない、でも、いてほしいという。なぜかというのを伺ってびっくりしたんですけれども、落ちるお金が年間約7億ドル落ちているというんですね。それで維持に使っているお金は1,500～1,600万ドルだというわけなんです。ですから直すと 2,000億円と40億円支出でございますか。それなら百年の大計でいただいてかせいでも、十分先行投資して利のあるものと思うんですけれども。

その国連がニューヨークから動く、動かないという話の関連で、総会は10月の初めから1月まであるわけなんですけれども、国連の本部は実は部分的にウィーンにすでに3年前にいってるわけなんでございます。ウィーンが1957年に国際原子力機関というのをみずから設置したわけですね、そのつぎに'67年に国連工業開発機関というのを誘致したわけなんです。そのころから国連の本部の一部を移そうというふうな運動をいたしまして、それとそれからベイルートにあった国連西アジア救済機関というのは、世情不安定だからウィーンへ来てくださいというふうに移して、それをもとにして国連本部にあった社会開発人事問題センターを一番に移し、それから法制局を移し、国連機関調整事務所を移しユニセフを移してるわけなんです。国連ファミリーというのはジュネーブにＩＬＯとかＷＨＯとかというふうにそもそも各国にあるわけでございまして、日本にもないわけではないわけです。情報部もありますし、国連大学もあるわけなんですが。

ですから、いろいろなイベントに対してある軸を与えたらどうかというふうなことで、その三つの個性的な焦点に対して一つの国際性というふうなイベントを与えて、――それは東京と対抗する意味じゃなく、日本国を代表した近畿、もともとこれは 1,500年前から日本の代表でありましたところなんでまことに自然な話でございますので――、たとえば淡路島の地上権というふうなものを取ってそうして国連を誘致するというふうなことを21世紀のためにやることが、これほど国際的になってきた日本に、たとえば情報センターを最初にし、国際センターを設置して、そしてアジア難民の……ベイルートにあったのはそもそもパレスチナ難民のためにつくった機関なんですよ。ですからアジアの中心は大阪でございますので、そういうふうなところをやっていくということにすれば、先ほど皆さんも欧米でもうお手本がなくなってしまったということを言っておられましたけれども、よそへ行って見るんじゃなくて、みんな呼びつけて、そしてつらつらわが目で国連を見て、日本人というのは非常にいろんな文化をうまく吸収するところがございますので、それらを吸収しながらしかももうけるということをやるのはどうかなというふうに、チラッと思いましたんですけれども。まだ15年先がありますので、しっかりいまからやっても可能性があるんじゃないかと思いますが……。

――私、阪神間に生まれ育ち、中学・高校を神戸のミッションスクールを出まして、京都大学を出たわけでございます。大学院は東大で、その後、東京のほうで仕事をいたしておりますが、現在勤めております内藤建築事務所の東京の支社にいるというわけですが、細かく申し上げますと、実は本社勤務でありながら東京に座っているという矛盾になっているわけでございます。今回の三都の問題に関しては非常に深い関心と愛情と熱いまなざしをもっているつもりです。



**吉田あこ**氏

**鳴海**　いまの話に関連してもいいし、端先生のほうから……。

**端**　少なくとも国際機関ということに関しては大体日本は東京が全部それをいままで引き受けて何とかやってきたんですが……。

**吉田**　でも、国連の中で日本が引き受けられるのは、アジアのセンターなんですよ。ところがアジアにうまくつき合いができるというのは、東京人というのは全くだめなわけですね。アプローチも発想も対応も全くなじめないわけなんです。そういうほうにはもともと向いていないものだから困っている。ところが私なんか神戸なものですから、全然抵抗なく、国際というのは何も欧米ではなく、インターナショナルというのはもっとミックスしたものであると思うのです。そういう意味で私は東京はむしろ不適格。それはウィーンのものを日本へ移すというんだったら東京はいいかもしれませんよ、だけどそうじゃなくて国連のアジアセンターをつくるというのなら、大阪は適格だと思いますけれどね。

**田中**　その点については大阪のほうも、神戸のほうもそうですし、京都のほうでもそうですけれど、いわゆるコンベンション・シティーということですね。とにかく国際情報化社会に備えてこれから羽ばたこうというのは関西はとくに強いというふうに感じているわけですが、とりわけ関西については歴史的にいいましても中国との文化の交流をはじめ、かなりアジアに対して、より開かれた門戸であったと思うのです。そういう意味では一つの起爆剤としてそういったもので、より社会的な展望を試みるというのも一つのアイデアじゃないかと思うのですが、仙石課長いかがですか。

**仙石**　それはおっしゃる通りですけれど、それだけではいけないんで、やはり何でも東京を見て大阪がどうだと比較をしてる発想からは出てこないので、大阪が世界の中心だという発想までいかないといかんわけですね。

**吉田**　もちろんその通りでございます。

## 箱づくり、人づくり

**赤羽**　新空港の計画にしてもコンベンション・シティーの構想にしても、一方では、箱づくりばかり先行してて中身がともなっていないじゃないか、空港をつくったってどんだけお客さんがくるんだ、会場をつくっても実際どれだけ国際会議で埋まるんだ、という問題があるわけですね。だからそういう国際センターの誘致を並行して行っていけば、かなり説得力のあるビジョンとなりますね。

**吉田**　日本へ皆勉強に来る……企業の研究所なんかをもって勉強に来ていただいて、というようにしてもいいと思います。

それから国際会議場はとってもいいと思うのです。東京には国際会議場がないんですよ。ないと言いながらやってるじゃないかというと、あれはみんなホテルがやってるんです。ところが国際会議の登録費ってすごく安いんですよね。ホテル代は各自が払うからいいんですが、会議場の収支は東京ではほんとにやれないんです。それで私もこちらのポートアイランドの国際会議場を借りたら、エッと思うほど安いので、それが魅力で神戸で国際会議を開いたんです。東京では小さな国際会議をやっても、部屋だけで1日 100万円要るわけですよ。こちらは13万円でいいというので……。(笑)

**赤羽**　その国際会議、コンベンション・シティー構想というのは一つのアイデアだと思うのです。ただ、そういうふうな構想を進める段階で、学術研究都市を京阪奈の丘陵の何もないところにもっていって果たしていいんだろうかと。大阪の場合阪大が千里の竹やぶのほうに追いやられたり、市内からどんどん大学は追い出されているわけでしょう。で本来知的な情報産業である大学というものが、大阪市内には国公立では大阪市立大学しかなくなっていますね。

**吉田**　外国では大学は皆遠くにあるじゃないの。

**赤羽**　いや都市型の大学と、そうじゃない大学があると思うんです。生産技術だとかいったものであれば山間でもいいんだろうし、一方情報処理だとかファッションだとか商業とか、そういう都市と連動するような研究機関なり大学であれば、やっぱり都心にあったほうがいいわけなんです。そういった意味で、もう少しそういうふうな機能を都心部に張りつけることが大事なんじゃないかと思うんですがね。プロジェクトというとあちこちに総花的にばらまかれてしまっている。

――出身は青森県の弘前市で、京都大学へ行って、それから兵庫県庁へ勤めまして、それからいろいろしましていまの職におります。(笑)大学卒業後京都・大阪・神戸という三つの都市に3年半ぐらいずつ住んでまして、今では関西での居住期間の方が長くなってまいりました。出身地の弘前というのはずいぶん昔から京都なんかとのつながりが深いところだったらしくて、いまだに古い京言葉が残ってるんです。そういう意味では生まれたときから関西と関係があるんじゃないかしらんと、多少こじつけではありますが……。(笑)



鳴海邦碩氏

**鳴海**　私はこの春、ヨーロッパのいろんな国際会議場を見てきたんですけれども、そこでびっくりしたのは、会議を誘致するのが大変なんですね。会議場利用のセールスをするのが非常に大変です。どこの会議場でも大変な苦労をしているわけですね。それでその最大の秘訣は何かと聞きましたら、会議を引っ張ってこれる顔のある人を館長に据えんと絶対に不可能だと。(笑)

それはどういうことかといったら、大体国際会議というのは個人的なパイプで決まっちゃうというわけですね。あいつがいるからあそこでやったろかという、そういう話になってしまうわけです。だからそういうことがありまして、いろんなハードの箱をたくさんつくっていくのは金があればできることですけれども、人をつくっていくというのはなかなか大変なことです。21世紀というのを目指して箱づくりも非常に大事なわけだけれども、それに並行して情報のネットワークなり創造力とか能力をもった人がどれだけここに生まれるかということが地域づくりの見えない基盤だと思うわけです。いまのところいろんなプロジェクトがばらばらにあるというのは、それを取りまとめるといったらおかしいんですが、そういう役割を果たすような人的な仕組みがまだできあがっていないのでは……。多分ここらがこれからの近畿にとって非常に大事なんじゃないかという気がします。

## イベント―夢―仕掛け

**田中**　ぼくは一言だけ提案したいんですが、21世紀ですから、やはりここ

にいらっしゃる方はおそらくおじいちゃん、おばあちゃんになってしまう方もいらっしゃいますけれども、とにかく子供を大切にするというか、ぼくなんかもよく感じるんですけれども、年々人間が皆違うようになってきてるんじゃないかという気がすごくするわけです。あと20年たったときに、いまの子供が何を考え、どういう社会になっているか、とくに教育関係、何を文化として伝承するかとか、生活感覚とか、それから先ほどの国際的な点で言いますと、とにかく小さな子供のときからアジアの小さなお友達が、ぼくは韓国の何とか君を知ってるんだとかいう感覚で育っておれば、大きくなったら絶対に違うと思うのです。そういった意味で、いわゆる大人の施設としてのコンベンション云々じゃなくて、その小さな世界の窓口となるべき子供のための仕掛けづくり、それは単に施設じゃないんですけれども、そういう交流とか、なんかその場として関西というのが機能できるようなものを一つのイベントでも何でもいいんですけれども企画できないかなというのが夢なんです。これは新春放談ですから……。

**鳴海**　子供じゃないけれども、ユニバシアードをやるじゃないですか。(笑)

**田中**　あれはちょっと老けた青年ですけれど……。(笑) まあそういうたぐいでどんどん、イベントでもいいですから、やはり将来性のある子供の夢を育てることも大事にするようなそういう仕掛けが、一般的な教育論じゃなくて、なんかあればと思うのですけれど。

**鳴海**　最近イベントがいろいろとあちこちにあります。イベントというのに非常に批判的な人もなかにはいるんですけれども、とにかくまちづくりというのはある種のイベントだと思うんです。日常的な生活の中でまちが自然にできていくかと思うと、決してそういうことはないんで、なんかアクションがそこで起こらなければまちは変わらないわけです。私はまちづくりのように実際何かがアクティブに動くということ自体が非常にイベントに近いものであると常々思ってるわけですですから、これからどのような効果的なイベントを仕組んでいけるかということが重要なのではないでしょうか。お祭りのあとが寂しいというだけじゃ困りますので、祭りのあとが一番楽しいというそういうまちづくりがうまく進んでいけば非常に面白いんじゃないだろうかと。そんなふうに思ってるわけです。
それでは、大分話が広がりましたが、最後に一言ずつ発言をお願いします。端さんどうぞ……。

## 都市のサイズ

**端**　都市居住というか、都心居住というか、家族で都心に住むということが、おそらくこれからできる文化施設なんかを大いに利用するということを考えれば、ぼくは欠かせない要素になってくると思うのです。これが一つ非常に大きなポイントとして出てくる。
それから三都市の話については、ぼくはいまたまたまと言っておきますが、京都にいま住んでますけれども、住んでる生活的便利さからいったら、100万ぐらいというのはちょうどいいんですね、サイズとして。少々まちの端っこで何かやってても、千何百円で家までタクシーで帰れるとかね。サイズとしての100万というのは魅力なんですよ。そういう意味では、正直言って大阪・神戸というのには、100万としての自立的諸機能というのかな……、それはぼくは当然あっていいと思う。それがコンベンションという言い方になろうと何になろうと。だけど大阪はもうそのサイズを超えてるから……。

**吉田**　それではまとめにならない……。(笑)

**端**　大阪はサイズを超えてるというところは仙石さん、しっかり考えんならん問題になるんじゃないか。(笑) ぼくは常々そう思ってるんですよ。100万の大台を一パツ超したら、つぎは……まあニューヨークと比較するとかなんかは別にして、このサイズはちょっとね。同じように京都でいってるじゃないか、神戸でいってるじゃないかという意味はぼくは違う、と。

**赤羽**　ぼくらは大阪を関西の母都市と呼んでいるんですが。

**端**　母都市というんですか？　少なくとも500万にふさわしいそういう構造というのかな。あるいは、ぼくはさっき都市居住と言ったけれども、少なくとも環状線周辺から内側ぐらいは高層住宅でどんどん人が住んだらいいと思うぐらいの感じなんですよ。

## まちづくりの理念

**鳴海**　吉田さんのほうから最後に……。

**吉田**　いえ、私は勝手に大きなことだけを言っていたんですけれども、私、こちらの端さんがおっしゃった奥さんも子供も一緒に都心に住んでいくという方向は、いままで言われている能率、効率というのと違う方向でありながら能率をむしろ高めるということなので、非常に新しい点と思います。やっぱりそれを中心にして都市構造や生産性までも考えないと荒廃してしまうと思います。それを中心にすれば、どのような方法も生きていくんじゃないかと実は私は思ってるわけです。先ほどの離婚の問題だとか子供の教育の問題だとか、まあ家庭内暴力というのもお父さんの働く姿を見ないのが一原因ですから、都心に家族で住み、ウィークエンド3日間は他へ行くという組み合わせの違う生活スタイルであっても可能にしたいと思います。

**端**　単身赴任はあかんで。(笑)

**鳴海**　赤羽さん、どうぞ……。

**赤羽**　文化にもっと金を投じる必要があるんじゃないかと思いますね。梅棹先生あたりが中之島芸能センターという構想を出してますね、あれは構想を出しただけで、全然動こうともしてない。何でかというと、世界の一流の芸術家たちを引っ張ってきてそこで演じたところで、あと根づくものが周辺にないわけでしょう。それを見にいく人が要るし、見にいけば……さらにそこで跡を継いで舞台に立とうというふうな芸術家を志望する人たちも要るし、その人が住み鍛錬しあう環境も要るわけですが、そういったものが大阪の場合は全然備わってない。これはだれの役割かというと、行政でもあり、経済界の役割でもあるんではないか。大阪の公会堂だとか図書館だとかああいったものはかつて財界が寄付してつくったものなんですね、いまはその話をしますと、いや、いまは税金で全部持っていかれてるから、そんなんできないんだ、という答えが経済界から返ってくるんだけれども、税制を改めるなりして、もう少し金が文化へ流れるようにできないかと。そうでないと中之島芸能センターというのは決して日の目を見ないだろう。
それからまちづくりの進め方がてんでんばらばらであるということですね。府と市がそれぞれ別個に……まあ一応事務局レベルでは連絡をとりあってるんでしょうけれども、なかなかうまく連動しない。今度の大阪築城400年まつりにしたって、スタートするまで1年ほどすったもんだがあったんですが、さらに新空港の問題では兵庫県とすったもんだでしょう。そのあたりをもっと有機的に結ぶもの、その結ぶのはだれかというと、市民、住民だと思うのです。そういった意味でのもっと住民が参加する形でのまちづくりというのができないか。いまは専門家にまかせっきりの都市計画になってますね。もう一つは都市の税制の問題ですね。優良な多額納税者がみんな外へ出ていってしまって、こういう言い方をするとあとで問題になる

かもしれないけれども、福祉的な経費のかかる人たちが都心に残ってしまっている、で一人当たりの市の市民税の収入がどんどん低下している。これは税制が住民主義をうたってるからそうなるのであって、都市にやってきて活動をすることによって付加価値の高い収益を得ている人たちがいるわけでしょう、都市を利用することによってもうけた分を取り戻して都市に還元するという、そういうふうな税制の手直しも絶対に必要なんじゃないか。

最後にまちづくりの理念となりますが、都市は人間の文明が指し示している方向を具現化する場でなければいけないと思うのです。だからそこでは弱者であってもある一定の保障は得られる、と。先ほどお年寄りが住みやすいから都市から離れない、と。それは非常にいい傾向なんです。そういうふうな一つの文明の理念的なものを都市は持っていかなければいけないんじゃないか。

**鳴海**　仙石さん、最後に……。

**仙石**　昭和64年に市制100周年がくるんですが、〝人・魅力・躍動〟という言葉を選びました。人を一番目に出してきたということは、これからは人の時代だろうという一つの大きな認識、これが産業・文化あらゆるものにかかわってくる。そして先導性という観点で事業を選んだわけです。

先導性というのは、新しいものをやるということで活性化をしようというもくろみもありますが、オールジャパンの視点で考えたときに、これは関西が持っている責務であるという考え方もできるんじゃないか。都市が一つの新しい時代に入ったときにそれを支えていくものが生まれるというのは、おそらく歴史的集積、文明の集積の大きさと深さがあってはじめて可能になるのだろう、と。ですからいまの新素材といわれるものにしてもコンピュータにしても、精密で洗練された技術というのは、京都のもっている伝統工芸のワザが見事に生かされているというふうにも考えられるし、そうなってくると大阪を含めて関西、この畿内というところが一番古い歴史をもって日本の新しい文化をつくっていかなくてはいけない。こうした創造性のほかにも、よいものを見分ける審美眼とか、大阪の実利性から生まれる実践力といった特質を活かすことが、まちづくりの大きな前提になっていると思っています。

そのときにいろいろご指摘がありました三都の問題というのは、これはやはり非常に大きな問題があるんですけれども、むしろこれは圏域全体を一つのものと考えて、日本にとって、あるいは世界にとっての畿内であるという感覚でまず共通ビジョンを持つということだろうと思います。これをいかにして早く形成をするか、しかる後それぞれの主体が実施するということは、これは緊張的協調関係というか、そこに競争の原理を働かしていく。首都圏の場合、東京がこけたら皆こけたというような状況が起こりうるかもしれない、こうした都市が本来もっている脆弱性が関西の場合には緊張的バランスでむしろ支えられとるのじゃないかと、そんな気がしてるので、これは少し言い訳になりますけれども、これからのまちづくりの考え方を述べた次第でございます。

**鳴海**　今日は熱心な議論、どうもありがとうございました。



と　き　昭和58年10月14日
ところ　日本建築協会会議室
傍聴者：編集委員
　　岡田信幸
　　田中直人
　　手嶋純一
　　宮口恒樹



宮口委員、田中委員、手嶋委員、岡田委員

アンケート

# 関西の21世紀へ向けての プロジェクトとまちづくりを考える

おりしも、大阪21世紀計画の端緒である大阪築城 400年まつりがオープンし、今、関西では21世紀へ向けての都市づくり・地域づくりプロジェクトがめじろおしですが、このようなプロジェクトは関西のまちづくりにとってどういう役割を果たしうるのでしょうか。
これをモチーフに、「21世紀への関西―魅力あるまちづくりを問う―」特集を正月号に企画いたしました。
特集は、座談会と、このアンケートと、建築・都市計画に大きくかかわっていくと思われるプロジェクトを選び出しグラフィカルに紹介する頁、の三つで構成されます。
アンケートでは、関西在住の建築・都市計画に携わる方々を含め、いろんな分野・年齢層の方々がこれらプロジェクトをどのように考えているかご回答いただき、21世紀へ向けてのまちづくりの第一歩をしるしておきたいと考えました。そこにいろんな考え方・見方が出てくればなお結構だと存じます。
下記のような設問をさせていただきますので、あなたのご意見をお聞かせいただきたいと存じます。

**関西には21世紀へ向けていろいろなイベントやプロジェクトが計画されています。あなたにとって関心のあるプロジェクトは何でしょうか。あるいは、「関西のこれからの発展」や「魅力あるまちづくり」の観点から、あなたならどんなことを考えられるでしょうか。アイデアでも、夢物語でも結構です。500 字程度でお書き下さい。（スケッチで回答していただいても結構です）**

上記設問でアンケートをしましたところ、予想を上まわる33人の方から玉稿をお寄せいただきました。それぞれに21世紀へ向けてのまちづくりの第一歩をしるす貴重なご意見です。以下に、回答をお寄せいただいた順に掲載いたします。（見出しは、編集でつけたものもあります）
アンケートを寄せられた方々に、誌面をかりまして厚く感謝いたします。

## 都市意識―そのゴジラ症状

デザイナー・チュニック社長 **鴨 居 羊 子**

大きなプロジェクトに目をうばわれるというよりも、盲目的、習慣的に過ぎてゆく、おちこぼれ生徒のような、大阪府市民の都市意識の採点、批判をします。

一．地下鉄の、あの進入、発車時に、狂気のごとく鳴りわたる警報、警笛の騒音は、何事でしょう！　大阪市民は、あんなものにおどかされないと、安全自律できない市民でしょうか？　大阪市と、大阪市民の声を聞きたいものです。
こんな超時代的な、ゴジラ症状が、21世紀へのプロジェクトにまぎれこまないことを祈ります。

一．いま、まぎれこまないことを祈りますと書きましたが、御堂筋、堺筋などに新しく設置されつつある前世紀的な街燈は、私にとっては、ゴジラ症状です。あの種のものは、とりのぞき、都市に視覚的にも整理すべきはずのもの。その街燈に、21世紀計画の旗がひるがえっているなど、まさにポンチ絵のモチーフです。その柱に寄進者のコマーシャルネームが無神経にビス留めしてあるなど、誰が計画し、誰がＯＫサインを出したのか？　その名を聞きたくなります。

（かもい　ようこ）

## 本当の21世紀への課題

京都大学名誉教授 **西 山 夘 三**

資本主義的国土構造の中で、大阪の東京に対する巨大都市圏の核としての機能低下を「地盤沈下」とみ、そのカサ上げをねらう関西の「復権」のためのさまざまなイベントやプロジェクトが持ち出されている。その本質は、国際環境や資本主義の脆弱性を抜きにして、幻想的な発展成長像にうかれてきた高度経済成長が崩壊し、不況局面に入っている事態を何とか引きあげたいという願望をかけられたさまざまな「目玉事業」に、21世紀という無責任な目標時点をかかげた「勢ぞろい」にすぎない。アンケートに挙げられている名目だけをきくと結構なプロジェクトのようだが、内容には疑わしいものも多い。

私はそうした目玉事業の牽引力に望みをかけることよりも、今日の日本の現状――高度成長の中で荒廃した日本の自然や環境、国土運営のシステムをどうとり戻すか、立地・形状・規模・内容からいってほとんど不良資産の蓄積ともいえそうな都市の構造や住宅の実態を直視し、人間性の全面的発達を保障し、経済大国にふさわしい本当に豊かな生活をささえていくような地域構造改善への民主的構想をうちたてることこそ、「21世紀」をかかげる中長期展望の中でとりあぐべきテーマだと思う。

（にしやま　うぞう）

## 海を借景にした空港

日本航空大阪支店長 **細川彰彦**

旅行の最初に到着した空港の第一印象は、大変、大切である。その印象が旅行全体に影響することが多い。最初が良ければ、途中で多少のトラブルがあっても、帰国してから楽しい旅行であったと、お褒めを戴く。

昔、海外勤務を終えて羽田に着陸したとき、飛行機の空気取入口から、くさい臭いがふっと出てきた。当時、羽田周辺の空気汚染のひどさは、われわれ日本人には周知のことであったので、ああ、やっと日本に帰ってきたのだなと、妙な感心をしたものである。これが外国からのお客さんであれば、印象は悪い。その点、成田はアクセス等の問題は残るが、広大で緑の多いことは気分がよい。

関西新空港について、その機能性も大切であるが、無駄の効用で余り、こせこせしない、ゆったりした部分を、ぜひ、残して欲しいものである。海上の空港となるのであれば、お寺の庭ではないが、海を借景にした美しい空港、降りてくる飛行機の窓から見ても美しい空港が作られ、海外からのお客さんの日本という国の第一印象が、よくなれば嬉しい。その美しい空港が、大阪にあるということで、大阪の名前がさらに、海外に広がる。（ほそかわ てるひこ）

## 地味な仕事だけれど

奈良教育大学助教授 **田中恒子**

大阪に生まれ、大阪で育ち、奈良に勤め、京都に暮らしている者として、あと20年足らず先の関西のまちづくりを考えてみると……。

ビッグ・プロジェクト主義を続けていていいのでしょうか。建造物は残りますから、事業をしたという手応えはあるでしょうが、既存の都市の混乱は放置されたままです。

地味な仕事だけれど、下水道の完全整備や歩ける範囲内での都市公園・地域図書館・スポーツ施設などの増設、老人のデイケア施設の設置などにこそ取り組んでほしい。

もっと地味な仕事だけれど、住居の水準を上げることが同時に必要です。住み方調査でいろいろな家庭を訪問していると、家族何人かで一室や二室に居住している悲惨さを前にして、時として言葉を失ってしまいます。住居は人間を育む場所です。関西百年の計として居住水準の向上に取り組んでほしいものです。（たなか つねこ）

## 新しい都市交通

ＭＫグループ会長 **青木定雄**

私は京都市のタクシー事業者ですから、21世紀というより現に直面している都市交通への対策、なかでも街に氾濫するマイカーをいかに減少させるかということにいちばん関心があります。

私は過去に数回、都市交通改革案を運輸省、京都市長、交通局などに提案してきましたが、マイカーを減らし、街から公害や停滞をなくするには、公共交通機関がもっと便利で、快適で、経済的なものでなければならないと思うのです。したがって都市内における交通機関は、鉄道もバスもタクシーも一体となって、利用者は１枚の切符でどう乗り換えても市内は均一料金でどこへでも行けるようになるのが理想です。

そうなればバスは今のように複雑な系統は不要になり、乗客のすくない時間帯の路線は乗合タクシーで代行することもできます。タクシーからバスに自由に乗り継げることでバスの乗客は増え公営交通の赤字も解消します。タクシーも乗合化し、路線化し、低料金にすれば今の数倍の人員を輸送するようになり、市内にマイカーに乗らなくてもすむ交通網が確立するでしょう。

そのためにはタクシー運転者の賃金を歩合制から完全月給制に変え、安全とサービスを高めるなど、やらなければならないことはたいへん多いのです。（あおき さだお）

## 24時間、人がいきいきと活動する街

大阪市立大学教授（経済学部） **磯村隆文**

① ユニークな海上国際空港としての新空港を期待しています。陸地へのアクセスも、海中パイプ（透明）の中を走るケーブルにしたり、空港のモニュメントはもちろん、全体のデザインを未来ＳＦ的なものにして、空港見学者が集まるようにすべきです。

② 大阪駅周辺再開発計画は、夜も人が集まる仕掛けにするべきです。ホテル群と同時に、快適な集団住宅群を組み入れることが必要です。

③ 御堂筋沿線の建物の一階部分をショーウィンドにして、ブロックごとに特長のある、消費財の常設見本市をつくるのが、いいと思います。あるブロックは北米ゾーン、つぎはアフリカ・ゾーンというように割り当てて、それぞれの地域の最高の商品群を展示するのです。商社がその気になれば、世界中のバイヤーを集めて、見本による商談を集中的にできることでしょうし、日常的には小売もできる仕掛けにすると人が集まります。昔の大阪のように、世界の商品を集めて、情報化して、付加価値をつくるのです。

ユニークな空港とユニークなショッパーズ・コスモス（御堂筋）、それに多くの人が住む都心が形成されれば、大阪は一日24時間、人がいきいきと活動する街に生まれかわるはずです。（いそむら たかふみ）

## 夢づくりから町づくりへ

わらべ亭・北条児童美術研究所 **北条カツ昭**

「子どもの絵それは子どもの心の世界からの手紙である」

しかし最近の子どもの描く絵は、なんとも単純で無感動に仕上がってしまう絵が多い。工事現場で大人の目を盗んで遊ぶときの子どものイキイキとした表情、きびんな動作、その子らしさ（独創性）といったものが、画用紙を前にすると子どもの体の中から消えてどこかへいってしまう。

考えてみれば、子ども自身が生活の中で絵を描きたくなるような生活体験（心の感動）がないのではしかたのないことである。そんな子どもたちを前にして私たち大人は、彼らが絵を描きたくなる生活環境を準備してやればいいのだが……。

*

私たちはまず、子どもの住む市、町の年齢別人口表を用意した。

そして京阪沿線の各市の人口の約4割を子どもたちが占めていることを知る。そして子どもにもあるはずの市民としての役割について考えてみた。金も力も持たない子どものできること、それは自分の意見を持ち、できることなら大人にそのことがわかるように表現することが、市民としての子どもの役割ではないかと考えた。

子どもたちは学校・道路・公園・生活・淀川等が将来このようになってほしいと、言葉で、文章で、そして絵でと表現した。多くの子どもたちは淀川に深い関心を示した。なぜなら、人間の作った都市と違って、淀川には子どもたちの思いを受けとめてくれる自然があるからである。そこでの作品群で「自然こそが信用できるぼくたちの友だちである！」と子どもたちは主張した。とりわけ小さな子どもたちにとって、太陽、緑、空間は生物としての本能のところで求めているようにさえ思えた。

大人が考える町づくりには大きく地域開発があるが、そこに住む一人ひとりの人間にとっては、自分の考え、未来に対する夢、その夢をはぐくんでくれる生活、そしてその夢を表現できる時と所の保証、そのようなものこそ、これからの町づくりの中で忘れてはならないことではないだろうか？

（ほうじょう　かつあき）

## 伝統文化の上に築くまちづくり

大林組顧問　**山本康雄**

関西は古くから、①瀬戸内海の東の行きどまりの地で、気候は温暖、②日本列島の中央部で、太平洋と日本海の間の最も狭い位置を占め、③平地は少ないが、琵琶湖や河川の水に恵まれていた。そのため、④古くから国の政治経済の中心として栄え、⑤中国や東南アジアなどと交流交易を進め、⑥政治権力が東へ移った後も、商工業を中心に発展を続け、⑦常に最も先端的文化の地として、その遺産や遺構も多い。

最近になって人・物・情報・文化の流れが、海から空へ大きく伸びてきたため、関西は今それへの対応をせまられている。関西新国際空港をはじめ、今進められているプロジェクトの多くはそのためであるが、21世紀の関西の発展は、やはりこれまでの歴史や伝統の延長線上に築かれなければならない。関西ではこの地の利や伝統文化の力を土台に、新しい国際化した地域づくりやまちづくりを進めていくことが、東京にはないユニークな関西の魅力あるまちづくりの基本であると考える。

私はかねてから〝住みたくなるまちづくり〟を唱えてきた。住みたくなるまちは与えられるものではなく、住民自体がつくるものである。関西人は〝声屋マダム〟のまちづくりの貴重な経験を持っているし、従来から民間主導の活力も強い。とはいえ、これからはまちづくりの専門家として、地域の建築家が先頭に立たなければ、〝住みたくなるまち〟は育たない。

（やまもと　やすお）

## 何か一つキラリと光るまちづくり

ＦＩＴ総合研究所代表　**春井秀雄**

私が地元の人々と一緒に考えているまちに西脇がある。この小さなまちもマイカー時代の到来とともに、今もっとも大きく変貌しようとしている。それは小さいながらも西脇を中心として周辺の多可郡を含んだ商圏を形成していたのが、車で1時間から1時間半で大阪、神戸の大都会に簡単に行けるようになったことだ。そのため西脇の商店街の地盤沈下が起こってきた。さらに繊維の不況で、かつては若者でいっぱいだったまちから、若者のいないまちに変わってしまった。

西脇のまちの再生をつぎの三つの観点から考えてみよう。

**現況分析**

今進んでいる中心部の空洞化は、まちづくりを行う上で一番まずい方向に向かっている。郵便局、市役所、病院等の市民の日常生活に必要な施設が、次々に市の中心部から、はずれていくため車がないと何もできないまちになりつつあること。そしてまちの中心には人通りがあまりみられない状況にある。よって店も幹線道路沿いの車の止められる店づくりを、個人個人が勝手に行っている。しかし今ならまだ、西脇のまちは徒歩あるいは、自転車で必要な施設（市役所、郵便局、警察、病院、商店街、スーパー、レストラン、娯楽施設、学校等）に行けるコンパクトにまとまった都市軸を形成することはできる。

**具体的な改善点**

どうすれば現状の都市機能を最大限に利用できるか。

・駅前商店街、センター街やスーパーが協力し、一体化して、他都市の商圏に負けないまちづくりをめざす。（ex. 織物工場跡をオープンマーケットや手作りの店等にするなどの活用によって一体化）

・今後はますます大きな商圏の勝負となるから、そのためにも何か一つはキラリと光る魅力あるまちづくりが必要。（まち全体が自然を生かした、便利で楽しい他都市では絶対真似のできないフリーマーケット）

・そのためには、車、バス、自転車や徒歩、どんな交通手段にもフィットするまちづくりをめざす。

具体的には、

「車の道」（車もスムーズに走れ、パーキングからはいろんな施設に行ける）

「人の道」（川の流れる道、ショッピングの楽しめる道）

「自転車の道」（まち一帯にはりめぐらされる、さわやかなサイクリング道）

「バスの道」（公園の道の中を走るバス）

そして道路を一本一本見直し、「一方通行」「大型車規制」「時間帯によって車の進入禁止」とかいろんな工夫をして、ゾーン全体で車をどう走らせるかを考える。

・また作文、シンポジウムでみんなの意見を聞くことも大切で、絵画展や子供のまちづくりシンポ等も開いていく。

**目標**

住みたくなるまち、行ってみたくなるまちとはどんな条件を備えているか。生活するのに便利で、まち全体に活気があり、若者が集まり、老人が憩える。そして子供が走り回れるまち。そのためには、まちに緑が多く水が流れ、そして車と人の道がある。時代を超越した落ち着きがある。そのために必要なことといえば、「まちに必要なものがすべて揃っている」ということになり、目玉として若者を集めるために、工芸短大（デザイン関係）を考える。そして西脇の魅力は、他の都市にはみられなくなってしまった「自然」がある。これをまちづくりの原点として大いに生かす。そして西脇にしかできないまちづくりを行う。

関西のこれからの発展には、このように独自の長所を活かした、ユニークなまちがいろいろできることが、必要不可欠である。

（はるい　ひでお）

## 大阪に21世紀の森を！

都市環境計画研究所　**長谷川弘直**

21世紀をめざす今、大阪に何が必要かを問う場合に、これまでの大阪の街づくりのなかに何をつくろうとしてきたのかを、現実のものを通して問わなければならない。

関西の玄関口と言われる大阪駅周辺の再開発には、この十数年興味をもってみてきた。しかし関西の玄関口として魅力ある街になっていないのではと思う。大阪らしさがない平凡な建築施設物の配置のなかに、もうしわけ程度のオープンスペースと緑が存在しているにすぎない。さらに質の低い素材とデザインによって構成された広場は、横浜や神戸にみるような都市広場としての魅力を少ない。つまり大阪を語るときに街の空間としての個性をイメージできる緑や、広場や、くつろげる場所がないのである。

東京での神宮の森やニューヨークのセントラルパークのように、大阪の駅周辺にも緑豊かな森が街の中心にあって、この森によってうけつがれてきている日本古来の森林文化の基盤づくりをまず大阪の街づくりのなか柱として都市の骨格を形成することが、関西のかなめ大阪の21世紀に向けた活気あるプロジェクトであろうと感じる。

20世紀においては、造ることによって風土も人の心も破壊と退廃の世界に追いこんできたと言えよう。21世紀を身近にみる今、大阪には緑豊かな＝心の利益＝を生む「森」こそ、大阪を生成させる宝であると言えよう。　（はせがわ　ひろなお）

## ニュータウンづくりと伝統的な美しさ

沢村デザイン研究所　**岩井珠恵**

いま、関西各地ではさまざまなニュータウン構想が提案されている。私はこれらのニュータウンづくりに対して、ヴィジュアルデザイン面から強い懸念をいだいている。というのは、これら新しくつくられるニュータウンが、現在あるニュータウンと同じように、マッチ箱風建物の行列になってしまうのではないかと思うからである。こん日、全国どこのニュータウンへ行っても同じ風景、すなわち、マッチ箱建物の行列が続き、都市空間の拡がりのおもしろさもなければ、風土性も感じられない。そうした面では、最近のパリやロンドンのニュータウンづくりは、建築物の形や外壁の色彩などに、おのおのの街の色あいを強く打ち出していて個性的であり、訪れる者への印象も強い。

日本には永年にわたって気候・風土に磨かれた美しい建物が伝えられている。ところが、ニュータウンにおいては、建築物への風土性や伝統的造形美の取り入れがなおざりにされているように思う。これらの造形的美しさを、これからのニュータウンの建築群にうまく生かせないものだろうか。

建築物は、人々に都市の印象（イメージ）を直接的に伝えるものであるだけに、個性的な美しい建物による新しい都市空間の創出を願わずにはいられない。　（いわい　たまえ）

## 視力障害者の夢

社会福祉法人日本ライトハウス理事長　**岩橋英行**

21世紀に向かい、障害者たちも希望に胸おどらせている。共産圏・自由圏を問わず、視力障害に悩むものの苦しみは同一である。社会生活、家庭生活、職業、教育に、大なり小なりの偏見と差別がともない、自由なる選択や行動は、なかなかゆるされない。

もし、21世紀に向かい、大阪を中心にした近畿圏において、盲人たちが先端産業の恩恵を受け、自動車の運転ができるようになり、健常者とともに、乗馬・テニス・射撃・絵が描けるようになれば、どれだけ楽しいか。また、美術館に行って、彫刻・絵画が健常者同様に理解できたら…。交通機関・公共建物・道路上で、障害者という気がねなしに行動ができ、百貨店で自由にものが選べたり、先天盲児たちが色を暗記によることなく認識でき、また手を拡げて「お空は、これの何倍？」という質問に、とまどうことなく教えられるであろう世紀に、夢は拡がる。そこに、真の文化の灯がともる。

文化とは、明るいところに灯をともすのではなく、暗さに視点をあてることこそ、真の文化ではなかろうか。　（いわはし　ひでゆき）

## 21世紀、大阪の研究都市構想

大高デザイン・プロダクション　**大高　猛**

これまで発表された21世紀への「大阪計画」なるものを拝見しても、スケールが小さく、拡がりがないように思われる。たとえば北大阪の設計を見ても、実験都市筑波の学園都市の焼き直しに過ぎないように見えるのはどうしたことか。これは、一定の地域だけの開発で、伸びやかな構想ではなく、発展は考えられない。

関西は、大阪、京都、神戸、奈良と大都市が隣接して、相互の個性が反発しあっているところに特色がある。

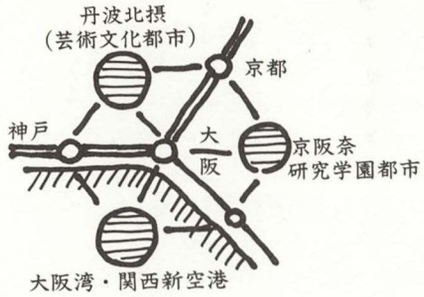
そこで、大阪計画を描くとき、大阪府全域の都市単位で、特色あるゾーンを作りあげる企画はいかなるものだろうか。たとえば、茨木、吹田各市は、文教、学園ゾーン。豊中、池田市はバイオテクノロジー研究ゾーン。摂津、門真、枚方、交野、四条畷市はハイテクノロジー研究ゾーン。箕面、守口、八尾市はソフト産業ゾーン。大阪市は情報集約研究ゾーンなどと、各都市を個性あるゾーンに作りあげるのである。市民も誇りをもって地域の文化施設を自慢し、喜びを感じ、育てようとする住民意識の高揚自覚がもてるのではないだろうか。　（おおたか　たけし）

## 第三プロジェクトの展開も！

神戸大学助教授・建築学科　**嶋田勝次**

関西はこれまで、京都・大阪・神戸という個性ある大都市を中心に発展してきたし、今後もそれぞれの特色を発揮しつつ展開をとげるべきだと考える。

「京都は着だおれ、大阪は食いだおれ、神戸は住みだおれ」といわれたり、「京都は学者がえらい、大阪は財界がえらい、神戸は行政がえらい」といわれたりもしている。何も三題ばなしをするつも




りはないが、他の大都市圏と異なるのは、関西は一点集中ではなく、これからも三都市とも各性格を尊重しながら役割を分担し、関西全体としての調和ある発展がさらに求められるのである。

ところで現在、21世紀に向けてのビッグプロジェクトが目白押しであるが、都市や府県単独のものを含み、共同の事業や国の計画に対して、これらを関西のみんなのものとして位置付け、全体の均衡体制をはかることが大切であろう。

そのためには、各プロジェクトの立地条件にも大きくかかわるので、たとえば京阪奈研究学園都市、大阪湾関西新空港の建設に加えて、もうひとつ北摂丹波における内陸都市のプロジェクト（例として芸術文化教育都市）を検討に加えるべきではないかと考える。

（しまだ　かつじ）

## 千里国際文化都市構想に寄せて

阪急電鉄取締役副社長　**小林公平**

千里ニュータウンは、着工からすでに20年を経て、成熟した都市としての風格を最近とみに備えてきている。しかし、国立民族学博物館長の梅棹忠夫先生は、この地域のもつ、未来にむかっての潜在的なポテンシャリティに着目され、千里は未完成であり、国際文化都市をめざして脱皮すべきだとして、昭和54年に「千里国際文化都市構想」を提唱された。構想そのものはご承知のことと思うので省略するが、千里を広域千里として捉え直した場合、「そのポテンシャリティというのは、単にこの一地域共同体の運命というようなレベルの話ではなくて、全関西、あるいは全日本の未来に対して重要な意味をもってくる種類のもの」であるというご指摘は、まことに卓見であると思う。

千里は、万国博の開催以降、国際化の洗礼をうけ、住民の文化意識も非常に高く、また国際関係の仕事に従事しておられる方も多いと聞く。

関西は、今、21世紀にむけて国際化の道を選択し、その実現の方途を模索しているが、京都・大阪・神戸の重心に位置する千里の国際化がすすめば、確かに関西全体の国際文化都市化を促進することになるであろう。この構想のすみやかな実現を願ってやまない。

（こばやし　こうへい）

## アマチュア文化育成のステーション

宇津木文化研究所主宰　**宇津木秀甫**

今の都市では、「地域」という概念でものごとをやっても時代をリードすることはできない。けれども、密度の高い地域型コミニケーションを復活させて、その核には21世紀らしい地域文化を燃やしておかないと都市は冷えきってしまうでしょう。21世紀の文化主流はアマチュアが創造していくと考えられますから、アマチュア文化創造のステーションが必要です。

たとえば、淀川両岸に大阪府営のセミナーハウス群をつくる。堤防にくっついた建物群は相互に関係する必要はあまりない。各建物から独自な道路的設備によって堤をこえて河川敷につながる。川と河川敷が交流と憩いの場。建物群は全体としては雑居アトリエ群。

事前に申請して認められた個人、グループは、半月ぐらいなら最低の飲食費で宿泊できる。

執筆。美術製作。音楽・舞踊の完成。映画や演劇の完成ができる。科学技術の進歩がすぐ利用できる設備があって、事前審査を経て製作用具の経費に補助金も出る。

両岸に設けるのは、寝屋川市付近のものは河内型で集約型蓄積型の文化創造を主として、高槻市付近のものは摂津型で諸文化の激しい通過をうけとめてこなす型の文化創造を主とする。双方を母なる淀川に船を浮かべて結ばせ、大阪らしいものとするため。

ここはあくまで創造の場で、発表は地域にもちかえるか、都心にもちだす。ちょっと無駄なようでもっとも活力のある場。こういう発想をどこかで生かしてほしいと思います。　（うつき　しゅうほ）

## 〝まちづくり〟にイベントのインパクトを

愛知学泉大学講師　**高田公理**

「京都国体」を愛称に、「新しい歴史に向かって走ろう」を合言葉に、昭和63年、京都で第43回国民体育大会が開催されることになった。この大会は、昭和21年に第１回大会が同じ京都で開催されて以降、すべての都道府県を一巡した後に開催される「第２巡・第１回目の大会」である。それが〝合言葉〟の所以なのであろう。

では、その具体的は中味は、どのようにデザインされるべきか。それを私なりに整理したのが、つぎの３点である。

①草の根のスポーツを生かす国体……一部のスポーツエリートの大会からの脱皮をはかる。

②第１回国民文化祭の同時開催を……「２巡目の国体」は、スポーツのほかに、国民のあらゆる文化活動を集約する場を併せて設けてはどうか。

③エレクトロニクス国体……ＩＮＳなどの実践的な実験フィールドとして国体のインベントを位置づける。

こうしたコンセプトを〝国体〟というイベントにうめこむことに成功するならば、それは、たとえば「建都千二百年祭」などのイベントの準備作業としても貢献しうるとともに、あまたある〝地域開発プロジェクト〟の推進に実質的で有効なインパクトを与えることができるのではなかろうか。　（たかだ　まさとし）

## 提案―成熟した都市づくり

黒田建築設計事務所　**永福より子**

ヨーロッパの都市を日本の都市と比較して、第一に都市の住宅の多さに驚く。パリとかウィーンの都心には実に沢山の人々が生活している。オフィスや商店と住宅とが立体的に渾然とした活気をつくり出している。

夜になるとゴーストタウン化する日本の都心へも一度人々を呼び

戻すことはできないだろうか。たとえば神戸の中心三宮周辺は現在高層のオフィスビルや再開発商業ビルが多く建てられているが、3階以上の高層部分を住宅スペースにとれないだろうか。職場が近ければ、昼食時には家までいったん帰り、レコードの1枚も聴ける。アフターファイブの過ごし方も随分ちがってくる。シャワーを浴びてから夜のパーティーへ出かける余裕もできる。終電車を気にすることもない。図書館、美術館、コンサートホールなどの都市施設も身近になる。

神戸は山と海にはさまれた傾斜地に発達した都市だけに自然の変化に富んだ景観が素晴らしい。六甲山が迫っているので、居ながらにして春の新緑、秋の紅葉が楽しめる。神戸港沖にははるか大阪湾、淡路島が一望できる。まだヨーロッパから学ぶものがあるとすれば、都市での住まい方ではないだろうか。昼も夜も活気に溢れた街づくりこそ、成熟した魅力ある21世紀の都市の姿ではないだろうか。

（ながふく　よりこ）

## 夢を京都に実現していく

京都商工会議所会頭・ワコール社長　**塚本幸一**

大阪21世紀計画は、大阪の活力化に創造的な役割を果たしているが、京都と神戸に同様の計画と委員会が出来て、将来それをつなぐ関西21世紀計画となれば、復権が一層円滑となる。

私の立場として最も関心の強いのは京都であるが、なんとしても「文化首都構想」を推進しなければならぬと考えている。新旧の文化が整然と共存できる素地を持つ京都は、日本の世界に誇る文化都市である。

1．'86年の先進国首脳会議（サミット）の誘致。
2．国際会議場の整備・強化と国際的宿泊施設の建設。
3．10年後の1994年には、平安建都1200年祭と種々のイベントの実施で、世界の耳目を集める。
4．さらに翌'95年には、京阪奈丘陵の学術文化研究都市において、学術、文化の万国博覧会の開催等々。

このほかにも、「国立歌舞伎劇場」の誘致、市民ホール、常設美術館、市役所の新築移転、さらには、皇太子殿下の主催される公式園遊会の定期的開催と新離宮、迎賓館の整備など夢はふくらんでいく。

また、もうひとつは、京都がプロ野球チームを持ち、全天候型3万人、3千台収容の球場を持ち、プロスポーツの面からも全国からの注目を集めてみたい。

（つかもと　こういち）

## 地文、水分、人文、天文の有機的活性化

大阪府立大学農学部教授　**久保　貞**

21世紀へ向けて、〝国際化〟、〝高齢化〟、〝情報化〟の時代がくると考えられる中で、関西地域がこれまでに育んできた活力を基盤に、人間性豊かな地域づくり、心身ともに健康に生活を営み得る環境づくりが望まれる。そのためには、大阪・京都・奈良・兵庫・和歌山・滋賀のそれぞれが保有する地文・水文・人文・天文資源等を有機的に活性化あるいは再活性化する知恵の開発が鍵となってこよう。

いい意味での関西気質で、自らの力で築きあげてきたさまざまな文化を、来るべき国際化、情報化社会の中で新しい環境の創造といった視点で開花させる契機としての関西新空港構想、京阪奈文化学術研究都市構想の国家的プロジェクトの推進が持つ意義は大なるものである。関西新空港は、世界各都市の文化と直結するインターナショナル・カルチュアポートともいうべきわが国の空の玄関として、また京阪奈文化学術研究都市は、関西地域の豊かな風土性を基盤とした人間生活文化の創造と保全の英知を探究する場としての役割を果たし得る能動的、啓発的機関としたいものである。

しかし、グローバルな時代へ向けてのイベントやプロジェクトの底流には、これまで以上に柔軟な頭脳と豊かな心をもちあわせた人間を育てあげていく哲学を模索していくことが必要である。

（くぼ　ただし）

## 水辺を市民にとりもどしたい

市浦都市開発建築コンサルタンツ社長　**富安秀雄**

大阪に限らず、都市の多くは水辺に育ってきたが、この100年、海辺、河辺は、産業用地として使用されてきた。20世紀を支えたのは、工業であり、それを支えた舟運・倉庫・工場が水辺に立地した。おかげでわれわれの生活水準は向上し、暮らしも豊かになったが、都市環境という点からは、最も広々としたオープン・スペースであった海や河、都市として最も身近にあった大自然の水、それに触れ、陽光の反射を眺め、匂いを吸いこみ、人々が群がり、憩う水辺が消失してしまった。

21世紀は、脱工業社会といわれる。情報化社会といわれる。そんなむつかしいことを言わなくても、すでに都市の水辺の相当部分を占めていた港湾・流通機能・工場の多くは、自動車輸送の増大に伴って、かつての水辺立地の必然性を失いつつある。また都心部の水辺の評価も高くなっている。

何とか、都市の水辺を幅広く市民スペースとして、美しい建築と、緑地をめぐらし、水辺を楽しみ、憩う場所として蘇生させ、21世紀にふさわしい姿としたい。これは別に関西に限ったことではないかもしれないが、瀬戸内海や、淀川といった美しい水辺を持つわれわれの取り組まなくてはならないプロジェクトである。

（とみやす　ひでお）

## 変身を楽しめるまち

地域活動研究所代表　**藤田敬一郎**

10年前までは、100世帯にも満たなかった集落が、4000世帯、5000世帯のニュータウンになる。そこに集まり、そこを人生の〝ついのすみか〟と思い定めている人々の生き方・生活の仕様はどのようなものであろうか？

通勤に往復4時間をついやし、帰宅途中の縄のれんと帰宅後のテレビとビールで一日を終える亭主は、なんのために生きているだろう？尻を叩くだけの女房は、人間の豊かさや明るさをどう考えているのだろう？

ロジェ・カイヨウは、人間が人間らしさをとりもどす〝あそび〟の世界を、①競うこと、②偶然を楽しむこと、③変身すること、④めくるめきに身を委ねること、に分けてみせた。

カラオケを伴奏に目を閉じて、己が美声に酔う人は、森進一に、青江美奈に変身しているのであろう。そのような変身。ターザンや貴婦人、自動車修理工や農夫、自然科学者や芸術家、一流のアスリート。少年少女へのタイムトンネル。そんな〝ごっこ〟を楽しめる〝場〟のあるまちができないものか？

創る側の人々に純粋な〝あそびごころ〟があったとき、私たちは変身の楽しさを味わえるまちに住めるだろう。（ふじた　けいいちろう）

## 関西文化学術研究都市に託す夢

国土庁大都市圏整備局大阪事務所長　**上本仁士**

京阪奈文化学術研究都市の構想づくりに直接関与していますので、この都市づくりに託する夢について触れてみます。これは、夢というよりは、将来の日本全体のためにも実現していかなければならない目標ですし、永年月かかるにしても、夢というには、切実な課題であると考えます。

ご存知のとおり、日本は世界の中でも経済大国といわれるまでになりましたが、これからは、貿易摩擦や、文化摩擦が大きくなり、国際社会の中でのカジとりが難しくなってきそうです。今まで欧米先進国が開発した技術をコピーして自動車や電機製品などの量産化で稼いできたともいえるのですが、この方向にかげりが見えてきたと思います。

今から必要なことは、日本の文化やものの考え方を他の国々の人々にも理解してもらうこと、また、真に独創的な知見に基づいた学問やそれから得られる科学技術の成果を生かした商品や生活システムを開発して人々の生活を豊かにすること、これらのことで日本が国際社会に貢献することだと考えます。

関西文化学術研究都市は、そのための文化、学術研究、産業、都市の拠点になって欲しいと願っています。（うえもと　ひとし）

## 大阪のまちづくり—二つのポイント

竹中工務店開発計画本部本部長補佐　**佐々木廣年**

魅力ある関西をつくるためには、その中心的存在である大阪を魅力あるまちとすることが有効なはずです。その意味で府や市で掲げられているプロジェクトはどれも意義深く、大阪のまちづくりに貢献することは明らかです。しかしこれらのプロジェクトの実現がすべてではなく、並行してさまざまな活動がなされてはじめて都市の計画、建設、運営等の総称としての〝まちづくり〟が進行するはずです。そこで大阪のまちづくりで比較的等閑視されていて、今後重要性が増すと思われる二つの側面についてふれてみたいと思います。

一つは都市経営という側面です。最近話題の、民間活力の導入という現象は都市経営の表出として捉えられます。ところで地方自治体の相手は民間企業だけでなく国や他の自治体、あるいは住民であり、これら幅広い対象とのやりとりでいかに都市全体としてプラスを生み出す選択をするかが都市経営の基本だと思います。大阪は過去にいくつか優れた実績を持ちながら近年はその冴えを見せていません。肥大化が迅速な対応力を失わせているにしても、都市経営の感覚を官民ともに研ぎすまし長期間それを持続することが大切だと思います。

もう一つは都市デザインという側面です。都市の魅力とは、つまるところ行って楽しい空間、気持ちのよい空間があるかどうかにかかっています。大阪の都市空間を再評価し、具体的な方策を探り出し実行すること、そしてこれも長期間その姿勢を保持し続けることが大切です。

都市経営と都市デザインとは一見矛盾する概念のようですが、これを両立させることが、大阪を魅力あるまちとするために重要なポイントだと思います。（ささき　ひろとし）

## 大阪こども村構想

生野こどもの家園長　**細川速見**

こどもたちの生活を点数評価で点検する「生活しらべ表」という調査が今学校ではやっています。たとえば、朝ウンコがでると２点、その日のうちにでると１点、でないと０点。また、朝７時までに起きると２点、７時半までだと１点、それ以後だと０点といった具合に点数をつけ、合計してきめられた合格点と比べるものです。このような表は他にも、「本読みがんばり表」「忘れものしらべ表」など数多くあります。これらはいずれも、こどもたちのために、という名目で学校の側が彼らに押しつけているものです。家に帰れば帰ったで塾や習いごとが待っています。就学前でさえ、ピアノ、スイミング、公文、体操を週１回から２回習いに、毎日どこかへ通っているこどももいます。親と学校の両方から追いつめられているこどもたちの姿がはっきり見えます。

こんなこどもたちにとって、大人から管理されない、こども一人ひとりが自分の主人公になれる自由空間が、今どうしても必要です。そこは大人の指図が一切なく、こどもたちがやりたいことを自分で決め、自分でやる場です。素材としての自然、援助者としての最低の数の大人、そして雨風がしのげる家やテントさえまずあれば、あとはこどもたちが必要な物を要求するでしょう。そこで繰り広げられるこどもたちのドラマを大人は黙って見るだけでいい。そして、私たち大人は追いつめてしまったこどもたちに謝らなければなりません。（ほそかわ　はやみ）

## 魅力あるまちづくりは住まいづくりから

群設計一級建築士事務所　**王柏群**

戦後の住宅困窮期からはようやく脱したとは言え、都市における住まいのあり方にはまだまだ多くの課題が残されている。

・旧市街地では「狭」に悩み、新興の郊外地では「遠」にあえぎつつ日常の生活が送られる。

・加えて、ローン返償に行き詰まるような不測の事態でも起ころうものなら、我慢はその限界を越え、往々にして家庭不和や引いては少年非行といった不幸な結果を招く。

・思い過ごしかも知れないが、老人が家庭内でとかく家族との軋れきを生じ勝ちなのも、若者が喫茶店やゴーゴークラブに入り浸るのも、もとをただせば居住空間の貧困に端を発しているのではないかとさえ思う。

・「衣食足って礼節を知る」は、現代風にはさしづめ、「住足って人和む」とでもいうべきだろうか。

・21世紀へ向けてのまちづくりでは、とくにこの点に注目して、さらに一段と豊かな住まいづくりに力を傾注したいものである。
・まちの基本的な構成単位である家族のあり方が、そのまちの、引いてはその国の豊かさを示すバロメータであると考えるからである。
・幸い大阪市内における都住創による一連のコーポラティブ住居の例に見られるように、解決への糸口はつかめるように思う。
・住み手の積極性と協調性にプロジェクトチームの熱意と創意工夫、そして公的機関のバックアップという三つの要件が備われば、豊かな住まいづくりはあながち夢ではないと思う。（おう　はくぐん）

## 神戸ポートアイランド

神戸市市長室参事　**高寄昇三**

神戸の海上都市ポートアイランドは、現実に動き出している21世紀都市として、21世紀への関西の一つの牽引車となることは間違いない。なぜなら多くの計画が構想段階のユニークさにもかかわらず、実現に手間どるのみでなく、実現後は必ずしも当初の構想どおりにはいかない。その点、ポートアイランドは予想どおりの展開をみせている。

その一つは、コンベンションスクエアとしてのポートピアホテル、国際交流会館、国際展示場など、いわゆるコンベンション３点セットの盛況ぶりである。多くの都市がコンベンションシティとして名のりをあげているが、空間設計、施設配置、都市経営などの点において見るべき成果は上がっていない。その点、これら３点セットを１ヵ所に立地させた先見性は高く評価され、関西の将来に一つの刺激剤となることは間違いない。

二つは、ファッション・タウンである。ワールド、ジャワ、UCC、アシックス、風月堂、キムラタンなど、神戸市内のファッション関連企業が、１ヵ所に立地した都市空間は、従来のビジネス街のイメージを変えるのみでなく、新しい都市魅力を創り出していく。さらに、同じファション関連企業間の異業種相互交流をつうじて、より高い水準のファション機能を生み出すことになろう。

三つは、その都市空間のもつ魅力である。人工島、コンテナー、新交通、超高層住宅、ファションタウンの現代建築群からなる21世紀の都市美は、都心からの近接性も加わり、関西の新しい魅力の一つになるであろう。

以上のような点から考えて、ポートアイランドは21世紀の関西を考える上にあって、先見的実践として常に注目されてしかるべきであろう。（たかよせ　しょうぞう）

## 施設の充実に期待する

大阪市都市整備局阿倍野再開発事務所所長　**石浦英郎**

昨今「大都市の衰退」とか「大都市の再生」とかいう言葉をよく耳にするが、大阪市も例外でなく、都市の活力を示すバロメータの一つである常住人口も昭和40年の315万人をピークに減少し、現在約262万人と推計されている。企業にしても本社機能を東京に移すケースが多く、産業構造の変化も加わり、経済の地盤地下もいわれている。

こうした状況の中で、「大阪築城400年」、「大阪市制100周年」を一つの契機として、大都市大阪の再生、さらに関西の復権をめざし、世界に開かれた国際都市に変貌させようとする努力は意義深いものと思う。とくに21世紀まで20年近い期間にわたり、毎年多彩な国際的なイベントを繰り広げる「大阪21世紀計画」は、行政、財界、それに一般市民が一体となって連帯し合い計画を推進し、参加するということは、あらゆる分野にはかり知れないインパクトを与えるに違いない。

イベントというソフト面を成功させるためにも、ハードな施設面での充実が必要であり、関西新空港の建設をはじめとして、大阪市制百周年記念事業での国際交流センター、近代美術館の建設、また大阪ビジネスパーク内の国際会議場の建設と、注目すべきものが多い。また大阪経済の地盤沈下をくい止め、その切り札として北港地区で計画されている先端技術と情報通信の集積を目指す「テクノポート建設計画」は大いに期待したいと思う。

私が担当している阿倍野地区市街地再開発事業も南大阪地域発展へのかなめとして、副都心づくりと市街地住宅の整備を進めているが、地元住民有志による計画案も提案されており、良い点はどんどん取り入れ、関係住民との連帯のもとに21世紀に向けて、よりよい街づくりを目指していきたいと考えている。（いしうら　ひでお）

## 21世紀における生活環境の魅力とは

奈良女子大学教授　**近藤公夫**

設問には「魅力あるまちづくりを問う」とある。それではその魅力とは何なのか、を考えることが課題の前提として必要と思われる。

1984年を迎えて21世紀まで16年、その間に生活の環境が都市を中心としていかほどまで変化するか。それが遠いようで案外と近く、大きい変化があるようで本当にそうなのか疑わしいことは、16年前の昭和40年代前半の生活環境と今日のそれを比較していえよう。

とはいっても問題視されねばならない課題は、その社会における生活欲求の多様化や社会構成員の老齢化をはじめ、近未来の「まちづくり」が対応すべき事態の数々を考えると、実は、デメリットサイドにおいて著しいのかも知れない。

なかでも注目を要するのは、市民平均の就学年数が13年から14年に迫りつつある高学歴社会の、市民が持つ生活欲求の発展と、それへの社会的対応とのアンバランスの増大、いわば社会的な欲求不満の拡大であろう。

とすれば、魅力ある生活環境の整備（まちづくり）とは、これに対応する可能性を持つバッファーの豊かなフレキシビリティに富む計画といえよう。そのバッファーには「みどり」の問題が中心になるのでは、といえば我田引水に過ぎようが。（こんどう　きみお）

## プラスに伸ばす住民の動き

大阪大学大学院(工学研究科)　**土肥絵理子**

21世紀に向けて、数々のプロジェクトが計画されており、それぞれが、関西の新しい顔を形づくるものとして興味深いものであり、とても楽しみである。

ところで、それらのプロジェクトが、いかにその周辺の居住者や、その影響を受ける人々と、うまくなじみうるかが、私の最大の関心

事であり、そういう意味で、関西新空港計画に合わせて、地元商店主らが中心となり提案されている阿倍野再開発事業が、私の最も関心あるプロジェクトである。計画されたプロジェクトは、ともすれば、受け入れ側と対立状態にあったり、計画地域内だけのものに終わりがちである。阿倍野は、必ずしも関西新空港によるマイナスの影響を直接受ける場所ではないが、進行中の計画に対して、住民側からも進んで、そのプラス面を伸ばしていこうとする動きは新しいものであり、たいへん興味深いものである。

私はこのような、計画されたプロジェクトに触発されて生まれてくる、半自然発生的な住民の動きがあってこそ、そのプロジェクトをその地に実施する意味も高まるものであると思う。大阪の21世紀は、外からの新しい風ではなく、地元から湧き上がる新しい風によって、初めて魅力あるものになると思う。（どひ　えりこ）

## エリアイメージアイデンティティの構築

大丸本社デザイン室長　**堀田昭二**

大阪21世紀計画は、58年10月に開幕し、御堂筋パレード、世界帆船まつり、国際デザイン・フェスティバルなどが行われて、華やかなイベントに耳目を奪われ勝ちであるが、これらを、グローバルな視点に立ちつつ、「人間の住む街」を基本に、中長期的な展望のもとに、ダイナミックな再開発計画を推進してもらいたいものだと考えている。

いま、中央集権から地方分権へ、地方の時代といわれているが、政府、公共機関等の事業も、東京への過度な集中をさけ、関西においても、もっと展開されるであろう。

このような地域再開発に当たって、私は、今後の各地域の調和ある発展のためのキイ・ワードは「地域イメージの統合と、それにふさわしい環境、施設」であるべきだと思う。個性化、多様化、価値多元化の成熟社会の進展とともに、より感性ゆたかな人々の心を惹きつけるには、その地域の特色をアイデンティファイし、それを遺憾なく発揮させるにふさわしい街づくり——ハードウェアがあるべきで、そうでないとどこの国なのか、誰が住むかもわからなくなるだろう。

地域のアイデンティティが集まって、地方の、そして国のイメージが醸成されるようなイメージ・ミックスも大事で、21世紀計画推進団体のなかに、そうしたディレクションをする組織がいるのではないかと考える。（ほった　しょうじ）

## 日本文化研究所の創設

京都市計画局企画室長　**大西国太郎**

国際化時代への的確な対応——これが、関西を飛躍発展させるための大きな要件であると思う。関西国際空港の建設をはじめとする海・空の交通施設や新時代に対応した情報通信システムの整備を進め、経済、文化などのあらゆる面での交流を活発にしていく必要がある。

しかし、その前に、日本への正しい国際的理解を獲得しておく必要があるが、残念ながら、日本への理解の不足から貿易摩擦やさまざまな誤解、不信などを引き起こしている状況にある。諸外国は、日本や日本文化についてほとんど知ることなく、日本はただ勤勉と幸運によって異常な経済発展をとげた不思議な国とみなされている。

「日本、日本文化とは何か」、「日本は世界においていかなる意味をもち、いかなる役割を果たすべきなのか」と問われた場合、今の日本は、十分によく答えることはできない。日本および日本文化を総合的に深く研究する機構が欠如しているからである。

日本への正しい国際的理解を得るために、日本文化の積極的な移出を行う必要があるが、そのベースとなる日本および日本文化の総合的研究を組織的に進める必要がある。

京都市は、昭和55年に、「世界文化自由都市宣言に基づく提案」の大きな柱として、「国立日本文化研究所」の創設を提言し、日本文化の蓄積豊かな京都の地に、その設置がなされるよう、その推進に努めているところである。（おおにし　くにたろう）

## 身近な大プロジェクト

日建設計社長　**薬袋公明**

関西には大きなプロジェクトが、長い間の研究課題として話題になってから久しい。

そのほとんどは長い時間を要するものばかりで、当社もそれぞれについてその時々にお手伝いをしてきていますが、それはそれとして置いて、一方で、私は個人的に、機会あるごとに唱えていることが一つあります。それは、公園の分散再配備ということです。

大阪市の人口がようやく㊀方向から㊉に転じてきました。仮住まいの㊉か、定住という形で今後も増えてゆくのか？　という時点に大阪市は立たされたと私は見ています。この機会に、定住方向での年々の増加を誘導させることが肝心です。そのための施策は数えればたくさんありますが、私は公園（100M×100Mとか70M×70Mといったいわゆる〈スクェア〉）、小さな公園を沢山つくることを、街づくりの大方針の施策の一つとして市でやっていただきたい、つまり〈スクェア〉を作るための土地を公が確保して、その〈スクェア〉を取り囲む低層高密度でゆったりとした住居（平均1棟20戸程度）を、利益還元的な意味を持つ特別な規制のもとで、住宅デベロッパーに任せてゆくことです。

倉庫地帯や繁華街に忽然とマンションが無計画に建ってゆくようでは、とても定住人口の増はあり得ないでしょう。また郊外型の大団地、一点集中的な開発を新たにすることは、手のつけられないスラム地帯を21世紀に遺産として残すことになります。

現在大阪市の市域の40%が幸い住居地域であることに私は着目し、その可能性に向かって努力することも21世紀へ向けての一つの身近な手のとどく大プロジェクトとなると思いますが、いかがなものでしょう。（みない　きみあき）



# 21世紀をめざす
# 関西のプロジェクト紹介

21世紀へ向けて、関西地方でも、多くのプロジェクトが企画されている。本特集のひとつの柱として、大阪府、兵庫県、京都府、滋賀県、奈良県、和歌山県の二府四県下の地域で構想されているプロジェクトを洗いざらい拾ってみた。

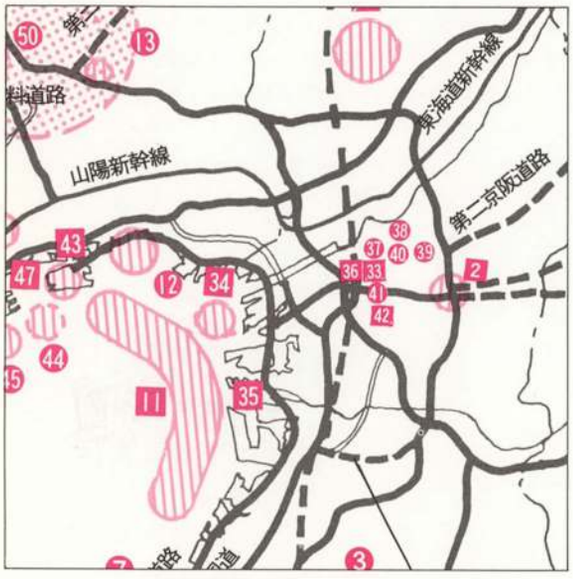
いわゆるビッグプロジェクトと呼ばれるものがほとんどであるのはいうまでもない。その数は、およそ200例以上にのぼる。打ちあげ段階の具体性のないものもあるし、逆に予算化されて実行段階のものもあり、さまざまではあるが、すべてを網羅することはむつかしい。そこで、原則として、単体建物、交通土木だけのものははずし、面的構想を中心としたものを追ってみたが、それでもかなりの数にのぼる。

とりあえず、右記のマットにプロットした事例は、大阪府下（大阪市を含めて）で21例、兵庫県下（神戸市を含めて）で17例、京都府下で5例、滋賀県下で3例、奈良県下で2例、和歌山県下で3例で、計51事例になる。なかには、府県の境界域に位置して、複数府県にまたがる事例（関西文化学術研究都市構想）もあるが、主体性の強い府県に入れた。

これらの51事例のうち、それぞれの府県の関係者より紹介記事をいただいたプロジェクトは24事例になり、以下に記事として掲載したが、これらの24事例は■印で地図にプロットした。そのほかの紹介記事のない（また何らの理由で書けない）プロジェクト27事例は●印で地図にプロットした。

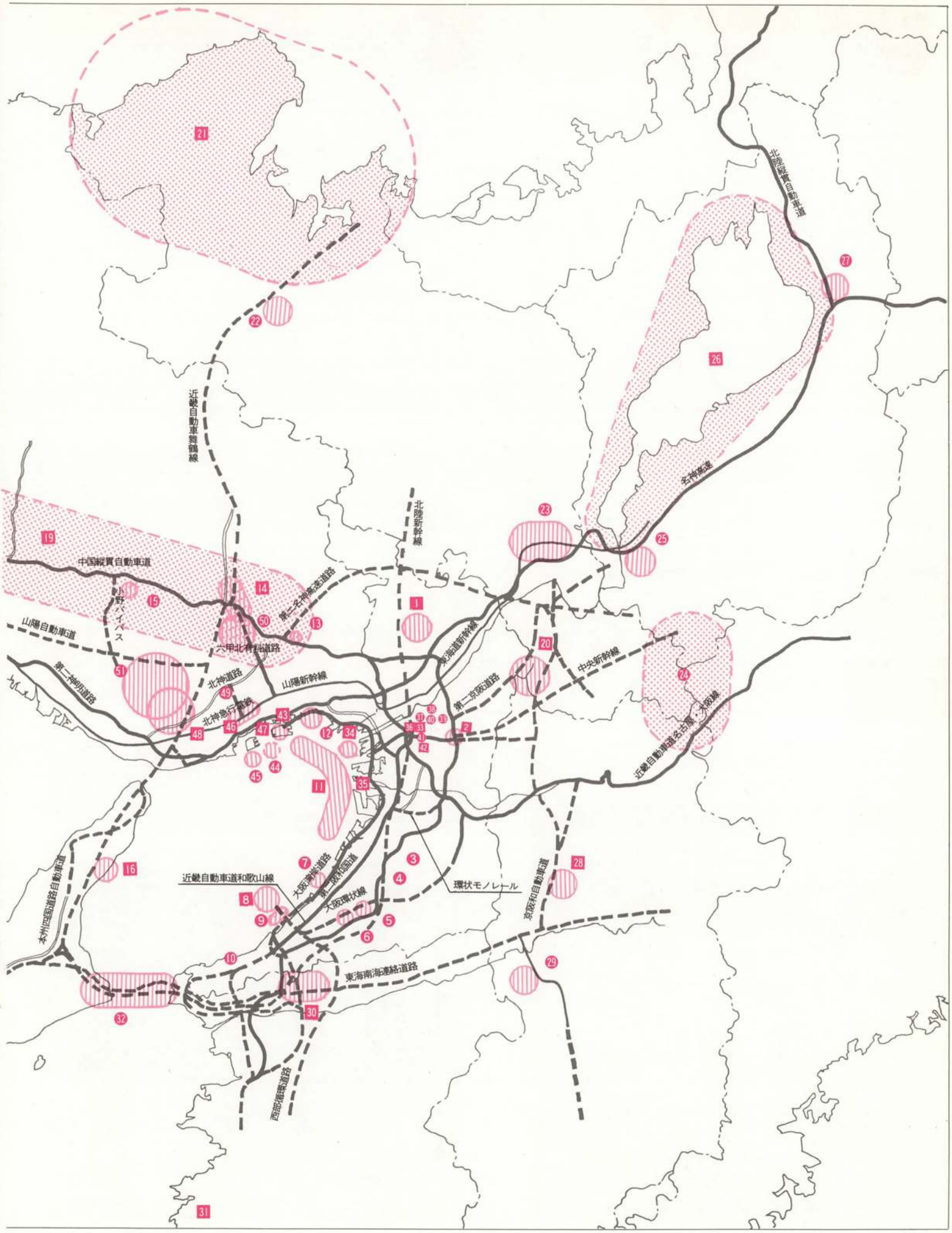
これらのプロジェクトを通じて、21世紀をめざしての関西のプロジェクトの方向性はおよそ浮きぼりにできるのではないかと考えている。魅力あるまちづくりをめざすために、批判の材料にされてもよし、推進のモメントにされてもよし、何らの参考になれば幸いである。

最後に、原稿資料をお寄せいただいた関係各位に厚くお礼申しあげる。




| 地域 | 番号 | プロジェクト名称 |
|---|---|---|
| 大阪府 | 1 | 国際文化ゾーン構想 |
| | 2 | 東大阪新都心整備構想 |
| | 3 | こどもの城 |
| | 4 | 和泉丘陵ニュータウン |
| | 5 | サイエンスランド |
| | 6 | ネイティブランド奥水間地区構想 |
| | 7 | 二色の浜 |
| | 8 | 関西国際空港構想 |
| | 9 | 前島構想 |
| | 10 | エネルギーランド |
| | 11 | フェニックス計画 |
| 兵庫県 | 12 | 芦屋沖レクレーション開発計画 |
| | 13 | 名塩ニュータウン |
| | 14 | 北摂三田ニュータウン |
| | 15 | 社町内陸工業団地 |
| | 16 | 兵庫アジア・ポート構想 |
| | 17 | 西播磨テクノポリス |
| | 18 | 母と子の島 |
| | 19 | 緑の回廊 |
| 京都府 | 20 | 関西文化学術研究都市構想 |
| | 21 | 丹波レクリエーション都市構想 |
| | 22 | 綾部工業団地（60ha） |
| | 23 | 京都駅周辺地区再開発 |
| | 24 | 京滋奈空港構想 |
| 滋賀県 | 25 | びわ湖文化公園都市構想（ユートピア・シティ構想） |
| | 26 | 環びわ湖保全修景公園化構想 |
| | 27 | 長浜工業団地（23ha） |
| 奈良県 | 28 | 国営飛鳥歴史公園整備事業 |
| | 29 | 南大和田園都市（400ha）・阿田峯工業団地（87ha） |
| 和歌山県 | 30 | 和泉かつらぎ研究学園ゾーン |
| | 31 | 御坊田園テクノタウン |
| | 32 | 紀淡トンネル |
| 大阪市 | 33 | 大阪ビジネスパーク（O・B・P） |
| | 34 | 大阪北港の開発構想（600ha）<br>スポーツランド（100ha）テクノポート大阪（120＋130ha） |
| | 35 | 大阪南港国際文化ゾーン<br>多目的ホール、ドーム、国際見本市会場 |
| | 36 | 大阪駅周辺地区整備計画<br>梅田貨物駅再開発計画 |
| | 37 | 淀川リバーサイド計画（35ha） |
| | 38 | ベルパークシティー（16ha） |
| | 39 | 花の万国博 |
| | 40 | 淀川貨物駅跡地 |
| | 41 | 国際交流センター |
| | 42 | 阿倍野地区第2種市街地再開発事業 |
| 神戸市 | 43 | 六甲アイランド |
| | 44 | 「第三の島」 |
| | 45 | 神戸沖新空港 |
| | 46 | 都市林"こうべの森" |
| | 47 | メリケンパーク |
| | 48 | 神戸研究学園都市 |
| | 49 | 総合福祉ゾーンしあわせの村 |
| | 50 | 北神ニュータウン |
| | 51 | 西神インダストリアルパーク、西神ニュータウン |




北陸縦貫自動車道
名神高速
近畿自動車舞鶴線
北陸新幹線
中国縦貫自動車道
小野バイパス
第二名神高速道路
山陽自動車道
六甲北有料道路
東海道新幹線
中央新幹線
北神道路
山陽新幹線
第二神明道路
北神急行電鉄
第二京阪道路
近畿自動車道名古屋・大阪線
環状モノレール
近畿自動車道和歌山線
大阪湾岸道路
第二阪和国道
大阪環状線
本州四国連絡道路自動車道
京阪和自動車道
東海南海連絡道路
西部湾岸道路

## A プロット番号 1 国際文化ゾーン構想

所　在　地　北大阪地域（7市3町）
計画・事業主体　——
計画・事業年度　——
用　途・規　模　——

大阪府では、文化開発を地域整備の基本においた文化ゾーン構想の一つとして、国際文化ゾーン構想（北大阪地域が対象）を推進している。

千里丘陵に連坦する北大阪地域一帯は、京阪神三都の重心・要衝に位置するという恵まれた立地条件にあり、千里地域研究グループ（代表・梅棹忠夫民博館長）が地域からの発想として「千里国際文化都市構想」を提言しており、国際文化ゾーン構想は、これをとり入れながら、すでに集積がすすみつつある教育・研究・文化機能を生かす方向で、関西リサーチコンプレックスの一翼を担う国際的な学術・文化・情報拠点の形成をめざすものである。

構想内容としては、下記の4つの中心核とその周辺部の小規模核とで構成されている。

(1)新都心文化プラザ：千里中央と船場センイシティーを結ぶ地域は、市民交流・情報・文化・商業の拠点として北大阪における新都心の形成をめざす。

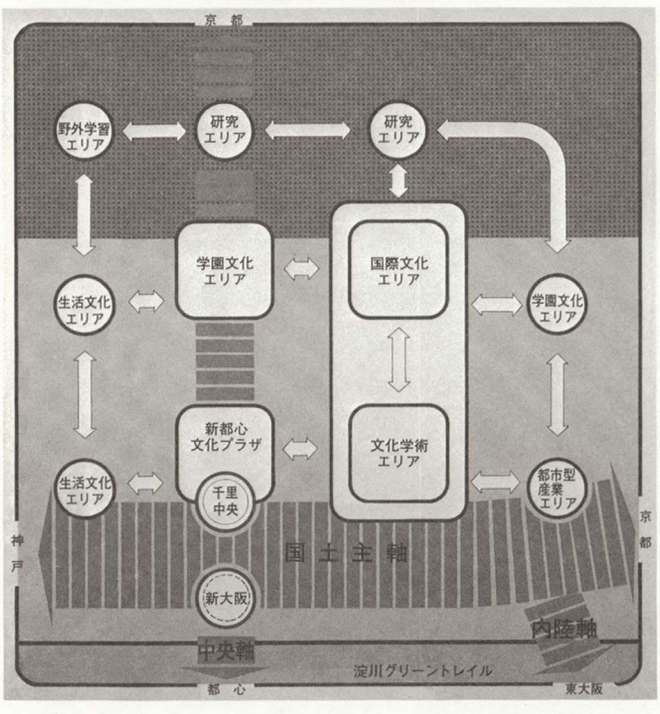
(2)文化学術エリア：万博記念公園と大阪大学周辺地区は、既存集積を生かしつつ文化・学術研究拠点の形成をすすめる。

(3)国際文化エリア：茨木北部丘陵から箕面市東部丘陵地区は、新しいまちづくりとあわせ国際交流・生物科学系学術研究拠点の形成をめざす。

(4)学園文化エリア：箕面北部から豊能町南部は、レクリェーション機能と調和した定住魅力ある整備をめざす。

（文責・四宮伊智郎／大阪府企画室）

国際文化ゾーン・北大阪




## B プロット番号 2 東大阪新都心整備構想

所　在　地　東大阪市荒本
計画・事業主体　——
計画・事業年度　——
用　途・規　模　142ha（計画区域）

大阪府では、一点集中型の都市構造から、多くの拠点をもつ多核心型の都市構造へ転換させ、府域の均衡ある発展を図るため、大阪市周辺の主要交通結節点であり、開発の可能性を有する千里中央地区、東大阪市長田・荒本地区、堺市中百舌鳥地区において、都心機能を受け入れるとともに、文化・商業・業務機能などをもつ新都心の形成をめざしている。

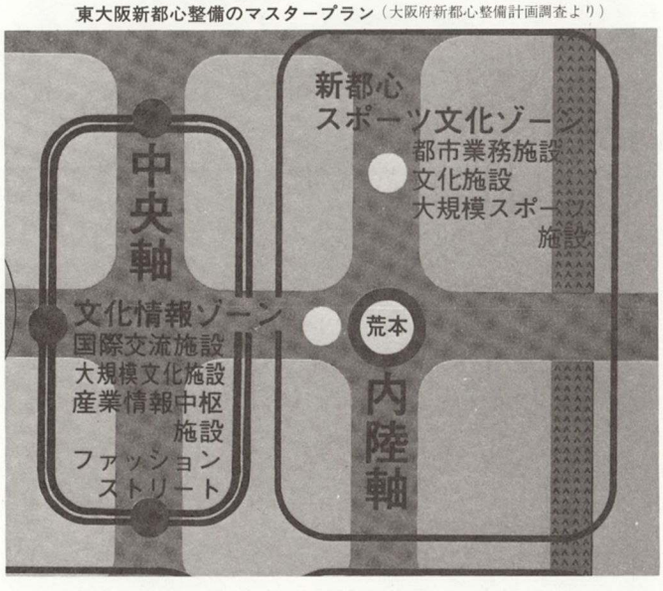
なかでも、東大阪市長田・荒本地区は、東西と南北の幹線道路に加えて、阪神高速道路大阪東大阪線、近畿自動車道天理吹田線、地下鉄4号線、東大阪生駒電鉄東大阪線の整備が進行中であり、大阪モノレール構想と併せて、文化・情報・産業等の結節点として重要な位置を占める地区である。

東大阪新都心整備の推進を図るため、建設省近畿地方建設局、大阪府、地元東大阪市において実施した各種の基礎的調査結果を踏まえるとともに、昭和58年9月に設置した「東大阪新都心整備推進懇談会」（学識経験者、関係行政機関、民間団体等で構成）の意見をもうかがいながら、東大阪新都心整備構想を策定することとしている。

（文責・仲谷潤滋／大阪府企画室）




東大阪新都心整備のマスタープラン（大阪府新都心整備計画調査より）



C
プロット番号
8

# 関西国際空港と地域整備

所　在　地　泉州沖約5㎞の海上
計画・事業主体　計画主体である運輸省が、公団と第三セクターからなる事業主体案を公表
計画・事業年度　第1期計画としては60年度着工、67年度開港が目標
用　途・規　模　面積1,230ha、滑走路2本、補助滑走路1本（詳細は下記参照）

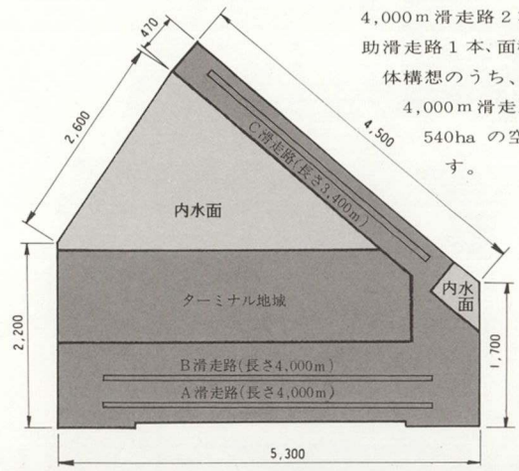
□世界に開かれた24時間空港

海上に空港をつくることによって、周辺地域に公害を及ぼさずに時間制限や便数規制なしに航空機を離発着させることは、大阪・関西の長年の夢であった。その夢が昭和43年の運輸省の調査開始以来、15年に及ぶ調査、地元協議を経て現実のものになろうとしている。58年7月に運輸省は、公団と第三セクターからなる事業主体案を公表し、これをもとに59年度予算を要求中で、順調にいけば59年度に事業主体設置、60年度着工、67年度第1期開港の運びとなる。

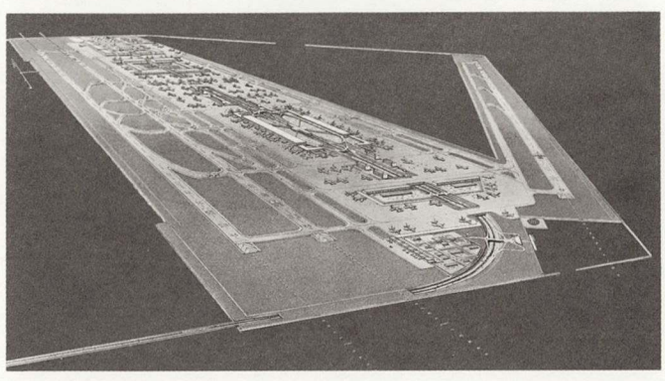
□国際空港と共存共栄の地域づくり

空港機能を活かした地域の発展を考える場合、まず何よりも重要なことは、道路・鉄道等のアクセス交通体系の整備である。道路としては近畿自動車道和歌山線、阪神高速道路大阪湾岸線の2本の高速道路、鉄道としては南海本線および国鉄阪和線の空港乗り入れが計画されている。神戸方面からの海上アクセスや、将来構想としての大阪外環状鉄道なども検討されている。こういったアクセス交通体系の整備によって、これまで開発の遅れていた大阪南部は大きな発展の可能性を持つこととなるので、大阪府や地元市町では、沿岸部の埋め立て、土とり跡地の有効利用、丘陵部の整備開発、市街地再開発、さらには地場産業の振興など総合的な地域整備を推進すべく準備中である。

（文責・末吉　徹／大阪府企画室）




4,000m滑走路2本、3,400m補助滑走路1本、面積1,230haの全体構想のうち、第1期として、4,000m滑走路1本、面積約540haの空港整備をめざす。



D
プロット番号
11

# 大阪湾広域処理場整備計画 フェニックス計画

所　在　地　大阪湾奥部
計画・事業主体　大阪湾広域臨海環境整備センター
計画・事業年度　現在、作成中の基本計画による
用　途・規　模　同上

大阪湾広域処理場整備計画（フェニックス計画）は、大阪湾圏域の広域処理対象区域において生じた廃棄物の適正な海面埋め立てによる処理およびこれによる港湾の秩序ある整備を図るため、環境の保全に留意しつつ、大阪湾の広域処理場整備対象港湾において広域処理場の建設、管理等を行うことにより、生活環境の保全および地域の均衡ある発展に資することを目的としている。

具体的には、大阪湾広域臨海環境整備センターは、

(1)　港湾管理者の委託を受けて

廃棄物埋立護岸の建設、改良、維持その他の管理および廃棄物による海面埋め立てにより行う土地の造成

(2)　地方公共団体の委託を受けて

一般廃棄物等の最終処分場の建設、改良、維持その他の管理および一般廃棄物等の海面埋め立て

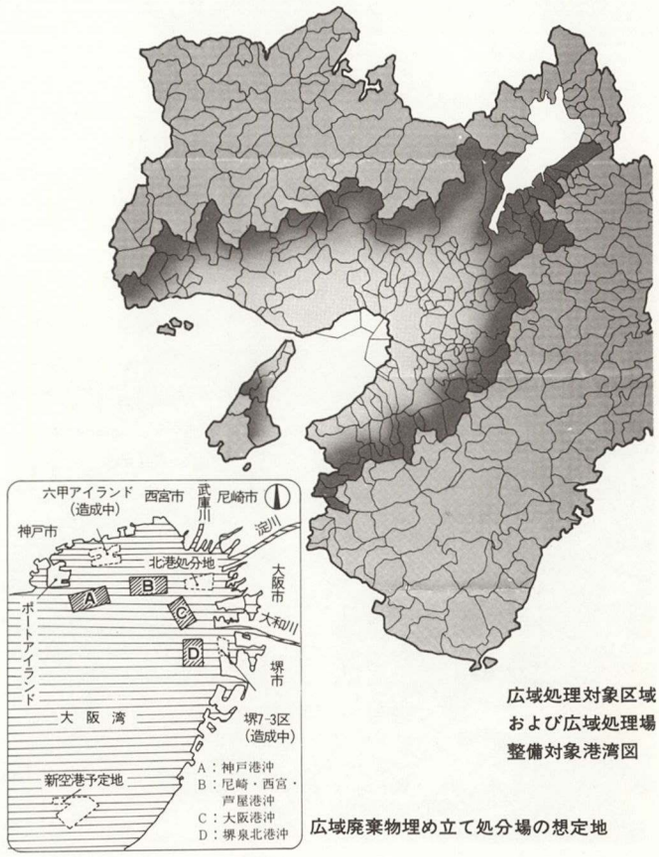
(3)　独自の事業として

産業廃棄物の最終処分場の建設、改良、維持その他の管理および産業廃棄物の海面埋め立て

等の事務を行う。

センターでは、上記の業務に関し、広域処理場の位置、規模、廃棄物の受け入れ対象区域、種類、量等の事項を定めた「基本計画」を作成することになっており、現在、このために必要な各種の調査を実施中である。

（文責・松田善和／大阪湾広域臨海環境整備センター）




広域処理対象区域および広域処理場整備対象港湾図

広域廃棄物埋め立て処分場の想定地

E
プロット番号
14

# 北摂三田ニュータウン

所　　在　　地：兵庫県三田市
計画・事業主体：兵庫県、住宅・都市整備公団
計画・事業年度：昭和45～60年代後半
用 途 ・ 規 模：住宅団地 1,101ha（計画人口10万人）
　　工業団地　143ha

北摂・北神地域は、神戸・大阪の都心から25～35km圏に位置し、今後、近畿圏の交通の要所として、発展が期待されている地域である。

北摂三田ニュータウンは、これらの地域にあって、北神地域の開発計画と整合させながら、住宅、産業および学園等の各機能を備えた総合的なまちづくりをめざし、昭和45年から、新住宅市街地開発事業（３地区）および工業団地造成事業（１地区）により整備を進めている大規模開発事業である。

**北摂三田ニュータウン計画一覧**

| 地区名 | | 面積(ha) | 住区数 | 計画人口(人) | 事業手法 | 事業主体 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 住宅団地 | 南地区 | 339 | 4 住区 | 約34,000 | 新住宅市街地開発事業 | 兵庫県 | |
| | 中央地区 | 603 | 6 住区 | 約50,000 | 〃 | 住宅・都市整備公団 | |
| | 西地区 | 159 | 2 住区 | 約16,000 | 〃 | 兵庫県 | 学園地区として計画中 |
| | 計 | 1,101 | 12住区 | 約100,000 | 〃 | —— | |
| 工業団地（北地区） | | 143 | —— | —— | 工業団地造成事業 | 住宅・都市整備公団 | |

これらの地区のうち、兵庫県の施行している南地区は56年から入居を開始し、現在約2,000人の人達が新しい生活を営むに至っている。

また、その他の地区についても、60年頃から本格的な建設が始まり、約10年後には、住み、働き、学び、憩いの各機能を満喫できた、新しい郊外ニュータウンとして完成する見込みである。

（文責・寺谷敏行／兵庫県都市住宅部新都市建設課長）

北摂ニュータウン南地区



F
プロット番号
17

# 兵庫アジア・ポート構想

所　　在　　地：兵庫県津名郡津名町
計画・事業主体：兵庫県
計画・事業年度：——
用 途 ・ 規 模：340ha

21世紀に向けて、大阪湾域では新空港、明石架橋をはじめとして種々のビッグプロジェクトが計画されている。

兵庫県では大阪湾西部に位置する「津名港」が新空港、神戸港、大阪港、本四連絡橋の陸、海、空の交通の接点であると考え、大阪湾域発展の一翼を担うものとして〝アジア・ポート構想〟を企画した。

〝兵庫アジア・ポート構想〟は、資源の備蓄・流通機能を中核とした新しい国際的な都市港湾を目指したものであり、つぎの５点を基本テーマにしている。

① 近畿圏を国際性豊かな圏域にするための一環として、人・情報・文化の国際交流ゾーンを形成する。

② 資源の備蓄配分ゾーンの形成を図り、国際的な資源の流通配分拠点の形成を図る。

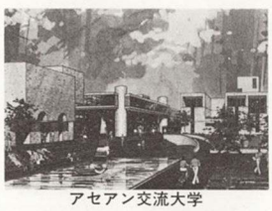
③ 京阪神大都市圏の都市的集積と瀬戸内海の恵まれた観光資源を背景とした国際的なリゾート・エリアとしての淡路インターナショナル・フレンドリー・アイランドの中心ゾーンを形成する。

④ 21世紀に向けての新たな生産空間を創出する。

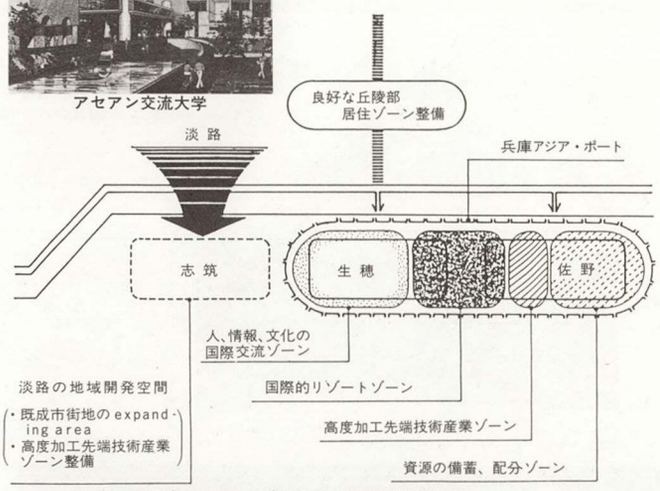
⑤ 陸、海、空による交通拠点を形成する。

以上のテーマを基本に機能配置したものである。

（文責・東　忠雄／兵庫県土木部港湾課）



アセアン交流大学




兵庫アジア・ポートの基本的機能配置



G
プロット番号 17

# 西播磨テクノポリス

所　在　地　上郡町、三日月町、新宮町にまたがる西播磨丘陵
計画・事業主体　兵庫県
計画・事業年度　昭和60年度着手、昭和65年度概成、昭和75年度熟成
用途・規模　人口４万人、世帯数12,920世帯、従業者数21,800人
製造品出荷額6,470億円、造成面積940ha、用水需要5万ｔ／日

西播磨テクノポリスは、21世紀大兵庫づくりの牽引力となる重要プロジェクトとして、昭和56年度の基本構想、57年度の開発構想を経て、58年度には基本計画の策定と60年度着工を目指し着実に進展している。

西播磨テクノポリスは、21世紀の地域社会づくりを先導する健康福祉社会の創出を理念とし、産・学・住および文化機能を一体化した高度技術集積都市の建設を目指すものであるが、その対象地域である西播磨はつぎのような地域特性を備えている。

(1)　広大な用地をすでに確保しており、計画的、一体的に理想的なテクノポリスの建設が可能であること。

(2)　臨海部に多種多様な産業集積、技術基盤があり、新しい技術開発を推進する活力があること。

(3)　京阪神大都市圏に近接し、産業および研究開発機能の集積を享受できること。

西播磨テクノポリスでは、このような優れた地域特性を踏まえ、建設の理念の実現へ向け、各種機能の整備を図ることとし、すでに基幹道路等先行的基盤整備を推進している。

(1)　産業機能―高技術機械産業、医療福祉産業の育成導入

(2)　学術機能―姫路工業大学の拡充、健康科学大学・大学院、産業技術振興機構の創設

(3)　都市機能―新社会システム（ＩＮＳ等）の導入、クオリティ・オブ・ライフの形成

（文責・中田勝也／兵庫県企画参事室）




西播磨テクノポリス圏域の整備構想

H
プロット番号 19

# 緑の回廊

所　在　地　兵庫県
計画・事業主体　――
計画・事業年度　――
用途・規模　――

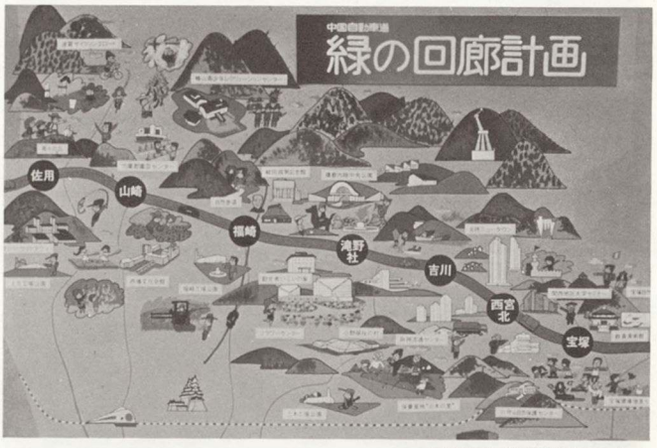
緑の回廊は、昭和49年に一部開通した中国自動車道の建設に際して、この道路を単なる経済道路としてではなく、シルクロードのように新しい生活文化が沿道各地に創造され、それらが交流しあう道づくりにするべく新しい地域社会づくりのための理念として名づけられたものである。

この理念を実現するために、沿道各地の土地の先行取得を進め、関連道路、工場団地造成、上下水道施設等の産業基盤整備はもとより、教育・文化、レクリエーション、健康・福祉等の広域的施設を先導的に整備することにより、新しい地域社会づくりの基盤整備を進めてきたことに、緑の回廊構想の特長がある。

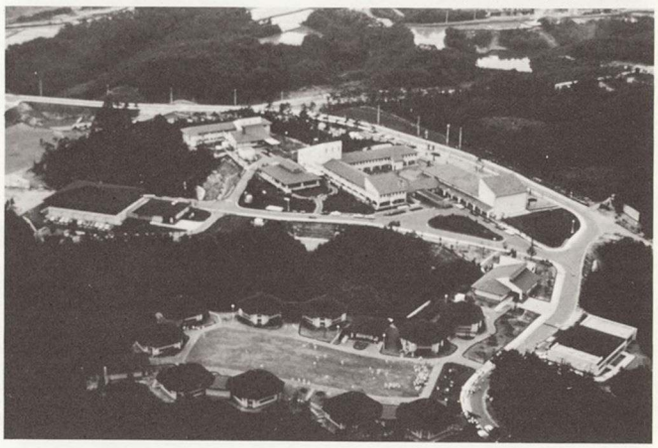
この結果、中国自動車道沿線の東西緑の回廊の舞台には、北摂ニュータウン、兵庫教育大学、嬉野台生涯教育センター、中小企業大学校、グリーンピア三木、播磨中央公園、フラワーセンターなど87におよぶ施設が、約１兆円の事業費の投入により、建設または計画・構想されてきた。

緑の回廊構想は、引き続き本四架橋、近畿自動車道舞鶴線、国鉄福知山線複線電化などを契機に、淡路、阪神、丹波、但馬を結ぶ南北緑の回廊構想へと拡大し、現在では、この構想を面的に拡げた「全県全土公園化構想」へと発展している。

（文責・神田栄治／兵庫県企画部企画参事室）




▼嬉野台生涯教育センター



## I プロット番号 20 関西文化学術研究都市構想

所　在　地　京阪奈丘陵（京都府・大阪府・奈良県）
計画・事業主体　国、関係府県・自治体、住宅都市整備公団、民間開発事業者
計画・事業年度　昭和59年度事業着手予定
用　途・規　模　新規開発区域および計画住宅地　約2,500ha

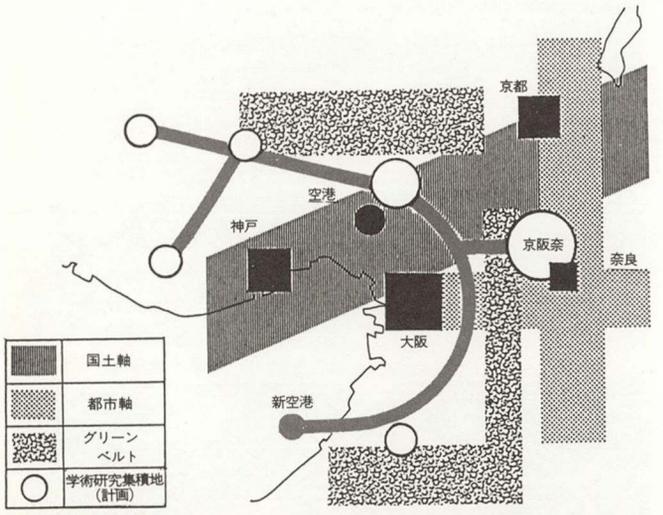
関西文化学術研究都市構想は、大阪、京都の都心から20～30km圏内に位置する広大な京阪奈丘陵に、文化、学術、産業の拠点となるクラスター型の新都市群を建設し、近畿圏の創生とわが国の発展をめざす大規模プロジェクトである。

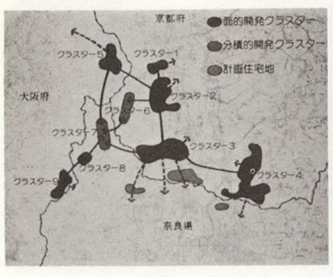
国においては、昭和54年度から調査を開始し、58年度中には国土庁、建設省など関係6省庁による基本計画および総合整備計画がまとめられる予定であり、大阪府、奈良県ではそれに対応した構想づくりが進められている。

京都府では、すでに56年に基本構想案を発表し、現在、府域に関する基本計画策定作業を進めているが、この開発が、公的主体が作成するガイドプランに沿って、住宅都市整備公団や民間開発事業者が事業主体となって進めていく民間活力を最大限に活用した方式をとることから、これら事業者と誘致施設用地の確保に関する協力に合意する一方、学術研究中核機構、大規模文献情報センター、大学、民間研究・産業施設、広域レクリエーション施設等の誘致を積極的に進めている。

さらに、この構想が、国、関係府県・自治体、学界、経済界等のさまざまな提唱の積み上げと、開発事業者の協力に基づき、ナショナルプロジェクトとして推進されるべく、関係者が一体となった「関西文化学術研究都市建設推進協議会」(代表委員：関経連会長、3府県知事、奥田東元京大総長）が設立され、59年度事業着手をめざしている。

（文責・加藤　隆／京都府企画調査室）







## J プロット番号 21 丹後レクリエーション都市構想

所　在　地　京都府丹後地域
計画・事業主体　第三セクター
計画・事業年度　未定
用　途・規　模　レクリエーション開発

京都府の北端に位置する丹後半島は、日本海に面してひらけ、京阪神大都市から100～120kmの距離にある。日本三景のひとつ、特別名勝天の橋立をはじめ、すぐれた自然景観や歴史的遺産にも恵まれ、現在でも夏季の海水浴場として、また観光地として知られているが、今後さらに総合的な観光レクリエーション地として大きく発展する可能性を秘めている。現在、この地域を京阪神大都市圏に結びつける交通網の整備が急がれており、近畿自動車道舞鶴線、国道9号バイパス、国鉄山陰本線の複線電化、福知山市と宮津市を結ぶ宮福鉄道などの建設が着々と進められている。

丹後レクリエーション都市構想は、こうした交通網の整備によって、将来丹後地方がわが国有数の観光レクリエーション地となることが期待されるため、この地域にふさわしい観光レクリエーション機能を総合的、体系的に賦与する計画を作りあげようとするものである。

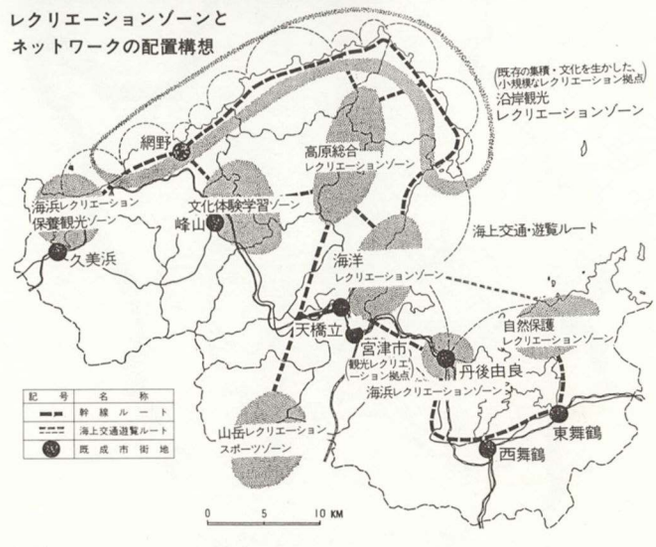
計画では、総合的なレクリエーション基地の必要性、民間エネルギーの活用の観点から建設省の総合的な都市計画制度であるレクリエーション都市整備事業を中心に据えて、屋外レクリエーション活動のための大規模な都市公園と、それを核とする休養施設、宿泊施設および各種のサービス施設等の官民協力方式（第三セクター）による整備をめざしている。

現在、地域の観光レクリエーション開発のあり方について建設省、運輸省、水産庁、林野庁の4省庁で調査が取り組まれているところである。

（文責・井上正嗣／京都府企画調査室）


青少年海洋センター「マリーンピア」

レクリエーションゾーンとネットワークの配置構想



K
プロット番号 26

# 環びわ湖保全修景公園化構想

所　　在　　地：琵琶湖周辺
計画・事業主体：———
計画・事業年度：———
用 途 ・ 規 模：湖岸延長 235km

比良、鈴鹿、伊吹の山並みに囲まれ、県土の⅙を占める琵琶湖は、豊かな水をたたえ、多くの人々に大きな恵みをあたえ、その湖辺に長い歴史と豊かな文化を育て、琵琶湖特有の美しい風景を醸し、滋賀の象徴となっている。

しかし近年、急速な産業立地や都市化等により湖辺の土地利用が大きく変貌し、琵琶湖がこれまでの水資源としての価値のみでなく、豊かな水によって造り出される空間的・風景的価値を再認識することが必要となる。

すなわち、潤いのある美しい湖岸域として保全・修復・再創造をしていくことが重要な行政課題となった。

この構想を進める基本的な考え方は、

(1) 緑の保全・修景を基礎に親水性を高め、全体的に自然と人間とのふれあいのある「中自然の湖岸」を創出する。

(2) 風致・風景保全のための公園化領域を設定する。

(3) 湖辺の地域特性を活かした利用基地を設ける。

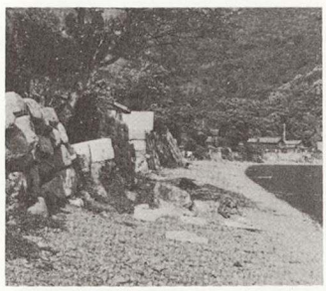
(4) 県土のグリーラチスの基幹として、長期的視点に立って進める。

こととしている。

この公園化の推進には、湖辺の改変に対し規制・誘導策を設定する、住民参加を求める、関係行政分野で調整をはかりながら具現化する、等の取り組みがなされている。

環びわ湖保全修景公園化により、自然と文化と人々のサービスがほどよく組み合わされた新しい地場産業がおこり、県政の基本課題である国民休養県を築いていこうとするものである。

（文責・廣幡通雄／滋賀県自然保護課長）



従前

・民家の裏庭的利用
・くずれた石垣
・礫浜に散らばるゴミ

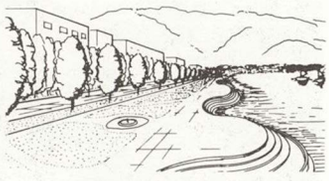


従後

・石垣の修復
・遊歩道（散策路）の設置
・裏庭的利用を隠すデザインとしての生垣



湖岸現況の写真



修景後のイメージ

L
プロット番号 28

# 国営飛鳥歴史公園整備事業

所　　在　　地：奈良県高市郡明日香村
計画・事業主体：建設省近畿地方建設局飛鳥国営公園出張所
計画・事業年度：昭和46年 4 月～昭和63年 3 月
用 途 ・ 規 模：4 地区。面積合計 47.1ha

飛鳥地方は、西暦 710 年に都が奈良に遷されるまでの約 200 年近くの間、天皇の宮がほとんどこの地に置かれ、わが国古代の政治・文化の中心地であった。そして数多くの歴史上重要な文化的資産を今日に伝えている。これらの資産は、山河や田畑などの自然環境と一体となって、特色ある飛鳥の歴史的風土を形づくっている。

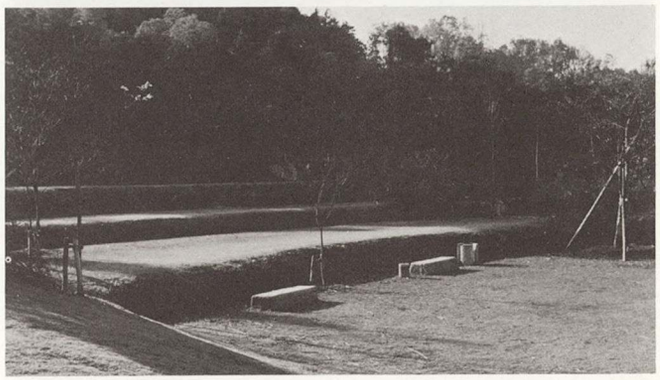
高度経済成長期の宅地開発の波が飛鳥地方をも呑み込みかねない勢いであった昭和45年、飛鳥地方における歴史的風土及び文化財の保存等を図るための総合的施策が閣議決定された。これを受けて昭和46年に古都の歴史的環境が保持できるような公園として整備が始められたのが、国営飛鳥歴史公園である。

国営飛鳥歴史公園は 4 地区からなる。①研修宿泊所をとり囲んで展望台と遊歩道のある祝戸地区 7.4ha。昭和49年供用開始)、②石舞台古墳をとり囲んで広大な芝生広場のある石舞台地区（5.3 ha。昭和51年供用開始)、③飛鳥地方を一望できる展望広場のある甘樫丘地区（25.1ha。昭和55年供用開始)、④高松塚古墳とその壁画を展示する高松塚壁画館、および、公園 4 地区全体の利用案内所と管理事務所のある高松塚周辺地区（9.3 ha。整備中）がそれである。

いずれも、できるかぎり、既存の地形を生かし、自然の素材を用いて整備されている。また、公園区域を柵などで区分せず、公園の景観が周囲の歴史的風土と自然に溶け込み、公園利用者がそれと気付かずに公園に出入りするよう配慮がされている。

（文責・野島義照／建設省）





## M プロット番号 30・31 和泉かつらぎ研究学園ゾーン 御坊田園テクノタウン

| | ㋑ | ㋺ |
|---|---|---|
| 所在地 | 岩出町・打田町・粉河町 | 御坊市、日高郡10町村 |
| 計画・事業主体 | 県 | 県・御坊周辺広域市町村圏組合 |
| 計画・事業年度 | 昭和48年度～ | 昭和56年度～ |
| 用途・規模 | 学術研究施設用地 45ha | 産・学・住の施設用地 約320ha |

和泉かつらぎ研究学園ゾーンは、大阪市から南へ50km、和歌山市から東へ15km、関西国際空港の建設地にも近く、都市的機能へのアクセスが容易で、かつ、都会のさざめきから離れた自然環境にも恵まれた位置にある。

ゾーン内には〝憩いの場〟として「昭和の森」、「植物公園緑花センター」等の施設をすでに整備し、すばらしい学園環境を形成しつつあり、今後、高等教育施設、研究施設、セミナーハウス等の施設群を配置することにより、関西リサーチコンプレックスの一翼を担っていくものである。この研究学園ゾーンを核として、周辺地域の歴史的・文化的遺産と自然環境等を活かしながら、関西国際空港の建設を機に新規産業の導入や国際交流施設の整備などを進め、国際的な産業・文化都市圏をめざす。

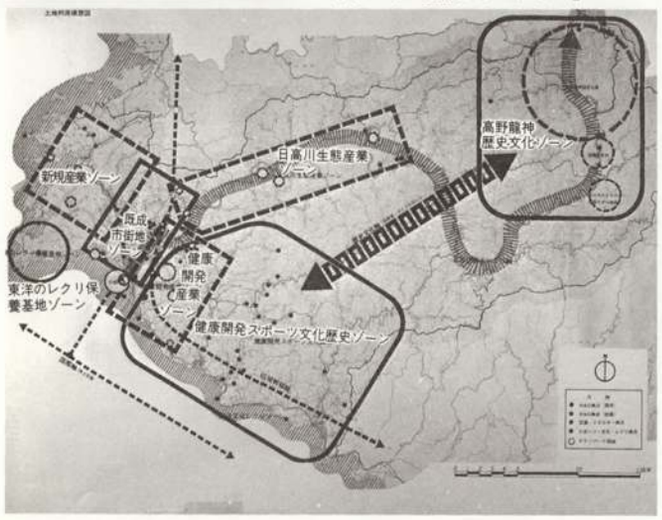
御坊田園テクノタウンは、和歌山市から南へ50kmの御坊市を中心とする紀中地域において、産業構造を頭脳集約型に高度化し、県経済と県土の均衡ある発展を図ろうとするものである。テクノタウンでは、地域のニーズを活かして、高齢化・長寿化が進む中で、人々の究極の願いである「健康」に関して貢献していこうとしている。すなわち、健康開発をテーマとして、ファインケミカル、医療・福祉、健康食品、スポーツ、健康文化等、健康開発関連産業群と研究開発機能群を形成するとともに、コミュニティの場でも健康開発を実践し、自然と人間と技術の調和した「まち＝きのくに健康テクノタウン」をめざしている。

（文責・東山好伸／和歌山県企画室）



◀和泉かつらぎ研究学園ゾーン

▼御坊田園テクノタウン土地利用構想―「きのくに健康テクノタウン」




## N プロット番号 33 大阪ビジネスパーク(O.B.P)

| | |
|---|---|
| 所在地 | 大阪市東区城見町 |
| 計画・事業主体 | 大阪ビジネスパーク開発協議会（住友生命、松下興産・竹中工務店、鹿島建設、熊谷組、ＫＤＤ、富士通） |
| 計画・事業年度 | 昭和51年～ |
| 用途・規模 | オフィスビル、ホテル、情報施設、文化施設等、26ha |

大阪ビジネスパーク（ＯＢＰ）は、大阪城公園の北側で、寝屋川、第２寝屋川および国鉄環状線に囲まれた、新宿新都心に匹敵する約26haの区域で、大阪の東西都市軸の東の拠点としても位置づけられている。

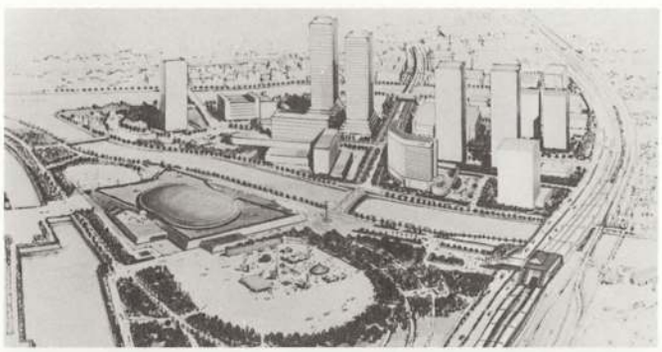
この地の、新市街地への構想は昭和43年より計画され、昭和51年には民間５社（現在７社）の個人施行の土地区画整理事業として、スーパーブロックの街区とリバーサイド公園（約２ha）を中心に昼間10万人の「公園の中のオフィス街」を目指して事業をすすめ、すでに区画道路、公園等もほぼ整備され、いよいよ新しい街づくりの段階に入ろうとしている。

この事業には、大阪市当局の協力も得て歩行者専用道、都市計画道路の建設や大阪城公園駅の設置等交通アクセスも整備され、水上バスの発着場ともあわせて市民の散策の場としても定着しつつある。

今後、松下興産のツイン21（38階建２棟、延約15万㎡、61年３月完成予定）、富士通の情報処理システムラボラトリー、ＫＤＤの大阪新中央局の建設が決まり、さらに住友生命用地へのホテルニューオータニの進出が予定されており、情報産業の集積地になろうとしている。

これらの建築にあたっては、建築協定により６～10mセットバックし、水と緑を中心とした調和のある都市空間の形成をはかり、大阪城ホール、国際会議場構想ともあわせて国際・情報・文化の都市機能をもつ24時間都市として21世紀にむけ大きく展開しようとしている。

（文責・上田隆夫・松本敏廣／大阪ビジネスパーク開発協議会）





O
プロット番号 34

# 大阪北港の開発構想

所　在　地　大阪市此花区地先
計画・事業主体　大阪市
計画・事業年度　昭和60年代中期～21世紀
用途・規模　スポーツランド、テクノポート、港湾物流施設・約600ha

北港廃棄物処分地は、都市活動の結果排出される都市廃棄物処理と、今後必要になる都市空間の創造とを、一挙に解決するために計画された。

北地区は面積約 200haあり、昭和47年に護岸工事に着手、昭和48年より廃棄物の受け入れを開始している。一方、面積約 400haの南地区は昭和52年より護岸工事に着手しており、昭和60年頃より廃棄物受け入れを開始する予定である。これらの本格的土地利用が可能となるのは、北地区は昭和60年代中期、南地区が昭和70年代前半頃となろう。跡地利用については、都市部では得られない広大な面積を有する貴重な都市空間であり、21世紀を見通した将来の大阪市およびその市民活動の動向を見極めた上で、進めていく必要がある。

具体的な利用計画としては、大阪市制 100周年事業の一環として、北地区の一部約 100haにスポーツランド。北南地区には高度技術の研究開発施設や関連産業、国際貿易機能ならびに情報通信機能の集積を図り、情報化時代の到来に対応した「まちづくり」（テクノポート）をめざす。

また、将来の海運界の動向にも留意し、時代に適合した近代的な港湾施設の整備もすすめていく。

（文責・奥田剛章／大阪市港湾局）

テクノポート大阪計画（イメージ図）



P
プロット番号 35

# 大阪南港国際文化ゾーン

所　在　地　大阪市住之江区南港
計画・事業住体　大阪市
計画・事業年度　昭和58年度～
用途・規模　約100ha

大阪南港は大阪湾岸の国際港湾ゾーンの扇心に位置し、将来は、高速道路網の整備によって大阪都心部と関西国際空港を結ぶ要衝にあり、名神高速道路等の国土幹線道路とも直結されるという国際交流の場にふさわしい立地条件を有している。

国際文化ゾーン構想は、この大阪南港に国際交流の拠点を整備し、ひと・もの・情報の交流を通じて、21世紀における大阪都市圏の国際化と文化・産業の振興に貢献することを目指すものである。

□国際文化ゾーン整備の方向

・通商機能の強化

国際港として本来持っている物流機能に加え、国際見本市会場など取引の場としての機能を持った貿易の拠点として整備を行う。

・国際文化交流機能の充実

港をかつての新文明の窓口、文化醸成の拠点として復活させ、新しい文化創造の拠点とする。

・研究開発機能の充実

新技術、新製品開発の伝統を強化し、産業構造の高度化に寄与する研究施設や、国際技術交流のための研修施設などの整備を行う。

・賑わいのある「まち」の創造

新しい港町として、あらゆる世代の人々が多様な出会いを期待してつどい、楽しむまちづくりを行う。

（文責・安藤茂男／大阪市港湾局）



Q
プロット番号
36

# 大阪駅周辺地区整備計画

所　在　地　大阪市北区梅田、附近一帯
計画・事業主体　大阪市、国鉄、民間その他
計画・事業年度　――
用　途・規　模　――

将来とも、近畿・西日本の中心的機能を果たすべき大阪において、大阪駅周辺地区は、その中心的な交通結節点として重要な位置にあり、大阪市総合計画を基本として、21世紀への展望を十分考慮するなかで、この地区の特性を生かした望ましい諸施設の整備が必要と考えられる。

大阪駅を中心とする都心北部地域の将来イメージは、

㈠都心商業業務地の過度の不均衡な拡大を抑制するとともに、梅田地区での立地が適当と考えられる施設の総合的整備。

㈡文化関連施設を質、量ともに向上させ、ターミナルとの有機的一体化を図る。

㈢オープンスペースや緑のネットワークの整備により、地区全体の快適性を高めるとともに、歩行者空間や都市景観を向上させ、均衡のとれた市街地の発展を図る。

㈣都心北部地域の通過交通を処理する幹線道路や、地区内の準幹線道路のネットワークの整備（国道２号線の拡幅等）を図る。

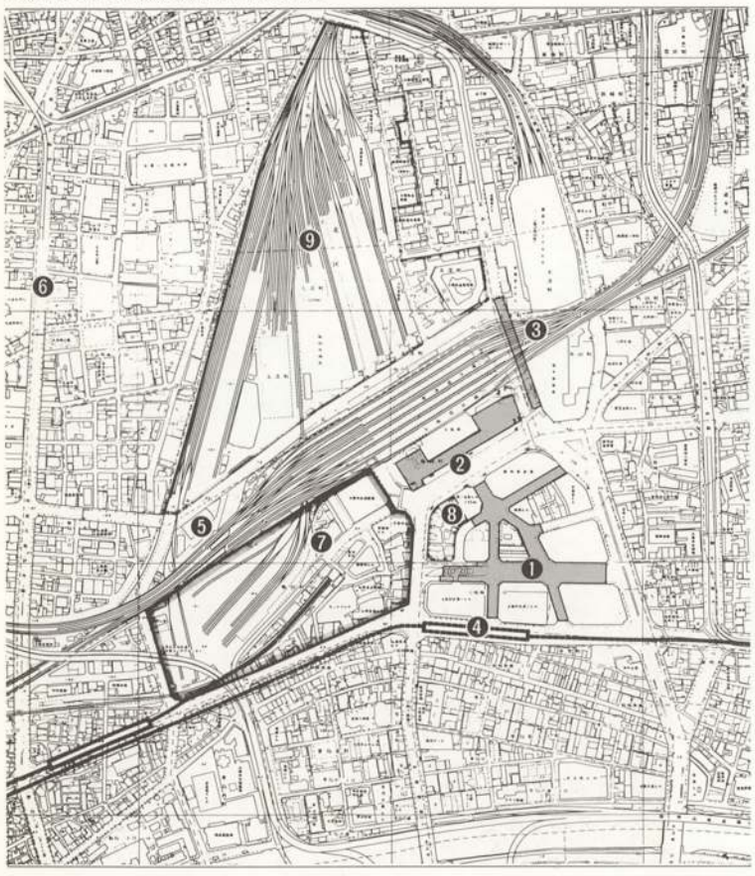
㈤国鉄片福連絡線の実現による東西方向の鉄道の強化と、南北方向の鉄道（なにわ筋線構想）の整備。

㈥防災に留意した町づくりを行い、あわせて大阪駅周辺の広域避難地の拡大を図る。

等の基本方向に基づいて、個々の整備計画の実現をめざしている。

（文責・岡田信幸／大阪市総合計画局地域計画部）

**大阪周辺地区と大阪駅前地下街の計画**




**〈大阪駅周辺における各種整備計画・構想〉**

| 番号 | 整備計画・構想 | 計画の概要等 |
|---|---|---|
| ❶ | 大阪駅前（ダイヤモンド）地下街計画 | ●昭55.2.25 都市計画決定（地下街面積23,070㎡ うち店舗 9,360㎡　公共歩道12,570㎡＝Ｂ１Ｆ、駐車場面積15,780㎡、駐車台数 340台＝Ｂ２Ｆ、大阪駅前地下道改善計画を含む）<br>●計画・事業主体／大阪市、大阪市街地開発(株) |
| ❷ | 大阪駅前広場地下街計画 | ●大阪駅前広場の歩車分離、歩行者動線の円滑化等の目的で国鉄が計画中（原案：延面積19,700㎡ うち公共通路8,100㎡、店舗6,300㎡＝Ｂ１Ｆ、その他） |
| ❸ | 地下鉄御堂筋線梅田駅改造計画 | ●輸送力増強のため南行きホーム（幅13ｍ）の増設、北行きホームの延伸（延長201ｍ）等<br>●主体／大阪市交通局（Ｓ57～64年） |
| ❹ | 国鉄片福連絡線計画 | ●国鉄片町線および福知山線を、国道１号・２号を経由して直結する（延長12.2㎞京橋～尼崎間、駅数９駅、含む両駅）、昭56.4運輸大臣認可 |
| ❺ | 阪神電鉄地下化（立体交差）計画 | ●出入橋、福島附近の６ヵ所の鉄道踏切解消（延長1.3㎞）<br>●主体／大阪市（阪神）、事業年度／57～61年 |
| ❻ | なにわ筋線計画（構想） | ●昭57.2鉄道網整備調査委員会（大阪府・市）において南北方向の整備構想路線として提案される（湊町～なにわ筋～中之島～梅田～新大阪のルートが示される） |
| ❼ | 西梅田（南コンテナヤードおよびその周辺）地区の開発計画 | ●国鉄南コンテナヤード跡地を中心とする第一次区域（約10ha）は、地区内外の公共施設との整合性を図りながら、ターミナル地区の特性を生かした、道路、公園、広場等のオープンスペースをはじめとする都市基盤施設の整備を行う。また、文化・国際・情報機能の強化に資する拠点的な施設等の立地を図り、大阪中央郵便局の高層化促進や阪神高速道路ランプの移設により、オープンスペースはおおむね50%、容積率 500%程度の緑豊かな優れた都市景観を創出する計画とする。サンケイなどのある第二次区域（約３ha）は公共施設の整備が必要である（昭56.12.大阪駅ターミナル問題懇談会第１次答申）<br>●昭和58.6国鉄に用地活用「計画検討委員会」設置（コンテナ跡地を中心に検討中） |
| ❽ | 梅田１丁目４～８番地開発計画（ＵＹＤ計画） | ●敷地約9,400㎡（Ｉ期約7,000㎡）、延床面積 約12万㎡（Ｉ期約87,000㎡）<br>●主要用途／Ｉ期：ヒルトンホテル（約600室）、店舗（階数地下４Ｆ、地上34Ｆ）<br>●事業主体／Ｉ期：吉本ビルディング(株)<br>●事業年度／Ｉ期：58～61年 |
| ❾ | 大阪駅北地区の整備構想 | ●国鉄北コンテナヤードを中心とする約26haの再開発について、相当規模の駅前広場の確保、交通センターの設置、広域避難地としての利用等の基本的な整備方向が出されている。(昭56.12.大阪駅ターミナル問題懇談会第１次答申）が、現時点においては、国鉄の貨物政策として拠点整備の方針であり、梅田貨物駅は拠点駅であるので、将来の検討事項となっている。 |

R
プロット番号
42

# 阿倍野地区第２種市街地再開発事業

所　在　地　大阪市阿倍野区阿倍野筋1～3丁目、旭町１丁目の各一部、旭町2～3丁目
計画・事業主体　大阪市
計画・事業年度　昭和44年度～昭和65年度
用　途・規　模　計画対象区域約28ha（都心機能の整備と市街地住宅の整備）

阿倍野地区市街地再開発事業は、大阪市のマスタープランにのっとり、南大阪地域発展のかなめとして都心機能の集積をはかるとともに、交通至便の立地を生かし、快適な市街地高層住宅地として整備することを目的としている。

具体的には、計画地区のほぼ中央に南北・東西の道路を新設することにより、地区を大きく４つのブロック、２つのゾーンに分けて考えており、おおむね東側を副都心ゾーン、西側を市街地住宅ゾーンとしている。

副都心ゾーンは、百貨店、各種専門店、地元店舗、娯楽、サービス施設を包含した大ショッピングゾーンとし、それに都市型ホテル、オフィス、さらに体育館、多目的ホール等の文教施設を配置する計画である。また、それらの施設に接して大駐車場ビルを設置し、車社会への対応を考えている。建築的にもユニークで際立ったモニュメンタルなものを建設し、多用途の複合による集積とともに魅力ある副都心づくりを目指している。

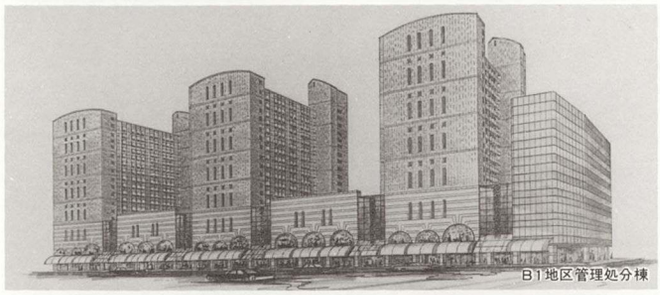
市街地住宅ゾーンは、近隣商店街、住区施設を中心に14階建を主にした高層住宅を建設し、ウォームな外観と、豊かなオープンスペースにより市街地にありながら田園的な雰囲気を持たせようと計画している。

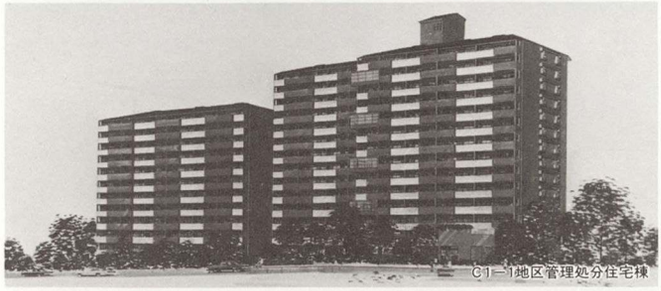
現在、Ｂ１地区とＣ１－１地区で建築工事が進められており、その一部、病院棟と再開発住宅棟が完成している。

（文責・石浦英郎／大阪市都市整備局阿倍野再開発事務所長）


B1地区病院棟

● 公共施設の整備
幹線街路４路線、区画街路10路線
近隣公園２ヵ所、児童公園１ヵ所
● 施設建築物の整備
15街区、29棟
総延床面積約818,100㎡


B1地区管理処分棟


C1－1地区管理処分住宅棟

S
プロット番号
43

# 六甲アイランド

所　在　地　神戸市東灘区向洋町
計画・事業主体　神戸市、第三港湾建設局、神戸港埠頭公社
計画・事業年度　昭和46年～昭和60年（予定）
用　途・規　模　港湾関連用地、産業用地、都市機能用地、面積580ha

六甲アイランドは、ポートアイランドの東の海面上に建設を進めている21世紀を目指す海上都市である。ここには、新しい港湾施設を整備するほか、産業・住宅・文化・レクリエーションゾーンを設け、完結型の都市整備を図る。

土地利用の柱は、

① 近代的な港湾を整備し、新しい産業を育てていき、市民生活の基盤づくりを進める。

② 既成市街地では実現できない市民の夢をかなえ、あわせて神戸市全体でのより良い生活環境づくりに役立てる。

③ 神戸の歴史、風土などをふまえ、国際性を活かしながら、「高度情報化社会」に対応した新しい街づくりを進める。

④ 六甲アイランドが神戸のシンボルとなり、市民に心から親しまれるものにしていく。

現在の六甲アイランドは、埋立造成が60％進んだ段階である。整備の進んだ区域には、フェリー埠頭等10バースがすでに供用を開始し、32社の企業が進出し、新しい都市活動をはじめている。

（文責・田村健一郎／神戸市開発局計画課）



T
プロット番号
46

# 都市林〝こうべの森〟
## （新・中央森林公園計画）

所　在　地　神戸市西六甲地区
計画・事業主体　神戸市
計画・事業年度　昭和59年度～昭和75年度
用途・規模　約2,300ha

都市林とは、都市近郊にあって都市の圏域に位置し、豊かな自然を提供しつつ、多かれ少かれレクリエーション機能を通じて市民と深いかかわりをもつ森林と定義されているが、都市林〝こうべの森〟は、この定義に沿いながらも、六甲山系を、市街地の背景としてでなく、都市の一部として把え、発展させようという考え方である。

開港100年記念として昭和42年度に策定された旧・中央森林公園計画の成果を踏まえながら見直し、社会情勢の変化や市民要望の多様化に対応して、21世紀への都市林〝こうべの森〟をめざして、豊かな自然を保全しつつ、〝神戸らしさ〟という風土からくるふるさと意識の形成や「森林浴」などレクリエーション機能の充実を図っていく。

そのために、単に、ヨーロッパの都市林の模倣でなく、神戸の特色を生かした都市林の造成を進める必要がある。都市林〝こうべの森〟の区域を統一的なイメージのもとに一団の区域として、それぞれの管理者の協力によって、公園・道路・ハイキングコース・国立公園施設・森林育成および保全など総合的施策体系のもとに2001年を完成目標に整備を推進する。

一方、利用者のための管理運営などは、区域全域にわたる全体的イベントを企画し、できる限り、統一的運営を市民の協力を得ながら進めていく計画である。なお、この計画は、神戸市公園緑地審議会の答申（58年7月）に基づくものであり、現在、実施計画を立案中である。（文責・中井喜一郎／神戸市土木局公園緑地部）



▲再度公園修法ヶ原池




U
プロット番号
47

# メリケンパーク

所　在　地　神戸市中央区波止場町地先
計画・事業主体　神戸市港湾局
計画・事業年度　昭和58年度～昭和62年度
用途・規模　ウォーターフロント緑地（15.6ha）

1868年の開港以来、今日では日本を代表する国際貿易港として発展してきた神戸港の中で、メリケン波止場は近代神戸港の発祥の地として、開港当時の雰囲気を持った記念碑的存在として、広く市民に親しまれており、また西隣のポートタワーのある中突堤は内航旅客船の発着基地として旅客でにぎわいを見せている。

このメリケン波止場、中突堤地区は、かつては神戸港の中心的役割を担ってきたが、近年の港湾荷役の近代化により港湾施設として古くなってきたため、再開発の必要が生じ、一方、都市サイドからは市民に親しまれる港づくりの要請も生まれてきた。

ここに、メリケン波止場～中突堤間を埋め立て、「メリケンパーク」を建設することになった。

計画の基本方針は、学識経験者、各種団体の代表者からなる「神戸港再開発検討委員会」で検討され、①海との出合い、②歴史・文化とのふれあい、③都市生活への貢献、としてまとめられている。

この基本方針に基づいて、現在具体的な利用計画、空間構成を作成中である。

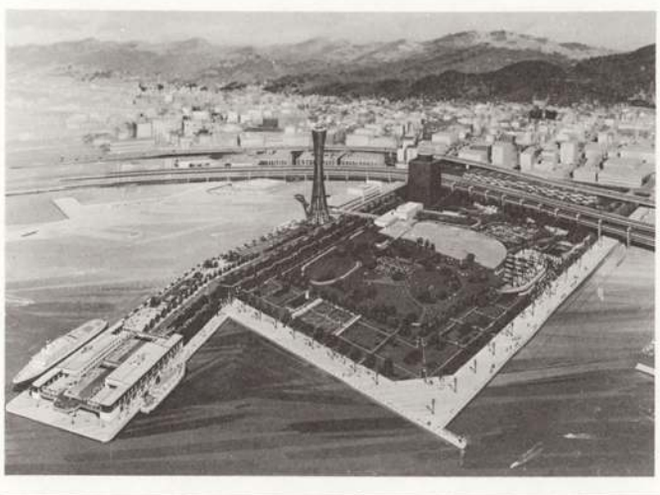
神戸港発祥の地としての歴史的雰囲気を保ちながら小型通船の発着基地として残すゾーン、市民が間近に港を眺望しながら散策、休憩できる緑地ゾーン、中央に位置するシンボルゾーンでは、海との出合いを大胆に主張するものとして海洋博物館を設け、この中に海、船、港に親しみをおぼえ、海事思想の普及に益するものを展示していく。

さらに、広場では世界の珍品ガラクタ市、朝市などの多彩な催し、既設の古い上屋の再利用により、市民の創作品の表現の場、若者の各種イベントの実現の場を確保していく。

また、この地区周辺の港湾関連業務の集約化を図るための業務施設ゾーン、駐車ゾーンも合わせて計画している。

このメリケンパークの面積は、全体で15.6ha、完成目標年度は、1987年で、現在、埋め立てを進めている。

（文責・増川博／神戸市港湾局技術部計画課長）



V
プロット番号 48

# 神戸研究学園都市

所　在　地　神戸市西区伊川谷町、同垂水区名谷町
計画・事業主体　神戸市開発局
計画・事業年度　昭和55年度～昭和65年度（1期計画）
用途・規模　380ha（1期計画276ha）

神戸研究学園都市は、大学をはじめとする研究・教育施設と、良好な環境の住宅地を一体的に整備するという目的で、新住宅市街地開発事業を主体に、人口2万人の新しいコミュニティーづくりをめざすものである。

過密化した市街地の大学を受け入れ、より広く整ったキャンパスづくりをめざすとともに、地域社会の発展に結びつく特色ある研究分野を育てていく。さらに研究・教育活動がより活発になるよう「大学と大学」「大学と研究機関」「市民と大学」といったそれぞれの結びつきをより強くするための共同利用施設の整備を進めていく。

このように、研究者・学生と市民が、自由に交流できるような環境をつくり、研究・教育施設と一般の住宅が一つのまとまりをもった魅力のあるまちとなるよう土地利用を考えている。

大都市近郊のみどり豊かな神戸研究学園都市は、神戸の知的文化の核として、発展が期待されている。

なお、神戸研究学園都市の東隣の神戸総合運動公園をメイン会場に昭和60年8月にユニバーシアード神戸大会（世界100ヵ国、5,000人の選手役員が参加予定）が開催される。神戸研究学園都市の施設も選手村として利用されることになっている。

（文責・南一郎／神戸市開発局庶務課）



用途別土地利用計画図




土地利用計画表

| 区　分 | 1期 | 2期 |
|---|---|---|
| 住宅用地 | ha 83 | ha — |
| 学園施設〃 | 50 | 45 |
| 教育施設〃 | 12 | — |
| 公益施設〃 | 15 | 5 |
| 公共施設〃 | 116 | 54 |
| 合　計 | 276 | 104 |

W
プロット番号 49

# 総合福祉ゾーン しあわせの村

所　在　地　神戸市北区山田町下谷上字中一里山
計画・事業主体　神戸市
計画・事業年度　55年～64年
用途・規模　計画面積：205ha

近年、福祉をめぐる情勢は、高齢化社会の急速かつ着実な進行と、低経済成長時代への移行により大きく変貌している。これに伴い福祉に対するニーズも変化し、多様化している。

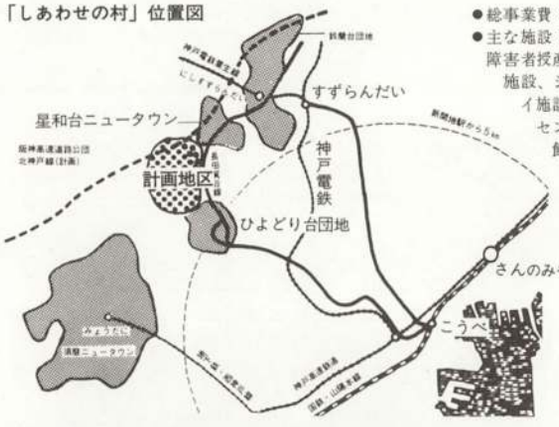
しあわせの村は、ハンディキャップを負った人々に、これからの新しい福祉サービスを提供するため、各種福祉施設を体系的・総合的に整備するとともに、すべての市民が利用できるスポーツ・レクリエーション施設も一体的に建設し、福祉都市づくりを推進している神戸市の福祉の核となるべく計画されたものである。

機能としては、(1)通所あるいは短期滞在利用によるデイケアや授産・ショートステイを行う在宅福祉サービスの核、(2)治療や介護の場（病院や施設）から家庭や地域社会に復帰・参加する過程で必要な相談・指導・機能訓練を行う中間的施設、(3)福祉の分野だけでなく医療・教育・労働からスポーツ・レクリエーションに至るまで隣接の領域との連携を配慮した福祉サービスの提供、(4)文化・スポーツ・レクリエーション活動を通じて、障害者と一般市民の交流を図り、相互理解・市民啓発を推進する場としての機能を有している。

施設建設にあたっては、それぞれの施設が有機的連携のもとに、十分機能が発揮できるよう計画的に配置・整備していく予定である。

（文責・吾郷信幸／神戸市民生局庶務課）

「しあわせの村」位置図




- 総事業費：約300億円
- 主な施設：医療施設、障害者授産施設、老人施設、ショートステイ施設、市民教育センター、体育館、野球場、テニスコート等





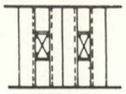
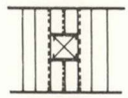
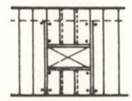
指月亭中庭(村野藤吾設計)撮影：恒成一訓

構造の頁

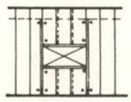
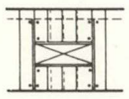
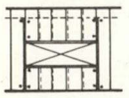
# 113

# 「ALC構造設計基準」の改訂（その2）

関西エー・エル・シー卸協同組合技術委員会

| 開口幅(mm) | 補強方法 | 風圧力 (kg/㎡) 80 | 120 | 200 | 300 |
|---|---|---|---|---|---|
| 600 |  | スミ金物（Pℓ－50×3.2） | 同左 | 同左 | 同左 |
| 1,200 |  | U型金物（Pℓ－50×6） | 同左 | 同左 | 同左 |
| 1,800以上 |  | 開口部に作用する風圧力を直接構造躯体へ負担させる構法とすること。 | | | |

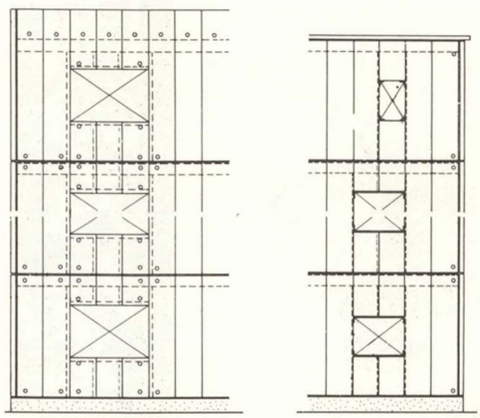
開口幅1,800㎜以上の補強部材

| 開口幅(mm) | 補強方法 | 部材 | 風圧力 (kg/㎡) 80 | 120 | 200 | 300 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1,800 |  | たて材 | L－65×65×6 | L－65×65×6 | L－75×75×6 | L－90×90×7 |
| | | よこ材 | L－50×50×6 | L－50×50×6 | L－65×65×6 | L－65×65×6 |
| 2,400 |  | たて材 | L－65×65×6 | L－75×75×6 | L－75×75×9 | L－90×90×7 |
| | | よこ材 | L－65×65×6 | L－65×65×6 | L－75×75×6 | L－75×75×9 |
| 3,000 |  | たて材 | L－75×75×6 | L－75×75×6 | L－90×90×7 | L－90×90×10 |
| | | よこ材 | L－65×65×6 | L－75×75×6 | L－75×75×9 | L－90×90×10 |

（たて材支点間2.8mで算定）

## Ⅲ　外壁縦壁挿入筋構法と新規準図

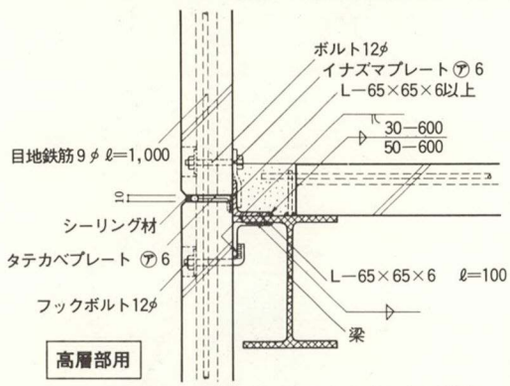
### (1)　外壁の開口部補強



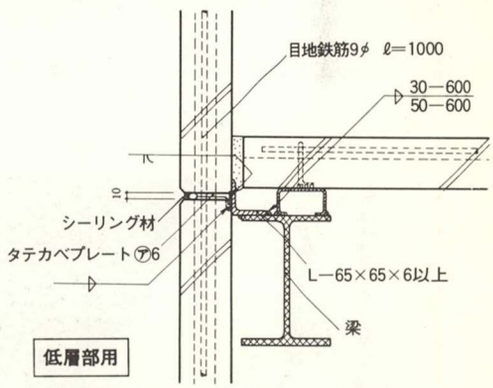
### (2)　外壁縦壁挿入筋構法図

(2)—2　一般部分

●よこ目地は、耐火構造または防火構造とする場合、ロックウール等を充てんする。

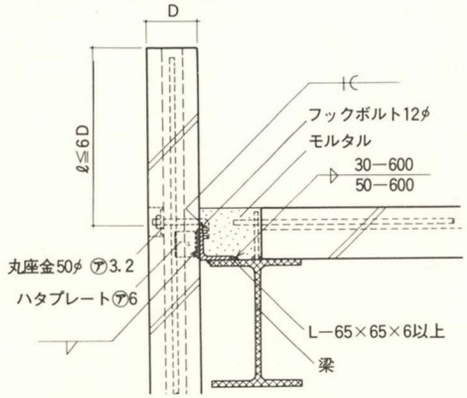



一般的な目安として高さ18mをこえる場合。

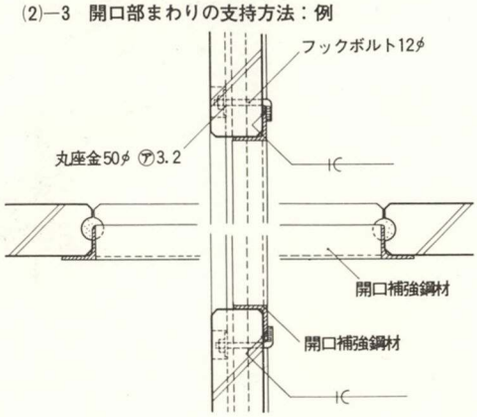


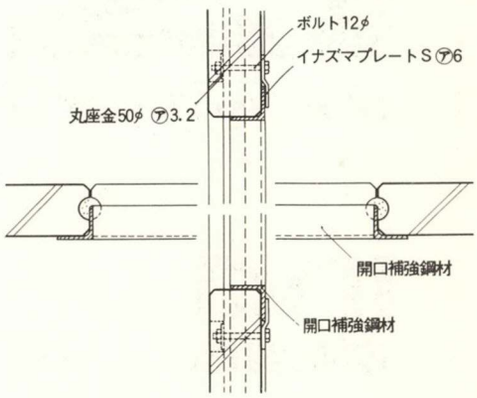

一般的な目安として高さ18m以下の場合。

(2)—1　パラペット部分




(2)—3　開口部まわりの支持方法：例




●高層部用：一般的な目安として高さ12mをこえる場合。

# おしり後進国のみなさまへ。

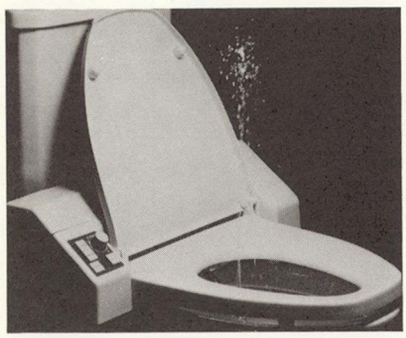
## 使ってみれば、何でもないね。

頭を切り替えるって、タイヘンむづかしい。
拭く、と思いこんでいたものを、いきなり
「洗うのがタダシイ」と言われても、
ハイそうですかとはいかない。
今までの人生を間違いだというのか、と、
いえ、たかがおしりの話でもですね、
つい感情的になってしまう。でもね。
冷静に考えると、なるほどタダシイ。
「拭くより洗うほうがきれい」
その通りですね。
「拭くより洗うほうがやさしい」
これもその通り。
おしりほど傷つきやすい場所はないって、
日本人ならイタイほど知っているものね。
だから洗いましょう。
いいことなら早く習慣にしてしまいましょう。
だって「日本人のおしりは欧米人より清潔でない」
なんてウワサが広がったら、困るものね。



日本で最初にシャワートイレを開発した伊奈。
温水シャワーで洗って、温風で乾かす—清潔さや爽快さはもちろん健康維持にも最適。おしりの健康を考えて20年、伊奈が提案する新しい習慣です。

●真下からのシャワーで確実に洗浄●ソフトなシャワー感覚の複数噴出穴●生理中も爽やかなチャーム洗浄●新機構2段伸長オートスライド式ノズルを採用●安定湯温の貯湯式●いつも適温、IC暖房便座●お子さまにも簡単、"ワンプッシュ操作"●ほとんどの洋式便器に取り付け可能、便利なシートタイプ



**伊奈シャワートイレ**

（シャワー洗浄、チャーム洗浄、温風乾燥、暖房便座）
シャワートイレFIII：価格158,000円（取付費別途）

ina
伊奈製陶

本社　〒479　愛知県常滑市鯉江本町3丁目6番地　☎05693-5-2700

設備の頁

# 112
# 大便器の種類と洗浄器具（その2）

近藤　峰治

## 2．洗浄方式

大便器を洗浄する方式として、(1)タンク式、(2)フラッシュバルブ式に大別される。

タンク式は、(イ)ロータンク式、(ロ)ハイタンク式に区別され、現在はロータンク式が多く利用されている。タンク式洗浄は、もともと水圧の低い所、給水口径が小さい所で、主に一般家庭に多く使われている。

ロータンク式にもいろいろ種類があり、つぎのように分類される。

(a)すみ付…壁のコーナーに取り付ける方式（**図1**）

(b)平付……便器のすぐ上の壁に取り付ける方式（**図2**）

(c)密結型……タンクを便器の上にのせる方式

フラッシュバルブ式はつぎのように分類される。

(a)フラッシュバルブ……ハンドル操作による洗浄方式（**写真1**）

(b)リモコンフラッシュバルブ……フラッシュバルブ本体と操作ハンドルが、別々の場所に設置することができる遠隔操作方式（**写真2**）

(c)低圧フラッシュバルブ……低水圧に使える構造となっているが、サイホン、サイホンゼット便器には適正な流量が確保できないので洗い落とし便器に使う。

(d)節水型フラッシュバルブ……ハンドルを押し続けても1回の吐水しか出ない機構となっている

(e)電気式フラッシュバルブ……ハンドルの代わりに電気的装置を用いてフラッシュバルブを作動させる方式

等があるが、ここでは、電気式フラッシュバルブについて略述する。

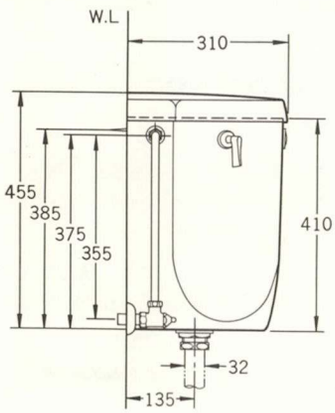
## 3．大便器自動洗浄方式

### （1）種類

OK-1SB(露出型センサー付ボタン)（**写真3**）、OK-110MKV(**写真4**)。

センサーは、このほかに埋込型のOK-3S(**写真5**)と、センサーのみのOK-1S(露出型)がある。

フラッシュバルブは、このほかに停電時の操作ハンドル付きのOK-110MKVEがある（**図3**）。




◀図1

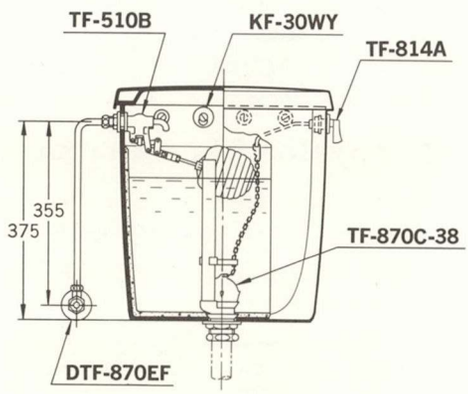



図2▶

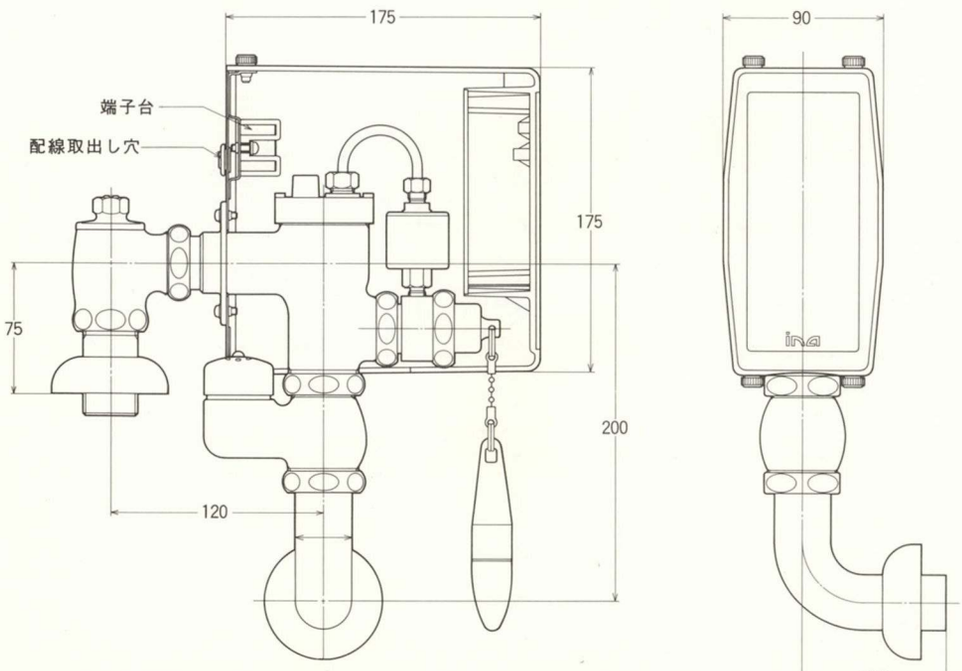



図3　大便用自動フラッシュバルブ露出型（OK-110MKVE）

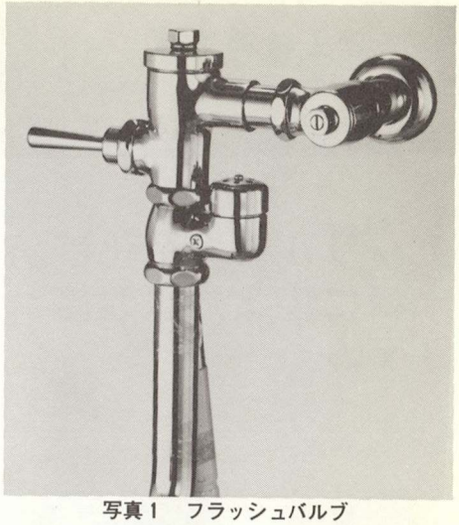


写真1　フラッシュバルブ

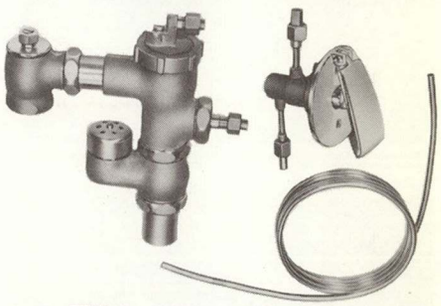


写真2　リモコンフラッシュバルブ

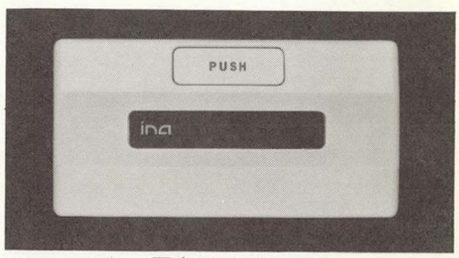
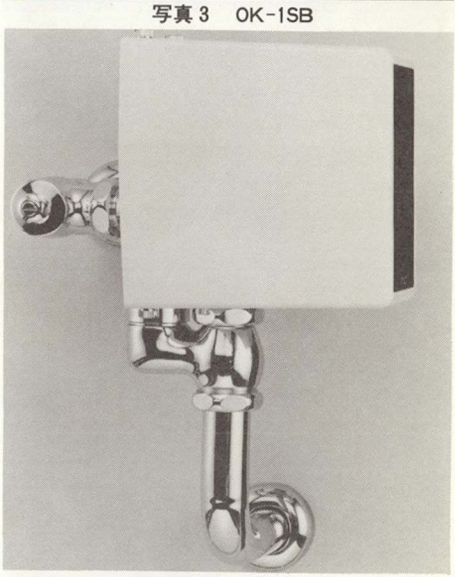
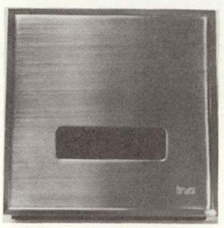



写真3　OK-1SB



▲写真4　OK-110MKV



◀写真5　OK-3S

（つづく）

（こんどう　みねはる
伊奈製陶株式会社住設事業本部商品計画設計部）

施工材料の頁

# 111

# アクリルゴム系化粧防水材による外壁改修システム

野々市　迪夫

## 外壁化粧防水材の必要性

昭和30年以降、わが国における建築物は、高層化・軽量化・プレハブ化工法に移行し、工期の短縮・省力化・経済性等の諸点から、コンクリート打設はポンプアップが主流となってきた。

その結果、仕上がりコンクリートにひび割れが発生しやすいとか、柔構造のため、建物の揺れが大きくなって、ひび割れを誘発しやすいなどの原因により、築後10～20年の建物の外壁からの漏水事故が多発するようになり、これが雨漏り事故の50%以上を占めるまでになってきている。

さらに外壁の老化や、海砂の使用による鉄筋コンクリートの鉄筋腐蝕等に起因するトラブルも後を絶たず、また、アルカリ骨材の使用によるコンクリートの劣化・ひび割れの懸念も出ており、今や壁面の保護・防水の重要性がとみに高まってきている。

コンクリートの劣化自体は化学反応であるので、その原因になっている外的条件をシャットアウトすれば、劣化のスピードを抑えることができ、鉄筋コンクリートの機能を維持することが可能である。アクリルゴム系の外壁向化粧防水材（塗膜防水材）は、半永久的にゴム弾性を有し、かつ、優れた気密性と水蒸気透過性を有し（**表－1**）、着色性とパターンに富む、施工性の良い吹付型の塗膜防水材であるので、新築のみならず、改修システムに組みこめば、最近問題化しているこれらの事故を解決し、かつ、建物の寿命を伸ばすための、最良の手段となるのではなかろうか。

**表－1　アクリルゴム・化粧防水材（アロンウオール）塗膜の気密性・水蒸気透過性**

| | | 測定時材厚 | 空気透過率 R:cc/mhr·mm Hg |
|---|---|---|---|
| アロンウオール塗膜 | 空気→ PA（プライマー） ST（防水層） FCカラー | 1,0mm | $2,8\times10^{-4}$ （1）※ |
| コンクリート板 | 空気→ | 60mm | 1.4 (5,000)※ |

| | | 参考値 | Rv | P |
|---|---|---|---|---|
| 透湿抵抗 RV（$m^2$,hr,mmHg/g） | 30 | 石綿板(5%) | 2.44 | 0.41 |
| 透湿係数 P(1/RV) | 0.033 | コンクリート(1：4)100% | 69.93 | 0.0143 |
| | | モルタル(1：2)10% | 6.41 | 0.156 |

※（　）はアロンウオールを1とした場合の比率

## 外壁化粧防水材に要求される機能と性能

外壁に使用される化粧防水材は、あくまでも建物を強固に保護し、かつ、厳しい内部や外部からの劣化条件、とくにひび割れに対し、どこまで対応できるかがキーポイントになる。そして、建物本来の個性をきわだたせるためのファッション性も持たなければならない。すなわち、防水性能に加え、化粧性と躯体保護機能を合わせもつことが、この材料の必須条件である。

加えてこの材料はメーカーから出荷された段階では半製品に過ぎず、責任のある適確な施工が行われてはじめて最終製品になり得るわけであり、「責任施工体制」が伴わなければ意味をなさない。

さらに施工後の塗膜が、内部や外部からの劣化条件に長期間曝されながらいかにバランス良く当初の基礎性能を維持するかで、その仕上材の評価が決まるわけである。特定の機能のみを重視するとか、設計価格のみを先行させることなく、十分、商品の性能・施工の取りくみ方・実績・保証の仕くみ等を吟味して、取り上げていただきたい。

## 建築物の躯体保護に対するアクリルゴム系化粧防水材の役割

外壁化粧防水材に要求されるものは、単に防水性能だけではなく、建物の総合的な保護機能、すなわちコンクリートの中性化防止、耐塩害性、鉄筋鉄板類の防錆効果、耐凍害性、耐風害性等に優れたものでなければならない。

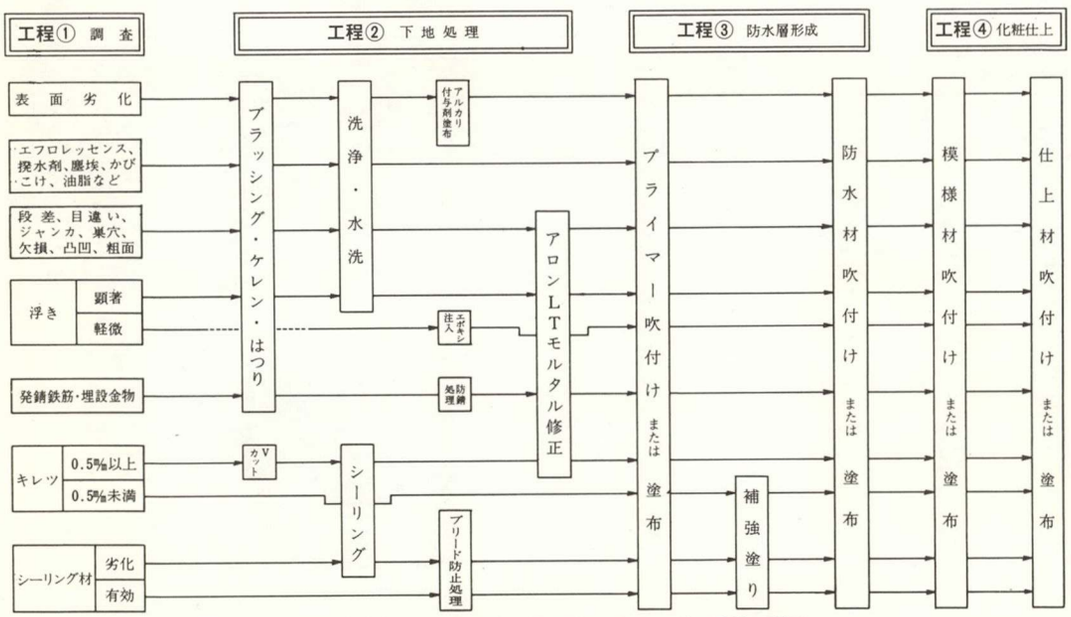
日本は島国という条件にあり、南北に長いこともあって、塩害・凍害をはじめ、厳しい自然条件が直接外壁を傷めている。

こうした厳しい自然条件や外的諸条件から建築物を美しいままで保護するには「建造物の表面を、不浸透性の塗覆物で覆う」方法しかなく、さらにはすでに老化・損傷をきたしている建物についても同様の方法で改修を行うことが必要となる。

## アクリルゴム系化粧防水材による改修システム

今や建築業界では品質管理・品質保証が酷しく論議されている。最近の工事現場では、ＴＱＣ（総合的品質管理）が重視され実践されている。これにしても、材料の品質のみではなく、施工および維持管理にわたる建物全体の寿命の中で捉えられるものである。それだけに製品の厳重なる品質管理はもちろんのこと、システム化された工程に基づく現場施工によってはじめて要求される機能と性能を満足する最終製品となり得るわけで、それだけに、「責任施工体制」の確立が肝要である。

今、アクリルゴム系化粧防水材の、改修システムの一例を図－1にあげた。




**図－1　アクリルゴム・化粧防水材（アロンウオール）の改修工程図**

## あとがき

昭和40年の後半より、伸びのある柔軟な塗膜を形成し得るとする弾性仕上材料が続々と上市され、今ではメーカー数40社以上、製品銘柄100以上を数え、年間３万トン以上の市場が形成されているといわれる。各銘柄により、性能格差にかなりのバラツキが見られるが、最近は性能基準を設定しようとの動きも活発である。逐次明確に分類されてくるであろう。それによって、それぞれの性能レベルも明らかとなり、適材が適所に使用されるようになれば、適正な価格も維持されるであろうことを期待して止まない。

（ののいち　みちお
東亜合成化学工業株式会社建材事業部長）

アクリルゴム・屋上化粧防水材　　アクリルゴム・外壁化粧防水材

# アロンコート®・アロンウオール®

責任施工（防水保証付）

## 外壁に生じた亀裂や剥れを放置していませんか。

大切な建物を守る外壁。その外壁にヒビ割れや剥れが生じると雨水が侵入し、鉄筋を腐蝕させ、内部から建物の寿命を縮めてしまいます。早期発見、早期改修こそが建物の健康を守るのです。アロンウオール改修システムは、単なる塗り替えとは異なり、〔**防水＋化粧＋軀体保護**〕の機能を合わせ持つ優れた特性に加え、材・工一体化した責任施工(防水保証付)によって、建物を美しくよみがえらせ、日本のきびしい自然条件から、あなたの大切な財産を守ります。

## 東亞合成化学

建材事業部

本社　東京都港区西新橋1-14-1 〒105 ☎東京03(502)2311大代表

大阪支店(203)3171・営業所／仙台(91)5665・名古屋(541)1181・富山(42)2311・高松(25)2671・広島(228)5430・福岡(721)1902

全国アロンコート・アロンウオール防水工事業協同組合　建設省・東計振発第359号認可

改修についての小冊子が、用意してありますので、ご請求ください。

日本建築協会企画・建築技術選書33

# 建築式典の実際

若林嘉津雄 著

**実際に担当する人の立場に立った，すぐに役立つ式典実務の格好の指導書**



**「祝詞奏上」**
これは地鎮祭におけるもので，左下に清砂に立てた五行幣がみえる

主な内容

| | |
|---|---|
| 式典の意義と種類 | 上棟式 |
| 式典の形式 | 定礎式・定礎銘文の例 |
| 式次第 | 修祓式 |
| 式典用語 | 竣工式 |
| 式典の計画 | 落成式・竣工披露 |
| 式典の準備 | 直　会 |
| 現場係員としての注意事項 | 火入式・点灯式 |
| 手水之儀 | 除幕式 |
| 玉串奉奠について | 古井戸埋鎮式 |
| 地鎮祭 | 式典実施要領 |
| 起工式 | 司会の要領 |
| 立柱式 | 挨拶の例・案内状の例 |

A５・136頁・定価1300円

〈目録進呈〉 ☎075-343-0811　　学芸出版社　　京都市下京区木津屋橋通西洞院東入

## ◀「建築と社会」誌バックナンバーのおしらせ

バックナンバーがそろっております。購入ご希望の方は日本建築協会まで(電話06—348—0635)お申し込み下さい。バックナンバーは特価以外￥750(58年4月号以降は￥950)です。なお、郵送料は実費いただきます。年間購読のお申し込みも応じます。

＊印は欠号

| 巻＼号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 昭和39年(45集) | 建築と照明 | ＊プレハブ | 外部空間 | ホテル建築 | 鋼管構造 | 施工 | 第11回青年建築家 | 宅地開発 | オリンピック競技施設 | 交通施設 | 工事別建築材料集成(上) | 工事別建築材料集成(中) |
| 昭和40年(46集) | 尾崎久助 | 委員会 | 工事別建築材料集成(下) | 内部空間 | 人間工学 | 社会開発 | 第12回青年建築家 | 施工の手続 | 建物管理 | ＊建物と騒音 | 中小企業団地 | 医療施設 |
| 昭和41年(47集) | ＊都市住居 | 地下街 | 空気調和設備 | 建具金物 | 建築法規 | 国立京都国際会館 | 第13回青年建築家 | 1970年万国博会場計画 | ＊造園 | 最近の地下工法 | 市街地改造 | 公害と都市・建築 |
| 昭和42年(48集) | ＊国立劇場 | 建設機械 | 日本建築協会50周年記念号 | 社会と建築 | 都市と流通空間 | 住宅と設備 | 生産施設 | モントリオール万博 | 建設資金 | 最近の外装 | 第14回青年建築家 | 建築と生命 |
| 昭和43年(49集) | 都市生活 | 都市のいこいの場 | ＊50周年記念事業記録号 | ＊幼児施設 | ＊教育施設 | ＊医療施設 | 都市交通施設 | 都市供給処理施設 | 群としての住居 | 都市のアクセサリー | 第15回青年技術者 | 新都市計画法の諸問題 |
| 昭和44年(50集) | ＊建築産業の構造と方向 | 鉄筋コンクリート構造耐震設計の再検討 | 計画と住民—中部からの報告 | 老人とすまい | 建築史の方向—現代によみがえる過去— | 建築行政に期待するもの | 転換しつつある住宅生産 | ＊解決をせまられる公害問題 | ＊海洋開発 | ＊民家の系譜と保存計画 | ＊第16回青年技術者 | 九州からの報告 |
| 昭和45年(51集) | 現代社会とは何か | 建築と安全 | 日本万国博と技術開発 | 設計のシステム化 | グッドデザイン運動 | 高層建築問題 | 欧米における契約 | 建築家の課題と責任 | ＊工事計画 | ディベロッパー | 第17回青年技術者 | 山陽・山陰からの報告 |
| 昭和46年(52集) | 住宅—60年代の総括と70年代の展望 | 都市エネルギと無公害化ビル | 建築基準法 | 都市生活とみどり | ＊企画と設計のプロセス | 解体工学 | 都市と港湾 | 転換期のニュータウン | 軟弱地盤と震災 | 変貌する建築生産 | 第18回青年技術者 | ＊自然とレジャ空間 |
| 昭和47年(53集) | 冬季オリンピックと札幌 | 600号記念号 | インテリアデザイン | ＊都市交通問題 | ＊水利用 | 量産住宅の設備 | ＊一般号(桂中学) | | 都市住環境へのアプローチ | 都市防災 | 第19回青年技術者 | 北陸の新建築 |
| 昭和48年(54集) | 建築教育 | 泉北ニュータウンのコミュニティ施設 | 大阪大林ビルディング | レジャーと施設 | 大阪国際ビルディング | 老人コミュニティ | 住宅—建築家のすまい | ＊新用途地域制と環境 | 構造と施工 | 仕上と材料 | 第20回青年技術者 | ＊ヨーロッパのまちづくり |
| 昭和49年(55集) | 歴史的環境保全 | 明日の建築はどうなるか | 保養所作品 | 既成市街地の住宅地整備の方策 | 北摂ニュータウン計画 | 建築生産と流通機構の変容 | ビルの省エネルギ化 | 高層プレハブ住宅の構造設計 | ＊みどり | ＊屋根防水工事の失敗例とその対策 | 第21回青年技術者 | ビル防災に関する12章 |
| 昭和50年(56集) | 図書館 | 東海の新建築 | ＊インテリア | PC板を使用した工業化住宅 | 社会・建築・法 | ＊都市の景観と施設 | 建築とプレストレストコンクリート | 生活排水処理施設のあり方 | ＊人間環境としてのターミナル | 騒音対策と防音材料 | 第22回青年技術者 | ＊集合住宅の設備 |
| 昭和51年(57集) | 証言'76—建築デザインの動向 | 建築基礎構造の問題点 | 医療施設 | 床工法と材料 | 建築防災と法 | 市街地整備 | 工場建築と設備 | 鉄骨構造のジョイント | 集住体のハードとソフト | 結露防止対策と断熱材料 | 第23回青年技術者 | ＊設備からみた建築の問題点 |
| 昭和52年(58集) | ＊デザインの動向—部分と全体 | 兵庫県—その風土と建築・建築界 | ●日本建築協会60周年記念号<br>●ニュータウンの管理 | コンクリートの品質管理と行政指導の方向 | 日影規制と法 | 身障者施設 | 照明設備 | 埋立地における構造問題—大阪南港と芦屋浜を例として | 日本住宅公団と建築作品 | ミニ乱開発から計画的ミニ開発へ | 建築における省エネルギー化 | 第24回青年技術者 |
| 昭和53年(59集) | デザインの動向—新旧のコントラスト | 水 | 医療施設—病院建築と情報システム | 外壁塗装材料 | 電波障害と建築 | 組合方式による集合住宅計画 | 住宅設備 | 新しい耐震設計 | CAD—設計とコンピュータ | ＊一般号 | 第25回青年技術者 | ビル環境 |
| 昭和54年(60集) | ＊転換期の再開発 | 大阪南港ポートタウン | 商業空間 | コンクリートのひびわれ | 日影規制 | ホテル建築と情報システム | 農村施設の変貌 | 建物の終局強度の検討 | 庄内のまちづくり | 80年代のインテリア | 第26回青年技術者 | 建設業の労務事情 |
| 昭和55年(61集) | 80年代の都市と建築—まちづくりの歴史と展望 | ＊<br>●今後の省エネルギーの趨勢<br>●建築金物 | ●最近の銀行建築<br>●安井建築設計事務所作品集 | 住宅の耐久性 | 建築行政と法規 | ＊最近の防水工法 | 都市景観とアメニティ | 屋内体育施設の設備 | 水ぎわのまちづくり | 今後の外装吹付仕上材 | ●第27回青年技術者<br>●転機にたつマンション・集合住宅 | 設計のための新耐震設計法 |
| 昭和56年(62集) | 職能論 | 中国の論文—北京の都市計画 | ポートピア'81 | 台所まわりの計画と設備 | シーリング材の知識 | 災害と法—安全な環境をめざして | 都市住宅—住まい手からの発想 | ●建築物と風—デザイナーのために<br>●日建設計作品集 | 住宅・都市整備公団—関西における都市整備を中心とした新公団の役割 | 間仕切壁の性能評価 | 第28回青年技術者 | 障害者の暮らしやすい環境と設備 |
| 昭和57年(63集) | 新たな商業空間の展開 | 省エネルギーと開口部 | 医療施設—地域医療と設備計画 | 近畿の地盤と地質 | 都市景観—まちなみ美観への誘い | 大阪市庁舎(第1期) | 音とホール建築 | 大スパン構造 | 昭和設計作品集 | ●絵本にみるすまいとまちづくり<br>●オー・エム・ホテル日航ビル | ●第29回青年技術者<br>●地方の庁舎建築 | 風土・空気と人間 |
| 昭和58年(64集) | 関西の建築文化を考える | マイコンの建築への利用 | 多様化する運動施設 | 建築と品質管理 | 計画におけるコミュニケーションとプレゼンテーション | 大阪駅とターミナルビル | 維持管理と設備更新 | 東海の将来と文化を考える | オフィス・インテリアの変革 | プレストレスト・鉄筋・コンクリート構造 | ●第30回青年技術者<br>●大阪城国際文化スポーツホール | 集合住宅と生活音 |

雑誌の大きさは第48集からは現行のA4判変形、それ以前はB5判

日本建築協会

# 月間の動き

## 昭和58年11月分

### 理　事　会

**定例理事会**
16日　4時～5時　於本会会議室
出席者　福田会長ほか18名
議事 (1) 議事録署名者2名の選出の件
(2) 事務所移転日確認の件
(3) 建築工事実務講習会共催の件（広島）
(4) 建築防災関係法令研究連絡準備会に関する件
(5) 事務局職員下期賞与支給の件
(6) 入退会者承認の件
(7) 事務所移転披露祝賀会開催の件
(8) 報告事項

### 企　画　委　員　会

**常設委員会代表との懇談会**
2日　4時～6時　於本会会議室
出席者　福田会長、三品委員長ほか8名
議事　常設各委員会の現況報告後懇談

### 事　業　委　員　会

**若い会員の集い小委員会**
1日　6時半～9時半　於本会会議室
出席者　山形副委員長ほか8名
議事 (1) 前回の事業委員会の報告
(2) 第5回以降の企画及び経過報告
(3) 本会事務所移転に伴う諸問題について
(4) 次回小委員会開催日

**広報小委員会**
2日　6時～8時半　於本会会議室
出席者　原見副委員長ほか8名
議事 (1) 前回の事業委員会の報告
(2) 第59回展示写真について
(3) 第60回以降の展示写真について
(4) 本年度の研修会開催について
(5) 本会事務所移転に伴う諸問題について
(6) 次回小委員会開催日

**見学会小委員会**
7日　6時～7時半　於本会会議室
出席者　上出副委員長ほか8名
議事 (1) 前回の事業委員会の報告
(2) 9月、10月の見学会の実施報告
(3) 11月の企画について
(4) 12月以降の企画について
(5) 本会事務所移転に伴う諸問題について
(6) 次回小委員会開催日

**広報小委員会PR分科会**
9日　6時～8時半　於本会会議室
出席者　今野・木場両幹事ほか2名
議事 (1) 第59回展示写真「文化・芸術の拠点―兵庫」の展示について
(2) 第60回以降の展示写真について

**委員会**
10日　0時半～2時　於本会会議室
出席者　三品委員長ほか7名
議事 (1) 各小委員会の事業報告及び事業企画について
(2) 本年度の忘年懇親会開催について
(3) 本会事務所移転に伴う諸問題について
(4) 次回委員会開催日

**若い会員の集い企画分科会**
28日　6時半～10時　於本会会議室
出席者　山形副委員長ほか4名
議事 (1)「建築の評価について」の企画について
(2) そのほか

### 編　集　委　員　会

**5月号「住環境と法」特集編集幹事会**
9日　1時半～4時半　於本会会議室
出席者　坂幹事ほか3名
議事　昭和59年5月号「住環境と法」特集の企画（テーマと執筆者の具体化）

**委員会**
10日　4時～6時　於本会会議室
出席者　横山委員長ほか4名
議事 (1) 11月号「第30回青年技術者」および「大阪城国際文化スポーツホール」特集経過報告
(2) 12月号「集合住宅と音」特集経過報告
(3) 1月号「21世紀への関西―魅力あるまちづくりを問う」特集経過報告
(4) 2月号「関西の超高層ビル」(仮称)特集報告
(5) 3月号特集の企画―「都市(まち)の活性化と商業文化空間の可能性」(仮称)特集と広告企画小委員会からの提案―
(6) 4月号特集の企画
(7) 5月号「住環境と法」(仮称)特集の企画―法令分科会報告
(8) 収支状況報告、そのほか

**昭和59年1月号「21世紀への関西―魅力あるまちづくりを問う」特集第6回編集幹事会**
10日　6時～9時半　於本会会議室
出席者　田中幹事ほか5名
議事 (1) 速記録の整理
(2) アンケート回答の報告
(3) プロジェクトのマップとフォーマット

**作品作風小委員会**
22日　3時～5時半　於本会会議室
出席者　小野副委員長ほか1名
議事 (1) 新建築調査表選定
(2) 最近のPR状況
(3) その他

**広告企画小委員会**
22日　4時～5時半　於本会会議室
出席者　横山委員長ほか5名
議事 (1) 12月号「集合住宅と音」特集広告収入報告
(2) 正月号「21世紀への関西―魅力あるまちづくりを問う」特集広告途中経過報告
(3) 2月号「関西の超高層」特集広告企画
(4) 3月号「ビルのリフレッシュ―内外装補修技術の現状と発展」特集
(5) 4月号「都市の活性化と商業空間の可能性」特集案報告
(6) 5月号「住環境と法」特集案報告
(7) 収支状況報告

**施工材料分科会**
30日　4時～7時　於本会会議室
出席者　西牧幹事ほか3名
議事 (1) 4月号施工材料特集の企画（特集テーマの選定）
(2)「施工材料の頁」6月号以降の企画
(3) そのほか

### 出　版　委　員　会

8日　4時～5時半　於本会会議室
出席者　小林委員長ほか7名、学芸出版社
議事 (1) 建築技術選書売上経過・企画・今後の方針
(2) 執筆者グループ小委員会の件
(3) その他

### 建　材　委　員　会

17日　4時～5時半　於本会会議室
出席者　牧田委員長ほか11名
材料説明　東伸パーキングシステム
説明者　株式会社東伸
議事 (1) 今後のメインテーマ
(2) 今後の新建材紹介コーナー
(3) その他

### デザインコンクール

**第29回工高生デザインコンクール表彰式**
26日　2時～3時半　於本会会議室
出席者　一の会代表・岡橋作太郎氏
多胡教育委員長、柳審査委員長、岡田審査委員ほか4名、入選者8名
次第 (1) 主催者のあいさつ
(2) 審査の経過報告
(3) 入選者の表彰（表彰状、賞品の授与）
(4) 懇談会（入選者、審査員その他出席者全員）
表彰式終了後、国立文楽劇場を見学（4時→5時）

### 見　学　会

**晩秋に美濃・尾張を訪ねる……(懇親と見学の旅)**
**国宝茶室〝如庵〟と国宝・犬山城、志野・織部・瀬戸焼の安藤日出武氏の陶舎、開山窯インターセラム、サンゲツのインテリアプラザ、その他の見学会**
11日～12日（1泊2日）　於愛知県
講　師　岡田孝男氏(工学博士・帝塚山学院大学教授)
参加者　28名

### 研　修　会　・　講　習　会

**集合分譲住宅における品質保証に関する研修会**
**―かし補修基準と耐久性能に対する建築技術の果す役割―**
16日　1時半～5時　於建設交流館
科目・講師
「公社分譲住宅における品質保証」
中居誠之助氏(大阪府住宅供給公社建設部建設第1・2課長)
「建築技術の果す役割と将来」
福嶋孝之氏(㈱長谷川工務店大阪支社常務取締役技術本部長)
聴講者　114名

**建築工事実務講習会**
29日　9時～17時　於広島市中特会館
科目・講師
施工計画　大林組広島支店工務部工務課長　古荘昭憲氏
仮設見積　大林組本店建築工務部工務課長代理　安立俊夫氏
積算業務　竹中工務店大阪本店見積課長　黒川征一郎氏
聴講者　90名

### 建　築　ク　ラ　ブ

**朝食会**
8日　8時半～10時　於大阪グランドホテル
出席者　69名
当日は、フードサイエンス・ドクター今井良次氏より、食生活と健康についてのお話を伺った。

### 建築業務基準委員会

30日　2時～4時　於日本建築士会連合会
出席者　谷委員長ほか構造団体委員
議事　建築業務基準について（継続）

### 忘　年　懇　親　会

**実行委員会**
21日　3時～5時　於大阪建築士事務所協会
出席者　共催5団体選出委員及び事務局
議事 (1) 賛助会費、寄贈品の申込状況と今後の対策
(2) 行事進行案の件
(3) 招待者（来賓）確定の件
(4) その他

### 11月の入会者（敬称略）

〔個人会員1名〕
志村　公夫

# 賀　正

# 1984

# 設計事務所有志



株式会社

## A.R.I 建築事務所

代表取締役　亀井晃治

本社事務所　大阪市南区谷町7丁目3番4-203号 新谷町第3ビル2F　TEL(06)768-1771(代)

アトリエ 東大阪市上石切町2丁目14－35　TEL (0743) 73—6137

---

## 株式会社 東建築設計事務所

代表取締役　東　秀保

大阪市北区天神橋2丁目5番18号 南森町センタービル4F　電話 06(358)5598・3497

---

## 株式会社 井上達明建築事務所

代表取締役　井上達明

〒530 大阪市北区西天満1丁目9番13号 パークビル中之島　電話 06-361-1071代表

---

## 株式会社 伊東建築設計事務所

代表取締役　竹原永一郎

〒556 大阪市浪速区幸町2丁目2番20号(清光ビル) 電話(562)4343～5

---

## 株式会社 伊藤建築設計事務所

取締役会長　伊藤鑛一

代表取締役社長　鋤納忠治

本　社　名古屋市中区錦3丁目3-6(日経錦別館)　電話〈052〉951-1110㈹

東京事務所　東京都千代田区神田美土代町7(久保ビル)　電話〈03〉294-6061㈹

## 株式会社 泉沢建築設計事務所

代表取締役　泉　沢　哲　史

〒530 大阪市北区西天満4丁目12番2号(オオシマビル) TEL (06) 364-9071(代)

## 株式会社 浦辺建築事務所

代表取締役　浦辺鎮太郎
代表取締役　松村慶三

大阪市北区梅田1丁目12番39号・新阪急ビル　電話 06(341) 1727
東京事務所　電話 03(263) 9758　福岡事務所　電話 092(761) 2206

## 株式会社 久米建築事務所

取締役社長　永井賢城

本　社　東京都港区西麻布1丁目13番11号　電話 03(403) 0251大代表
大阪事務所　大阪市西区江戸堀1丁目10番8号 帝人殖産ビル　電話 06(444) 1161代表

## 株式会社 小西設計

取締役会長　小西岬
取締役社長　橋本正章

| | | |
|---|---|---|
| 本　社 | 大阪市西区立売堀1丁目12番16号 | 電話(532)4051代表 |
| 大阪事務所 | 大阪市西区阿波座1丁目15番15号(第一協業ビル) | 電話(532)4051代表 |
| 東京事務所 | 東京都千代田区神田鍛冶町3－3(大木ビル内) | 電話(256)9301代表 |
| 広島事務所 | 広島市中区大手町2丁目7番1号(三葉ビル) | 電話(246) 0144 |

## 株式会社 佐藤武夫設計事務所

代表取締役社長　佐々木群

| | | |
|---|---|---|
| 本　社 | 〒105 東京都港区新橋4－6－15(日新建物ビル) | 電話東京(03) 436－3511(代) |
| 東北支所 | 〒980 仙台市本町2－16－15(中村ビル) | 電話仙台(0222) 61－7511 |
| 神奈川支所 | 〒231 横浜市中区曙町1-3 (伊勢佐木町ハイタウン) | 電話横浜(045) 252－5755 |
| 中部支所 | 〒420 静岡市常盤町1－4－11(大和杉徳ビル) | 電話静岡(0542) 54－0200 |
| 関西支所 | 〒550 大阪市西区新町1－2－13(新町ビル) | 電話大阪(06) 538－1256 |
| 中国支所 | 〒730 広島市中区大手町1-1-26(大手町1番ビル) | 電話広島(082) 244－1356 |
| 九州支所 | 〒812 福岡市博多区博多駅南1－2－15(事務機ビル) | 電話福岡(092) 451-2557(代) |

## 株式会社 篠田川口建築事務所
## 株式会社 協同設備事務所

代表取締役社長　川口喜代枝

名古屋市東区泉1丁目21番21号　TEL 962－7581(代)　TEL 971－2255(協同)

## 株式会社 昭和設計

建築・都市・上下水道
調査計画・設計監理

代表取締役社長　岡本行善
代表取締役副社長　林唯夫

本社事務所　大阪市西区新町1丁目5番7号 四ツ橋ビル　TEL代表 532—3421
神戸事務所　神戸市中央区八幡通4丁目2番17号 郵船航空ビル　TEL078—251—0651
東京事務所　東京都港区赤坂3丁目12番5号 赤坂田町ビル　TEL 03—583—2086

## 株式会社 AAA（スリーエース）総合設計

代表取締役社長　浅井潤一
代表取締役所長　浅井謙

大阪市南区東清水町66（朝日プラザ心斎橋東ビル2F）〒542　TEL06(245)7300(代)

## 株式会社 双星設計

代表取締役社長　福田朝生

〒530 大阪市北区茶屋町18番21号 豊崎ビル　電話(06)373—2281(代)
〒104 東京都中央区銀座1丁目27 セントラルビル　電話(03)562—0696(代)
〒920 金沢市堀川町8番20号 直江ビル　電話(0762) 23—5424

## 株式会社 創美設計

代表取締役　中原英雄

大阪市北区末広町3番21号 星和地所扇町ビル6階　TEL 大阪(06)312—3587代表

## 株式会社 大建設計

取締役社長　吉田周
常務取締役 大阪事務所長　木村喬夫

本社　東京都港区新橋1丁目10番7号（大和銀行新橋ビル）　電話 03-572-4595(代)
大阪事務所　大阪市西区江戸堀1丁目12番8号 安田生命大阪ビル　電話 06-441-9351(代)
名古屋事務所　名古屋市中区栄4丁目6番15号名古屋日産生命館ビル　電話052-261-8531(代)
九州事務所　北九州市小倉北区紺屋町9番1号 明治生命小倉ビル6階　電話093-521-4285(代)
室蘭事務所　室蘭市仲町12番地　電話0143-45-7910

## 株式会社 大建企画設計
## DAIKEN architects & planners

代表取締役　石中達夫

本社　大阪市西区京町堀1丁目13番20号　電話(443)8261
分室　電話(448)2070
東京事務所　東京都新宿区下宮比町15番地 飯田橋ハイタウン　電話(267)4711

## 株式会社 竹内建築事務所

代表取締役　内藤一真

大阪市南区長堀橋筋2丁目35の1（日亜ビル）　電話（211）2706（代）

---

## 株式会社 東海設計

代表取締役社長　小坂忠勝

本　社　名古屋市中区栄3丁目7番1号（伊勢町ビル）〒460 TEL052-261-2651（代表）
東京事務所　東京都中央区京橋1丁目14番4号（東信ビル）〒104 TEL 03-561-0815（代表）

---

## 株式会社 東畑建築事務所

取締役会長　東畑謙三
取締役社長　市川宏

本社・大阪事務所　大阪市東区伏見町5丁目19　電話大阪（06）202-0391
東京事務所　東京都千代田区永田町2（永田町ビル）　電話東京（03）581-1251
名古屋事務所　名古屋市中村区名駅3（堀内ビル）　電話名古屋（052）571-8471
九州事務所　北九州市小倉北区魚町1－4－21（北九州清和ビル）　電話小倉（093）541-6531

---

## 株式会社 内藤建築事務所

代表取締役会長　内藤資忠
代表取締役社長　内藤實

本　社　〒606 京都市左京区田中大堰町189番地　電話 075（781）4111代
事務所・出張所　青森・東京・北陸・長野・静岡・名古屋・京都・奈良・大阪・高知福岡

---

## 株式会社 長田建築事務所

長田正雄

〒542 大阪市南区上汐2丁目4-12　ケーエスビル　電話 768－6121

---

## 株式会社 日建設計

取締役社長　薬袋公明
大阪本社代表　大西孝夫
土木業務所代表　松本澄

〒541 大阪市東区横堀2丁目38
電話 06-203-2361（大代表）

---

有限会社 **村野，森建築事務所**

大阪市阿倍野区阿倍野筋２－３－８　電話(624) ０９２６代表
東京事務所　東京都中央区日本橋茅場町２－３　電話(669) ５６５１代表

---



株式会社 **安井建築設計事務所**

取締役社長　佐野正一

本社　大阪市東区島町２丁目７番地　電話　06(943)1371(大代)
支社　東京・名古屋・大阪・神戸・福岡

---



株式会社 **横河建築設計事務所**

代表取締役社長　小池正雄
取締役社長　河村栄蔵

本社　東京都目黒区下目黒１－２－18　TEL (03) 492—7441
大阪事務所　大阪市東区伏見町５—42(大和生命ビル)　TEL (06) 202—4509

---

# 賀正

# 1984
# 建設業者有志

---



株式会社 **あめりか屋**

取締役社長　前野慶太郎

〒530　大阪市北区中之島四丁目３番25号　電話 (06) 444—１５０１

---



株式会社 **淺沼組**

取締役社長　淺沼茂夫

本社・大阪本店・大阪市天王寺区東高津町１２番６号　電話 大代表 (768) 5222
東京本店・東京都新宿区荒木町５番地　電話 代表 (357) 0261
支店・名古屋・札幌・仙台・広島・福岡・横浜

---

## 株式会社 新（アタラシ）工務所

取締役社長　新　昭一

本　店・大阪市北区曽根崎新地２丁目６番11号　電話 代表 大阪(347) 0110番
支　店・東京都千代田区猿楽町２丁目１番１４号　電話 代表 東京(291) 3741番
支　店・名古屋市中区大須4丁目1番71号（時計ビル）　電話　名古屋 (262) 1725番

---

考える・創る・前進する

## 安藤建設株式会社大阪支店

支店長　沖田幸作

大阪市福島区福島６丁目３番２１号　電話 代表 (453) ２１９０
本　社・東京都港区芝浦3丁目12番8号　電話 大代表 03 (457) ０１１１
支　店・名古屋・仙台・静岡・九州・広島・横浜・札幌
営業所・千葉・横浜・水戸・盛岡・新潟・神戸・京都・沼津・札幌・宇都宮・北九州・熊本

---

## 株式会社 今西組

取締役社長　今西壽雄

本　社　大阪市天王寺区上本町６丁目６番23-309号　電話06(779) ３３６１
支　店　東京都新宿区内藤町１番地　電話03(354) ０５８１
営業所　京都・奈良・西宮・神戸・埼玉

---

## 株式会社 大林組

取締役社長　大林芳郎

東京本社・東京都千代田区神田司町2丁目3番地　電話 大代表 (292) 1111番
本　店・大阪市東区京橋３丁目３７番地　電話 大代表 (943) 1131番
支　店・札幌・仙台・横浜・北陸・名古屋・神戸・広島・四国・福岡

---

## 株式会社 奥村組

取締役社長　奥村俊夫

本　社　大阪市阿倍野区松崎町２の２の２　電話 大阪(06)621—1101(大代表)
東京支社　東京都港区元赤坂１の３の10　電話 東京(03)404—8111(大代表)
支　店　札幌・仙台・浦和・東京・横浜・千葉・新潟・名古屋・大阪・神戸・広島・高松・北九州・福岡

---

## 鹿島建設株式会社

取締役社長　石川六郎
常務取締役支店長　奥村吉朗

本　社　東京都港区元赤坂１－２－７　電話 03 (404)3311(大代)
大阪支店　大阪市西区靱本町１－11－７　電話 06 (448)3311(大代)

## 株式会社 金山工務店

代表取締役社長　佐野友彦

本　社　大阪市東区内淡路町1丁目2番地　〒540　TEL 06—942—5461㈹
東京支店　東京都中央区日本橋堀留町1丁目10番12号　共同ビル6F　〒103　TEL 03—663—7844㈹
京都支店　京都市下京区烏丸通り四条下る水銀屋町635番地　梓ビル9F　〒600　TEL 075—351—5841㈹
神戸支店　神戸市中央区加納町3丁目1番25号　広瀬ビル9F　〒650　TEL 078—392—1761㈹
堺支店　堺市三国ケ丘御幸通り8番地　三国ケ丘ビル2F　〒590　TEL 0722—22—3003
滋賀支店　滋賀県大津市皇子ケ丘1丁目2番3号　〒520　TEL 0775—24—1816
出張所　横浜・吹田

## 株式會社柄谷工務店

取締役社長　柄谷順一郎

本　社　尼崎市玄番南之町4番地　電話大阪 06(411)1451(代)
営業所　大阪・西宮・神戸・高砂・豊田・三田

## 共立建設株式会社大阪支店

代表取締役　所　寅雄
取締役大阪支店長　吉元孝順

本　社　東京都渋谷区道玄坂1－16－10 新渋谷ビル　TEL (03)461—6141
大阪支店　大阪市東区内本町2丁目45番地 大阪内本町電電ビル6F　TEL (06)942—2491

## 株式会社 近畿建設

取締役社長　川﨑敬三

本　社　大阪市西区江之子島1丁目2番2号　電話　大阪06 (448)5601代
滋賀支社　滋賀県栗太郡栗東町岡193の1　電話　0775 (52) 1361～2

## 株式会社 熊谷組 大阪支店

取締役会長　牧田甚一
取締役社長　熊谷太一郎
専務取締役大阪支店長　星野晴彦

本　社　東京都新宿区津久戸町17番1　電話03(260)2111番(大代表)
大阪支店　大阪市都島区片町2丁目10番5号　電話06(352)1151番(大代表)

## 株式会社 小坂井組

取締役社長　小坂井嘉正

本　社　大阪市北区太融寺町5番4号　電話 大阪06 (311)9331代表
京都支店　京都市中京区河原町通蛸薬師上ル ツルヤビル　電話 京都075(231)7934

# 五洋建設株式会社

代表取締役社長　水野廉平
取締役大阪支店長　深谷林三

本社　東京都文京区後楽2－2－8　電話 03 (816) 7111(代表)
支店　大阪市北区梅田2－2－25　電話 06 (345) 0631(代表)

# 甲南建設工業株式会社

代表取締役　原精一

大阪市淀川区十三本町2丁目4番28号　電話(06)308－1551大代表
尼崎市南武庫荘2丁目7番23号　電話 (06)437－9631代表
東京都千代田区神田須田町1－18(共同ビル)　電話 (03)253－4455代表
神戸市中央区磯上通5丁目1番24号　電話 (078)221－6293代表
福岡市博多区博多駅前3丁目2番8号(住友生命ビル)　電話 (092)471－7271
寝屋川・高槻・吹田・西宮・宝塚・堺

# 株式会社 鴻池組

代表取締役社長　鴻池藤一

本社
大阪本店　大阪市東区北久宝寺町4－27　電話 大阪(244)3500(ダイヤルイン受付台)
東京本店　東京都千代田区神田駿河台2-3-11　電話 東京(296)7700(ダイヤルイン受付台)
支店　名古屋・広島・福岡・鹿児島・松江・仙台・高松・札幌・横浜・神戸・京都・金沢

# 株式会社 金剛組

代表取締役　金剛利隆

本社　〒543 大阪市天王寺区四天王寺1丁目14番29号　TEL 大阪06(779)7731㈹
関東営業所　〒350-02 埼玉県坂戸市仲町12番69号　TEL 埼玉0492(83) 8030

# 佐藤工業株式会社

取締役社長 佐藤欣治・取締役大阪支店長 梅木正二

本社・東京都中央区日本橋本町4－8　電話 東京 (661) 1231(大代)
大阪支店・大阪市東区瓦町4丁目15番地　電話 大阪 (203) 7221(代表)
支店・札幌・東北・関東・東京・横浜・北陸・名古屋・中国・四国・九州

# 清水建設株式会社

社長　吉野照蔵
取締役 大阪支店長　宮武保義

本社　東京都中央区京橋2－16－1　電話03(535)4111
大阪支店　大阪市西区土佐堀1－3－37　電話06(443)5431
支店　名古屋・広島・高松・福岡・金沢・仙台・札幌・横浜

よりよい住環境づくりをめざして

# 住友建設株式會社

常務取締役大阪支店長　川　下　好　明

大阪支店　大阪市東区北浜5丁目22番地（住友ビル2号館）電話 06(220)8 7 1 2
本　店　東京都新宿区荒木町13番地電話 03(353)代表5111番

大地への愛　人間への愛

# 錢高組

社長 錢高善雄

本社・大阪支社　大阪市西区西本町2丁目2番11号 大阪(06)531－6431
東京支社　東京都千代田区一番町31番地 東京(03)265－4611
支店　札幌・仙台・千葉・横浜・北陸 名古屋・広島・四国・福岡

# 大末建設株式会社

取締役社長　佐伯正也

本社 大阪本店　大阪市南区島之内2丁目4番10号　電話 03（213）0555(大代)
支店　東京・福岡・名古屋・仙台・横浜・京都・神戸・広島・四国・沖縄

# 大成建設株式会社

取締役社長　佐古一
専務取締役大阪支店長　松岡照夫

本社　東京都新宿区西新宿1丁目25番1号 新宿センタービル TEL 東京(348)1111大代表
大阪支店　大阪市東区本町4丁目27番地 TEL 大阪（262）1131大代表
支店　東京・名古屋・九州・札幌・東北・広島・横浜・北信越・四国

# 大幸建設株式会社

取締役社長　大澤博

本社　大阪市西区新町1丁目4番21号　電話 06(538)0881代
本社分室　大阪市東区今橋5丁目2番地　電話 06(203)0373代
東京支店　東京都渋谷区渋谷2丁目14番15号　電話 03(407)7426代
名古屋支店　名古屋市中村区名駅南3丁目6番7号　電話052(581)7376代
松江営業所　松江市和多見町175　電話0852(21)3747代
出張所　富山・仙台・滋賀・兵庫・広島・福岡・静岡

限りない未来への挑戦

# 大日本土木株式会社

取締役社長　田口栄

本店　〒500 岐阜市宇佐南1丁目6番8号　電話0582(72)3141
大阪支店　〒530 大阪市北区堂島二丁目2番2号 近鉄堂島ビル　電話06(341) 5931

## 株式会社 竹中工務店

取締役社長　竹　中　統　一

〒541　大阪市東区本町４丁目２７　電話 大阪（252）1201番(大代表)

## 鉄建建設株式会社大阪支店

西日本業務担当
常務取締役　児　島　　章

常務取締役支店長　金　子　越　郎

大阪市大淀区天神橋７丁目１－10(天六阪急ビル)　電話(358)0321(代表)
本社・東京都千代田区三崎町二丁目五番三号　電話 東京(262)3411(代表)

## 戸田建設株式会社

取締役社長　戸　田　順之助
常務取締役
大阪支店長　山　口　道　博

本　　社　東京都中央区京橋１丁目７番１号　TEL東京03(562)6111
大阪支店　大阪市西区西本町１丁目13番47号　TEL大阪06(531)6561
支　　店　東京・関東・横浜・大阪・名古屋・札幌・仙台・広島・四国・九州

## 東海興業株式會社大阪支店

取締役副社長
大阪駐在　小松英二　　常務取締役
支店長　鈴木仙吉郎

本　　社　東京都中央区銀座７－13－10　電話 東京(545)５１１１
大阪支店　大阪市北区堂島浜2-2-8 東洋紡ビル　電話 大阪(348)５６１１
支　　店　東京・名古屋・仙台・札幌・福岡・横浜

## 飛島建設株式会社 大阪支店

取締役支店長　熊　谷　良　訓

大阪市東区島町２丁目２８番地　電話 大阪（９４２）２４８１(代表)
本　社　東京都千代田区九段南2丁目3番28号　電話 東京（263)3151(大代表)
支　店　札幌・仙台・東京・横浜・名古屋・北陸・四国・広島・福岡

## 南海建設株式会社

取締役社長　松　川　義　一

本社　大阪市浪速区恵美須西３丁目14番22号　電話 06(644) 1212番
支店　東京都千代田区神田須田町１丁目５(新須田町ビル)　電話 03(251) 8431番
支店　大阪府岸和田市沼町18番１号(川長ビル)　電話 0724(23)2881番

明日をささえる

# 西松建設

本　　社　東京都港区虎ノ門1－20－10　電話03(502)0211
関西支店　大阪市東区釣鐘町2－41　電話06(942)1131

---

# 日本国土開発株式会社

取締役社長　石上立夫
常務取締役大阪支店長　北荘香也

本　社　東京都港区赤坂4丁目9番9号　電話（03）403－3311(大代表)
大阪支店　大阪市西区西本町1丁目10番10号(西本町全日空ビル)　電話(06)538－7351(代)

---

# 野村建設工業株式会社

取締役社長　野村文英

本　社　大阪市東区高麗橋2丁目9番地　電話(202)4791代表
東京支店　東京都千代田区大手町2丁目1番1号　電話(241)4171代表

---

# 株式会社 間組大阪支店

常務取締役
支店長　森　隆雄

大阪市東区瓦町5丁目20番1号　電話（201）2751(大代表)
本　店・東京都港区北青山2丁目5番8号　電話（405）1111(大代表)
支　店・東京・大阪・名古屋・福岡・仙台・北陸・札幌・広島・四国・東南アジア

---

未来をひらく　**フジタ工業**

専務取締役大阪支店長　志賀修一

大阪市北区西天満2丁目9番8号　電話06（361）代表1133
本社・東京都渋谷区千駄ケ谷4－6－15
支店・東京・横浜・名古屋・大阪・広島・高松・福岡・札幌・仙台
海外・ペルー・ベネズエラ・ボリビア・アメリカ・クウェート・イラク・カタール

---

# 不二建設株式会社

取締役社長　山口慎一郎

大阪本社　大阪市西区西本町3丁目1番9号　〒550 電話 06－541－5534代表
東京本社　東京都新宿区西新宿4丁目5番2号　〒160 電話 03－377－5171代表
支店・出張所　名古屋・福岡・札幌・仙台・静岡・大垣・京都・広畑・広島・大分

---

## 株式会社 藤木工務店

取締役社長　藤木鐵三

本　社・大阪市東区両替町１丁目１３　電話　06(944)　1468(代)
大阪本店・大阪市東区両替町１丁目１３　電話　06(944)　1461(代)
支　店・東京都新宿区三栄町２３の４　電話　03(357)　1611(代)
倉敷市鶴形１丁目１０の３２　電話 0864(22)　3330(代)
高松市丸ノ内１１の１３　電話 0878(51)　7272(代)
京都市右京区西院寿町１３　電話 075(311)　4131(代)
福岡市博多区博多駅南４丁目18の２　電話 092(441)　6585(代)
営業所・埼玉・多摩・静岡・名古屋・宇治・泉南・岡山・徳島・新居浜・長崎

## 豊國建設株式会社

代表取締役社長　松丸哲也

本　社　大阪市北区天満橋２丁目３番１号　電話 06 (353) １００１
支　店　東京・京都・東北
営業所　北上・盛岡・二戸・新井・福井・敦賀・舞鶴・尼崎・加古川・滝野・益田・三隅

## 真柄建設株式会社

取締役社長　真柄要助

本　　社　金沢市彦三町１－13－43　電話 金沢(0762)31－１２６６(代)
東京本社　東京都千代田区麹町５－１－６　電話 東京(03) 263－１２１１(代)
支店・営業所　金沢・東京・大阪・名古屋・福井・富山・春日井・大津・京都・神戸・福岡

地域社会に貢献する
総合建設
## 株式会社 前田組

取締役社長　前田敏彦

大阪府寝屋川市大成町１－１　TEL (0720) ２４－１１１１

## 前田建設工業株式会社大阪支店

取締役支店長　川西光治

支　店　大阪市都島区東野田町２丁目４番20号　電話 大阪 (353) ７８９１(代表)
本　社　東京都千代田区富士見２丁目10番26号　電話 東京 (265) ５５５１(代表)

## 株式会社 松村組

取締役会長　松村雄二

本　　社・大阪市北区天満２丁目１番33号　電話 大代表 大阪(353)1131
支　　店・東　京・名　古　屋・札　幌・仙　台・広　島・福　岡

## 株式会社 水間組

取締役社長　水間義雄

〒534 大阪市都島区東野田町1丁目1番4号　電話大阪06(352) 3121(代表)
大津営業所　〒520 大津市中央4丁目11の6　電話大津 (0775) 22—6400番

## 三井建設 株式会社 大阪支店

取締役大阪支店長　高尾清次

大阪支店　大阪市北区中之島3—4—18(三井ビル2号館) TEL 06—446—1535
本　店　東京都千代田区岩本町3—10—1　TEL 03—863—3111

## 源 村角建設株式会社

代表取締役　辻善仁

本　社　大阪市住之江区浜口西2丁目12番9号　電話 06 (672) 3551～6番
支　店　東京・神戸・堺・札幌

## 村本建設株式会社

代表取締役　村本豊嗣

本　店　奈良県北葛城郡広陵町安部547番地　電話 0745 (55) 1151(代表)
大阪本社　大阪市天王寺区上本町9丁目6番15号　電話06(774)2111(ダイヤル受付案内台)
支　店　東京・東北・横浜・名古屋・三重・中国・九州

## 望月建設株式会社

取締役社長　望月小太郎

本　社　大阪市北区中崎西2丁目3番12号　電話 大阪 (375) 2345(代表)

## 株式会社 森組

取締役社長　森幸彦

本　社　大阪市東区横堀2丁目14番地　電話 201—2761(代)
支　店　東京・名古屋・九州・奈良
営業所　仙台・新潟・横浜・甲府・京滋・神戸・広島・熊本・高松・徳島

## 株式會社 米田工務店

代表取締役　米田良男

本　社　〒543 大阪市天王寺区逢阪1丁目1番7号 TEL 大阪(06)771-7771代表

# 賀　正

# 1984

# 団体・建材・設備工事・報道有志

## 財団法人 大阪建築防災センター

理事長　小西　岬

〒540 大阪市東区常盤町1丁目39(大阪フコク生命ビル5階)　電話 06 (943) 7253

クリーンエアのコンサルタント

## アイエム換気工業株式会社

代表取締役　松岡晃一郎

大阪本社　大阪市浪速区塩草3丁目9番4号　TEL (06)561—3901代
東京本社　東京都荒川区西日暮里6-42-8飯田ビル1階　TEL (03)894—8831

## 青盛建材株式会社

取締役社長　青盛巖

広島市中区舟入幸町19番10号　電話 082—292—3200
福岡・岡山・松江・下関・徳山・鳥取・福山

## 株式会社 梅彦

取締役社長　松永嘉一郎

営業所　大阪市北区中崎西2丁目1番3号　電話 06 (312) 6171代
茨木工場　茨木市豊川3丁目1番6号　電話0726 (43) 5185代

大塚製薬グループ

## 大塚オーミ陶業株式会社

代表取締役社長　大　塚　正　士

本　社　大阪市東区豊後町10番地　TEL 06 (943) 7711
支　店　東京都千代田区神田司町2丁目9番地　TEL 03 (292) 0021
工　場　滋賀県甲賀郡信楽町大字杵原字寿谷　TEL 07488 (2) 3001

---

## 大阪装飾株式会社

取締役社長　蜷　川　智　造

本　社　大阪市西区京町堀1丁目13番24号　電話 06(444)1410(代)
営業所　東京都千代田区麹町6－6－1(松尾ビル)　電話 03(234)0551(代)

---

## クリヤマ株式会社

代表取締役社長　栗　山　芳　雄

本社――大阪市淀川区西中島1丁目12番4号〒532　TEL.06-305-2871大代表
TELEX. 523-3908
東京支店――東京都渋谷区南平台町15番13号〒150　TEL. 03-463-1841代表

---

## 須賀工業株式会社

取締役社長　須　賀　　新

本　店　大阪市西区土佐堀1丁目2番30号　電話 (06) 441－5171
本　社　東京都港区新橋6丁目17番19号　電話 (03) 434－7111
支　社　東京・大阪　　支店　名古屋・京都・神戸・広島・福岡
営業所　札幌・東北・北関東・千葉・横浜・静岡・金沢・高松

---

よりよき環境へ技術で挑む――

## 株式会社 精　研

取締役会長　木　内　清　三
取締役社長　和　田　正八郎

本　　社　大阪市南区瓦屋町2丁目11－16(オートセンタービル)　電話 768－5031㈹
東京支店　東京都千代田区九段南2丁目2番5号(九段ビル)　電話 262－3241㈹
四国営業所　徳島県鳴門市撫養町小桑島前浜28－3(西谷ビル)　電話08868-6-6794

---

東西アスファルト事業協同組合
西日本床工事事業協同組合

## 株式会社 タテバヤシ商店

代表取締役　舘　林　彦四郎

〒601 京都市南区西九条大国町37　電話 (075) 681－7221(代)

---

TAJIMA

## 田島応用化工株式会社

東京営業所　〒101 東京都千代田区岩本町３－11　電話（03）866－6101
大阪営業所　〒550 大阪市西区京町堀１－10－５　電話（06）441－5951

## 田島ルーフィング株式会社

## 東西アスファルト事業協同組合

東　京：〒101　東京都千代田区岩本町３－11－13　電話（03）862－8531
（03）863－5631
大　阪：〒550　大阪市西区京町堀１－10－５　電話（06）443－0431

東亜印ルーフィング

## 東亜工業株式会社

建設省計振発
第５５号認可

東亜アスファルト防水事業協同組合

本　社　〒581 大阪府八尾市南太子堂6丁目4番27号　電話 0729－94－5682
営業所　東京・名古屋
工　場　大阪・東京・和歌山

## 東洋シヤッター株式会社

本社　〒540 大阪市東区両替町１－12(日生谷町ビル)　電話(06) 943－6571(代)
支店　〒106 東京都港区六本木6-3(第一地所麻布ビル)　電話(03) 497－2911(代)
〒980 仙台市二日町７－９(新光社ビル)　電話(0222) 62－5245(代)
〒454 名古屋市中川区山王1－2－30(時計ビル)　電話(052) 331－6171(代)
〒733 広島市西区小河内２－12(山肩ビル)　電話(082) 291－3773(代)

naigai

コピーの綜合コンサルタント

## 株式会社 ナイガイ

代表取締役社長　木下　みどり

本　社　大阪市北区堂島２丁目１番18号　TEL（06）345－9055
御堂営業所　大阪市東区本町４－27(御堂ビル)　TEL（06）252－3906
横堀営業所　大阪市東区横堀２丁目36－４　TEL（06）202－5260
神戸営業所　神戸市中央区磯辺通４－２－26　TEL（078）251－0595
新大阪営業所　大阪市淀川区西中島５－13－15　TEL（06）308－2668

## 株式会社 西原衛生工業所大阪店

代表取締役社長　伴　一郎

大阪市大淀区中津六丁目８番４号　電話 大阪（458）3531番(代)

大阪で唯一の

## 株式会社 日刊建設新聞社

代表取締役　中山豊雄
代表取締役　中山敏夫

大阪本社　大阪市東区高麗橋1丁目3（東洋ビル）　電話 202−6861(代表)
役員室　大阪市東区高麗橋詰町26（ユニ高麗橋）　電話 941−6847(代表)

---

建設業界の情報は……日刊建設産業新聞
近畿圏の工事ニュースは……日刊建産速報

## 株式会社 日刊建設産業新聞社

取締役大阪支社長　中村勝則

大阪支社　〒541 大阪市東区淡路町1丁目14(八千代ビル)　電話06(231)8171(代)
神戸支局　〒651 神戸市中央区八幡通4丁目2−25　電話078(291)0541〜2
京都支局　〒602 京都市上京区河原町丸太町東入俵屋町460　電話075(211)1911
本　社　〒173 東京都板橋区板橋1丁目48−9　電話03(961)1691(代)

---

## 株式会社 日刊建設通信新社関西支社

取締役関西支社長　向後定男

大阪市西区京町堀1−6−23　エハラビル　電話（444）4451代表
本　社・東京都港区西新橋2−11−4　電話（502）8581代表

---

マルエス印▲ルーフィング▲シングル▲コーピング▲不燃シングルSPベストロン

## 日新工業株式会社 大阪支店

本　社　東京都足立区千住東2−23−4　☎東京(882) 2424（代）
大阪支店　大阪市西区新町1丁目12番22号　☎大阪(533)3191大代表
営業所　東京・名古屋・福岡・札幌
出張所　広島・仙台　工場／埼玉・山形・北海道

## 日本アスファルト防水工業 協同組合 関西支部

大阪市西区新町1丁目12番22号　日新工業株式会社大阪支店内
電話（533）3191大代表

---

電算写植システム

## 日本写植印刷株式会社

代表取締役　神田都義

本　社　〒545 大阪市阿倍野区阪南町7−5−30　電話06(606)1111代
広島営業所　〒724 東広島市八本松町米満109−5　電話0824 (28) 6253
日本写植センター　〒892 鹿児島市名山町4−7　三宝ビル　電話0992 (26) 4371
津山写植センター　〒708 津山市福田1372−1　電話08682(8)4377
沖縄写植センター　〒900 南風原村兼城　沖縄印刷工業団地　電話0988 (55) 6100

# 富士造園土木株式会社

技術とアイデアの富士

代表取締役　金岡昭雄

本社　宝塚市山本東2丁目6番17号　電話宝塚0797－88－0501～6

---

ビニロイド　防水　責任施工
アコシート　防水　責任施工
ACTOP35（アコステ）　責任施工
防熱工事設計施工
プラスオール　コーキング　製造販売

# 三星産業株式会社

〒550 大阪市西区京町堀1－10－8（大栄ビル）　Tel.〈443〉9721（代）
〒101 東京都千代田区神田小川町3-28（三東ビル）　Tel.〈292〉1961（代）
出張所：札　幌〈721〉6031・6307　仙台〈21〉5366（代）
名古屋〈931〉4574・3393　福岡〈78〉3361（代）

---

三協アルミニウム工業株式会社代理店　日立化成工業株式会社代理店
アルケン工業株式会社代理店　新明和工業株式会社代理店
豊和工業株式会社代理店　近畿車輌株式会社代理店
住宅ユニット株式会社代理店　住友ゴム工業株式会社代理店

ムツミ産業

# ムツミ産業株式会社

代表取締役　傳馬正明

〒550 大阪市西区靭本町1丁目17番15号　電話（06）大代表 441－0378番
出張所：東京・広島　　工場：大津・竹原

---

M.Y

営業品目　建築金物、装飾金物、家具金物、
其他諸金物別注設計製作、オリジナル金属製家具

# 株式会社 山本金属製作所

取締役社長　山本正治

〒542 本社・本社工場　大阪市南区谷町6－11－15　TEL（761）0127大代
〒570 守口工場　守口市浜町2－1　TEL（993）7192代

---

ヨッホ

装美建材
金属建材

# 株式会社 山建建材

パーフェクトな
シロアリ退治に
フクビ防蟻防湿
システム
アリダンV工法

No. 1販売部・No. 2施工部

本社　大阪市西区北堀江1－1－1　電話 541－1861～8
東店　東大阪市金物町3番1号　電話 723－2277～8
山建ソービ　大阪市西区南堀江1（立花通）　電話 541－2152～3

---

デザインされた環境づくり

UNION

# 株式会社ユニオン

取締役社長　立野一郎

本社　大阪市西区南堀江2-13-22　〒550 電話 06（532）3731（代）
東京営業所　東京都墨田区石原4－3－1　〒130 電話 03（625）8131（代）
名古屋営業所　名古屋市東区筒井町1-14-9　〒461 電話052（935）6021（代）
虎ノ門ショールーム（17森ビル1F）東京都港区虎ノ門1-26-5　〒105 電話 03（508）2558（代）

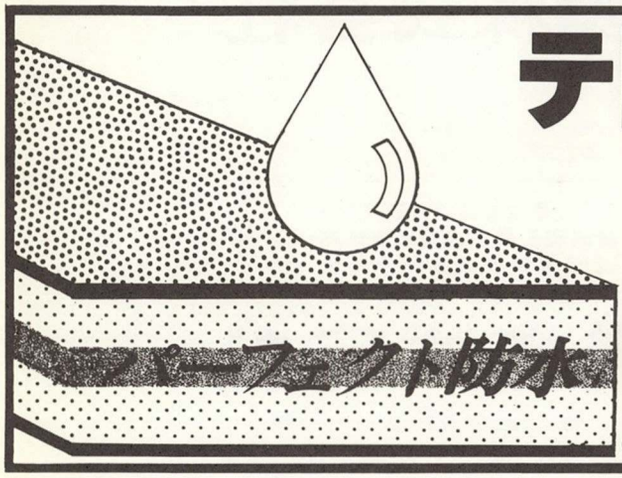
# 室谷

## 内装不燃材

室谷商事株式会社

本社　神戸市中央区北長狭通4丁目2番4号(英和ビル)
電話　神戸(331) 0881～3
支店　大阪市北区西天満2丁目6番8号(堂ビル5階)
電話　大阪(364) 2031～4
倉庫　神戸市東灘区御影石町4丁目(電話811-3610)

# テトカッパー防水層




防水専業の研究・経験から生れたすくない資源のパーフェクトな防水層です。
この防水層は(一層防水)施工するだけで、防水は完璧です。
温度変化に伸びがなく、柔軟性に富み、耐酸、耐薬品性に優れ、腐蝕しません。

カッパー防水帯　コーバータイト　オクロン防水帯　新工法　プレノテクト吹付工法

●お申込次第カタログ進呈

奥山化工業株式會社

| | | |
|---|---|---|
| 本社 | 東京都中央区銀座8—4—9 | 電話03 (571) 2703 |
| 大阪事務所 | 大阪市淀川区東三国6—1—41 | 電話06 (391)1081-2 |
| 埼玉営業所 | 埼玉県桶川市東1—3—30 | 電話0487(74)2845-6 |
| 厚木出張所 | 神奈川県厚木市金田259 | 電話0462 (21) 1761 |
| 名古屋出張所 | 名古屋市南区若草町33 | 電話052 (811) 3660 |
| 九州出張所 | 佐賀県佐賀郡諸富町大字諸富津450 | 電話0952 (47) 2945 |

■防火・防煙シャッター　■軽量シャッター
■ステンレスシャッター　■クリスタルシャッター
■アルミニュームシャッター　その他特殊シャッターの製造

アフターサービスの24時間態勢完備

鈴木シャッター販売株式会社

大阪市北区茶屋町5番2号　電話大阪(06市外局番)371代表4151～6
北陸営業所　金沢市長田町119番地　電話金沢(0762市外局番)65—5135～6
神戸営業所　神戸市長田区大橋8-4-7　電話神戸(078市外局番)611—7971 631—2021

防火・防煙から避難装置まで
建築防災の総合メーカー

豊かな経験
最新の技術

# 東洋シヤッター

東洋シヤッター株式会社

本社：大阪市東区両替町1—12 日生ビル　☎ (943)6571代表
東京・横浜・盛岡・仙台・水戸・静岡・岡崎・名古屋・富山・大津・京都・神戸・広島・高松・福岡他全国主要都市

空気調和・給排水・衛生・防災設備　設計・施工

## 株式会社 朝日工業社

本　　社　東京都港区浜松町1-25-7　電話（434）6171（大代）
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話（302）2271（代）
支　　店　北海道・東北・名古屋・中国・九州
営業所　釧路・函館・盛岡・横浜・静岡・京都・神戸

---

空気調和設備
衛生設備　設計施工

## 三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話（352）1131（代）
本　　社　東京都中央区日本橋蠣殻町1-35-8　電話（667）3431（大代）
支　　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

---

空調・衛生
防災・汚水処理　設計施工

## 株式会社 大阪城口研究所

取締役社長　城口庸平

大阪市北区角田町2番15号 電話 大阪372局7151（代）
京都市東山区大和大路正面上ル 電話 京都561局4944（代）
神戸市中央区下山手通6-2-8 電話 神戸341局5892

---

空気調和・衛生設備 設計施工

## 株式会社 三晃空調

取締役社長　齋藤博

本　　社　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話 06—363—1371
東京本店　東京都新宿区西新宿 新宿住友ビル　電話 03—344—1911
大阪本店　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話 06—363—1371
支　　店　仙台市大町2丁目2番10号　電話0222—61—3002
名古屋市中村区名駅南2丁目14番19号　電話052—581—8571
広島市中区紙屋町1丁目2番22号　電話0822—47—4535
福岡市中央区大名2丁目4番22号　電話092—761—3795
出張所　青森・秋田・宇都宮・横浜・福井・京都・神戸・松江・高松・下関・沖縄

---

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

## 大阪電気暖房株式会社

本　　店　大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　〒550 電話(06)441-8231(大代)
本　　社　東京都中央区銀座2丁目2番17号　〒104 電話(03)535-5251(代表)
支　　社　大阪・東京・名古屋・福岡
支　　店　札幌・仙台・新潟・金沢・天理・岡山・広島・高松
営 業 所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・千葉・横浜・静岡・豊田津・富山・長野・福井・京都・神戸・徳山・松山・高知・北九州熊本・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・徳島・長崎
海外支店　シンガポール・ホンコン

---

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む——

## 株式会社精研

本　　社　大阪市南区瓦屋町2丁目11番16号(オートセンタービル2階)
郵便番号542　電話 大阪(06) 768—5031代表
メンテナンス部　大阪市大淀区豊崎4丁目5番21号
郵便番号531　電話 大阪(06) 374—0571代表
東京支店　東京都千代田区九段南2丁目2番5号(九段ビル2〜4階)
郵便番号102　電話 東京(03) 262—3241代表

---

■給排水衛生　■冷暖房
■空気調和設備　■その他管工事一切の設計・施工

## 斎久工業株式会社

本　　社　東京都千代田区大手町2-6-2（日本ビル）
電話　03-(270)-7411(代)
大阪支社　大阪市北区中之島4-2-38　電話 06-(443)5041(代)
支　　店　札幌・岡山
営 業 所　仙台・千葉・横浜・名古屋・金沢・四国・広島・福岡
出張所　福井・倉敷・松山・宇都宮・静岡・苫小牧

---

## 新日本空調株式会社

大阪支店　大阪市北区堂島浜1丁目2番6号（新大ビル）
電話　(06) 344—6031　(代)
本　　社　東京都中央区日本橋本石町4-2(三井第二別館)
電話　(03) 279—5671（大代）
名古屋・九州・広島・札幌・東海村・北陸・大分

---

空気調和設備
給排水・衛生水道
電気設備
厨房

環境衛生施設
荷役運搬機械
化学鉱山機械

## 三機工業株式会社

取締役社長　玉置純治郎
取締役支店長　杉浦敏郎

大阪市東区北浜2丁目22番地　電話　大阪(202) 代表3071
本　　店　東京・日比谷・三信ビル
支　　店　名古屋・九州・北海道・中国・東北・北陸・四国・シンガポール
営 業 所　横浜・静岡・豊田・岡山・金沢・新潟・香港

---




創業1901
## 須賀工業株式会社
大阪市西区土佐堀1丁目2番30号 TEL.06-441-5171(大代表) 〒550

---

FUTABAYA DECORATORS,LTD




建築物船舶等造作工事、家具建具・室内装備工事
内外装飾織物・窓掛敷物壁紙類一式/**設計施工**

## 二葉屋装備工業株式会社

（創業大正7年）

大阪府摂津市東別府3丁目7番8号
電話 大阪（06）349—9193代表
大阪府知事建築業者許可（般—48）第12064号

商品は空気です。



熱と空気のエンジニア
株式会社
**大気社**

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備
公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京支店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03－344－1851(大代)　大阪支店☎06－…－5851(代)
名古屋支店☎052－211－1535(代)　九州支店☎092－431－2147　営業所：札幌・仙台・横浜・京都
神戸・広島　出張所：新潟・金沢・大宮・静岡・豊田・岡山・松山・熊本・鹿児島・沖縄・バンコク

給・排水・衛生・消火・暖冷房設備

**株式会社 西原衛生工業所大阪店**

大阪市大淀区中津6丁目8番4号　電話大阪(458)3531番
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西

空気調和　搬送機設備
給排水衛生　設計施工

**第一工業株式会社**
**大阪支店**

大阪支店　〒530　大阪市北区西天満3丁目6番14号
電話　06－364－6661(代表)
本　社　〒100　東京都千代田区丸の内3丁目3番1号
電話　03－211－8511(代表)

空調・衛生・防災設備　設計並施工

**日本管工業株式会社**

本社及京都支店　京都市南区西九条豊田町20番地の1
電話(681)　5101～5・夜間専用(691)　1045
大阪支店　大阪市北区天満1-5-20　電話(06)352—3501(代)
三重支店　津市栄町2－111　電話(0592)26—3610(代)
四日市営業所　四日市市西末広町　電話(0593)53—7431(代)
滋賀営業所　大津市中央2丁目4-28　電話(0775)22—9738(代)

暖・冷房・空気温湿度調整装置
設計施工

**高砂熱学**

大阪支店　大阪市北区芝田1丁目4-8(北阪急ビル9階)
電話　大阪(372)2511　(代表)
本　社　東京都千代田区神田駿河台4丁目2番地

Carrier
**冷暖房はキャリア**
CARRIER

東洋キヤリア工業(株)デストビューター関西地区
**日本冷熱工産株式会社**
本社及大阪営業所　吹田市豊津町40番38号
電話大阪(384)1201～7

MODAIR
空気調和設備
換気・除塵設備　設計施工

**東洋熱工業株式会社大阪支店**

大阪市西区靭本町3－1－27　TEL(443)8071
本　社　東京都中央区京橋2丁目9　TEL(562)1351
支　店　名古屋・福岡

活字のない印刷

**日本写植印刷株式会社**

代表取締役　神田都義

本　社　〒545 大阪市阿倍野区阪南町7-5-30　☎06(606)1111代
日本写植センター　〒892 鹿児島市名山町4-7 三宝ビル　☎0992(26)4371
津山写植センター　〒708 津山市大手町8番5号 模範店会館　☎08682(4)1771
沖縄写植センター　〒900 南風原村兼城　沖縄印刷団地　☎0988(55)6100

**ガス設備の設計・施工のご相談は**
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

**大晃設備株式会社**

本社：設備部
大阪営業所　大阪市北区西天満5-11-12　電 06—313—1846
枚方営業所　枚方市甲斐田東町9－3　電0720—49—2128

空気調和設備・給排水衛生設備・上下水道施設
環境衛生施設・公害防止施設／設計・施工・監理

**山田工業株式会社**

本　社　大阪市西区京町堀1－6－8　電話 06(443)8161(大代表)
(環境装置事業部専用)　電話 06(447)0831　(代表)
分析センター　大阪市淀川区三津屋南1-1-35　電話 06(308)1491
支　店　東京・名古屋・福岡
営　業　所　京都・神戸・姫路・広島・高松・松山

飛鳥野瓦(意匠登録549771号)
渡辺式緩勾配安定瓦(実用新案登録出願中110750/110751)　製造販売
各和洋瓦全般・カラーベスト・モニエル瓦・セキスイカワラU

創業67年　綜合施工卸
久保田鉄工・松下電工㈱・日本モニエル㈱・積水化学工業㈱・富士スレート㈱・特約代理店

**瓦寅工業株式会社**

本　社　大阪市生野区林寺1丁目5番14号　〒544
電話 06(715)　0201代表～5番
営業所　大阪市平野区　工場　兵庫県三原郡(淡路島)

文化庁・宮内庁・各府県庁
国宝 重要文化財 社寺・天理教教会本部　御用達

**株式会社 瓦宇(かわらう)工業所**

代表取締役　小林麻造
〒630 奈良市西新在家町17番地
電話 奈良(0742)26—2901番(代表)

電気・計装工事 設計施工

**栗原工業株式会社**

取締役社長 栗 原 信 英

大阪市北区角田町1-1 東阪急ビル TEL06-313-1101
支 店 東 京・名 古 屋・舞 鶴・京 都・天 理
大 阪 南・神 戸・広 島・四 国・九 州

---

電気設備 設計施工

**朝陽電気株式会社**

代表取締役 山 本 貴 士

本 社 大阪市北区中之島3－2－4 朝日ビル TEL 大阪06 (385)1361(代)
大阪営業所 TEL 大阪06(385)1361(代) 京都営業所 TEL 京都075(311)1185(代)
東京営業所 TEL 東京03(574) 0 6 6 5 福岡出張所 TEL 福岡092(771) 6 1 6 8

---

電気工事設計施工

**株式会社 三 興 社**

代表取締役 土 井 敏 裕

本 社 大阪市北区西天満2丁目6－8(堂ビル7階)
電 話 (361) 3 6 7 1 (代)
支 店 東京都中央区日本橋箱崎町20番5号
電 話 (671) 1 4 7 8 (代)
出張所 川 崎・相 模 原・堺・滋 賀

---

電気設備工事設計施工

**東光電気工事株式会社**

**大 阪 支 社**

大阪支社長 横 田 幸 一

大阪市東区高麗橋五丁目二八番地 電話大阪 (202)0325～9番
本 社 東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支 社 札幌・仙台・丸ノ内・名古屋・福岡
営業所・出張所 全国主要都市20ヶ所

---

総合設備工事〈設計・施行〉
建築・電気・アンテナ・送電線・プラント・計装・空調・土木

**太陽工藤工事株式会社**

取締役会長 小 林 四 郎
取締役社長 代 谷 正 元

本 社 大阪市福島区福島7－22－8
TEL ( 06)452—1151(大代)
事業所 東京・名古屋・広島・福岡

---

限りなきクリーンに挑戦する!!
電気設備・クリーンルーム・冷暖房設備
給排水衛生設備・計装制御設備・立体自動倉庫
エネルギー集中監視システム・回転式自転車置場
設 計 施 工

**三宝電機株式会社**

取締役社長 嘉 納 伝 三

本 社 〒530 大阪市北区西天満2－6－8(堂ビル) TEL 06(364) 1 4 7 1 TELEX 523—3 2 8 7
東京支店 〒105 東京都港区新橋2-16(ニュー新橋ビル) TEL 03(504) 0 2 3 1 TELEX 222—6 7 2 4
名古屋支店 〒462 名古屋市北区金城三丁目12－14 TEL 052(991) 5 1 3 1
神戸支店 〒657 神戸市灘区岩屋中町1-2-9(エビスビル) TEL 078(881) 5 5 7 1

---

**RST方式 ロックオーガー**

各種障害撤去 ●砂礫層穿孔撤去 ●玉石層穿孔撤去 ●岩盤層穿孔撤去 ●鉄筋、鉄骨コンクリート穿孔撤去 ●杭引抜き及び撤去

**株式会社 菱 備 基 礎**

本社 豊中市宝山町22番44号 〒560 電話(06)841—7121～3
工場 豊中市利倉東1丁目16番5号 〒561 電話(06)863—0207(代)

---

電気・計装・空調工事 設計施工

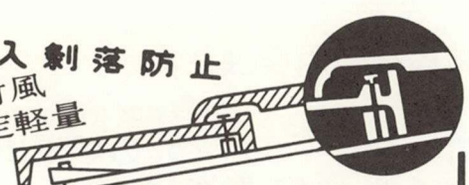
**ヤマト電気エンジニアリング株式会社**

取締役社長 山 本 永 造

本 社 大阪市北区西天満5丁目1番3号
TEL 06—364—3056 (代)
支 店 東京・神戸・広島・岡山
事業所 名古屋・岡山・札幌・苫小牧・浜松・滋賀
京都・高砂・三原・徳山・松山・新居浜・福岡・沖縄

---

雨水浸入剝落防止
耐震耐風
安定軽量

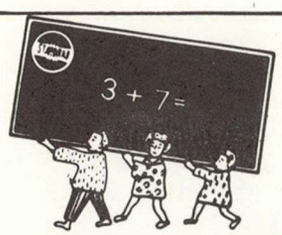


**ナニワ緩勾配瓦**

3寸緩勾最適軽量水止付(空葺)瓦

ナニワ瓦株式会社
大阪市浪速区元町一丁目七四二電話641五〇六九

---




Standard Board&Slate

**フタバ黒板**

〒547 大阪市平野区加美北3－4－5 TEL 大阪06(792)5858(代)

---

奉仕感謝の店

タイル工事施工

**株式会社 川岸窯業商店**

本 社 大阪市西区西本町1－13—33(靱本町バス停前)
電話 大阪 06(532)代0461 〒550
天理営業所 天理市丹波市町新町50

---

"屋根改修工事には府板ルーフ66を"

通産大臣認可 全日本板金工業組合連合会 大阪支部
建設大臣認可 社団法人日本建築板金協会 大阪支部
知事認可 **大阪府板金工業組合**

理事長 福 本 大 元
〒530 大阪市北区西天満4丁目2番4号 電話 06—364—3774(代)

特殊壁装材製造販売　和室に最適
●聚楽壁紙●ホクシノン(無機質壁紙)
(株)ホクシンクロス
〒583 大阪府羽曳野市島泉８－173－1
TEL(0729)39－3610
工場　〒580　大阪府松原市三宅中8丁目1番9号
第一　〒639-11奈良県大和郡山市小泉町2744
第二　〒597　大阪府貝塚市王子５０１

岡田ペーパー株式会社
O.P.Co
大阪市西区北堀江２丁目５番20号
ＴＥＬ 06－531－4601(代)
06－541－2305(代)
フロアーサンディングシステム関連商品
研磨材料 & 研磨機器
布紙ペーパー & ジスクペーパー

営業種目
●防　水　工　事　塗布防水・シート防水・モルタル防水
●樹脂注入接着工法　各種樹脂注入接着補修工事
●亀裂補修工事　各種樹脂注入・充填・コーキング
●シーリング工事　シリコン・チオコール・ウレタン・アクリル
●吹　付　工　事　アクリル・リシン・弾性タイル・その他
◇建設業許可　大阪府知事許可（般－53）第51225号
◇日本シーリング工事業協会々員
大阪市北区末広町３－２１
星和地所扇町ビル201 S
TEL 06(315)0701
(株)特殊技研

建設業界をアシストする
ポゾリス
■コンクリート用混和剤　■無収縮グラウト材
■鉄筋コンクリート用防せい剤　■工業用特殊床材
NISSO MASTER BUILDERS
製造元 日曹マスタービルダーズ株式会社
販売元 ポゾリス物産株式会社
本　社／東京都港区六本木3－16－26 ☎ 03-582-8811
大阪営業所／大阪市東区北浜３－７ ☎ 06-202-3294

デンカCSA　デンカセメント
セキサンパイル（S M.AC.PC.RC）
カネライトフォーム.ALC.鋼材
建築材料一式
浜宗産業株式会社
代表取締役 濱岡　浩
本　社　〒629-31 京都府竹野郡網野町字網野
ＴＥＬ　(07727)2－２２２０(代)
舞鶴営業所　〒624　舞鶴市福来１６０-1
ＴＥＬ　(0773) 76－0133(代)

省エネルギー時代の断熱用シート防水材
日立バイナリーシートP
日立バイナリーシートPは，日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した，二重構造の断熱兼用二重防水シートです。
日立電線株式會社 本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号（千代田ビル）

デンカCSAファミリー製品
●デンカCSA……コンクリートのひびわれ防止に
（膨張性混和材）
●デンカタスコン……鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
（グラウト用無収縮材）
●デンカキューデックス……コンクリート躯体の漏水補修に
（止水・補修用急硬セメント）
●デンカES……地盤補強用薬液注入
（土質安定用急硬材）
●デンカΣ1000……コンクリートパイルの早期出荷と
ハイモメント製造用に
（製品用超高度混和材）
電気化学工業株式会社
近畿地区販売店
金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（０６）３３２－６８６１
TEL 東京（０３）２７２－８５０１
光洋物産株式会社
TEL 大阪（０６）２５２－６０００
小浦産業株式会社
TEL 大阪（０６）４４３－６１８１
株式会社 トーゴー／本社
TEL 滋賀・守山（０７７５）８３－２３８１

電気・空調・衛生など各種設備分野の記事が1冊の雑誌に！

# BE 建築設備 月刊

## 都市＋建築＋設備＋機器＋材料を総合するユニークな専門誌




～充実した実務家のための内容～

■視点・随筆　業界，学会，社会，文化について，学識経験者の見解を発表
■新建築・新設備　注目すべき建物の建築と設備を紹介
■特　集　業界，社会のニーズにこたえる諸テーマをとらえて，必要知識を紹介
■講　座　建築，建築設備，機器，材料に関連し実務上必要とする基礎知識を連載
■特別講座　業界，社会のニーズにこたえ，時代的テーマに関し実務上必要とする知識を連載
■ニュース　国内・海外ニュース，機器・文献ニュース
■会社だより，研究所だより　その他

雑誌B5判・100頁・定価1000円——申込次第見本送付

社団法人　建築設備綜合協会　〒104 東京都中央区銀座1-6-10(皆川ビル) ☎03(535)6690・(561)1765

計画➧設計➧施工➧技術の綜合誌

# 月刊 建築技術 2

No. 390　2月号予定目次　定価1,000円

全国書店毎月18日一斉発売！　お早目に最寄りの書店でお求め下さい

●フリースペース共同住宅　その後……中川友夫(ほか)
●断熱工法の実際例　住宅・都市整備公団の場合……島田八郎
●高層建築物の設計用地震力……渡部丹
●研究施設の計画と設計 (18)……船津秀丸(ほか)
●うっかり間違える構造力学　―布基礎のいろいろな地反力―……井上允彦
●建築技術者のためのわかる電気 (15)……井上博
●構造物の動的解析 (31)……石丸辰治
●構造計算データシート (97)……構建設計研究所
●建築経済統計図表●フォトニュース●トピックス●建築家の良識●読者コーナー●海外の話題●建材の動向　その他

集合住宅の維持保全費と修繕計画……橋本正五
中高層マンションの施工実態……上杉啓(ほか)

出版案内——好評発売中

建築構造実務者を対象とした
山形骨組の応力計算　筒井助幸 著
A5・210頁　定価3,200円・送料300円

新刊　4 A5・341頁　定価3,700円・送料300円
建築構造問題快答集
1 A5・430頁　2 A5・385頁　3 A5・373頁
各巻共　定価3,800円・送料300円

建築技術者並びにビル管理者のための
建築工事 内外装の損傷と補修　同編集部 編
B5・289頁　定価3,600円・送料300円

同じ失敗を繰り返さないために
建築工事 失敗の実例にまなぶ　同編集部 編
B5・279頁　定価3,600円・送料300円

設計・施工に必要な接着工法の決定版
建築の接着工法　西忠雄 監修
B5・430頁　定価3,000円・送料400円

快適な住環境を造成するための技術資料
住宅団地の土木設計　小池正次 著
B5・113頁　定価1,600円・送料250円

建築構造計算資料集　(全8巻) 中川淳 編著
1巻 鉄筋コンクリート構造篇(1) B5・240頁 定価3,800円
2巻 鉄筋コンクリート構造篇(2) 品切れ
3巻 鋼構造篇(1) B5・225頁 定価3,200円
4巻 鋼構造篇(2) B5・256頁 定価3,500円
5巻 鉄骨鉄筋コンクリート構造篇 B5・208頁 定価3,200円
6巻 基礎構造篇 B5・249頁 定価3,800円
7巻 終局耐力篇 B5・247頁 定価3,800円

建築技術　〒一六〇 東京都新宿区北新宿一―八―一 中島ビル
☎東京(三六三)四二一一(代)　振替口座 東京〇―七二四一七番

特　許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料

# オリエンタルメタル

## 半世紀の実績が誇る技術とアフターケアー！

長尺物・色彩豊富・責任施工

品　種・オリエンタルカラースーパーメタル(CSPM)
・オリエンタルスチールライト(ＳＴＬ)
・オリエンタルメタル(ＯＰＭ)



電発竹原火力石炭庫屋根に採用

波板規格　S小波・S大波・V波・ボックス波・Wジャンボ波・Vデッキ
SVジャンボ波・其の他

用　途　平板・波板・棟包・雨押類・谷樋・竪樋・軒樋
各種換気装置〔モニター・ベンチレーター・ムーバー・エキゾスター(強制)〕
ホーンタイト(防音壁)・其の他

※ カタログを御請求下さい

**オリエンタルメタル製造株式会社**

大阪本社　〒660　尼崎市昭和南通り３－26 松本ビル　電話大阪(06)412－5131(代)
営業部　〒660　尼崎市昭和南通り３－26 松本ビル　電話大阪(06)412－5131(代)
支店及工場　大阪・九州・名古屋・広島・東条・刈谷
姫路(東洋建材工業．株)
東京本社及工場　〒335　蕨市塚越５丁目６番32号　電話 蕨(0484)42－3115(代)
支店及工場　東北

防火 構造認定(防火第404号)

モルタルクラックが大幅に減少
工期の短縮が図れる左官用高級スタッコ

シンコー 白モルタル

地震に強い家をつくるモルタル下地合板

ワイダラスカット

左官作業の近代化
一発で特殊「白モルタル」スタッコ仕上

スーパーローラー

(株)新興建材工業所

〒550　大阪市西区南堀江４丁目32－11　☎(06)538－2951(代)
営業所　明石・中国・四国・高槻・東京・新潟・仙台

# 地震考

総合天井システム〈Jライン工法〉〈ALTS工法〉

耐震・耐火そして軽量化を誇る総合天井システム"Jライン工法"、"ALTS工法"は当社独自の照明灯ユニットおよびアルミ製Tバーを建物のモジュールに配列し、天井仕上げ材と一体化したシステム天井です。空調、照明、防災機器、スピーカーなどの設備ゾーンとの組み合せ、さらに間仕切、ブラインドBOXなどの取り付けも可能にした多機能を誇っております。(PAT. 6件)

**奥村重兵衛株式会社**

本　社　大阪市北区西天満５丁目３番７号　〒530　電話(06) 312－4131代
東　京　東京都港区新橋4丁目2番第29森ビル　〒105　電話(03) 437－3361代
福　岡　福岡市博多区住吉２丁目16番27号　〒812　電話(092)291－0459代
名古屋　名古屋市西区倹町２丁目１番６号　〒451　電話(052)522－5436代
仙　台　仙台市本町2丁目1番8号第1広瀬ビル　〒980　電話(0222)65－6568代
沖　縄　沖縄県那覇市壺川１１９番地　〒900　電話(0988)53－6850代

# テニスコートの歴史を変えた！


大観衆で埋まるUSオープン会場

## DecoTurf II

1978年からＵＳオープンが行われるようになったニューヨークのフラッシングメドウのUSTA（全米テニス協会）ナショナルテニスセンターのコート36面すべてに採用され、テニスコートの歴史を変えたとまでいわれる全天候型の**デコターフII**。四季を通じて快適にプレーできると、日本でも人気抜群!!

# 光公害をシャットアウトした！

## ENVIRO LIGHT II

太陽が沈むということは、どんなにエキサイトしたゲームでも、昔はそれまでであった。しかし、いまの若者は口をそろえて抗議する。「ENVIRO LI-GHT IIがあるぞ」

光を最大限に利用、エネルギー効率を高めると同時に、低セット型で光公害を最小限にとどめるように設計!!


松蔭女子大学テニスコート

# 耐摩耗性で勝負する防湿床材


神戸・名谷「須磨パティオ」駐車場

## FLINTKOTE®

耐久性、耐摩性、またすべり抵抗性や亀裂ができても使用中に元通りになる復元性、粘着性を評価され、倉庫や工場、駐車場にも使われているだけでなく、不燃性を買われてガス工場や爆薬工場の床にも使用されています。

さらに、完全無毒無臭であるため、各種食品工場、貯蔵庫にも進出!!

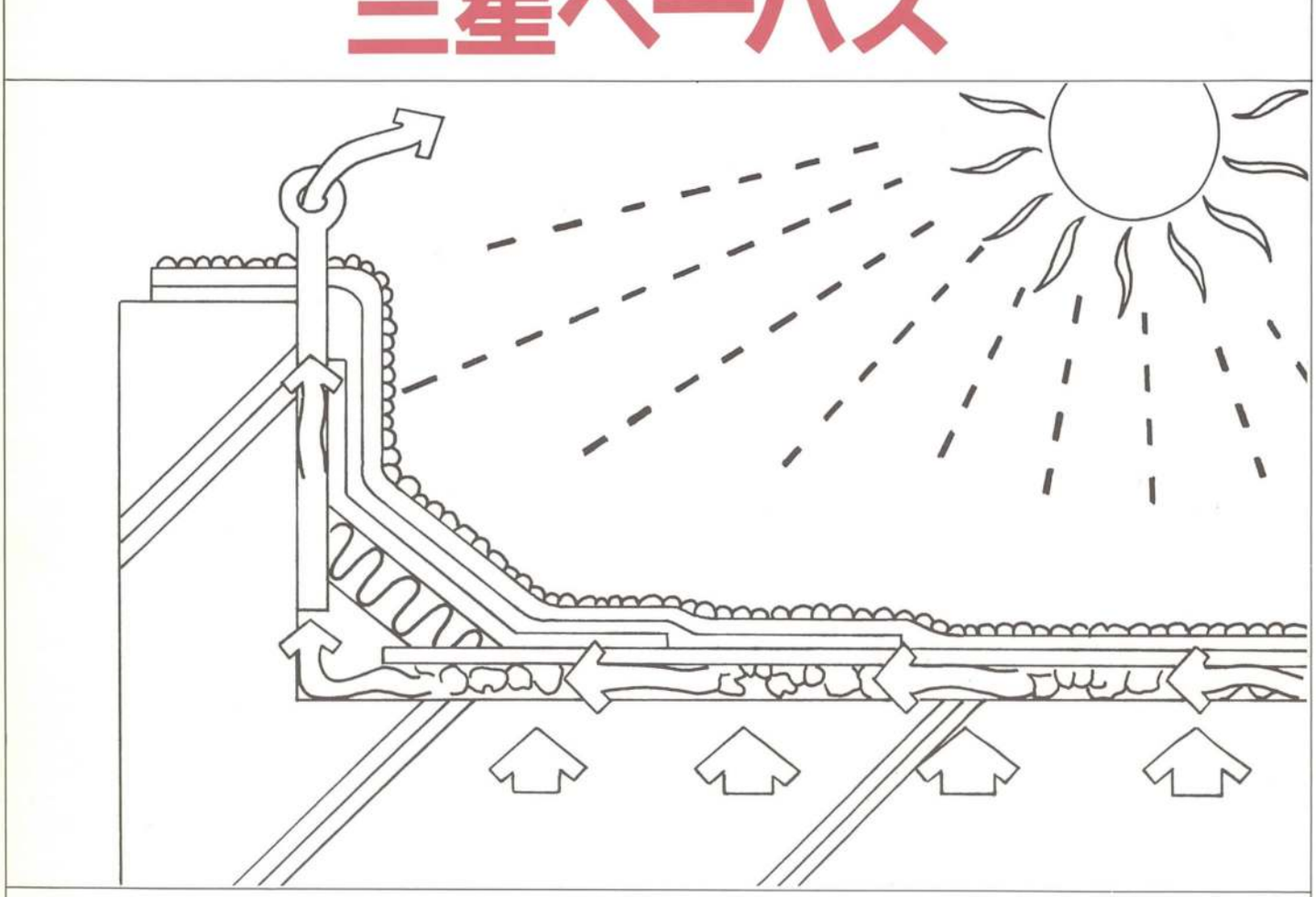

OSAKA SHELL HATUBAISYO

株式会社 **シェル石油大阪発売所** 建材施設部門

本　社　〒530 大阪市北区堂島浜１丁目２番６号（新大ビル９階）　☎ (06)343－0441
大阪本部　〒552 大阪市港区南市岡１丁目11－11　☎ (06)584－0681
東　京　〒104 東京都中央区京橋２丁目９番２号（等１ぬり彦ビル）　☎ (03)562－4676
福　岡　〒810 福岡市中央区舞鶴１丁目１番５号（舞鶴ビル）　☎ (092)721－6640

建築と社会　第65輯第1号
昭和59年1月25日発行（毎月1回25日発行）
昭和24年3月19日第3種郵便物認可
社団法人　日本建築協会　〒530　大阪市北区梅田1-の1の3の2100　電話大阪06(348)0635
（表紙デザイン・濱野節朗）
振替口座大阪1-三九九七五番
正会員の購読料は会費に含めて徴収
定価九五〇円（送料共）


# “ふくれ”を追放した
# 三星ベーパス

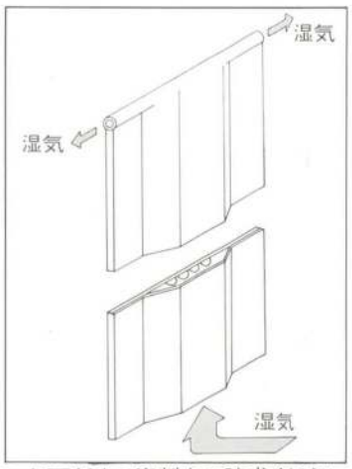


## 湿気の逃げ道をつくりました。!

**三星ベーパス**は、防水層の立上り部から空気抜きを行う、もっとも優れた空気抜きシステムです。
露出防水におけるふくれ防止に取組んできた田島ルーフィングが、画期的な工法**〈絶縁工法一部分接着工法〉**を開発、さらに露出防水機能を一段と高める空気抜き材**〈三星ベーパス〉**を登場させました。

バリボード工法＋三星ベーパス　部分接着工法＋三星ベーパス

と併用すれば、理想的な空気抜きシステムが完成します。




●企画係まで資料をご請求ください。

露出防水の機能を高める、空気抜き材料

三星ベーパス

田島ルーフィング株式会社
東京 〒101 東京都千代田区岩本町3-11-13　電話(03)862-8531
(03)863-5631
大阪 〒550 大阪市西区京町堀1-10-5　電話(06)443-0431
札幌・仙台・金沢・名古屋・広島・高松・福岡